

# 長町駅東遺跡第3次調査

—仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ—

[第2分冊]

2009年3月

仙 台 市 教 育 委 員 会  
国 土 交 通 省 東 北 地 方 整 備 局

## 第2分冊 目 次

第5章 検出遺構と出土遺物 .....	359
3. 弥生時代の遺構と遺物 .....	359
(1) 壺穴住居跡 .....	360
(2) 性格不明遺構 .....	364
(3) 土器埋設遺構 .....	369
(4) 土坑 .....	379
(5) ピット .....	389
(6) IV層出土遺物 .....	392
(7) その他の出土遺物 .....	427
(8) 接合資料 .....	455
4. 3A区下層調査 .....	580
(1) 基本層序 .....	580
(2) 3A区下層調査出土遺物 .....	580
第6章 自然科学分析 .....	592
1. 仙台市長町副都心地区画整理事業関係遺跡発掘調査に伴う自然科学分析 (火山灰分析) .....	592
2. 長町駅東遺跡出土鉄器の科学組成に基づく分類 .....	596
第7章 まとめ .....	607
1. 調査成果の基礎整理 .....	607
2. 長町駅東遺跡と西台畑遺跡の集落について .....	644
3. 長町駅東遺跡の区画施設について .....	646
4. 弥生時代の遺構について .....	650

## 第2分冊 挿図目次

第290図 弥生調査区遺構配置図 .....	361・362	第300図 S K 7 土器埋設遺構出土遺物(1) .....	371
第291図 S I 1 壺穴住居跡 .....	363	第301図 S K 7 土器埋設遺構出土遺物(2) .....	372
第292図 S I 1 壺穴住居跡出土遺物 .....	364	第302図 S K 8・9 土器埋設遺構(1) .....	373
第293図 S X 1 性格不明遺構 .....	365	第303図 S K 8・9 土器埋設遺構(2) .....	374
第294図 S X 1 性格不明遺構出土遺物 .....	365	第304図 S K 8 土器埋設遺構出土遺物 .....	375
第295図 S X 2 性格不明遺構 .....	366	第305図 S K 9 土器埋設遺構出土遺物 .....	376
第296図 S X 2 性格不明遺構出土遺物 .....	367	第306図 S K 31 土器埋設遺構 .....	377
第297図 S X 3 性格不明遺構 .....	368	第307図 S K 31 土器埋設遺構出土遺物 .....	378
第298図 S K 7～9 土器埋設遺構配置図 .....	369	第308図 土坑(1) .....	380
第299図 S K 7 土器埋設遺構 .....	370	第309図 土坑(2) .....	381

第310図	土坑(3) .....	382	第349図	その他の出土遺物(1) .....	429
第311図	土坑(4) .....	383	第350図	その他の出土遺物(2) .....	430
第312図	土坑(5) .....	384	第351図	その他の出土遺物(3) .....	431
第313図	土坑出土遺物(1) .....	387	第352図	その他の出土遺物(4) .....	432
第314図	土坑出土遺物(2) .....	388	第353図	その他の出土遺物(5) .....	433
第315図	ピット(1) .....	389	第354図	その他の出土遺物(6) .....	434
第316図	ピット(2) .....	390	第355図	その他の出土遺物(7) .....	435
第317図	ピット出土遺物 .....	392	第356図	その他の出土遺物(8) .....	436
第318図	弥生A区遺物出土状況 .....	393	第357図	その他の出土遺物(9) .....	437
第319図	弥生B区遺物出土状況 .....	394	第358図	その他の出土遺物(10) .....	438
第320図	弥生C区遺物出土状況 .....	395	第359図	その他の出土遺物(11) .....	439
第321図	弥生D区遺物出土状況 .....	396	第360図	その他の出土遺物(12) .....	440
第322図	弥生E区遺物出土状況 .....	397	第361図	その他の出土遺物(13) .....	441
第323図	IV層出土遺物(1) .....	398	第362図	その他の出土遺物(14) .....	444
第324図	IV層出土遺物(2) .....	399	第363図	その他の出土遺物(15) .....	445
第325図	IV層出土遺物(3) .....	400	第364図	その他の出土遺物(16) .....	446
第326図	IV層出土遺物(4) .....	401	第365図	その他の出土遺物(17) .....	447
第327図	IV層出土遺物(5) .....	402	第366図	その他の出土遺物(18) .....	448
第328図	IV層出土遺物(6) .....	403	第367図	その他の出土遺物(19) .....	449
第329図	IV層出土遺物(7) .....	404	第368図	その他の出土遺物(20) .....	450
第330図	IV層出土遺物(8) .....	406	第369図	その他の出土遺物(21) .....	451
第331図	IV層出土遺物(9) .....	407	第370図	その他の出土遺物(22) .....	452
第332図	IV層出土遺物(10) .....	408	第371図	その他の出土遺物(23) .....	453
第333図	IV層出土遺物(11) .....	409	第372図	その他の出土遺物(24) .....	454
第334図	IV層出土遺物(12) .....	410	第373図	弥生調査区接合資料出土地点分布図 ..	456
第335図	IV層出土遺物(13) .....	411	第374図	弥生B区接合資料出土地点分布図 ..	457
第336図	IV層出土遺物(14) .....	412	第375図	弥生C区接合資料出土地点分布図 ..	458
第337図	IV層出土遺物(15) .....	413	第376図	接合資料(1) .....	459
第338図	IV層出土遺物(16) .....	414	第377図	接合資料(2) .....	460
第339図	IV層出土遺物(17) .....	415	第378図	接合資料(3) .....	461
第340図	IV層出土遺物(18) .....	418	第379図	接合資料(4) .....	462
第341図	IV層出土遺物(19) .....	419	第380図	接合資料(5) .....	463
第342図	IV層出土遺物(20) .....	420	第381図	接合資料(6) .....	464
第343図	IV層出土遺物(21) .....	421	第382図	接合資料(7) .....	465
第344図	IV層出土遺物(22) .....	422	第383図	接合資料(8) .....	466
第345図	IV層出土遺物(23) .....	423	第384図	接合資料(9) .....	467
第346図	IV層出土遺物(24) .....	424	第385図	接合資料(10) .....	468
第347図	IV層出土遺物(25) .....	425	第386図	接合資料(11) .....	469
第348図	IV層出土遺物(26) .....	426	第387図	接合資料(12) .....	470

第388回	接合資料(13) .....	471	第427回	接合資料(52) .....	511
第389回	接合資料(14) .....	472	第428回	接合資料(53) .....	512
第390回	接合資料(15) .....	473	第429回	接合資料(54) .....	513
第391回	接合資料(16) .....	474	第430回	接合資料(55) .....	514
第392回	接合資料(17) .....	476	第431回	接合資料(56) .....	515
第393回	接合資料(18) .....	477	第432回	接合資料(57) .....	517
第394回	接合資料(19) .....	478	第433回	接合資料(58) .....	518
第395回	接合資料(20) .....	479	第434回	接合資料(59) .....	519
第396回	接合資料(21) .....	480	第435回	接合資料(60) .....	520
第397回	接合資料(22) .....	481	第436回	接合資料(61) .....	521
第398回	接合資料(23) .....	482	第437回	接合資料(62) .....	522
第399回	接合資料(24) .....	483	第438回	接合資料(63) .....	523
第400回	接合資料(25) .....	484	第439回	接合資料(64) .....	524
第401回	接合資料(26) .....	485	第440回	接合資料(65) .....	525
第402回	接合資料(27) .....	486	第441回	接合資料(66) .....	526
第403回	接合資料(28) .....	487	第442回	接合資料(67) .....	527
第404回	接合資料(29) .....	488	第443回	接合資料(68) .....	528
第405回	接合資料(30) .....	489	第444回	接合資料(69) .....	529
第406回	接合資料(31) .....	490	第445回	接合資料(70) .....	530
第407回	接合資料(32) .....	491	第446回	接合資料(71) .....	531
第408回	接合資料(33) .....	492	第447回	接合資料(72) .....	532
第409回	接合資料(34) .....	493	第448回	接合資料(73) .....	533
第410回	接合資料(35) .....	494	第449回	接合資料(74) .....	534
第411回	接合資料(36) .....	495	第450回	接合資料(75) .....	535
第412回	接合資料(37) .....	496	第451回	接合資料(76) .....	536
第413回	接合資料(38) .....	497	第452回	接合資料(77) .....	537
第414回	接合資料(39) .....	498	第453回	接合資料(78) .....	538
第415回	接合資料(40) .....	499	第454回	接合資料(79) .....	539
第416回	接合資料(41) .....	500	第455回	接合資料(80) .....	540
第417回	接合資料(42) .....	501	第456回	接合資料(81) .....	541
第418回	接合資料(43) .....	502	第457回	接合資料(82) .....	542
第419回	接合資料(44) .....	503	第458回	接合資料(83) .....	543
第420回	接合資料(45) .....	504	第459回	接合資料(84) .....	544
第421回	接合資料(46) .....	505	第460回	接合資料(85) .....	545
第422回	接合資料(47) .....	506	第461回	接合資料(86) .....	546
第423回	接合資料(48) .....	507	第462回	接合資料(87) .....	547
第424回	接合資料(49) .....	508	第463回	接合資料(88) .....	548
第425回	接合資料(50) .....	509	第464回	接合資料(89) .....	549
第426回	接合資料(51) .....	510	第465回	接合資料(90) .....	550

第466図	接合資料(91) .....	551	第500図	No.1・2刀子の外観と 組織観察結果 .....	602
第467図	接合資料(92) .....	553	第501図	No.4①・②棒状の外観と 組織観察結果 .....	603
第468図	接合資料(93) .....	554	第502図	No.6鎌、No.7釘、No.8刀子の外観と 組織観察結果 .....	604
第469図	接合資料(94) .....	555	第503図	No.5鎌の外観と組織観察結果 .....	605
第470図	接合資料(95) .....	556	第504図	No.3刀子の外観と組織観察結果 .....	605
第471図	接合資料(96) .....	557	第505図	試料に含有されるC u、N i、C o 三成分比の関係 .....	606
第472図	接合資料(97) .....	558	第506図	竪穴住居跡カマド付設方向 .....	609
第473図	接合資料(98) .....	559	第507図	長町駅東遺跡3B区 遺構重複関係図 .....	611-612
第474図	接合資料(99) .....	560	第508図	各期竪穴住居跡出土土器(1) .....	614-615
第475図	接合資料(100) .....	561	第509図	各期竪穴住居跡出土土器(2) .....	616-617
第476図	接合資料(101) .....	562	第510図	各期竪穴住居跡出土土器(3) .....	618-619
第477図	接合資料(102) .....	563	第511図	各期竪穴住居跡出土土器(4) .....	620-621
第478図	接合資料(103) .....	564	第512図	各期竪穴住居跡出土土器(5) .....	622-623
第479図	接合資料(104) .....	565	第513図	各期竪穴住居跡出土土器(6) .....	624-625
第480図	接合資料(105) .....	566	第514図	各期竪穴住居跡出土土器(7) .....	626-627
第481図	接合資料(106) .....	567	第515図	各期竪穴住居跡出土土器(8) .....	628-629
第482図	接合資料(107) .....	568	第516図	各期竪穴住居跡出土土器(9) .....	630-631
第483図	接合資料(108) .....	569	第517図	各期竪穴住居跡出土土器(10) .....	632-633
第484図	接合資料(109) .....	570	第518図	S D 66出土土器集成(上層①) .....	634
第485図	接合資料(110) .....	571	第519図	S D 66出土土器集成(上層②) .....	635
第486図	接合資料(111) .....	573	第520図	S D 66出土土器集成(4層①) .....	636
第487図	接合資料(112) .....	574	第521図	S D 66出土土器集成(4層②) .....	637
第488図	接合資料(113) .....	575	第522図	S D 66出土土器集成(4層③) .....	638
第489図	接合資料(114) .....	576	第523図	S D 66出土土器集成(4層④) .....	639
第490図	接合資料(115) .....	577	第524図	S D 66出土土器集成(4層⑤) .....	640
第491図	接合資料(116) .....	578	第525図	S D 66出土土器集成(4層⑥) .....	641
第492図	接合資料(117) .....	579	第526図	S D 66出土土器集成(下層①) .....	642
第493図	3 A区下層調査区位置図 .....	581	第527図	S D 66出土土器集成(下層②) .....	643
第494図	3 A区下層調査区平面図 .....	582	第528図	西台畠遺跡・郡山遺跡遺構配置図 .....	648
第495図	3 A区下層調査区 北区北壁土層図 .....	583-584	第529図	長町駅東遺跡遺構配置図 .....	649
第496図	3 A区下層調査区 北区西壁土層図 .....	585-586	第530図	長町駅東遺跡区画施設検出状況 .....	650
第497図	3 A区下層調査区 南区北壁土層図 .....	587-588	第531図	弥生時代の竪穴住居跡・土器埋設遺構・ 土壤墓・水田域の位置関係図 .....	653-654
第498図	3 A区下層調査区 南区西壁土層図 .....	589-590			
第499図	3 A区下層調査区出土遺物 .....	591			

### 3. 弥生時代の遺構と遺物

古代面の調査終了後、弥生時代の遺物包含層であるIV層および弥生時代の遺構確認面であるV層を対象に調査を実施した。IV層は古代の堅穴住居跡等による遺構の掘り込みによる影響を受けており、特に遺構が重複している部分では殆ど残存していなかったため、古代の遺構分布が希薄で、IV層以下の基本層が比較的良好に残存していると考えられる範囲を対象に、A～F区の調査区を設定した(第290図)。

その結果、調査区南側のA区からは遺構は検出されなかったものの、他の調査区からは、堅穴住居跡1軒、性格不明遺構3基、土器埋設遺構4基、土坑36基、ピット82基が検出された。また、IV層からは弥生時代中期の樹形圓式に比定される多数の弥生土器や石器などが出土したほか、古代の遺構堆積土や古代面の遺構確認作業においても、樹形圓式に比定される土器を主体として、剥片石器等が相当数出土した。それらの数量内訳は、下表に示したとおりである。

最大の成果として特筆されるのは、1軒のみであるが、弥生時代中期の樹形圓式期に帰属すると考えられる堅穴住居跡の存在を確認したことである。これにより、本遺跡からは堅穴住居跡(居住域)、本書にて報告する土器埋設遺構4基に加え、既に報告されている2B区(第324集)および4区(第315集)から検出された土器埋設遺構および土壘墓(墓域)、水田跡(生産域)がセットで検出されたことになる。これは当該期における集落の在り方や葬制を検討する上において非常に重要な資料といえる。

以下、各遺構について記載するが、遺構番号については古代の遺構と区別し、それぞれ第1号からとした。ただし、土坑と土器埋設遺構については、いずれも「SK」の略号を使用し、通し番号を付した。なお、遺構図や遺物分布図中の「●」は土器の、「▲」は石器の出土位置を示し、遺物実測図を掲載しているものは登録番号を付した。なお、土器の器種分類および部位呼称については『中在家南遺跡他』(仙台市教育委員会1996)に準じているが、部位については「胴部」を「体部」とし、壺の肩部は体部上半とした。また、「壺Ⅱ類」は本書において「深鉢」とした。

弥生時代の遺物 出土数一覧表(1)

遺構	件名	土器		打製石器		磨製石器		礫石器		石製品		土製品	
		有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無
出土地点													
	SI1	4	59	2	7	0	0	0	0	0	0	0	1
	SK1	5	36	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK2	9	64	2	11	0	0	0	0	0	0	0	1
	SK3	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK7	3	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK8	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK9	2	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK31	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK3	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK10	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK11	1	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK12	2	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK13	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK14	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK16	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK17	4	25	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK18	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK21	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK26	0	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK27	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK28	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK29	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK32	0	11	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK33	1	19	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK36	1	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

弥生時代の遺物 出土数一覧表(2)

遺物	種別	土器		打製石器		磨製石器		鍾乳石器		石製品		土製品	
		陶器	非陶器	陶器	非陶器	陶器	非陶器	陶器	非陶器	陶器	非陶器	陶器	非陶器
出土地点													
	SK38	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK39	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK40	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK42-43	0	4	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0
	Pt1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt7	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt9	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt13	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt18	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt20	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt22	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt29	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt31	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt35	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt36	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt48	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt52	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt63	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt67	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt68	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt77	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Pt80	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	A区	21	249	7	25	0	0	0	3	0	0	0	1
	B区	24	761	43	217	0	0	2	2	1	0	1	6
	C区	88	1827	41	149	0	0	8	8	2	0	1	7
	D区	10	121	4	35	0	0	2	0	0	0	0	2
	E区	20	302	15	59	0	0	2	4	0	0	0	1
	F区	3	184	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0
その他(古代の遺跡)		136	5092	235	980	2	0	7	1	0	0	2	0
合計		366	8844	257	1513	2	0	21	19	3	0	4	19

## (1) 壁穴住居跡(第290～292・415・446図)

調査時において、規模や平面形から住居跡の可能性があるものについては、遺構番号として「S I」を使用し調査を開始した。そのうちE区から検出されたS Iについては、床面から焼土を伴う掘り込みや、ピットの配列が壁面に沿うように検出されたことから竪穴住居跡とした。出土土器から、弥生時代中期の樹形彌式期に帰属するものと考えられる。その他については、規模や平面形などから竪穴住居跡の可能性が考えられたものの、付属施設がないことなどから性格不明遺構とし、「S X」の略号を使用し次項に記載した。

## S I 竪穴住居跡(第291・292・415・446図)

【位置・確認面】E区北側21・26グリッド、V層上面で検出した。

【規模・形態】西側は古代の遺構により削平されているが、規模は長軸6.00m×短軸4.60m以上と推定される。平面形はピットの位置関係から不整橢円形を呈し、主軸方位は北西-南東に持つものと考えられる。

【堆積土】2層に分層した。堆積の状況から、自然堆積と考えられる。

【壁面】残存する壁高は最大16cmを測り、床面から緩やかに立ち上がる。

【床面】全体的に平坦で、硬化面は認められない。

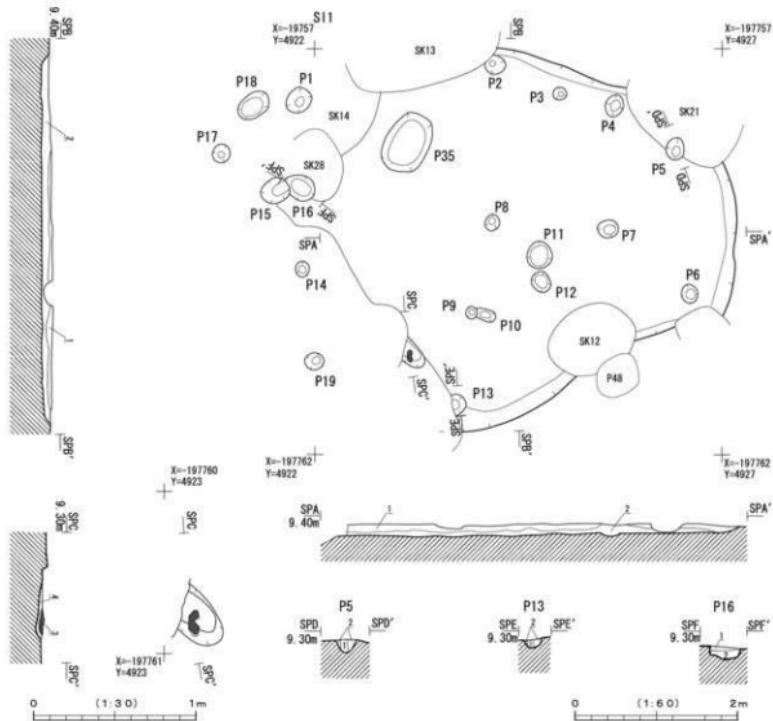
【炉】南壁側から地床炉の可能性が考えられる、浅い掘り込みを伴う焼土を検出した。一部削平を受けているが平面形は橢円形を呈するものと推定され、残存する規模は長軸31cm×短軸23cm、深さ6cmを測る。

【床面施設】ピットを20基確認した。そのうち、P 1～5・13・17・18の8基については、壁面に沿って一定の間隔で並ぶように位置する。また、P 5・13には柱痕が認められた。

【出土遺物】遺物は堆積土からの出土が大部分で、本遺構に明確に伴う遺物は認められない。本遺構の深さは最大でも20cmに満たないことから、廃絶後間もなく廃棄された、あるいは流入したものと考えられる。



第290図 弥生調査区遺構配置図



SI1 掘削柱状剖面

部位	層位	土色	土性	備考
SI1	1	10YR3-1 黒褐色	砂質土	炭化物(径1~5mm)微量、鉄分少量、灰白色砂質土少量含む
	2	10YR4-2 灰灰褐色	砂質土	炭化物(径1~2mm)極微量、鉄分少量、灰白色土少量含む
	3	2.5YR6-6 棕色	-	-
地下面	1	2.5YR3-2 黄褐色	砂質土	-
	2	2.5YR3-3 棕褐赤褐色	砂質土	-
	3	2.5Y3-3 咖オリーブ褐色	砂質土	炭化物(径~5mm)微量含む

SI1 施設地盤柱状剖面

部位	層位	土色	土性	備考
P5	1	2.5Y3-1 黑褐色	砂質土	炭化物(径1mm)微量含む
	2	2.5Y4-2 咖灰褐色	砂質土	炭化物微量、鉄分少量。10YR8-1灰白色土ブロック(径5~10mm)含む
P13	1	2.5Y5-2 咖灰褐色	砂質土	炭化物(径1~3mm)微量、鉄分少量、灰白色土少量含む
	2	2.5Y5-3 黃褐色	砂質土	鉄分、10YR8-1灰白色土含む
P16	1	2.5Y3-2 黑褐色	砂質シルト	炭化物微量含む
	2	2.5Y4-2 咖灰褐色	砂質土	炭化物(径1mm)微量含む

SI1 地盤観察表

地盤名	平面圖	範囲(cm)	深度(cm)	備考	地盤名	平面圖	範囲(cm)	深度(cm)	備考
P1	楕円形	25×27	27.4		P11	楕円形	35×30	6.1	
P2	円形	25×23	5.2		P12	楕円形	25×20	13.7	
P3	円形	18×18	34.6		P13	-	×25	34.6	
P4	楕円形	28×20	8.7		P14	円形	18×18	4.9	
P5	楕円形	27×22	15		P15	楕円形	×30	17.8	
P6	楕円形	24×19	-		P16	楕円形	42×30	17.6	
P7	楕円形	25×21	8.9		P17	円形	25×24	35.3	
P8	楕円形	22×18	13.2		P18	楕円形	44×30	23.5	
P9	円形	15×15	9.4		P19	楕円形	23×20	5.9	
P10	楕円形	×16	7.7		P20	楕円形	76×55	12	

第291図 S I 1 穫穴住居跡



第292図 S 1 1 穴穴住居跡出土遺物

出土遺物のうち、土器は壺・甕を各1点、蓋（蓋と推定されるものを含む）2点（第292図）、打製石器は接合資料2点を掲載した（第415・446図）。第292図-1は壺の口縁部で、上半を欠失し、外表面はミガキ調整後、赤彩される。同図-2は甕の口縁部～体部で、体部はハケメ調整された後、上端に列点刺文が押し引きにより施される。同一個体破片が本造構から2点出土したほか、古代に帰属するSB-9掘立柱建物Pit15からも同一個体破片が出土した（第356図-93）。同図-3は蓋の体部下半から口縁部で、体部から直線的に口縁部へと開く器形を呈する。外表面には横位直線文と連続山形文、内面には横位直線文が施され、文様内は内外面共にLR繩文が充填される。同図-4は蓋の天井部もしくは鉢の底部である。外表面はミガキ調整された後、体部が赤彩される。

## (2) 性格不明遺構(第290・293～297・394・395・487図)

規模や平面形などから竪穴住居跡の可能性が考えられるものの、炉や柱穴といった竪穴住居跡と認定し得る付属施設がない遺構3基について性格不明遺構とした。出土土器から、弥生時代中期の楕円形壺期に帰属するものと考えられる。

### S X 1 性格不明遺構(第290・293・294・394・395図)

【位置・確認面】C区中央部43グリッド、V層上面で検出した。東側は調査区外に延び、北側は古代の遺構に切られる。本遺構約2m南側には、SX2が位置する。

【規模・形態】検出した部分の規模は、南北3.00m、東西2.35m、深さ10cmを測る。平面形および主軸方位は不明であるが、南側に近接するSX2との位置関係から、平面形・主軸方位共にSX2と類似する可能性が考えられる。

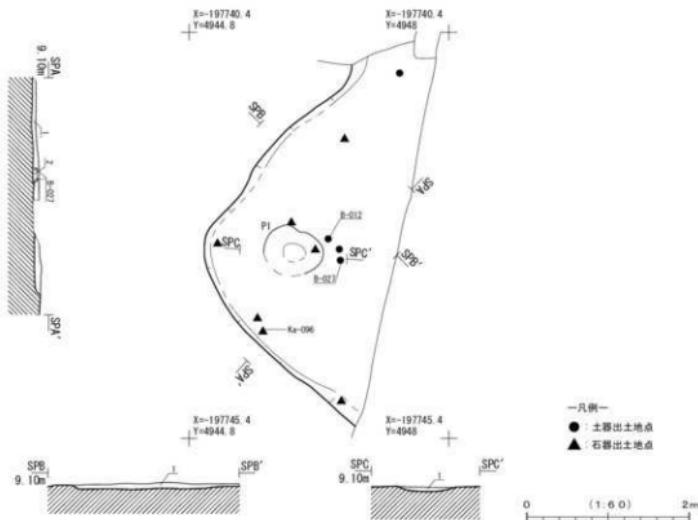
【堆積土】2層に分層した。自然堆積と考えられる。2層は底面から出土した壺形土器（第294図-1）内堆積土である。

【壁面】残存する壁高は最大10cmを測り、直線的に外傾する。

【底面】検出した部分においては、概ね平坦である。

【底面施設】ピットを1基確認した。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸72cm×短軸60cm、深さ3cmを測る。堆積土は遺構堆積土1層と同質であることから、浅い落ち込みの可能性も考えられる。

【出土遺物】遺物は多くが西側の堆積土を中心に出土した。本遺構からの出土遺物として、土器は壺・鉢or蓋・甕を各1点、蓋2点（第294図）、打製石器は接合資料2点を掲載した（第394・395図）。第294図-1は壺の口縁部から体部上端で、遺構底面から斜面を上に向かた斜位の状態で出土した。口縁部には僅かにLR繩文が横位回転施文さ



SX1 考察表								考	重 眼
遺跡名	候出地C	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土 性		
SX1	C	不整形	(280×235)	10	1 10YR4/3 2 10YR3/1	にじ・黄褐色 黒褐色	シルト シルト	重物化物(径2~5mm)含む。 10YR3/3暗褐色土層、10YR5/6黄褐色 土層の混在層	SD65に剪断れる
SX1 PI	C	船門形	72×60	3	1 10YR4/3	にじ・黄褐色	シルト	重物化物(径2~5mm)含む。 10YR3/3暗褐色土層、10YR5/6黄褐色 土層の混在層	なし

第293図 SX1 性格不明遺構



回数 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺構	柱別	器種	部位	外面調整・文様	内面調整・文様	備 考	写真 回数
1	B-027	CHC	SX1	灰面	陶生土器	底	口縁上端(底縁)横斜削制部 →縫一全体(年輪)	縫状(年輪)	丁字型(11.6) cm	120
2	B-024	CHC	SX1	堆積土	陶生土器	底 or 蓋	口縁一底 沈痕→口縁 体上半 植物茎葉転文 (植物茎葉文・通弦文)	丁字型 →縫一全体(年輪) (植物茎葉文・通弦文)	120	
3	B-025	CHC	SX1	堆積土	陶生土器	底	全体(年輪)茎葉文柄回転 →縫一全体(年輪)	縫状(年輪)	120	
4	B-026	CHC	SX1	堆積土	陶生土器	底	体下半 (底縁一丁字縁文・沈痕→口縁 (植物茎葉文・通弦文))	丁字型(年輪)	全体(年輪)	120
5	B-023	CHC	SX1	堆積土	陶生土器	底	天井一 体上半 (年輪)	丁字型(5.6) cm	120	

第294図 SX1 性格不明遺構出土遺物

れる。同図-2は鉢の口縁部から体部上半としたが、蓋の可能性もある。外面には横位直線文と連弧文、内面には横位直線文が施文され、外側には植物茎回転文が充填される。同図-3は鉢の体部下半から底部で、外面にLR繩文が横位回転施文される。同図-4はP1から出土した蓋の体部下半から口縁部である。外面には横位直線文と連続山形文が施文され、文様内にはLR繩文が充填される。また、体部内面には炭化物の付着が認められる。同図-5は蓋の天井部から体部上半で、内外面とも粗くミガキ調整される。

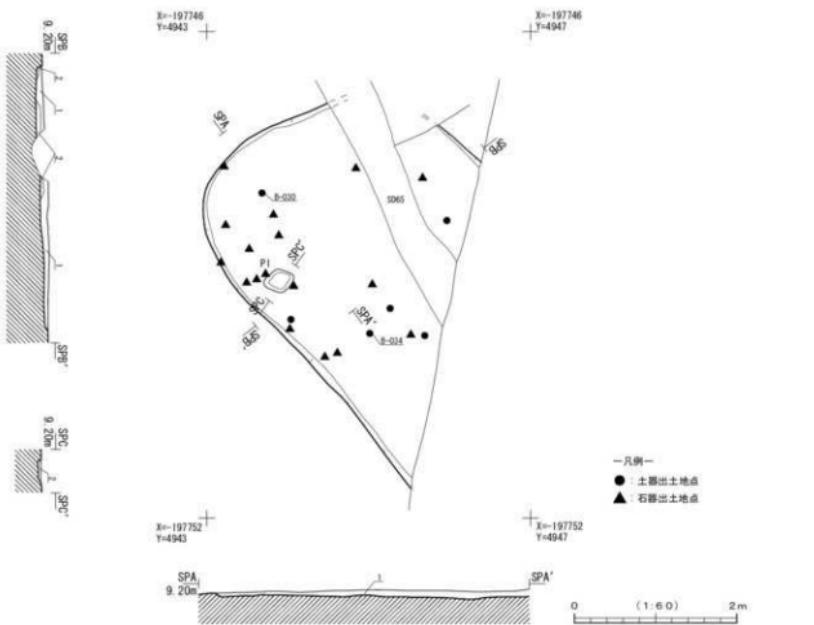
#### S X 2 性格不明遺構(第290・295・296・487図)

【位置・確認面・重複】C区南東側38グリッド、V層上面で検出した。SK 33を切る。東側は調査区外に延び、北側は古代の遺構に切られる。本遺構の約2m北側には、SX1が位置する。

【規模・形態】検出した部分の規模は、長軸4.64m×短軸3.22m、深さ16cmを測る。平面形は隅丸長方形を呈するものと推定され、主軸方位は北西-南東に持つものと考えられる。

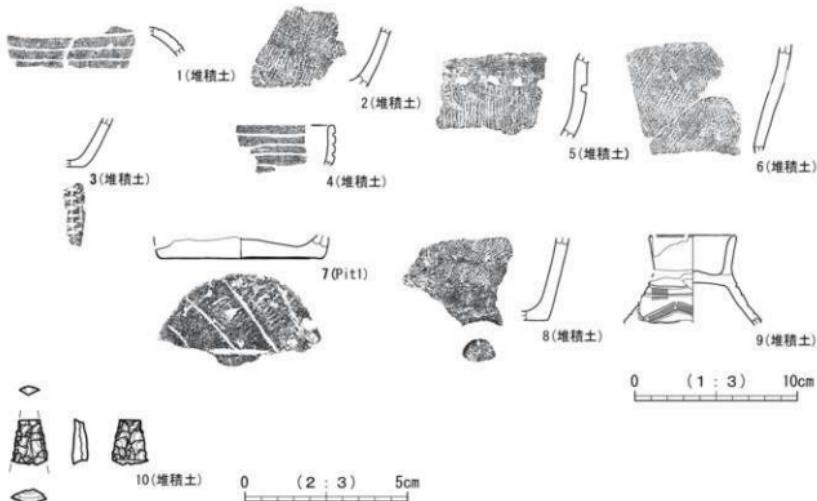
【堆積土】2層に分層した。炭化物を多量に含む黒褐色シルトを主体とする。

【壁面】残存する壁高は最大16cmを測り、直線的に外傾する。



SX2 鋏形表								重複
遺構名	検出区	平面形	幅員(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土 性	
SX2	C	隅丸長方形?	(464)×322	36	1 7.5YR3/1 2 10YR4/3	黒褐色 黄褐色	シルト シルト	黒褐色土ブロック(厚10~30mm)多量、白色粘多層、炭化物(径5~15mm)多量含む 炭化物(径1~3mm)微量含む、ややグライ化。 SK33を切る、SD65に切られる
SX2 P1	C	隅丸方形	39×30	4	-	-	-	

第295図 S X 2 性格不明遺構



出土地番号	登録番号	器種	出土遺物	種別	器種	部位	外面調整・文様	内面調査・文様	備考	写真回数	
1	B-036	CIE	SX2	堆積土	海生土器	蓋	体上半 横縞・植物茎回転文→沈縞→ミガキ (植生直縞文)	ミガキ(密)		120	
2	B-032	CIE	SX2	堆積土	海生土器	蓋	体下半 LH繩文模様回転	ミガキ(密)		120	
3	B-031	CIE	SX2	堆積土	海生土器	蓋	体下半 一既 既→ミガキ(密) (植生直縞文)	ミガキ		120	
4	B-028	CIE	SX2	堆積土	海生土器	深鉢	LH縞	ミガキ(密)		120	
5	B-035	CIE	SX2	堆積土	海生土器	蓋	口縞→ ミガキ(密)→体・植物茎回転文模様回転 →体上半 既→ミガキ(密) (植生直縞文)	LHミコナード→体・植物茎回転文模様回転 →体上半 既→ミガキ(密)	ミガキ(密)	ミガキ(密)	120
6	B-034	CIE	SX2	堆積土	海生土器	蓋	LH繩文模様回転	ミガキミガキ(密)		120	
7	B-029	CIE	SX2	Pit	海生土器	蓋?	体下端 既→ミガキ(密)	ミガキ(密)	底径(10.0) cm		
8	B-030	CIE	SX2	堆積土	海生土器	蓋	体 既 既→ミガキ(密) (植生直縞文)	ミガキミガキ(密)	底部外面二次加热痕	120	
9	B-033	CIE	SX2	堆積土	海生土器	蓋	つまみ 既 既→ミガキ(密) (植生直縞文・連續山形文)	つまみナラ ミガキ(密)	つまみ部分(3.2) cm	120	

出土地番号	登録番号	器種	出土遺物	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真番号
10	Ka-004	CIE	SX2	堆積土	打制石器	石鏨	(1.2) × (1.0) × 0.5	0.56	流紋岩	内面埋伏部、厚報比(0.5)	120

第296図 S X 2性格不明遺構出土遺物

〔底面〕中央部が僅かに窪むものの、概ね平坦である。

〔底面施設〕ピットを1基確認した。規模は一辺39cm、深さ4cmを測り、平面形は隅丸方形を呈する。規模や形状からみて底面の浅い落ち込みの可能性がある。

〔出土遺物〕遺物は大部分が堆積土から出土し、なかでも北西側からは石器が多く出土した。本遺構からの出土遺物として、土器は壺1点、鉢2点、深鉢1点、甕4点（甕1点を含む）、蓋1点（第296図）、打製石器は石鏨1点（同図-10）、接合資料1点を掲載した（第487図）。第296図-1は壺の体部上端で、外面上には横位直線文内に植物茎回転文が充填される。同図-2・3は鉢の体部下半である。内面はいずれもミガキ調整される。外面上は、2がLH繩文が横位回転施文され、3が丁寧にミガキ調整される。同図-4は深鉢の口縞部である。ほぼ直立する器形を呈し、外面上には横位直線文が施文される。同図-5～8は甕の破片資料である。5は口縞部に最大径を持つ器形と考えられ、体部外面上は植物茎回転文が横

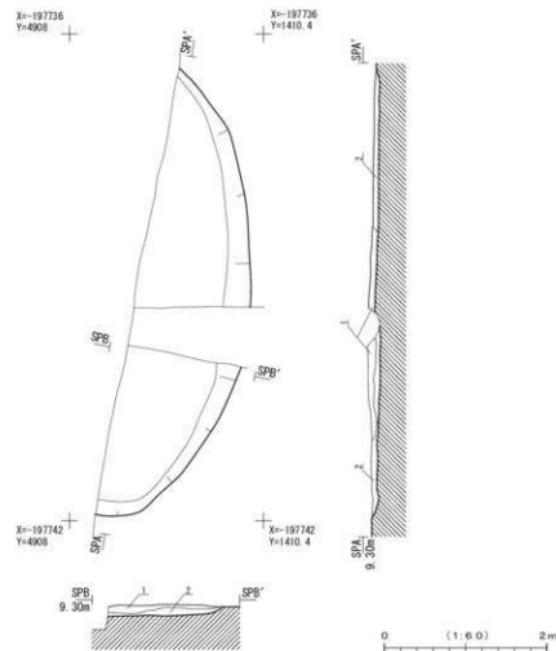
位回転施文された後、上端に断面方形の施文具による列点刺突文が施される。6・8は外面にL R縦文が横位回転施文され、7・8の体部下端はミガキ調整される。内面はいずれも丁寧にミガキ調整される。同図-9は蓋のつまみ部から体部上半である。横位直線文と連続山形文が施文され、文様内には植物茎回転文が充填される。同図-10は尖端部と身部の大半を欠損する石鎚である。両面を平坦剥離で整形しており、創縁を入念に調整している。両面の中央の稜は器軸に沿っている。断面形は菱形を呈する。石材は流紋岩である。

### S X 3 性格不明遺構(第290・297図)

【位置・確認面】D区北側49グリッド、V層上面で検出した。西側は調査区外に延び、中央部は古代の遺構に切られる。

【規模・形態】検出した部分の規模は、南北5.06m×東西1.42m、深さ11cmを測る。西側は大部分が調査区外に延びているため判然としないが、平面形は円形ないし梢円形を呈するものと思われる。主軸方位については不明である。

【堆積土】2層に分層した。自然堆積と考えられる。



S X 3 部分表								備考	重複
遺構名	検出区	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土 性		
SX3	D	不明	(506) × (142)	11	1 10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト 風化物(厚1~2mm)微量	風化物シルト 風化物(厚1~2mm)微量	SD63に切られる	
					2 10YR4/3 灰褐・黄褐色	砂質シルト	風化物シルト 風化物(厚1~2mm)微量		

第297図 S X 3 性格不明遺構

[壁面] 残存する壁高は 11cm を測り、大きく外傾する。

[底面] 南側に比べて北側が 4cm 程高まるものの、概ね平坦である。

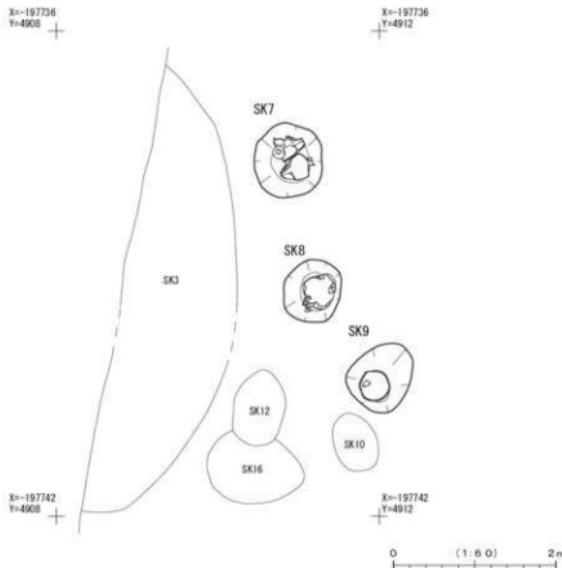
[出土遺物] 出土遺物は無い。

### (3) 土器埋設遺構(第290・298～307図)

3B区北東側の弥生C区から1基(SK31)検出したほか、3B区北西側の弥生D区中央部からは、北西-南東方向に 60～80cm の間隔で並ぶように 3 基 (SK7～9) 検出した (第298図)。すべて弥生時代中期の樹形圓式期に帰属するものと考えられる。掘り方となる土壙は埋設される土器に比べてかなり大きく掘り込まれた後、土器の形状に合わせるかのように内部に土が充填される傾向が認められる。土器は正位の状態で埋設されたものと横位の状態で埋設されたものの 2 種が認められるほか、壺と精製の蓋はセット関係を有する可能性が窺われる。

#### SK7 土器埋設遺構(第290・298～301図)

D区北側 45 グリッド、V層上面で検出した。約 80cm 南側には SK8 が位置する (第298図)。掘り方の規模は径 90cm 前後、深さ 33cm を測る。平面形状は不整円形、断面形状は不整逆台形を呈し、底面中央部は僅かに窪み、

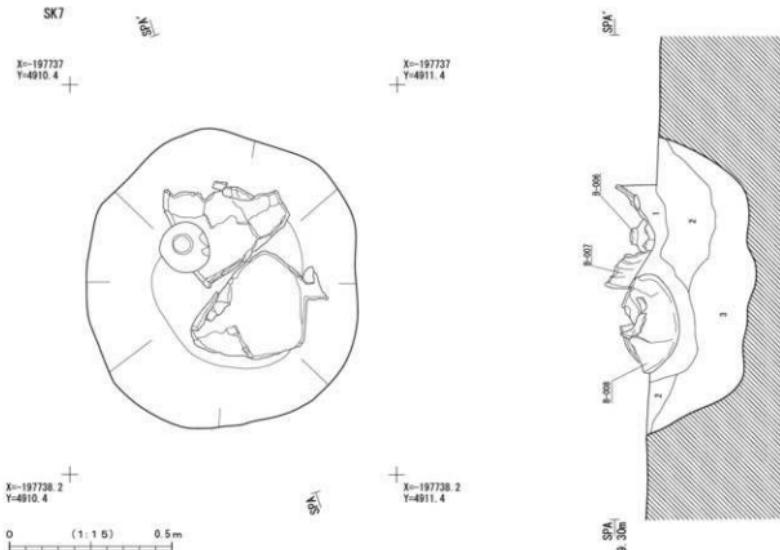


第298図 SK7～9 土器埋設遺構配置図

壺は内湾して立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色ないし灰黄褐色シルトを主体とする 3 層に分層された。土器は 1 層中に粗製の壺、壺、精製の蓋各 1 点が埋設されており、壺 (第300図-1) は口縁部を北東に向けた横位の状態で、これとは対照的に、壺 (第301図-1) は口縁部を南西に向けた横位の状態で出土し、壺の口縁部直上から完形の精製蓋 (同図-2) が正位の状態で出土した (第299図)。遺物の出土位置関係から、壺と蓋のセット関係が窺われる。

壺 (第300図-1) は口径が底径より僅かに大きくなり、体部上半に最大径をもつ。体部上端はやや丸みを帯び、頸部は

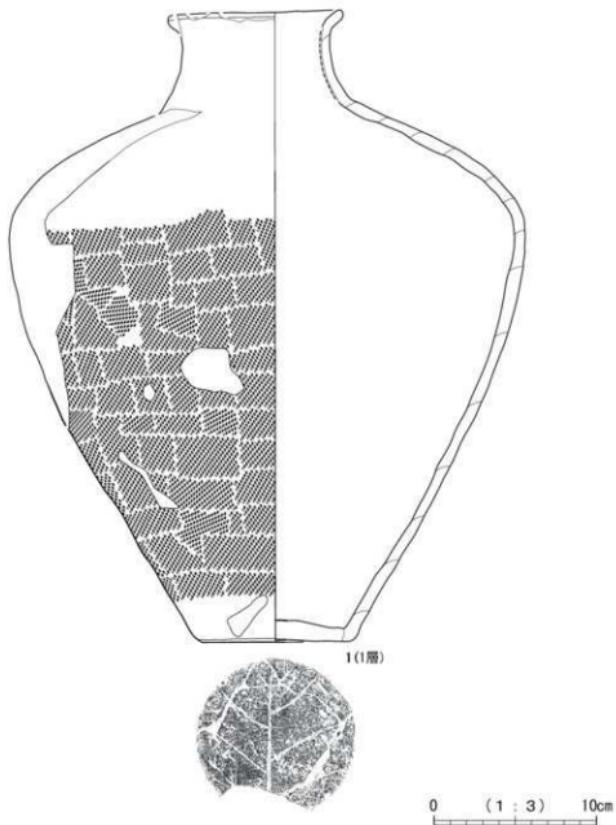
口縁部に向かって僅かに内傾し、口縁部は短く外反する器形を呈する。体部外面にはL R 繩文が横位および斜位回転施文される。甕(第301図-1)は口縁部に最大径をもち、底部は上げ底で体部は僅かに内済し、口縁部は短く外反する器形を呈する。体部外面にはL R 繩文(直前段3条)が横位および斜位回転施文された後、上端に列点刺突文が施される。底部は焼成後に穿孔され、割れ口が整形される。精製蓋(同図-2)は、口縁部と体部上端に施文された横位直線文の内部に7単位の連弧文が横に半単位ずらして2段施文され、連弧文内には植物茎回転文が充填される。天井部には木葉痕が観察され、周縁は指頭によるつまみ上げで整形される。



SK7 土器埋設通横断面表

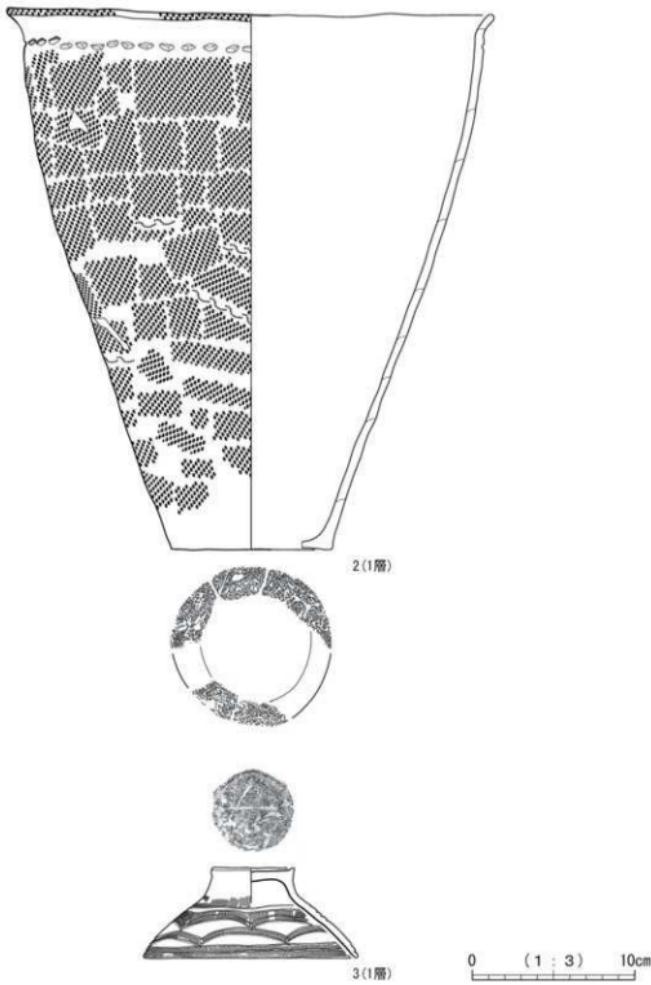
遺構名	遺構区	平面形	規模(cm)	深度(cm)	層位	土色	土性	備考		重箱
								1	2	
SK7	D	円形	93×87	33	1	30YR0/3	褐褐色	砂質シルト	地山砂質シルト少量、灰化物(粒10~20mm)微量含む	なし
					2	30YR4/2	灰青褐色	砂質シルト	地山砂質シルト少量、灰化物微量含む	
					3	30YR4/3	灰青褐色	砂質シルト	地山砂質シルト少量、灰化物(粒10~20mm)微量含む、10YR4/1灰褐色シルト ブロック(粒10~20mm)微量含む	

第299図 SK7 土器埋設遺構



固施 番号	登録 番号	组合 調査区	出土遺物	種別	部様	部位	外表面型・文様	内面調整・文様	備 考	写真 枚数	
I	B-008	DK	SK7	1層	弦生土器	壺	1層 →縁一全体上:1.5cm. 底:本質部	1.ヨコナギ、唇-LR 織文模様・斜位回転 →縁一全体上:1.5cm. 底:本質部	1.ヨコナギ 縁:毛(瓶)	口径 10.5cm, 底径 9.0cm, 高さ 3.9cm, 加温内面剥離	121

第300図 SK 7 土器埋設構造出土遺物(1)

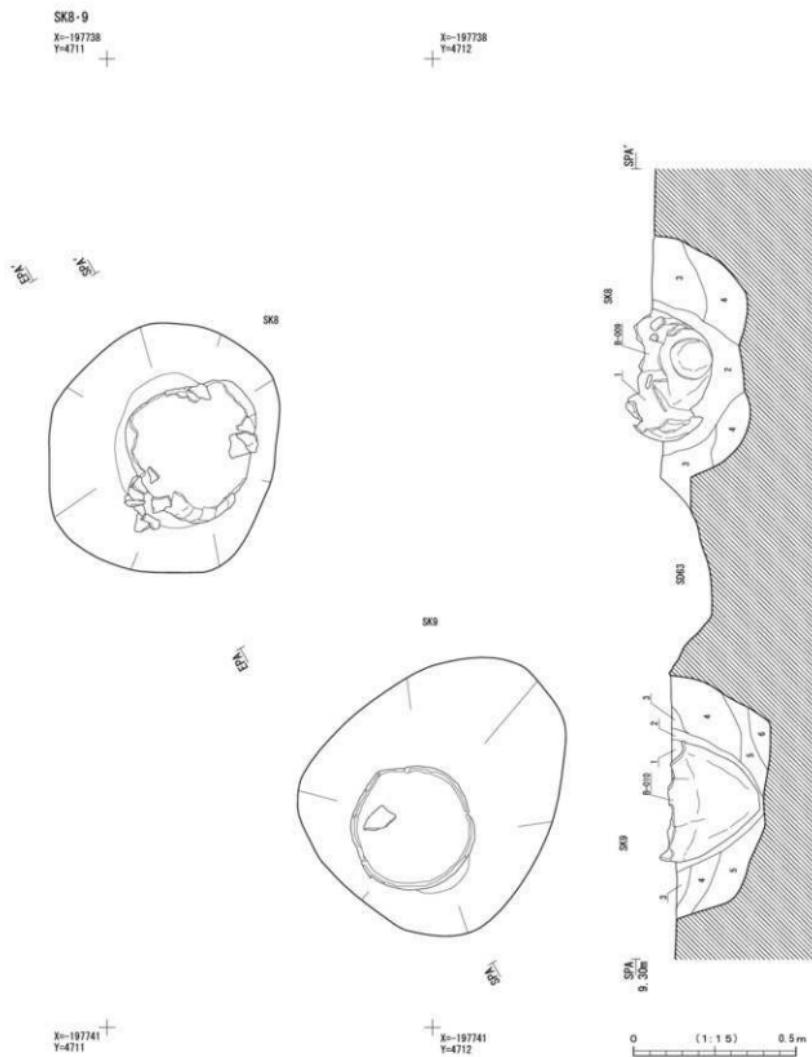


図版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺物	種別	器種	部位	外面調整-文様	内面調整-文様	備考	写真 図b
2	B-007	DK	SK7	1層	弥生土器	裏	口縁 →「1」鶴-体生紋地位・斜線斜板 →「2」上縁-列点斜界(左一右)	「1」ヨコナード →「1」鶴-体生紋地位・斜線斜板 →「2」底-無旋印子が牛	1.1径30.1cm. 底径10.4cm. 高さ33.7cm. 外側斜板(1次加熱板、 底部穿孔(焼成後、開口1整形))	122
3	B-006	DK	SK7	1層	弥生土器	裏	丸井 →「1」火照-火照地位 →「2」縦-「2」ギザ(横反表裏文+連弧文)	「1」井(12.2cm) 天井部径35.0cm. 高さ6.6cm. 底部「2」縦-「1」縦部内面炭化物付着	122	

第301図 SK 7 土器埋設構造出土遺物(2)

S K 8 土器埋設遺構(第290・298・302～304図)

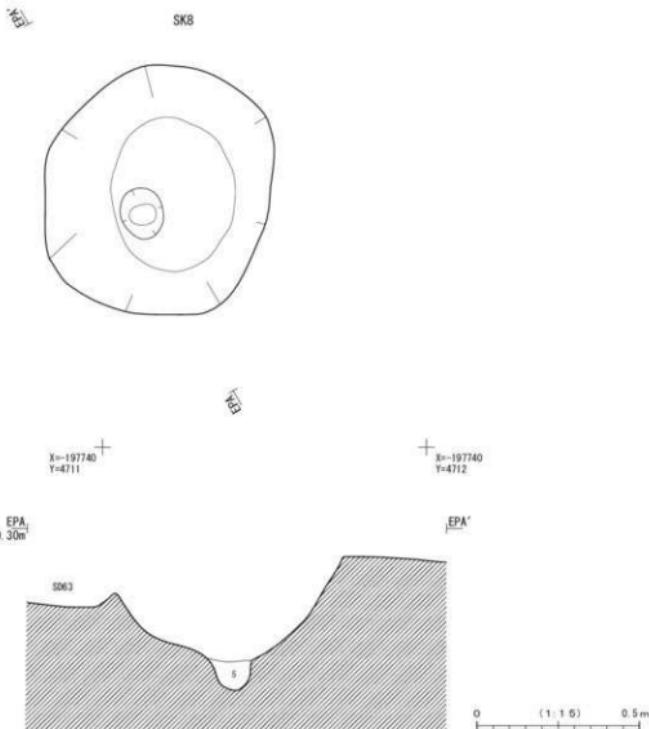
D区北側45グリッド、V層上面で検出した。約80cm北側にはSK7が、約60cm南西にはSK9が位置する(第298図)。掘り方の規模は長軸85cm×短軸72cm、深さ40cmを測り、長軸方向を北東-南東にもつ。平面形状は梢



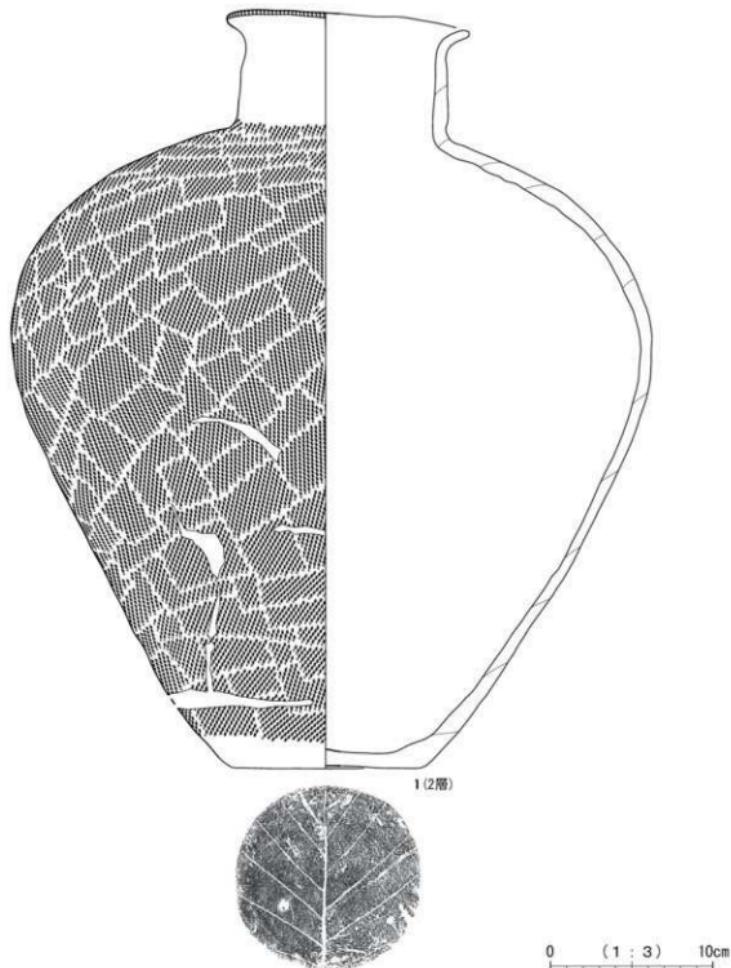
第302図 S K 8・9 土器埋設遺構(1)

## SK8・9 土基埋設遺構観察表

遺構名	検出区	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土 性	備 考	重 級
SK8	D	楕円形	85×72	40	1	10YR3-3	暗褐色	砂質シルト	地山砂質シルト微量、黄化物微量含む
					2	10YR4-2	灰黃褐色	砂質シルト	地山砂質シルト微量含む
					3	10YR4-3	棕褐色	砂質シルト (浮0.1~0.2mm)微量、10YR1/1褐色粒 (浮0.1~0.2mm)全体に少量含む	地山砂質シルト微量、10YR1/1褐色シルトブロック(浮20~30mm)微量 なし
					4	7.5Y4-2	灰褐色	砂質シルト	地山砂質シルト微量、10YR1/1褐色シルトブロック(浮20~30mm)微量 含む
					5	10YK3-2	黑褐色	砂質シルト	地山砂質シルトブロック少量全体に含む。
SK9	D	楕円形	85×67	33	1	10YR4-2	灰黃褐色	砂質シルト (浮0.1~0.2mm)微量、2.5Y4-1褐色粒(浮0.1~0.2mm)少量全体、 2.5Y4-1黃褐色シルトブロック微量(浮0.1~0.2mm)含む*内部の埋土	地山砂質シルト微量、2.5Y4-1褐色シルトブロック微量(浮0.1~0.2mm)少量全体、 2.5Y4-1黃褐色シルトブロック微量(浮0.1~0.2mm)含む*内部の埋土
					2	2.5Y4-1	黃褐色	砂質シルト	地山砂質シルト微量、2.5Y4-1褐色粒(浮0.1~0.2mm)微量含む
					3	10YR4-1	褐灰色	砂質シルト	地山砂質シルト微量、2.5Y4-1褐色粒(浮0.1~0.2mm)微量含む
					4	2.5Y4-7	褐-7褐色	砂質シルト	地山砂質シルト微量、2.5Y4-1黃褐色シルトブロック(浮10~20mm)微量含む
					5	2.5Y4-3	褐-7褐色	砂質シルト	地山砂質シルト微量、5Y4-7灰色シルトブロック(浮10~30mm)微量含む
					6	10YK3-3	暗褐色	砂質シルト	地山砂質シルト微量含む

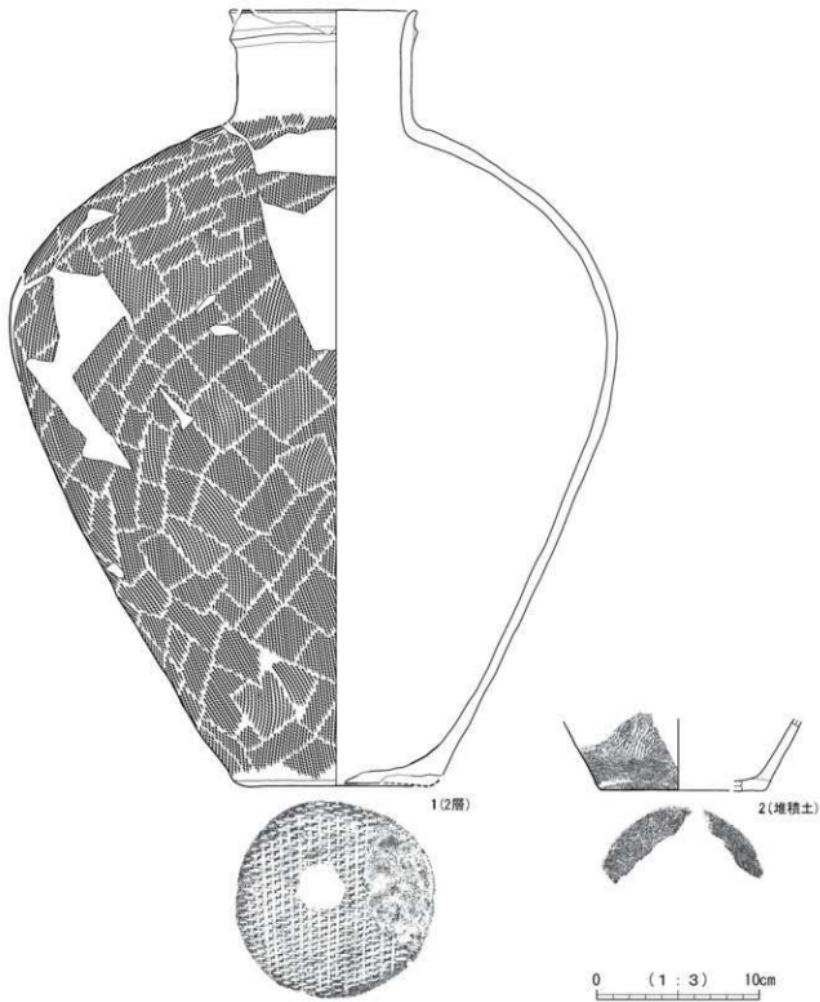
X=197738.3  
Y=4711X=197738.3  
Y=4712

第303図 SK8・9 土基埋設遺構(2)



项目号	登记者	登记处	出生地	性别	国籍	部位	外阴-阴道-会阴		内向-宫腔-生殖		备考	穿刺号
							口唇	口唇-生殖-会阴-阴道-尿道-肛门	口唇	口唇-生殖-会阴-阴道-尿道-肛门		
1	B-009	DJK	SK8	2男	蒙古生.土葬	女	口唇	口唇-生殖-会阴-阴道-尿道-肛门(中)	口唇	口唇-生殖-会阴-阴道-尿道-肛门(中)	11月15日,一例-成-女-尸(母)	125

第304図 SK8土器埋設遺構出土遺物



剖面 番号	登録 番号	出土 調査区	出土遺構	種別	器種	部位	外面調整・文様	内面調整・文様	備考	写真 回数
1	B-010	DJK	SK9	2層	堆生土器	亞	口縁 ～底 →1層・底上部繩文斜格回転 →1層・底7cm. 底代張	11~1層:1赤牛	11層:12.0cm. 底径48.0cm. 底部穿孔1個、外→内。 器表斜面有三角	124
2	B-011	DJK	SK9	堆積土	堆生土器	夷	侈下平 ～底 →侈下層:1赤牛。 底:木葉根	12赤牛	或径(10.0) cm. 底部穿孔少不明	124

第305図 SK9 土器埋設遺構出土遺物

円形、断面形状は不整逆台形を呈し、底面中央部には僅かな高まりがみられ、壁は内湾して立ち上がる。堆積土は5層に分層された。1層は土器内の堆積土である。土器は2層中に埋設され、大型の壺1点が口縁部を南西に向かた横位の状態で出土した。

埋設された壺(第304図-1)は口径が底径より僅かに大きく、体部上半に最大径をもつ。体部上端はやや丸みを帯び、頸部は口縁部に向かって僅かに内傾し、口縁部は短く外反する器形を呈する。体部外面全面にはL R繩文が横位および斜位回転施される。

#### S K 9 土器埋設遺構(第290・298・302・305・321図)

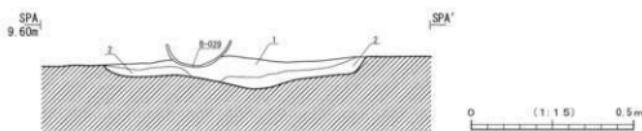
D区北側45グリッド、V層上面で検出した。約60cm北西にはSK8が位置する(第298図)。掘り方の規模は長軸85cm×短軸67cm、深さ33cmを測り、長軸方向を北東・南西にもつ。平面形状は梢円形、断面形状は不整逆台

SK31

X=197748.8  
Y=4929.3 + X=197748.8  
Y=4940.5 +



X=197750.3  
Y=4929.3 + X=197750.3  
Y=4940.5 +



SK31 土器埋設遺構概観

遺構名	検出区	平面形	範囲(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土 性	備 考		重 量
								1	2	
SK31	C	梢円形	183×130	9		1 10YR4/2	シルト	変色物(径5~15mm)多量に含む、黒褐色土基とややグライ化した黄白化した黄褐色の混在層	なし	
						2 10YR5/3	シルト	変色物(径5mm)微量に含む、ややグライ化した黄褐色土基に黒褐色土少量混在		

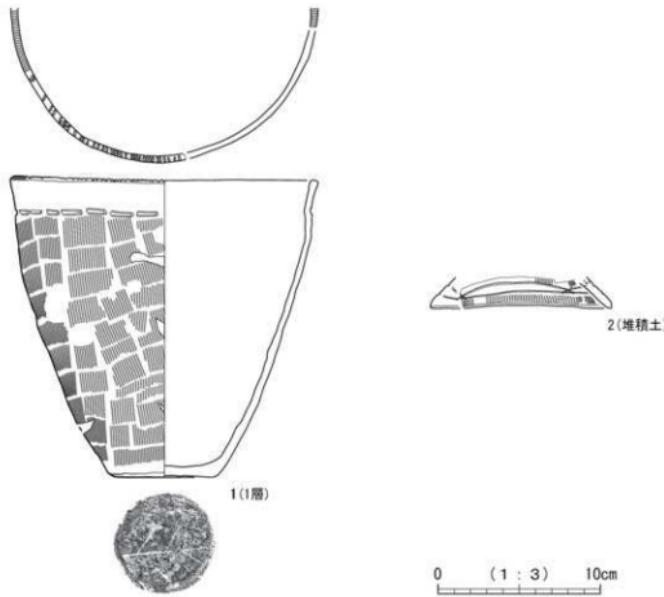
第306図 S K 31 土器埋設遺構

形を呈し、底面中央部は僅かに窪み、壁は直線的に外傾する筒所と中程が僅かに括れる箇所が認められる。堆積土は6層に分層された。1層は土器内の堆積土である。土器は2層中に埋設され、大型の壺1点が口縁部から胴部上半を欠失する正立の状態で出土した(第302図)。口縁部から胴部上半の破片は、本遺構約2m北西から纏まって出土したほか、約17m南のD区南端からも出土した(第321図)。こうした出土状況ならば接合関係が人為的なものに起因するのか、あるいは自然作用に起因するのかは判然としない。このほか、堆積土からは壺の底部破片が出土した。

埋設された壺(第305図-1)は口径と底径がほぼ等しく、体部上半に最大径をもつ。底部は上げ底で体部上端は丸みを帯び、頸部は直立し口縁部上端が僅かに外反する器形を呈する。頸部上端には幅1cm、断面が三角形を呈する隆帶が横位に貼り付けされ、体部外面全面にLR繩文が斜位回転施文される。底部は焼成後に外面側から穿孔される。同図-2は外面にLR繩文が横位および斜位回転施文される壺の体部下半から底部である。底部は穿孔された可能性があるが、判然としない。

### S K 31 土器埋設遺構(第290・306・307図)

C区南側37グリッド、V層上面で確認した。掘り方の規模は長軸183cm×短軸130cm、深さ9cmを測り、長軸



国別 品番 多番	登録 番号	原生 地在区	滋養道種	被羽	否被	部位	外觀調整・文様		内面調整・文様	備考	写真 別冊
							上口	下口			
1 B-039	C1区	SK31	1層	無生土器	素	口環 ～ 底	上口:コナフ +1:1体・植物葉集束文・横筋回転 +1:1底:点状文(左側・右側・左・右) 底	下口:無・植生ガラス 体:横筋回転 底:土牛(底)	上口:ガラス 底:土牛(底)	上口:20.0cm, 底径:6.0cm, 高さ:18.5cm 体:横筋回転 底:土牛(底) 火照熱 火炎火ハチ根	125
2 B-037	C1区	SK31	角植土	無生土器	素	身下平 ～ 1端	橢形・植物葉集束文+1:1底 +1:1底:点状文・直線文	1:1:ガラス	上口(11.2)cm, 内面無	125	

第307図 SK31土器埋設遺構出土遺物

方向をほぼ南北にもつ。平面形状は梢円形、断面形状は不整逆台形を呈し、底面中央部は窪み、壁は内湾する箇所と直線的に外傾する箇所が認められる。堆積土は2層に分層された。レンズ状の堆積を示す。土器は1層中に埋設され、小型の壺1点（第307図-1）が口縁部を北東に向けた横位の状態で出土した。また、堆積土からは精製蓋（同図-2）が出土しており、SK7と同様に、壺と精製蓋とのセット関係が窺われる。

埋設された壺（第307図-1）は口縁部に最大径をもち、底部は上げ底で体部は上位まで直線的に立ち上がり、体部上端から口縁部は僅かに外傾する器形を呈する。体部外面は全面に植物茎回転文が横位および斜位回転施文された後、上端に押し引きによる列点刺突文が施される。口唇部には植物茎回転文の他、沈線が施文される。底部には木葉痕の他、ヘラ状施文具とも紐状の圧痕とともにとれる痕跡が観察される。堆積土から出土した精製蓋（同図-2）は横位直線文と連弧文が施文され、文様内に植物茎回転文が充填される。

#### （4） 土坑（第290・298・308～314・403・463図）

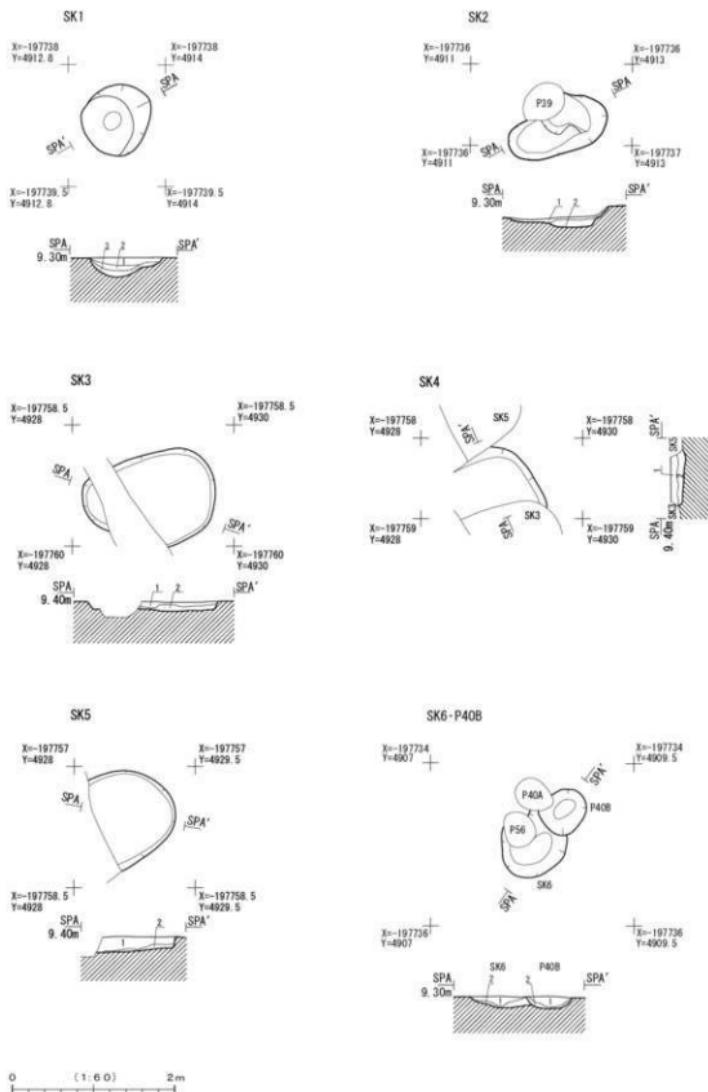
B区から2基、C区から3基、D区から8基、E区から18基、F区から5基、合計36基検出した（土器埋設構を含まない）。検出面はV層上面である。このうち、SK12については調査時にD区とE区から検出されたものについて重複して遺構番号を付しており、整理段階で混乱を避けるため、便宜的にD区から検出されたものをSK12A、E区から検出されたものをSK12Bとした。検出された位置も別で、時期差を表したものではない。

規模・形状に大きな特徴は認められず、また、殆どの土坑から遺物が出土しているものの、土坑の性格を特定出来るような遺物や出土状況は見出し難いことから、位置や規模、堆積土等の諸属性については、観察表に纏めて記載することとした。

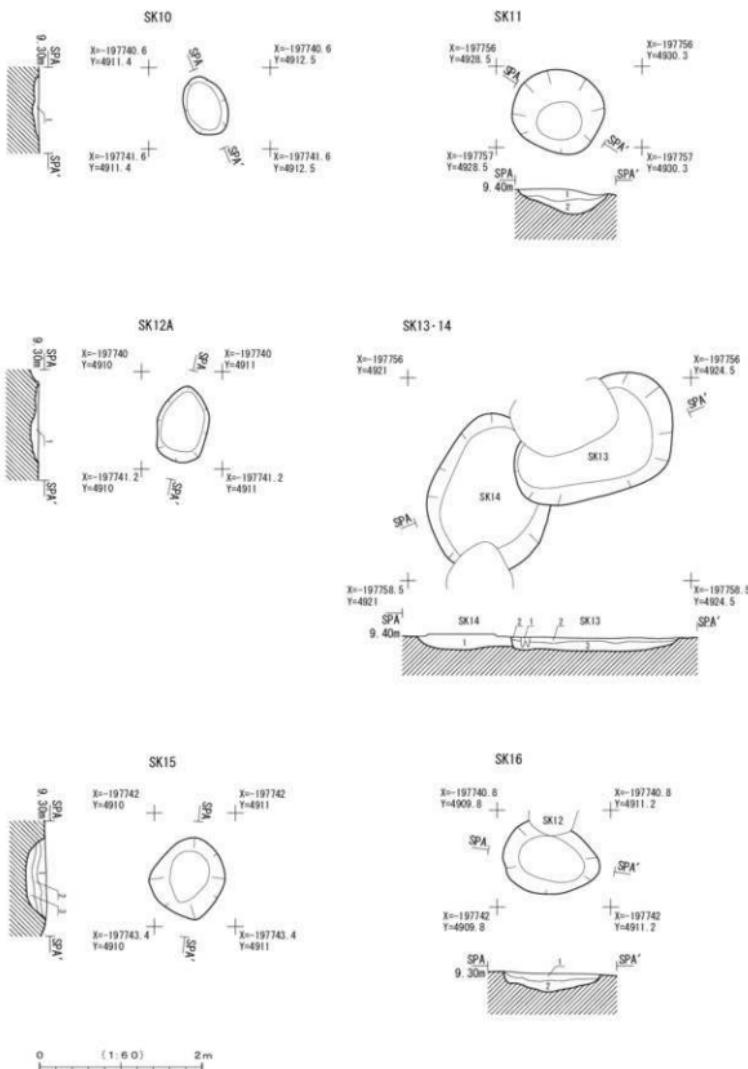
構築位置をみると、SI1竪穴住居跡や、竪穴住居跡の可能性があるSX3性格不明遺構の周辺に密集する傾向が看取される。特にSI1が検出されたE区においては、検出数も他の調査区に比べて多いことから、E区周辺には本来多くの土坑が構築された可能性が考えられる。

上に記したように、ほぼ全ての土坑から遺物が出土したものの、細片資料が多く、掲載した遺物は少ない。

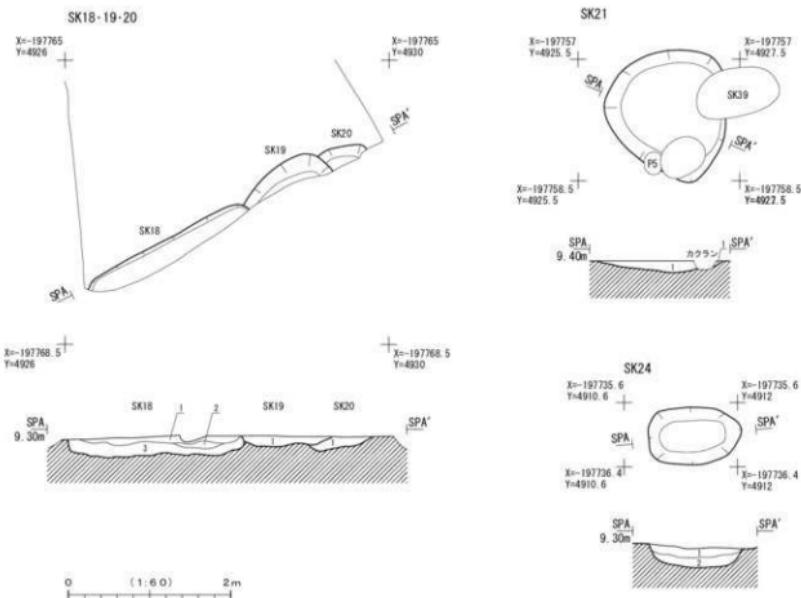
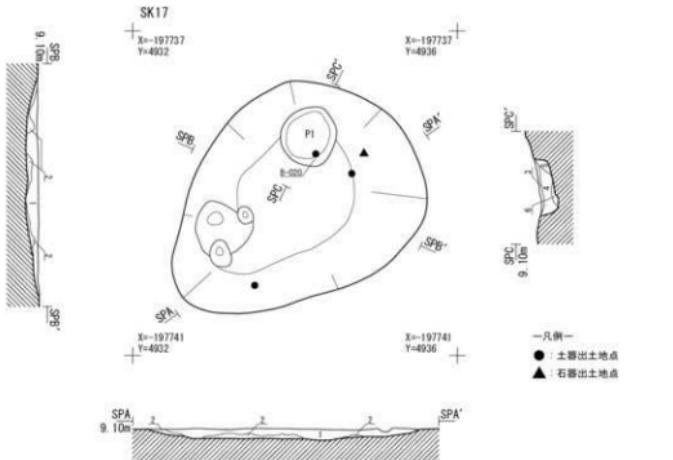
SK2堆積土から出土した壺1点（第313図-1）、SK11堆積土から出土した深鉢1点（同図-2）、SK12A堆積土から出土した壺1点（同図-3）、SK12B堆積土から出土した壺1点（同図-4）、SK14堆積土から出土した壺1点（同図-5）、SK17Pit1から出土した壺3点（同図-6・7、第314図-1）、鉢1点（第313図-8）、堆積土から出土した石獣未成品1点（第314図-8）、SK18堆積土から出土した壺1点（同図-2）、蓋1点（同図-3）、SK33堆積土4層から出土した壺1点（同図-4）、SK36堆積土から出土した壺1点（同図-5）、SK38堆積土から出土した壺1点（同図-6）、SK39堆積土から出土した壺1点（同図-7）を掲載した。土器はいずれも弥生時代中期の樹形團式に比定される。SK11堆積土から出土した深鉢（第314図-2）は、体部外面に横位直線文の他、菱形文と鉤形文の組み合わせが施文されており、このような文様が施文される土器は、今回の調査ではこの一点のみである。第314図-8は石獣未成品である。尖端部を欠損している。表裏両面は平坦剥離で整形されており、裏面中央部に素材面を残している。両面の中央の稜は器軸に沿っていない。断面形は菱形を呈している。石材は流紋岩である。この他、第403・463図には、SK42・43から出土した接合資料を掲載した。



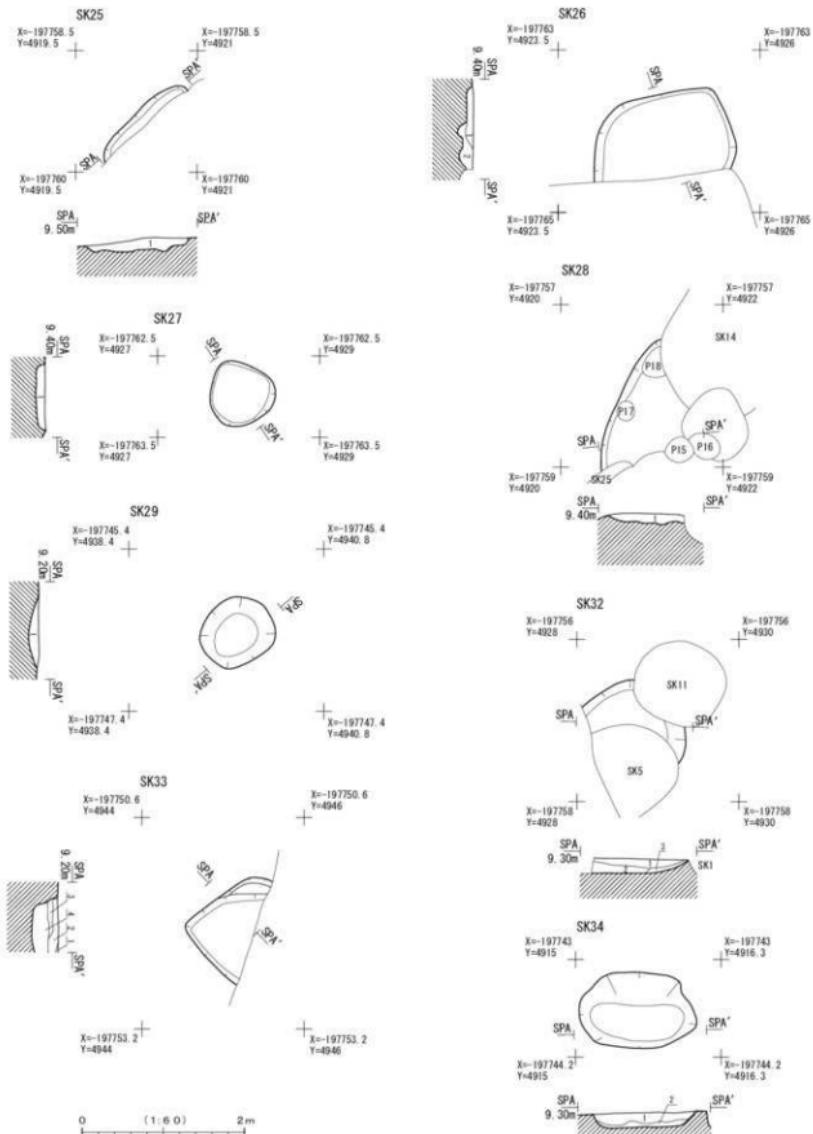
第308図 土坑(1)



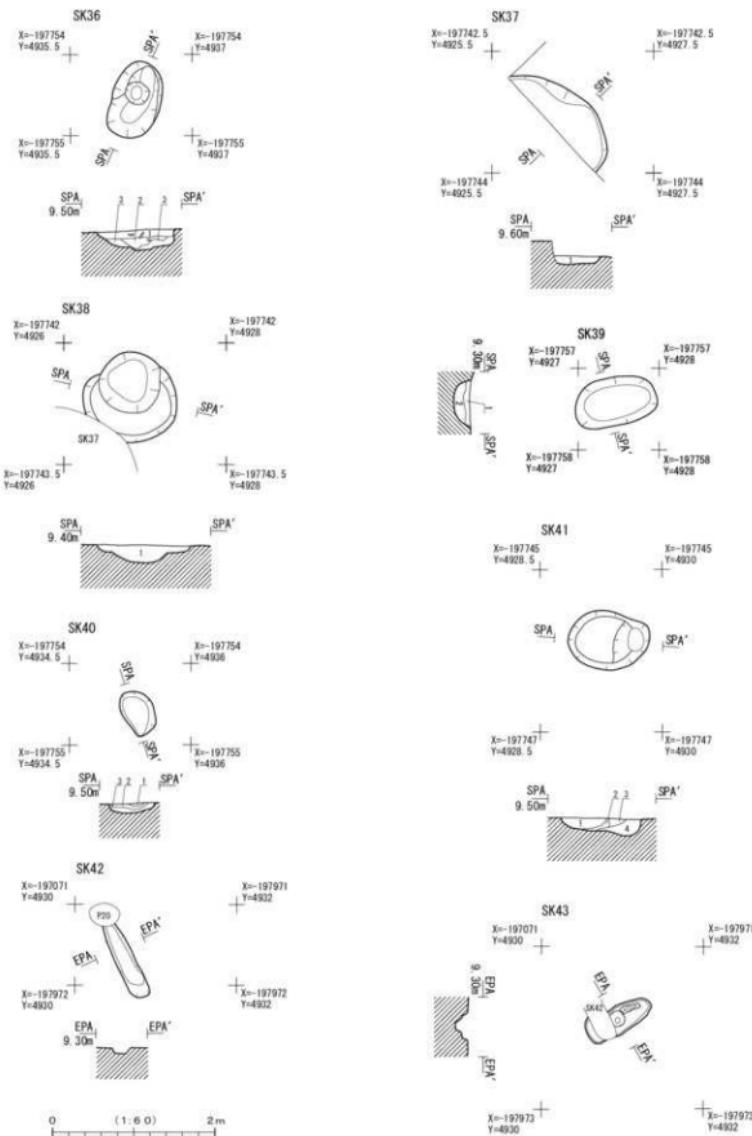
第309図 土坑(2)



第310図 土坑(3)



第311図 土坑(4)



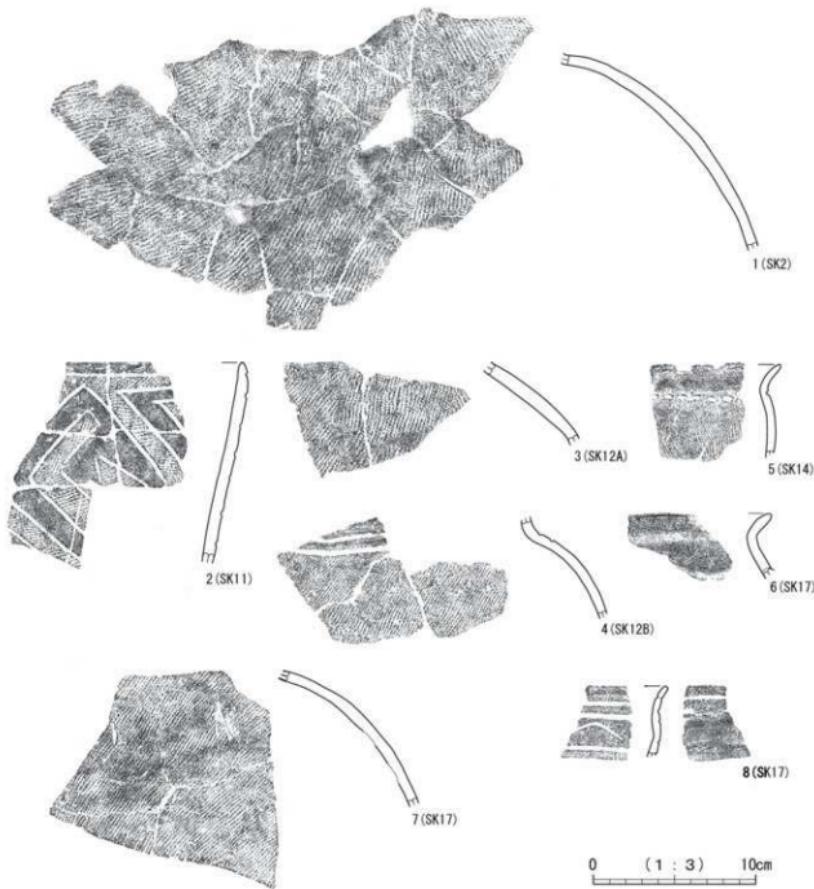
第312図 土坑(5)

土質観察表(1)

測定名	検出式	平面形	範囲(cm)	深さ(cm)	層位	太 性	土 性	備 考	重 要
SK1	D	円形	83×79	26	1	10YR4/3	にじみ・黄褐色	シルト	地山砂質シルト少量含む
					2	10YR4/4	褐色	シルト	地山砂質シルト少量、10YR3/1黒褐色シルトブロック(径10~20mm)含む
					3	2.5Y4/2	暗灰褐色	シルト	地山砂質シルト少量、10YR3/1黒褐色シルトブロック(径10~20mm)含む
SK2	D	長方形	123×(17)	26	1	10YR4/3	にじみ・黄褐色	砂質シルト	地山砂質シルト少量、10YR4/2暗褐色シルトブロック(径10~20mm)全分含む
					2	10YR4/3	にじみ・黄褐色	砂質シルト	1層目粗粒、地山砂質シルト微混、10YR4/2暗褐色シルトブロック(径10~20mm)を微量含む
SK3	E	楕円形	165×117	11	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	地山砂質シルト少量、風化物(径2~3mm)微量、他土粒微混含む
					2	2.5Y6/4	にじみ・褐色	砂質シルト	2.5Y4/1 黄褐色シルトブロックを少量含む
SK4	E	不明	(106)×(106)	15	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	黑色土ブロック(径1~10mm)、風化物(径1~2mm)微量含む
					2	2.5Y6/2	灰褐色	砂質シルト	2.5Y6/4(にじみ) 黄褐色土少量含む
SK5	E	楕円形*	118×(97)	9	1	2.5Y3/14	黒褐色	砂質シルト	白色土粒(径1~2mm)少量、風化物(径2~3mm)微量含む
					2	2.5Y6/2	灰褐色	砂質シルト	2.5Y6/4(にじみ) 黄褐色土少量含む
SK6	D	不整格円形	(83)×81	10	1	10YR4/2	灰褐色	砂質シルト	地山砂質シルト微量、10YR4/1暗褐色シルトブロック(径2~4cm)微量含む
					2	10YR4/3	にじみ・黄褐色	砂質シルト	地山砂質シルト少量含む
SK7	-	-	-	-	-	-	-	上部限界地帯	-
SK8	-	-	-	-	-	-	-	下部限界地帯	-
SK9	-	-	-	-	-	-	-	下部限界地帯	-
SK10	D	楕円形	75×55	12	1	10YR4/3	にじみ・黄褐色	砂質シルト	10YR5/6 黄褐色砂質シルト少量含む
					1	2.5Y4/2	暗灰褐色	砂質土	10YR5/6 黄褐色砂質シルト少量含む
SK11	E	円形	110×102	30	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土	風化物(径1~5mm)風化物微量、鉄分少量、10YR6/1暗褐色含む
					2	2.5Y4/2	暗褐色	砂質土	SK32に切られる
SK12A	D	楕円形	95×63	9	1	10YR4/3	にじみ・黄褐色	砂質シルト	10YR5/6 黄褐色砂質シルト少量含む
SK12B	E	楕円形	107×80	14	1	2.5Y4/4	暗褐色	砂質シルト	10YR5/6 黄褐色土微量、風化物(径1~2mm)無微量含む
					2	2.5Y6/4	にじみ・褐色	砂質シルト	10YR5/6 黑褐色土ブロック(径10~30mm)、鉄分多量含む
SK13	E	楕円形	215×136	19	1	10YR2/3	黒褐色	砂質シルト	10YR5/6 黑褐色土微量、風化物微量含む
					2	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	10YR5/6 黑褐色土微量、風化物微量含む
					3	2.5Y6/4	にじみ・褐色	砂質土	10YR5/6 黑褐色土ブロック(径10mm)微量、鉄分微量含む
SK14	E	楕円形	195×150	16	1	2.5Y4/3	暗灰褐色	砂質シルト	10YR5/6 黑褐色土微量、風化物微量含む
SK15	D	調丸方形	94×84	27	1	10YR4/2	灰褐色	砂質シルト	地山砂質シルト少量、10YR3/1暗褐色シルトブロック(径10~20mm)微量含む
					2	10YR4/3	にじみ・黄褐色	砂質シルト	地山砂質シルト少量、10YR3/1暗褐色シルトブロック(径10~20mm)微量含む
					3	10YR4/3	にじみ・黄褐色	砂質シルト	2列周期性、地山砂質シルト微量含む
SK16	D	楕円形	120×(80)	26	1	10YR4/2	灰褐色	砂質シルト	地山砂質シルト微量含む
					2	10YR4/2	灰褐色	砂質シルト	地山砂質シルト微量
SK17	C	不整格円形	340×264	39	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黑褐色土ブロック、鉄分少量含む
					2	10YR5/4	にじみ・黄褐色	シルト	10YR5/6 黑褐色土ブロック、鉄分少量含む
SK17 Pt1	C	円形	70×65	29	1	10YR4/1	褐色	シルト	10YR5/6 黑褐色土ブロック(径2~3mm)微量、風化物(径1~2mm)含む
					2	10YR4/1	褐色	シルト	10YR5/6 黑褐色土ブロック(径100mm)、風化物(径5~15mm)含む
					3	10YR4/2	灰褐色	シルト	10YR5/6 黑褐色土ブロック(径100mm)微量、鉄分微量含む
					4	10YR4/3	にじみ・黄褐色	シルト	10YR5/6 黑褐色土ブロック(径1mm)微量、黃褐色土粒微量含む
					5	10YR5/6	褐色	シルト	地山層、一部ダライ化、白色化したブロック含む(崩れ跡)
SK18	E	不明	(216)×(30)	23	1	10YR3/1	黒褐色	砂質土	10YR5/6 黑褐色土ブロック(径1~2mm)微量、10YR5/6 黑褐色土ブロック(径1~2mm)微量含む
					2	10YR4/2	灰褐色	砂質土	10YR5/6 黑褐色土ブロック(径1~2mm)微量含む
					3	10YR5/2	灰褐色	砂質土	10YR5/6 黑褐色土ブロック(径1~2mm)微量含む
SK19	E	不明	(106)×(32)	10	1	10YR5/3	にじみ・黄褐色	砂質シルト	10YR5/6 黑褐色土ブロック(径1~3mm)微量、鉄分微量、灰白色含む

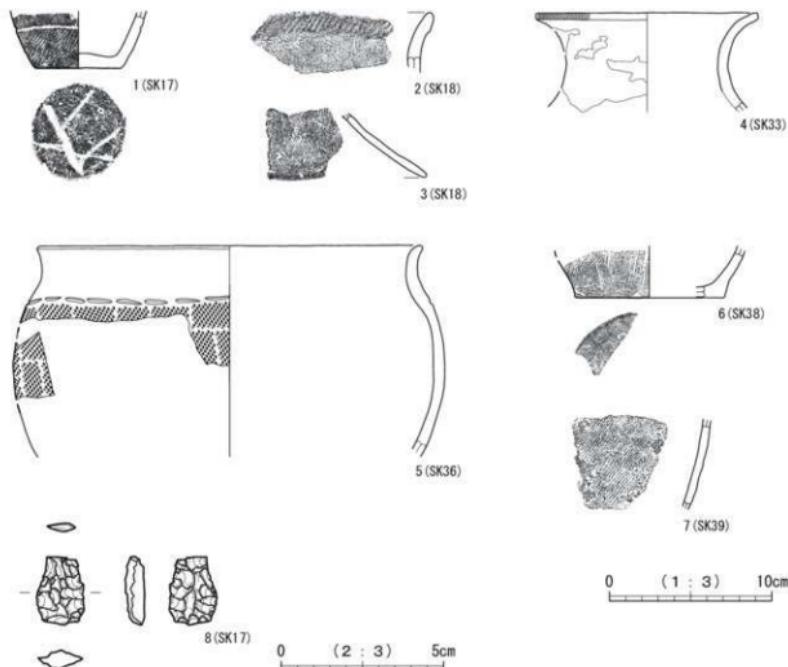
## 土壤解剖表(2)

選択名	抜出手	面積(cm)	深さ(cm)	層状	土色	土性	備考	重複	
SK20	E	不明	(50)×(26)	10	I 10YR4/1	暗灰色	砂質シルト 10YR8/4(4)黄褐色ブロック少量、鉄化物(径1~2mm)少量含む	SK19に切られる	
SK21	E	不整円形	145×152	13	I 10YR4/2	灰・黃褐色	砂質土 鉄化物(径1~3mm)無微量、鉄分微量、10YR4/1暗灰色土粒含む	SK29, P31-69に切られる	
SK22	-	-	-	-	-	-	矢番(SX1に変更)	-	
SK23	-	-	-	-	-	-	矢番(SX21に変更)	-	
SK24	E	圓丸長方形	115×71	27	I 10YR4/2	灰・黃褐色	砂質シルト 10YR8/4(4)暗灰色シルトブロック(径30~20mm)微量、他の砂質シルト微量含む	なし	
				2	10YR4/3	灰・黃褐色	砂質シルト 10YR8/4(4)暗灰色シルトブロック(径30~20mm)微量、他の砂質シルト微量含む	なし	
SK25	E	不明	(130)×(19)	19	I 10YR3/1	黑褐色	砂質土 10YR8/4(4)白色・土粒少量、鉄化物(径1~5mm)微量、鉄分(径2~3mm)微量含む	SK28に切る	
SK26	E	葉丸長方形	180×(97)	15	I 2.5Y5/2	暗灰色	砂質シルト 2.5Y5/2(4)白色土粒少量、鉄化物微量含む	なし	
				2	2.5Y6/2	暗褐色	砂質シルト 2.5Y6/2(4)白色土粒少量、鉄分微量含む	なし	
SK27	E	円形	85×80	13	I 2.5Y5/3	暗褐色	砂質シルト 2.5Y5/3(4)白色土粒少量、鉄分微量含む	なし	
SK28	E	不明	(180)×(93)	19	I 10YR4/2	灰・黃褐色	砂質シルト 10YR7/4(4)5Y5/2(4)黄褐色土粒少量、鉄化物(径2~mm)微量含む	SK14-25に切られる	
SK29	C	椭円形	93×79	10	I 10YR4/2	灰・黃褐色	シルト 鉄化物(径1~2mm)微量、鉄分少量含む	なし	
SK30	-	-	-	-	-	-	平面地・新面同様	-	
SK31	-	-	-	-	-	-	土壠設造地	-	
				1	10YR2/3	黑褐色	砂質シルト 2.5Y5/2(4)白色土粒(径1~20mm)微量、鉄化物(径3mm)微量含む	なし	
SK32	E	不明	(120)×(75)	22	2	10YR3/1	黑褐色	砂質シルト 10YR8/4(4)白色土ブロック(径10mm)微量、鉄化物微量含む	SK11に切られる
				3	10YR3/4	暗褐色	砂質土 10YR8/4(4)白色土ブロック(径10mm)微量、鉄化物微量含む	なし	
				1	10YR3/3	暗褐色	シルト 鉄化物(径5mm)含む	-	
SK33	C	不明	(120)×(87)	29	2	10YR5/2	灰・黃褐色	シルト 黄褐色土ブロック(径1mm)多量、鉄化物(径2~3mm)少量含む、グラナイト	SK23に切られる
				3	10YR4/2	灰・黃褐色	シルト 黄褐色土粒多量、鉄化物(径2~3mm)多量含む	-	
				4	10YR6/2	灰・黃褐色	砂質シルト 黄褐色土ブロック(径2mm)少量、鉄化物(径5~20mm)含む、全体的にグラナイト化	-	
SK34	D	不整圓形	143×95	36	1	10YR4/3	灰・黃褐色	砂質シルト 褐色土・鉄化物(径1~2mm)微量含む	なし
				2	10YR4/4	褐色	砂質シルト 10YR8/3(4)黒褐色シルトブロック微量、鉄化物(径1~2mm)微量含む	なし	
SK35	-	-	-	-	-	-	矢番(SX3に変更)	-	
				1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト 10YR4/4(4)褐色土質シルトブロック微量、10YR4/3(4)5Y5/2(4)黄褐色シルトブロック微量、鉄化物微量含む	-	
SK36	F	椭円形	95×61	27	2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト 10YR4/4(4)褐色土質シルトブロック微量、10YR4/3(4)黄褐色砂質シルトブロック微量含む	なし
				3	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト 10YR4/4(4)褐色土質シルト微量含む	-	
SK37	F	不明	(137)×(53)	12	I 10YR3/4	暗褐色	砂質シルト 10YR4/3(4)5Y5/2(4)黄褐色砂質シルトブロック微量含む	SK38に切る	
SK38	F	円形	114×111	17	I 10YR3/4	暗褐色	砂質シルト 10YR8/4(4)褐色土質シルト微量含む	SK37に切られる	
SK39	E	長楕円形	102×59	35	I 10YR3/3	暗褐色	砂質土 10YR8/1(4)白色土粒少量、鉄化物(径1~2mm)微量含む	SK21を切る	
				2	10YR3/4	暗褐色	砂質土 10YR8/1(4)白色土粒少量、鉄化物(径1~5mm)微量、微士粒(径5mm)無微量、鉄分微量含む	-	
SK40	F	椭円形	57×40	12	I 10YR3/3	暗褐色	砂質シルト 10YR4/3(4)5Y5/2(4)黄褐色砂質シルトブロック微量含む	なし	
				2	10YR4/4	褐色	砂質シルト 10YR5/2(4)5Y5/2(4)黄褐色砂質シルトブロック含む	なし	
				3	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト 10YR5/2(4)5Y5/2(4)黄褐色砂質シルトブロック微量含む	-	
SK41	F	椭円形	100×73	20	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト 10YR4/3(4)5Y5/2(4)黄褐色砂質シルトブロック微量含む	なし
				2	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト 10YR4/3(4)5Y5/2(4)黄褐色砂質シルトブロック微量含む	-	
				3	10YR4/3	二に分・黃褐色	砂質シルト 10YR4/3(4)5Y5/2(4)黄褐色砂質シルトブロック微量含む	-	
				4	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト 10YR4/3(4)5Y5/2(4)黄褐色砂質シルトブロック微量含む	-	
SK42	B	長楕円形	(97)×24	7	-	-	-	断面同様	SK43を切る
SK43	B	長楕円形	87×34	17	-	-	-	断面同様	SK42に切られる



图版 番号	登錄 番号	落成 調査区	出土遺物	種別	器種	部位	外面調整-文様	内面調整-文様	備考	写真 回数	
1	B-012	CJK	SK2	堆積土	陶生土器	甕	頭下端 -体上半	体上半丸足範文橫旋回転 →頭下端:沈面文	横旋土ガ牛(粗)	125	
2	B-013	EJK	SK11	堆積土	陶生土器	深鉢	口縁上半 -体上半	沈面→EJK範文→沈面→土ガ牛 (横旋直範文・菱形文・向物文)	横旋土ガ牛	体部内面灰化物付着	125
3	B-015	DJK	SK12A	堆積土	陶生土器	甕	頭下端 -体上半	体上半丸足範文橫旋回転 →頭下端:沈面文	土ガ牛	125	
4	B-014	EJK	SK12B	堆積土	陶生土器	甕	頭下端 -体上半	体上半丸足範文橫旋回転 →頭下端:沈面文	横旋土ガ牛(粗)	125	
5	B-016	EJK	SK14	堆積土	陶生土器	甕	口縁 -体上半	11:沈面土ガ牛 →11:口縁:体・植物葉回転文複合・斜竪斜軸 -体上半:河底轉變(左→右) →11:頭下端:土ガ牛(粗)	横旋土ガ牛(密)	125	
6	B-019	CJK	SK17	Pgt	陶生土器	甕?	口縁 -頭	11:沈面土ガ牛→頭:横旋土ガ牛(粗) →11:頭:横旋土ガ牛(粗)	11:沈面土ガ牛 →11:頭:横旋土ガ牛(粗)	125	
7	B-020	CJK	SK17	Pgt	陶生土器	甕	体上半	口縁 沈面→11:甕:体・植物葉回転文→11:土ガ牛 (横旋直範文・波状文)	11:土ガ牛 →11:体上半:土ガ牛(密) (横少直範文)	125	
8	B-017	CJK	SK17	Pgt	陶生土器	鉢	体上半	口縁 沈面→11:甕:体・植物葉回転文→11:土ガ牛 (横旋直範文・波状文)	11:土ガ牛 →11:体上半:土ガ牛(密) (横少直範文)	125	

第313図 土坑出土遺物(1)



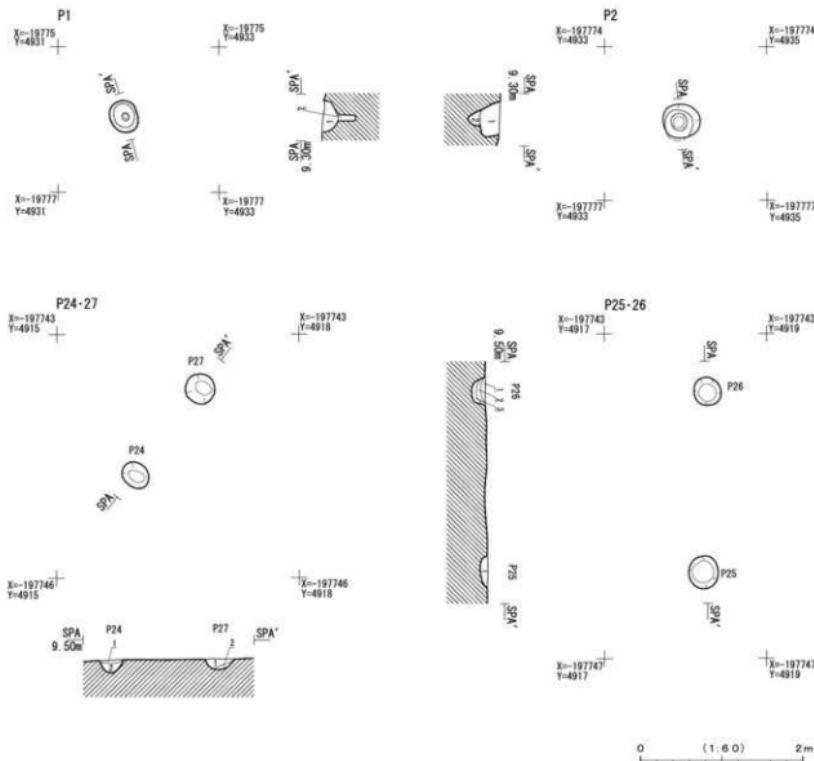
国版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺物	種別	器種	部位	外面調整・文様	内面調整・文様	備 考	写真 番号
1	B-018	C区	SK17	Pt1	陶生土器	器or要 体下半	体下半LR調文模位刻印 →北端→1号牛(横位直範文), 底:本素直	1号牛(直)	底径(5.3) cm	125
2	B-022	E区	SK18	埴生土	陶生土器	要	口縁 →端	口上及内面調文模位刻印→頂:1号牛	子牛→1号牛(直)	125
3	B-021	E区	SK18	埴生土	陶生土器	要	体下半 →端	体下半LR調文模位 模位刻印→11:1号牛 模位文牛(密)	125	
4	B-040	C区	SK33	4型	陶生土器	要	口縁 →端	口1:コナデ→1号 物系調文模位刻印, 底:1号牛	口径(13.8) cm, 底径(9.0) cm 内面調文化付着	125
5	B-041	F区	SK36	埴生土	陶生土器	要	口縁 →1号牛 体上半	口1:コナデ→模位1号牛, 体上半:内面刻印:破面,左→右(?)	口径23.6cm	126
6	B-042	F区	SK38	埴生土	陶生土器	要	体下半 →端	体下半LR調文模位刻印→体下端:1号牛, 底:1号牛	底径(9.0) cm	126
7	B-043	E区	SK39	埴生土	陶生土器	要or直	体 上	上口調文模位刻印	模位1号牛(密) 内面調文化付着	126
8	Ku-003	C区	SK17	埴生土	打制石器	石器	-	(2.0)×1.4×0.6	164 泥灰岩 未成品,厚幅比0.42	126

第314図 土坑出土遺物(2)

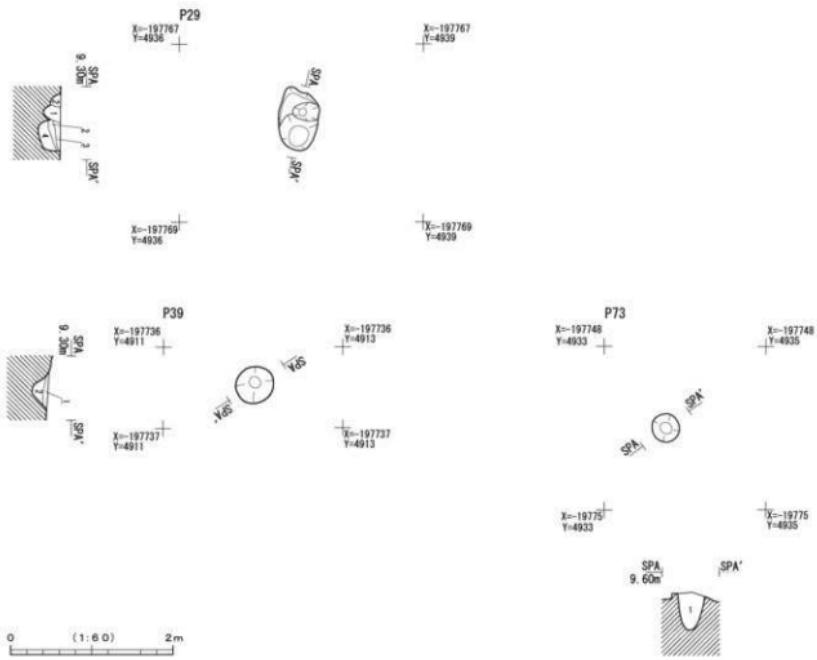
(5) ピット(第290・298・315～317図)

B区から30基、D区から21基、E区から20基、F区から11基、合計82基検出した。検出面はV層上面である。平面形状は大部分が円形ないし梢円形を呈し、規模は上端径20～40cm前後、深さ20～30cm程度を測るものが多い。位置や出土遺物に大きな特徴が認められず、個々の性格についても不明と言わざるを得ないが、中には第314図に掲載したP1・P2のように底面に小穴を伴う柱穴的性格が想定されるものが少なからず存在する。調査時に断面図を作成したものについては個別の図面を掲載し、その他については観察表に纏めて記載した。

出土遺物として、P4-18-63から出土した弥生土器を掲載した(第317図)。1は壺の底部で、焼成後に外側側から穿孔された可能性がある。2は外表面がミガキ調整後に赤彩される。3は横直線文と連弧文が施文される鉢で、文様内にはLR繩文が充填される。いずれも弥生時代中期の輪形開式に比定される。



第315図 ピット(1)



第316図 ピット(2)

ピット調査表(1)

地番名	施設名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土色		土性	参考	備考
						主	次			
P1	B	円形	45×45	40	1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	10YR 6明褐色砂質土少量、10YR/10暗色土ブロック(径 ~10mm)少量含む	なし
					2	7.5YR2/1	黑色	砂質シルト	炭化物微量、10YR/2/2灰褐色粘土含む	
P2	B	楕円形	40×35	45	1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	10YR 1/10暗色土少量、粘分少量含む	なし
P3	B	円形	25×24	10	1	-	黒褐色	砂質シルト	地山プロック少量含む	なし
P4	B	四角形	27×25	36	1	-	褐灰色	砂質シルト	地山プロック少量含む	なし
P5	B	楕円形	30×25	31	1	-	黒褐色	砂質シルト	地山プロック、褐色粘土少量含む	なし
P6	B	楕円形	25×20	16	1	-	褐灰色	砂質シルト	地山プロック含む	なし
P7	B	楕円形	19×16	22	1	-	黒褐色	砂質シルト	地山プロック少量含む	なし
P8	B	円形	20×20	15	1	-	黒褐色	砂質シルト	地山プロック少量含む	なし
P9	B	円形	35×31	18	1	-	黒褐色	砂質シルト	地山プロック、硬土粒少量含む	なし
P10	B	円形	14×12	12	1	-	褐色	砂質シルト	地山プロック少量含む	なし
P11	B	円形	25×24	16	1	-	黒褐色	砂質シルト	地山プロック、炭化物微量含む	なし
P12	B	楕円形	43×34	9	1	-	暗褐色	砂質シルト	地山プロック少量含む	なし
P13	B	楕円形	65×55	14	1	-	暗褐色	砂質シルト	地山プロック少量含む	なし
P14	B	楕円形	42×35	14	1	-	黒褐色	砂質シルト	地山プロック少量、炭化物微量含む	なし
P15	B	楕円形	30×22	23	1	-	黑色	砂質シルト	地山プロック、炭化物微量含む	なし
P16	B	楕円形	38×25	18	1	-	黑色	砂質シルト	地山プロック、炭化物微量含む	なし
P17	B	楕円形	32×26	14	1	-	黑色	砂質シルト	地山プロック含む 褐色軽土、マガダ含む	なし
P18	B	不明	450×23	14	1	-	黒褐色	砂質シルト	地山プロック少量含む	P23との新旧不明
P19	B	楕円形	62×54	23	1	-	黒褐色	砂質シルト	地山プロック少量含む	なし
P20	B	楕円形	37×30	7	1	-	黒褐色	砂質シルト	地山プロック少量含む	SX1を切る
P21	B	楕円形	40×35	5	1	-	黒褐色	砂質シルト	地山プロック少量含む	なし
P22	B	楕円形	35×22	17	1	-	黒褐色	砂質シルト	地山プロック少量含む	なし
P23	B	楕円形	30×(22)	12	1	-	黒褐色	砂質シルト	地山プロック少量含む	P18との新旧不明

ピット調査表(2)

通過点名	検出点名	平面形	幅( cm )	深さ( cm )	層位	土 性	備 考	東 南
P24	D	円形	35×33	18	1 10YR3/3	暗褐色	シルト 地山砂質シルト微混。10YR4-2灰褐色シルト小ブロック(径10~20mm)少量全体に含む	なし
P25	D	円形	45×40	8	2 3.5Y4/2	暗灰褐色	砂質シルト 地山砂質シルト少量含む	なし
P26	D	円形	35×32	18	1 10YR3/3	暗褐色	砂質シルト 地山砂質シルト少量含む	なし
P27	D	円形	38×38	13	2 10YR3/2	暗褐色	砂質シルト 地山砂質シルト少量含む	なし
P28	B	楕円形	30×32	16	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山ブロック微混含む	なし
P29	B	楕円形	20×45	33	1 10YR6/2	灰褐色	砂質シルト 地山砂質シルト少量、10YR4-2灰褐色シルトブロック(径1~3mm)、灰化物少量含む	なし
P30	B	楕円形	34×27	4	2 10YR5/2	灰褐色	砂質シルト 地山砂質シルト少量、10YR4-2灰褐色シルトブロックが層より多量、10YR3-2灰褐色シルト少量含む	なし
P31	E	円形	53×54	20	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山砂質シルト少量含む	SK21を切る
P32	-	-	-	-	-	-	矢番	-
P33	E	楕円形	40×30	15	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山砂質シルト少量含む	なし
P34	E	楕円形	20×17	11	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山砂質シルト少量含む	なし
P35	E	楕円形	76×55	12	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山砂質シルト少量、灰化物微量含む	なし
P36	-	-	-	-	-	-	矢番	-
P37	D	円形	36×35	6	1 10YR4/3	灰褐色	砂質シルト 地山砂質シルト少量含む	なし
P38	D	円形	27×27	8	1 10YR4/3	灰褐色	砂質シルト 地山砂質シルト少量含む	なし
P39	D	楕円形	55×44	14	1 10YR4/2	灰褐色	砂質シルト 地山砂質シルト少量含む	SK2を切る
P40	A	楕円形	56×48	13	1 10YR4/2	灰褐色	砂質シルト 地山砂質シルト少量含む	SK6×P40に切られる
P40B	B	楕円形	50×38	18	2 2.5Y4/2	暗灰褐色	砂質シルト 地山砂質シルト少量含む	SK6×P40Aを切る
P41	D	円形	25×25	10	1 10YR4/2	灰褐色	砂質シルト 地山砂質シルト少量含む	なし
P42	B	楕円形	38×24	9	1 -	黑色	シルト 地山物粗混量多	なし
P43	D	円形	35×31	10	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山プロトク少量含む	なし
P44	D	円形	28×28	4	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山プロトク微混含む	なし
P45	D	楕円形	30×25	10	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山プロトク微混含む	なし
P46	D	円形	24×24	16	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山プロトク微混含む	なし
P47	-	-	-	-	-	-	矢番	-
P48	E	楕円形	55×49	18	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山プロトク、灰化物微量含む	SK12を切る
P49	D	円形?	33×(26)	11	1 10YR4/3	灰褐色	砂質シルト 10YR4-4褐色シルトブロック少量含む	SK16に切られる
P50	B	楕円形	46×32	30	1 -	暗褐色	砂質シルト シルト	なし
P51	B	楕円形	35×25	12	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山物微量含む	なし
P52	E	椭丸方形容	46×32	27	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山物微量含む	なし
P53	E	不明	63×(63)	13	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山物微量含む	なし
P54	E	楕円形	44×32	10	1 -	黑色	砂質シルト 地山物微量含む	なし
P55	D	円形	35×34	18	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山プロトク微混含む	なし
P56	D	楕円形	41×40	21	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山物微量含む	SK6を切る
P57	D	円形	25×25	17	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山プロトク、灰化物微量含む	なし
P58	D	円形	30×28	17	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山プロトク、灰化物微量含む	なし
P59	D	楕円形	44×40	21	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山プロトク少量含む	なし
P60	D	円形	40×40	18	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山プロトク微混含む	なし
P61	E	楕円形	30×25	4	1 -	暗褐色	砂質シルト 地山物微量含む	なし
P62	E	楕円形	30×25	10	1 -	黑色	シルト 地山物微量含む	なし
P63	E	円形	30×29	9	1 10YR3/4	暗褐色	砂質シルト 地山プロトク微混含む	なし
P64	E	円形	26×25	6	1 10YR3/4	暗褐色	砂質シルト 地山物微量含む	なし
P65	E	不整楕円形	45×32	15	1 10YR3/2	暗褐色	砂質シルト 地山プロトク、灰化物微量含む	なし
P66	E	円形	33×30	27	1 10YR5/1	暗褐色	砂質シルト 地山物微量含む	SK5-32に切られる
P67	E	楕円形	25×24	6	1 2.5Y4/3	暗褐色	砂質シルト 地山物微量含む	なし
P68	E	円形	35×33	-	1 10YR3/3	暗褐色	砂質シルト 地山物微量含む	SK21を切る
P69	F	椭丸方形容	39×30	13	1 10YR3/3	暗褐色	砂質シルト 地山物微量含む	なし
P70	F	椭丸方形容	36×35	11	1 10YR3/4	暗褐色	砂質シルト 地山物微量含む	なし
P71	F	椭丸方形容	40×38	10	1 10YR3/4	暗褐色	砂質シルト 地山物微量含む	なし
P72	F	円形	35×35	56	1 10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR3-4暗褐色シルトブロック、10YR4-4褐色シルト含む	なし
P73	F	円形	35×32	12	1 10YR3/4	暗褐色	シルト 地山プロトク微混含む	なし
P74	F	円形	25×18	20	1 10YR3/3	暗褐色	砂質シルト 10YR4-4褐色砂質シルトブロック含む	なし

ピット調査表(3)

遺構名	位置	平面形	範囲(cm)	深さ(cm)	層位	土色	土性	備考	重複
P76	F	楕円形	49×35	17	1	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト 10YR4/4 黄褐色砂質シルトプロト含む	なし
P77	F	楕円形	49×24	23	1	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト 10YR4/4 黄褐色砂質シルトプロト含む	なし
P78	F	楕円形	55×32	8	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト 10YR4/3に5-黄褐色砂質シルトプロト、白色粘土含む	なし
P79	F	楕円形	55×45	18	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト 10YR4/3に5-黄褐色砂質シルトプロト、白色粘土含む	なし
P80	F	楕円形	49×31	12	1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト 10YR4/3に5-黄褐色砂質シルトプロト、白色粘土含む	なし



回収番号	登録番号	発生調査区	出土遺物	種別	器種	部位	外観調整・文様	内面調整・文様	備考	写真回数	
1	B044	EIK	Pit4	堆積土	弥生土器	壺	体下端 底付	体下端、縦文張り模様付軋丸 底付、本素面	ナメ(粗)	底凹丸の可能性有 (焼成後、外-内)	126
2	B045	EIK	Pit18	堆積土	弥生土器	壺or鋤	体下端 底付	体下端、エガキ→体下端～底:赤彩 底付	体下端-エガキ(粗) →体下端～底:赤彩	底付(3.8) cm	126
3	B046	EIK	Pit63	堆積土	弥生土器	鉢	口縁上 体上半	口縁上 体上半	エガキ(粗) (横筋直筋文・通弦文)	エガキ(粗) B006と同一個体の可能性有	126

第317図 ピット出土遺物

#### (6) IV層出土遺物(第318～339図)

本節の冒頭でも触れたように、各弥生調査区内において、弥生時代の遺物包含層であるIV層からは総数4,000点を超える多くの遺物が出土した(遺物出土数一覧表参照)。第318～322図には、F区を除く各弥生調査区における遺物出土状況を水平分布で示した。

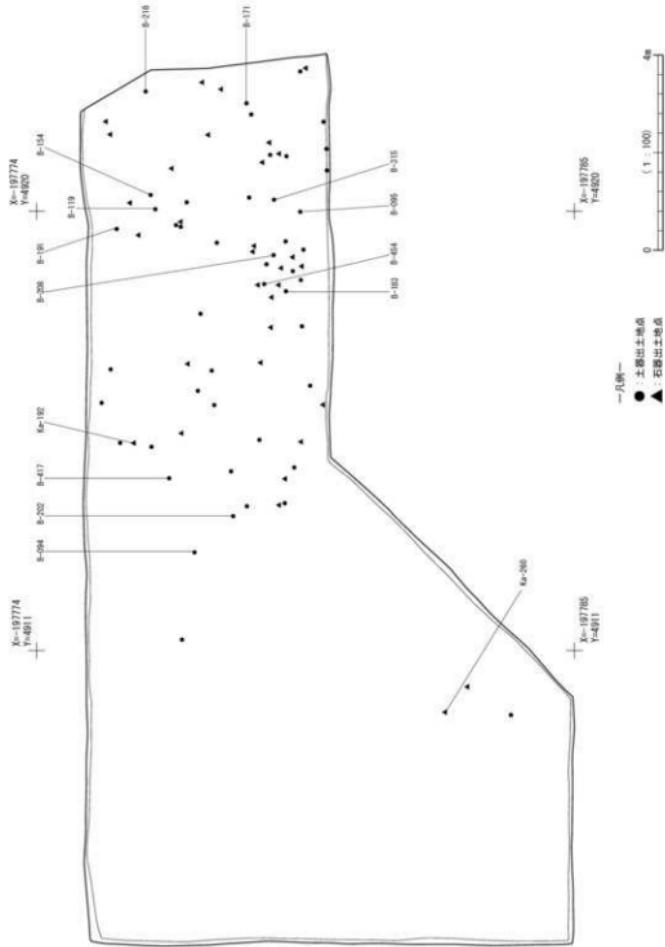
以下、IV層から出土した遺物について記載するが、剥片石器の接合資料については、弥生時代の遺構や古代の遺構から出土したものも含めて相当数存在することから纏めて後述することとし、ここでは土器、土製品、接合資料以外の石器、石製品について記載する。

##### a. 土器・土製品(第323～339図)

弥生A～E区における土器の出土状況(第318～339図)を概観すると、A区東側、B区全域、C区南側、E区中央部から遺物が多く出土している。中でもC区からの出土数量は、他の弥生調査区と比べて圧倒的に多い(遺物出土数一覧表参照)。こうした状況を3B区全体でみると、遺物の分布は東半域に偏る傾向が認められ、遺構の分布とほぼ合致する。出土地を記録した遺物の一部には、B区から検出されたP8・9・12・13、C区から検出されたSX1-2やSK17-31、E区から検出されたSI1、SI12-14の遺構プラン内に集中するものが認められることから、IV層出土として取り上げた土器の中には、遺構に帰属するものが少なからず存在する可能性がある。

土器の接合関係については、D区の中央北側から検出されたSK9土器埋設遺構に埋設された壺(第305図-1)と、SK9周辺と約17m離れたD区南端から出土した土器片が接合した以外に、遠距離間での接合は認められない。

以下、IV層出土遺物として第323～339図に掲載した弥生土器166点について、器種毎の概要を記載するほか、土製品として掲載したミニチュア土器の可能性があるスプーン形土製品?(第339図-167)、樹形開式と考えられる土器片から作出された円盤状土製品?(同図-168)各1点についても、合わせて記載する。

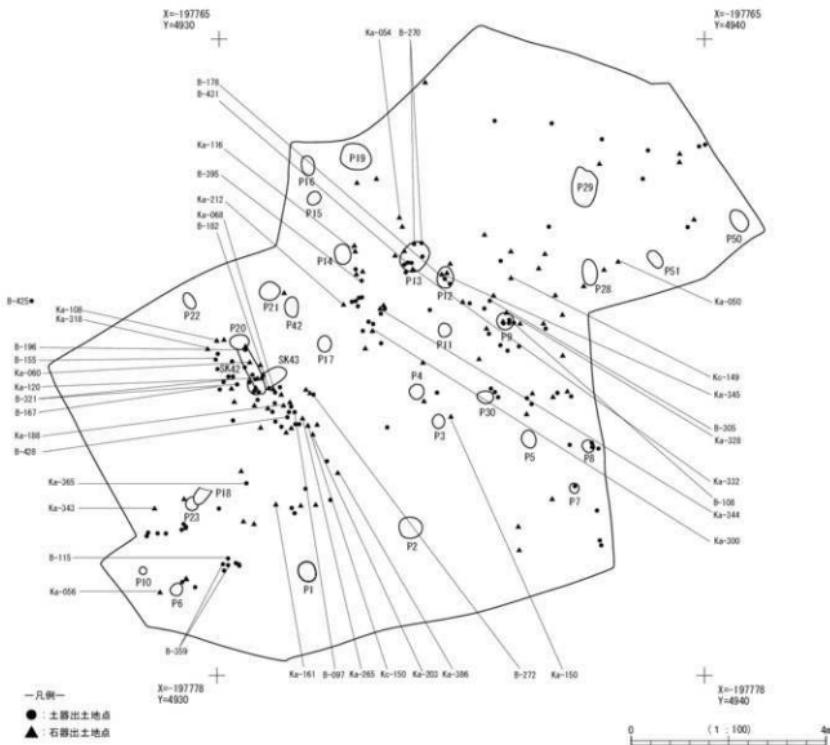


第318図 弥生A区遺物出土状況

1) 弥生土器(第323~339図)

IV層から出土した弥生土器は、いずれも弥生時代中期の樹形圓式に比定される。器種には、壺・高杯・鉢・深鉢・甕・蓋が認められ、壺33点、高杯10点、鉢22点、深鉢8点、甕64点、蓋29点を掲載した（各器種に推定されるものを含む）。高杯は裝飾文様が施文される精製土器、甕は裝飾文様が施文されない粗製土器ばかりで、この二器種を除く各器種には精製と粗製の両者が認められる。

装飾文様は、壺以外の器種には横位直線文と連弧文や連続山形文の組み合わせ、壺には横位直線文と渦文や方形



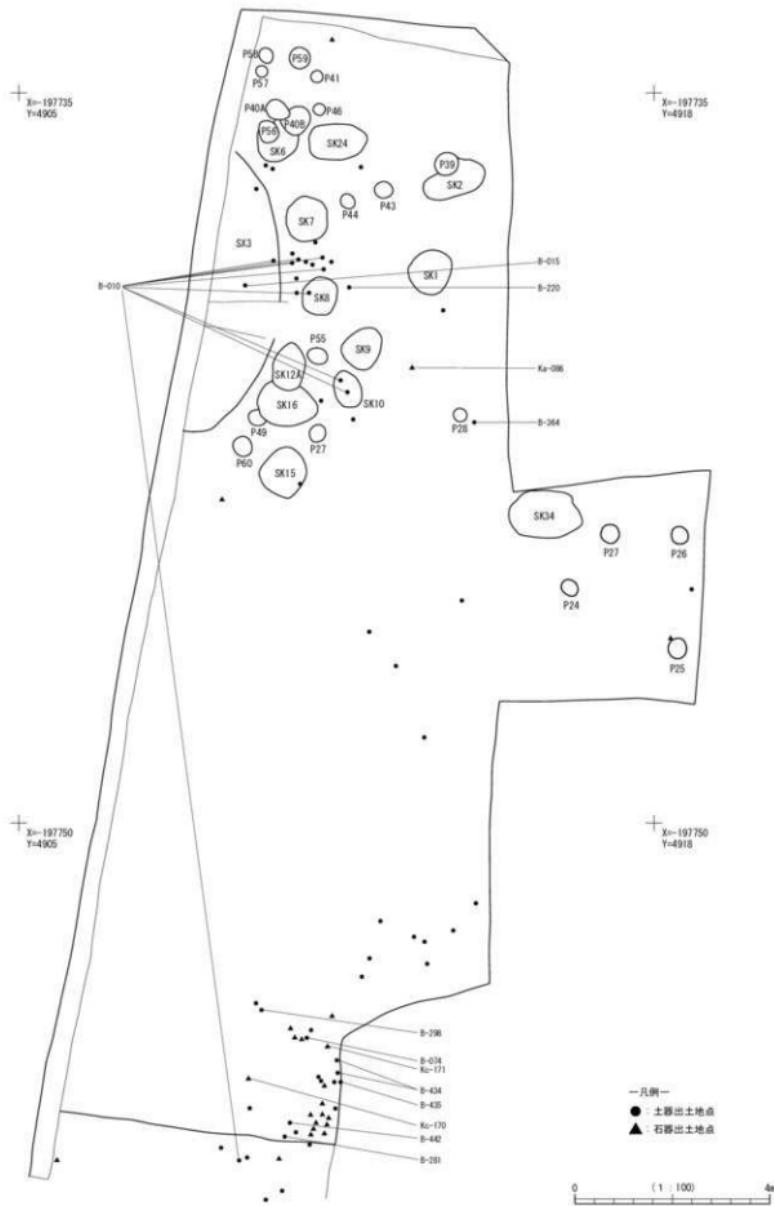
第319図 弥生B区遺物出土状況

文、鑑形文の組み合わせが認められる。横位直線文については、連弧文、連続山形文、渦文、方形文、鑑形文といった各種文様意匠と無文帯もしくは地文部を区画するように施文されるもの、内外面口縁部や体部に1~複数条が施文されるものがある。また、方形文は壺と深鉢に多用される傾向が認められる。このほか、文様内は地文が施文されるものと無文のものほか、赤彩されるものがある。このうち、地文が施文されるものについては、沈線施文後に地文を充填し、再度沈線を施した後にミガキ調整を加える手法（充填繩文手法）によるものが大部分であるが、これとは対照的に、地文上に装飾文様を施文した後、ミガキ調整を加える手法（磨消繩文手法）によるものについても少なからず認められる。装飾されない部分については、地文として繩文原体の回転施文や植物茎回転文が施文されるほか、ミガキ調整やナデ調整されるのみで無文帯となるものが認められる。

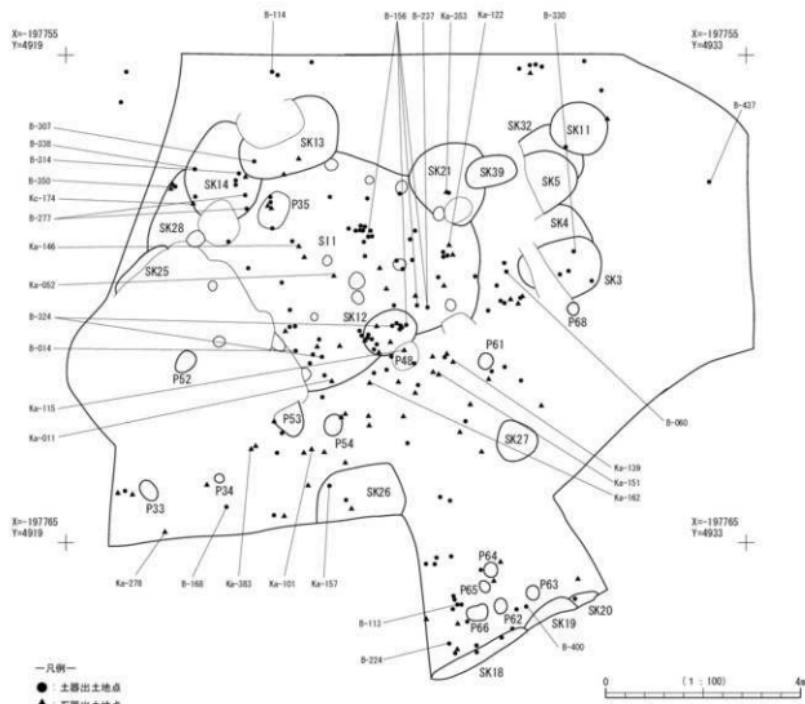
地文や各種文様内の充填に使用される繩文原体は、器種を問わず単節L-Rが圧倒的に多く、一般的な2段の原体の他、0段多条や直前段多条（3条）、附加条、撲り戻しなどのバリエーションが認められる。このほか、少しだが単節R-L、無節Rが回転施文されるものも存在する。また、原体を問わず横位ないし斜位回転により施文されるものが殆どで、条が縱走するものが多い。なお、複数の種類の繩文が施文されるものや、繩文と植物茎回転文の両方が施文されるものは認められない。



第320図 弥生C区遺物出土状況



第321図 弥生D区遺物出土状況



第322図 弥生E区遺物出土状況

表(第323~326回)

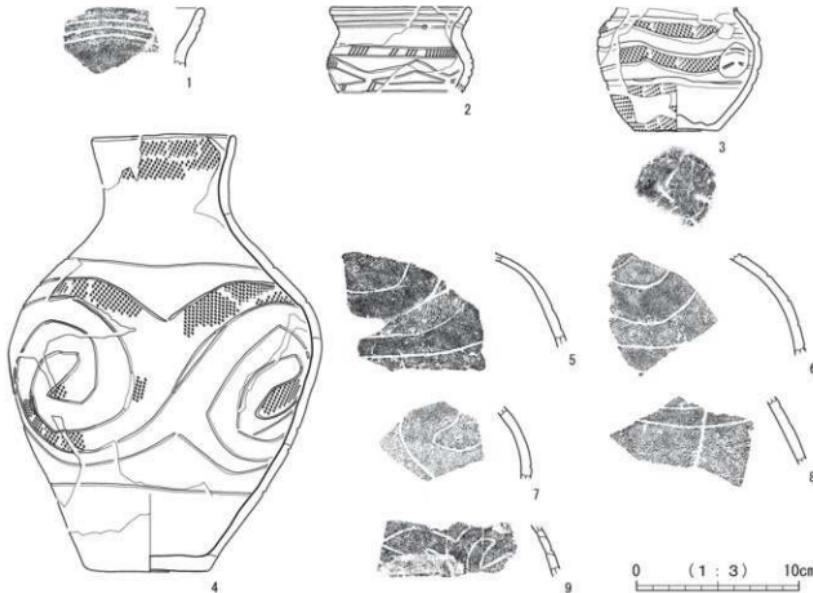
壺（壺と推定される破片資料を含む）は、器高が10cm前後と推定される小型品（第323図-2・3）、30cm前後と推定される中型品（第323図-4、第324図-14～16、第325図-22）、40cm超と推定される大型品（第324図-10、第325図-17～20・23～25、第326図-26・31～33）があり、後二者については装飾文様が施されるものと、無文もしくは地文のみのものに大別される。

器形は、小型品は体部に丸みを帯び、最大径を体部上半にもつ。中型品は最大径を持つ体部上半に丸みを帯びるものと張りを持つものがあり、頸部は短く外反するものと僅かに内傾する長頸のもの（第324図-14～16）を基調とする。大型品は体部上半が丸みを帯び、頸部は直立気味に立ち上がるるものと僅かに内傾するものがある。口縁部は短く外反するものと直線的に外傾するものがあり、口縁部の形態は平縁のものが殆どであるが、頂部に刻みを伴う山形突起を有するものがある（第325図-18）。

装飾文様は、横位直線文に連続山形文、連弧文、渦文、方形文のいずれかが組み合わされて施文されるもの（第323図-2・3・4、第324図-10）のほか、横位直線文と短い弧状の沈線が組み合わされるもの（第324図-14）、鑑形文が施文されるもの（第323図-9）が認められ、それらの多くは文様内にLR繩文や植物茎回転文が充填される。装飾文様の施文部位は、小型品はいずれも口縁部から体部上半、中型および大型品は口縁部と体部全体もしくは上半に施

文され、中には頭部に施文されるもの（第324図-14）、口縁部内面にも横位直施文が施文されるもの（第324図-10）が認められる。

装飾文様が施文されない頭部はミガキ調整だけのものが多く、大型品の中には頭部上端に断面三角形の隆帯が横位に貼り付けされるものがある。器高の大小を問わず、体部下半はLR繩文の回転施文や植物茎回転文が施文されるものと無文のものが認められる。このほか、焼成前に口縁部が外側から穿孔されるもの（第323図-2）や、赤色顔料の付着が認められるものが存在する（第323図-4、324図-11）が、赤彩範囲については判然としない。



回数 番号	登録 番号	発生 調査区	取上 番号	種別	器種	部位	外周調整・文様	内面調整・文様	備考	写真 枚数
1	B-327	CIX	P409	共生土器	壺	口縁～ 腹部	沈縫→「一」形；「才」字 (横位直施文)	ミガキ(密)		126
2	B-418	CIX	-	共生土器	壺	体上半 ～ 底	沈縫→LR繩文→沈縫→「才」字(密) (横位直施文・螺旋山形文)	「一」形；横位「才」字(密)， 体＝ミガキ(粗)	上井厚3.5cm， 上井部穿孔(焼成前、外→内)	126
3	B-115	BIX	P7	共生土器	壺	体上半 ～ 底	沈縫→LR繩文横位回転 (横位直施文・直施文)， 「才」字	ナデ	底径5.2cm	126
4	B-390	BIX	-	共生土器	壺	(口縁 ～ 底)	「才」字(密)；沈縫→直施文； 「才」字(密)→直施文→「才」字 (横位直施文・直施文)	「一」形；「才」字(密)， 体～底＝ミガキ(粗)	上井厚6.6cm、口径7.2cm， 器高27.0cm， 上井部外周赤色顔料付着， 体部内面一次加热による劣化	126
5	B-434	DIX	P10	共生土器	壺	体上半	沈縫→LR繩文→沈縫→「才」字 (直施文)	ナデ	B-434～436-442同一體体	126
6	B-435	DIX	P8	共生土器	壺	体上半	沈縫→LR繩文→沈縫→「才」字 (直施文)	ナデ	B-434～436-442同一體体	126
7	B-436	DIX	-	共生土器	壺	体上半	沈縫→LR繩文→沈縫→「才」字 (直施文)	ナデ	B-434～436-442同一體体	126
8	B-442	DIX	P5	共生土器	壺	体上半	沈縫→LR繩文→沈縫→「才」字 (直施文)	ナデ	B-434～436-442同一體体	126
9	B-441	CIX	P147	共生土器	壺	体上半	沈縫→LR繩文 (直施文)	不明	内外面劣化	126

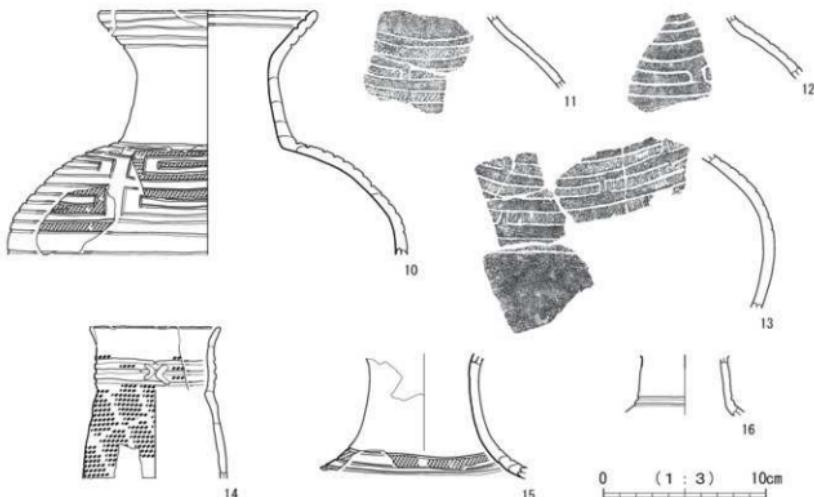
第323図 IV層出土遺物(1)

装飾文様が施されない粗製のものは大型品に多い。口縁部はヨコナデ調整されるものが多く、地文はL R 繩文の回転施文が多用されるほか、植物茎回転文が施文されるものも認められる。例外的なものとして、一個体のみ全体外面に条痕のみが観察される破片資料(第326図-27~29)が認められる。

### 高坏(第327圖)

高坏（高坏と推定される破片資料を含む）は、全て装飾文様が施される精製の破片資料である。器形は、坏部が直線的ないし内湾気味に外傾するものを基調とし、口縁部形態は平縁が大部分であるが、山形突起を有するものもある（第327図-1）。脚部は中空の円錐台形を呈し、据部から直線的に立ち上がるものと据部が僅かに外反するものがある。

装飾文様は、坏部・脚部とも横位直線文と連弧文の組み合わせを主体とし、他には横位直線文と連続山形文や円形文の組み合わせ、脚部には横位直線文のみ施されるものが認められる（同図-43）。文様内はLR繩文や植物茎



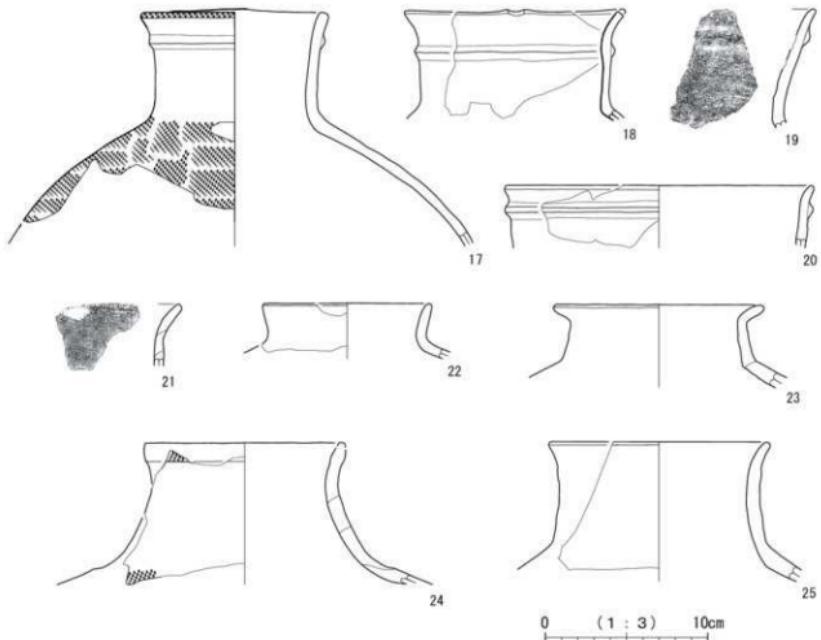
国版 番号	登録 番号	協生 調査会員	取上 番号	種別	器種	部位	外画調整・文様	内面調整・文様	備考	写真 国版
10	B-425	B区	P40	弥生土器	盃	口縁	1:1.北隅→1-1-1-1-1牛身。 後方→1-1-1-1-1牛身。 左側→1-1-1-1-1牛身。 (横位直文) (方形容)	1:1.北隅→1-1-1-1-1牛身。 後方→1-1-1-1-1牛身。 (横位直文)	口縁(13.4)cm、 外画面基上手 2次加厚による火ハメ	127
11	B-433	C区	-	弥生土器	盃	体上半	沈鏡→1-1-1-1-1牛身。 (横位直文) (方形容)	横位1-1-1-1牛身	外画面赤褐色付着	127
12	B-448	C区	P261	弥生土器	盃	体上半	沈鏡→1-1-1-1-1牛身。 (横位直文) (方形容)	未調整		127
13	B-447	C区	-	弥生土器	盃	体上半	沈鏡→1-1-1-1-1牛身。 (横位直文) (方形容)	横位1-1-1-1牛身		127
14	B-416	C区	P147	弥生土器	盃	口縁	1:1.牛身→1-1-1-1-1牛身。 前上部斜面付帯斜→沈鏡(横位→弧) (横位直文)	牛身	長径部口上(8.0)cm、 外画面赤褐色付着、 内面輪郭線が不明瞭	127
15	B-436	C区	P340	弥生土器	盃	第一 体上半	横位→1-1-1-1-1牛身→1-1-1-1-1牛身。 (横位直文)	1-1-1-1-1牛身(粗)、 体-無調整	是鉢形、 体部内面輪郭線が不明瞭	127
16	B-427	B区	-	弥生土器	盃	体上半	横位→1-1-1-1-1牛身→1-1-1-1-1牛身。 (横位直文)	牛身	鉢形	127

第324図 IV層出土遺物(2)

回転文により充填されるものが多く、充填後に文様内が赤彩されるものも認められる（同図-43）。装飾文様が施される部位は、環部は口縁部から全体部に施文されるものが多く、中には内面口縁部にも施文されるものがある（同図-37）。脚部については下半に限定的に施文され、上半はミガキ調整されるのみとなる。

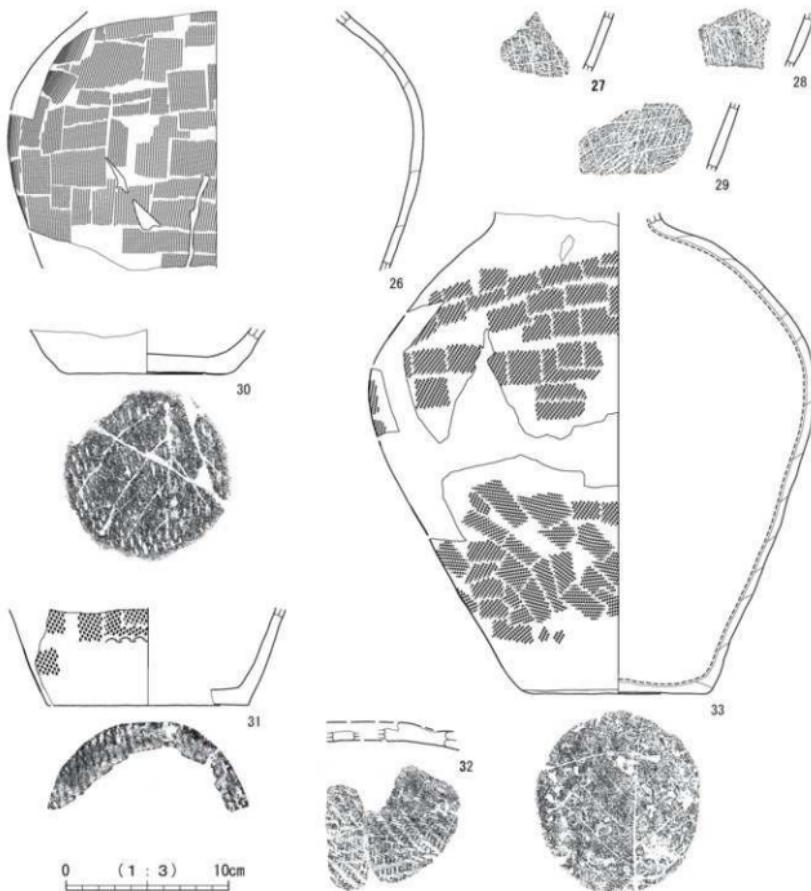
#### 鉢（鉢と推定される破片資料を含む）

鉢（鉢と推定される破片資料を含む）は、口径に対し器高が2/3程度になるという点で、後述する深鉢と区別さ



回数 番号	母地 番号	調査区	段上 番号	種類	器種	部位	外周溝型・文様	内面溝型・文様	備考	写真 番号
17 B-406	CIX	P294	佛生土器	壺	口縁～ 全体上半	面上端、横紋帶帯付→口～壺、斜位側板、 →口～壺、横位側板、斜位口縁	11～壺、ミガキ(粗)、 体ナメ	11BF 10.5cm、 降奇面形三角	127	
18 B-392	CIX	P9	佛生土器	壺	口縫～ 全体上半	面上端、横紋帶帯付 →口～壺、横位側板、斜位口縁	11～口ナメ →1～壺、ミガキ(粗)、 体不明	11BF (12.2) cm、 11BF 斜山形側板、 降奇面形一角	127	
19 B-389	CIX	-	佛生土器	壺	口縫～ 一頭	面上端、横紋帶帯付 →1～口ナメ～口縫、 →1～口ナメ～口縫	11～コナメ →1～壺、ミガキ(粗)	降奇面形一角	127	
20 B-398	CIX	P296	佛生土器	壺	口縫～ 一頭	面上端、横紋帶帯付 →1～口ナメ～口縫、 1～口、輪文類体側輪	11ガリ(粗)	11BF (18.8) cm、 降奇面形三角	127	
21 B-415	CIX	-	佛生土器	壺	口縫～ 一頭	1～口、植物葉回転文模様側板、 →1～口(手前輪文)	横位(ガリ(密))		127	
22 B-395	BIX	P45	佛生土器	壺	口縫～ 一頭	横位(ガリ(密))	横位(ガリ)	11BF (10.2) cm	127	
23 B-401	CIX	P150	佛生土器	壺	口縫～ 全体上半	1～口、横位(手前輪文)、 →口～壺、口縫	1～～壺、ミガキ(粗)、 体、無調整	11BF (12.6) cm	127	
24 B-399	BIX	-	佛生土器	壺	口縫～ 全体上半	1～～口、半ナメ →口、口縫、手前輪文模様側板、 →1～口、横位(口縫)	11ナメ →1～～壺、ミガキ(粗)、 体、不明	11BF (12.3) cm、 体部内面劣化	127	
25 B-400	EIK	P93	佛生土器	壺	口縫～ 全体上半	11ナメ、面～1～口	11～壺、横位(ガリ)、 体、(ガリ(粗))	11BF (13.4) cm	127	

第325図 IV層出土遺物(3)



回版 番号	登録 番号	発生 調査区	取上 場所	種別	器種	部位	外面調査-文様	内面調査-文様	備 考	写真 回版
26	B-452	CHK	P206	発生土器	甌	体	植物茎葉形文様(斜面転)	横段(ガラ) (書)	外面要化物付着	128
27	B-348	CHK	-	発生土器	甌 or 館	体下半	毛刷(織紋)・斜位	横段(ガラ)	B-347 - 349 同一體体	128
28	B-349	CHK	P208	発生土器	甌 or 館	体下半	毛刷(織紋)・斜位	横段(ガラ)	B-347 - 349 同一體体	128
29	B-347	CHK	P24	発生土器	甌 or 館	体下半	毛刷(織紋)・斜位	横段(ガラ)	B-347 - 349 同一體体	128
30	B-371	CHK	P22	発生土器	甌?	体下半	縦(?)・横(?)・斜(?)・毛刷(織紋)・斜位	ナデ	底径 9.6cm. 体部下端外側一次加熱痕	128
31	B-359	CHK	P8	発生土器	甌?	体下端	ハメノ一体下平土器縁文様(斜面転)	体・セガラ(粗)	底径(12.4) cm. 底部穿孔(他成段・外→内?)	128
32	B-382	CHK	P346	発生土器	甌?	底	網代網	無調査	底部穿孔(他成段)の可能性有	128
33	B-454	CHK	P21	発生土器	甌	底下端 底	縦(?)・横(?)・L型織文様区・横段・斜段斜板 底・本面振	ガラ	底径 10.9cm. 内外表面都剥離	128

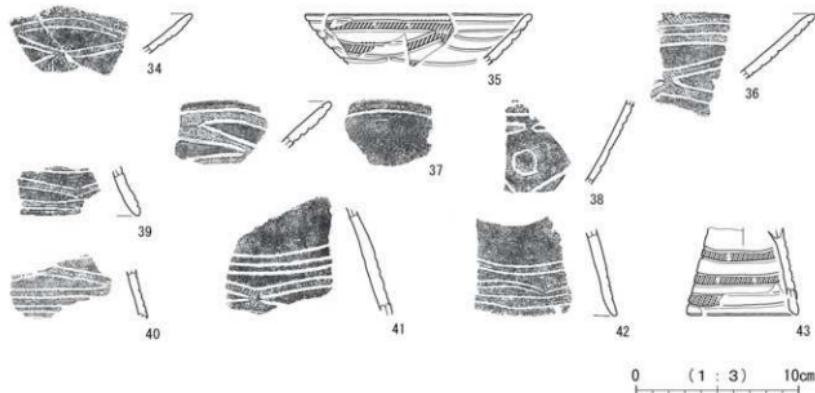
第326図 IV層出土遺物(4)

れる。器高5cm程度の小型品(第328図-44・46・47)と、10cm程度ないしそれ以上と推定される中型品(同図-45・49～60、第329図-61～65)に大別される。前者はいずれも精製のみで、後者は精製と粗製の二種が認められる。

器形は、小型品が内湾する体部から先細る口縁部へと立ち上がるカップ状を呈し、中型品と推定されるものは、体部が小型品と同様に内湾し、口縁部と体部の境界が括れるもの(第328図-55)や、屈曲するもの(同図-48)が認められる。口縁部形態は平縁が殆どであるが、山形突起を有するものもある(同図-49)。

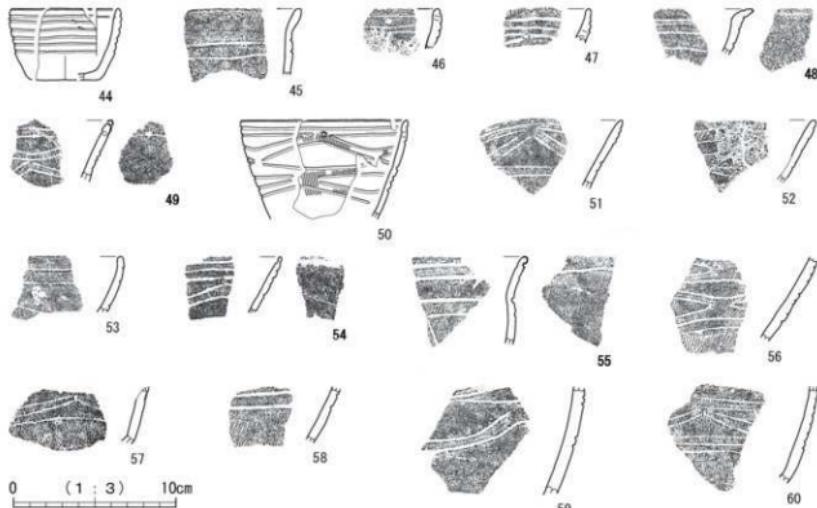
装飾文様は、小型品は口縁部から体部上半に横直線文が多条に施され、体部下半は無文でミガキ調整されるのみである。中型品は口縁部から体部上半にかけて横直線文と連弧文もしくは連続山形文の組み合わせが施されるほか、内面口縁部に横直線文が施されるものがある(第328図-44・48・49・54・55)。文様内は内外面共にLR繩文もしくは植物茎回転文で充填されるものが多く、これに縦位の短い沈線が加わるもの(同図-57・60)や、文様内が赤彩されるもの(同図-52)が認められる。また、焼成前に口縁部が外側から穿孔されるものも少なくない(第328図-46・47・49・50)。

体部下半には地文としてLR繩文の回転施文や植物茎回転文が施され、第328図-58や第329図-62のように地文部が赤彩されるものがあり、後者は縦位帶状に赤彩される。装飾されない粗製のものは、同一個体と考えられる1点のみである(第329図-64・65)。器高は10～15cm程の中型品と推定され、内外面とも丁寧にミガキ調整される。



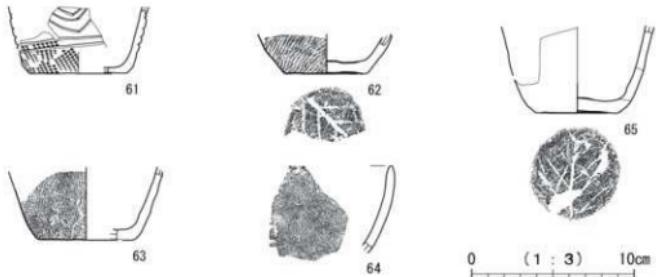
図版番号	登録番号	発生地番号	取上面番号	種別	器種	部位	外周調整・文様	内面調整・文様	備考	写真回数
34	B-085	C区	P96	弥生土器	高环 or 壺	口縁～ 体上半	沈線→L字開文→沈線→ミガキ (横位直縫文・連弧文)	ミガキ	口縁部山形突起	128
35	B-186	C区	-	弥生土器	高环 or 壺	口縁～ 体上半	L字開文→L字開文→ミガキ (横位直縫文・連弧文)	横位ミガキ(粗)	口径(14.0)cm	128
36	B-184	A区	-	弥生土器	高环 or 壺	口縁～ 体上半	沈線→植物茎回転文→沈線→ミガキ (横位直縫文・連続山形文)	ミガキ(密)		128
37	B-183	A区	P24	弥生土器	高环 or 壺	口縁～ 体上半	沈線→L字開文→沈線→ミガキ (横位直縫文・連続山形文)	口沈線、 口～体上半:ミガキ(密) (横位直縫文)		128
38	B-114	E区	P128	弥生土器	高环	体	沈線→植物茎回転文→ミガキ(密) (横位直縫文)	ミガキ(密)	内外面面化	128
39	B-079	A区	-	弥生土器	高环	脚	沈線→ミガキ(横位直縫文・連弧文)	ミガキ		128
40	B-113	E区	P110	弥生土器	高环	脚	沈線→植物茎回転文→ミガキ (横位直縫文・連弧文)	ミガキ		128
41	B-052	C区	P294	弥生土器	高环	脚	沈線→L字開文→沈線→ミガキ (横位直縫文・連弧文)	ミガキ		128
42	B-073	A区	-	弥生土器	高环	脚	沈線→ミガキ(横位直縫文・連弧文)	ミガキ		128
43	B-054	C区	P98	弥生土器	高环 台付壺	脚	沈線→L字開文→沈線 (横位直縫文)	横位ミガキ(密)	脚部径(6.8)cm	128

第327図 IV層出土遺物(5)



図版番号	登録番号	性生	調査区	取上	種別	器種	部位	外因調整・支撑	内因調整・支撑	備考	写真回数
44	B-099	BR	-	佛生土器	鉢	口縁	II-体上半:沈縫 体上半:沈縫→二段牛 (被位直縫文)	II:沈縫 →二段牛:二段牛 (被位直縫文)	II:沈縫(4.0 cm), 底径(4.2) cm, 器底突出 足部内外面劣化	129	
45	B-060	ER	P114	佛生土器	鉢	口縁	II-体上半:沈縫 体上半:沈縫→二段牛 (被位直縫文)	不明	内外面劣化	129	
46	B-098	CR	-	佛生土器	鉢	口縁	II-体上半:沈縫 体上半:沈縫→二段牛 (被位直縫文)	二段牛	II:縁部穿孔(既成前, 外→内)	129	
47	B-097	BR	P21	佛生土器	鉢	口縁	II-体上半:沈縫→二段牛 (被位直縫文, 遷弧文?)	二段牛	II:縁部穿孔(既成前, 内→外), 内外面劣化	129	
48	B-058	AR	-	佛生土器	鉢	口縁	II-沈縫→II-体上半:二段牛 (被位直縫文)	II:沈縫(4.0 cm), 体上半:二段牛 (被位直縫文)	II:沈縫(4.0 cm), 底径(4.2) cm, 器底突出 足部内外面劣化	129	
49	B-078	CR	-	佛生土器	鉢	口縁	II-沈縫→被位直縫文→二段牛 体上半:二段牛 (被位直縫文, 遷弧文)	II:沈縫, 二段牛 (被位直縫文)	II:縁部山形起起, II:縁部穿孔(既成前, 内→外)	129	
50	B-064	AR	-	佛生土器	鉢	口縁	II-沈縫→被位直縫文→沈縫→二段牛(密) 体上半:二段牛 (被位直縫文, 遷弧文)	二段牛(密)	II:II(10.0) cm, II:縁部穿孔(既成前, 外→内)	129	
51	B-196	BR	P29	佛生土器	鉢	口縁	II-沈縫→被位直縫文→沈縫→二段牛 体上半:二段牛 (被位直縫文, 遷弧文)	二段牛	II:縁部穿孔(既成前, 外→内)	129	
52	B-076	CR	P156	佛生土器	鉢 or 直坏	口縁	II-口縁→II-体: 沈縫→II-縫縫 II-縫縫→二段牛 (被位直縫文, 遷弧文)	二段牛(密)	内外面劣化	129	
53	B-068	ER	-	佛生土器	鉢	口縁	II-口縁→II-体: 沈縫 II-沈縫→二段牛 (被位直縫文, 遷弧文)	II:ヨコナラ →II-体上半:二段牛 (被位直縫文)	B-046と同一個体の可能性有	129	
54	B-074	DR	P14	佛生土器	鉢	口縁	II-沈縫→II-縫縫→二段牛 体上半:二段牛 (被位直縫文, 遷弧山形文)	II:沈縫 →II-体上半:二段牛 (被位直縫文)	II:II(10.0) cm, II:縁部山形起起 II:縫縫(4.0 cm), II:縫縫→二段牛 (被位直縫文)	129	
55	B-417	AR	P10	佛生土器	鉢	口縁	II-沈縫→II-縫縫→二段牛 (被位直縫文, 遷弧山形文?)	II:II(10.0) cm, II:縫縫(4.0 cm), II:縫縫→二段牛 (被位直縫文)	II:II(10.0) cm, II:縫縫(4.0 cm), II:縫縫→二段牛 (被位直縫文)	129	
56	B-108	BR	P110	佛生土器	鉢	体	体上半:沈縫→II-縫縫 体上半:II-縫縫→二段牛 (被位直縫文, 遷弧文)	二段牛	II:II(10.0) cm, II:縫縫(4.0 cm), II:縫縫→二段牛 (被位直縫文)	129	
57	B-204	CR	P368	佛生土器	鉢 or 直	体	体上半:沈縫→被物等削除文→縫縫 (被位直縫文, 遷弧文), 体上半:被物等削除文被物等削除 (被位直縫文, 遷弧文)	縫縫(2.0 cm)	内面火ハネ痕	129	
58	B-111	CR	-	佛生土器	鉢	体	体上半:沈縫→被物等削除文 (被位直縫文, 遷弧文)	二段牛	II:II(10.0) cm, II:縫縫(4.0 cm), II:縫縫→二段牛 (被位直縫文)	129	
59	B-346	CR	P160	佛生土器	鉢	体	体上半:沈縫→被物等削除文 (被位直縫文, 遷弧山形文), 体上半:被物等削除文被物等削除 (被位直縫文, 遷弧山形文)	縫縫(2.0 cm)	II:II(10.0) cm, II:縫縫(4.0 cm), II:縫縫→二段牛 (被位直縫文)	129	
60	B-112	CR	P389	佛生土器	鉢	体	体上半:沈縫→被物等削除文 (被位直縫文, 遷弧文), 体上半:被物等削除文被物等削除 (被位直縫文, 遷弧山形文)	二段牛	II:II(10.0) cm, II:縫縫(4.0 cm), II:縫縫→二段牛 (被位直縫文)	129	

第328図 IV層出土遺物(6)



回復番号	登録番号	地名	出土場所番号	種別	器種	部位	外周調整・文様	内面調整・文様	備考	写真図版
61	B-116	C区	P47	陶生土器	鉢	体下平 一底	体-沈縁→体下平(口縁文横位回転)→ミガキ (横位直線文+横弧文)、 底-ナット	ミガキ(密)	底径16.01 cm	129
62	B-126	C区	P189	陶生土器	鉢	体下平 一底	体-平、 横位直線文(横位直線文)、 底-木葉文	横位ミガキ(密)	底径14.41 cm	129
63	B-132	C区	P80	陶生土器	鉢?	体下平 一底	体-沈縁(横位直線文)、 植物茎回転文(横位回転)、 底-木葉文	横位ミガキ(密)	底径15.81 cm、 底部内面調整	129
64	B-107	C区	P40	陶生土器	鉢	口縁一 体下平	ミガキ(密)	ミガキ(密)	B-138と同一個体	129
65	B-138	C区	P293	陶生土器	鉢	体下平 一底	体-縦位ミガキ(密)、 底-木葉文	体-縦位ミガキ(密)、 底-横位ナット→ミガキ(密)	底径5.0 cm、 B-107と同一個体	129

第329図 IV層出土遺物(7)

#### 深鉢(第330・331図)

深鉢(深鉢と推定される体部下半資料を含む)は、器高20cm前後もしくはそれ未満の中型品(第330図-66~71・73、第331図-76~78・79)と、器高35cm前後もしくはそれ以上と推定される大型品(第330図-72、第331図-74~75・77)に大別され、大型品は、口縁部に装飾文様が施文されるものと無文のものに細別される。口径に対し、器高が1ないしそれ以上になるという点で、前述した鉢とは区別される。また、大型品は口縁部が外反しない点で後述する甕と区別される。器形は、最大径を口縁部にもつものと体部上端にもつものがある。体部は底部から寸胴気味に立ち上がるるものと底部から大きく聞くものに大別される。前者は中型品に限定され、後者は大型品に特徴的である。口縁部と体部の境界には括れをもち、口縁部は内湾するものが大部分であるが、括れを持たないものや、口縁部が直線的に外傾するものも認められる。口縁部形態は中型品が平縁のみであるが、大型品には波状口縁(第331図-75、推定12单位)も認められる。

装飾文様は口縁部と体部上半に施文され、括れを持つ口縁部と体部の境界は、ミガキ調整のみで無文となるものが多い。口縁部の文様意匠は横位直線文と方形文の組み合わせを基調とし、この他に、口縁部に横位直線文が多条に施文されるもの(第330図-68~70・72~73、第331図-76)や、横位直線文と連続山形文の組み合わせが施文されるもの(第330図-71)、また、内面にも横位直線文が施文されるもの(第330図-72、第331図-74)がある。体部の文様意匠は口縁部と同様、横位直線文と方形文の組み合わせを基調とし、横位直線文と連弧文の組み合せが施文されるもの(第330図-70)や、大型品の中には、体部上端に数条の横位直線文が施文されるもの(第331図-74~75・77)、1点のみ列点刺突文が施されるもの(第331図-77)が認められる。口縁部・体部共に文様内は無文となるものが大部分だが、文様内がL R 縄文で充填されるものが少数存在する(第330図-70、第331図-74)。方形文は、口縁部・体部共に1段5~7単位で、横位に半單位ずらすように複数段施文され、1単位が縦位・横位共に2条の沈線で構成されるものと、縦位2条に対し横位3~4条の沈線で構成されるものと認められるほか、体部においては、隣り合う方形文の間に縦位の短い沈線が施文されるものがある(第330図-66~69)。装飾文様が施文されない体部下半にはL R 縄文の回転施文や植物茎回転文が施文され、一部は口唇部にも施文される。

### 甕(第332～337図)

甕(甕と推定される底部破片を含む)は、破片資料が多いものの、大部分が器高20cm前後の中型品と推定され、このほか、器高30～35cm程の大型品と推定されるものが少数存在する(第331図-80、第334図-110、第335図-111-113～115、第337図-132-137)。器高を問わず、外面には二次加熱痕が認められるものが多い。器形は、最大径を口縁部にもつものと体部上端にもつものに大別される。体部は底部から下半までが直線的に外傾して立ち上がり、上半が丸みを帯びるものを基調とする。体部上端から口縁部の境界は括れをもつものとほぼ直線的なものがあり、前者においては直角に近い角度で強く屈曲するものと鈍角に屈曲するものがある。口縁部は平縁で短く外反し、口唇部は上方ないし斜め上方を向くものと、ほぼ真横を向くものがある。装飾文様が施文されるものは無く、口縁部は明瞭なヨコナデ調整。体部は地文として绳文原体の回転施文や植物茎回転文が施文される。地文は口唇部に施文されるものも少なくない。また、体部には地文を施文する前のハケメ調整が観察されるものや、绳文原体を結縛した痕跡が観察されるものが認められる。体部上端には列点刺突文が施されるものが殆どで、施文方向には左右の別が認められるほか、押し引きが施されるものが少くない。このほか、体部上端に沈線が施文されるもの(第337図-128)や、無文のもの(同図-129～135)がある。内面には丁寧なミガキ調整が施されるものが大部分である。

### 蓋(第338・339図)

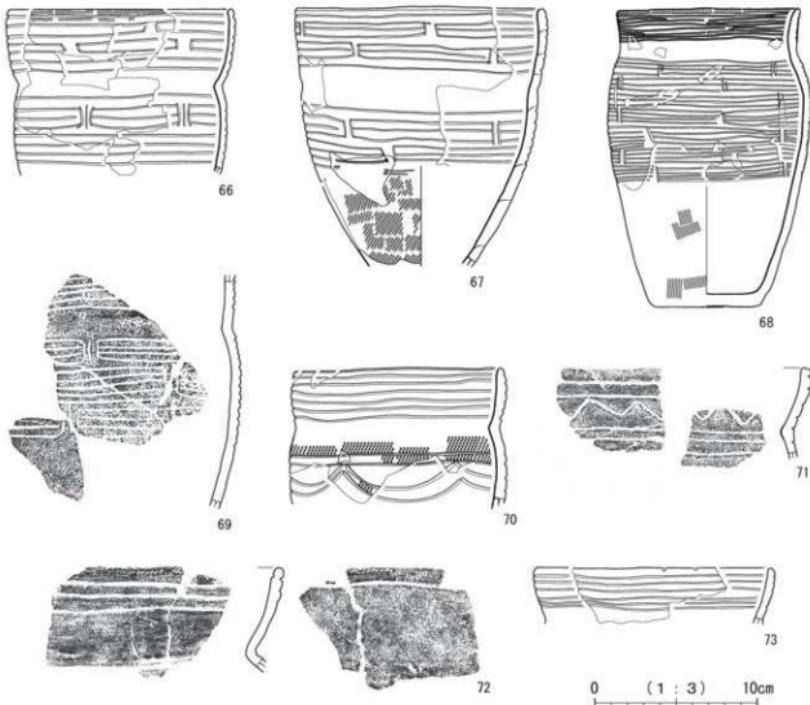
蓋(蓋と推定されるものを含む)は破片資料が多いが、口径15cm前後もしくはそれ未満、器高10cm未満と推定される小型品(第338図-138-149-150)と、口径20cm前後、器高10cm前後もしくはそれ以上と推定される中型品(第338図-139-151-152、第339図-158-166)に大別され、それぞれに装飾文様が施文される精製と、装飾文様が施文されない粗製が存在する。また、精製・粗製に関わらず、使用に伴うものと考えられる口縁部の黒色化や口唇部の劣化が認められるものが多い。

器形は、円錐台形を基調とする。体部上半は体部下半に向かって外反するものと直線的なものがあり、体部下半から口縁部にかけては直線的に開くもの、外反するもの、内済するものに三大別される。口縁部はすべて平縁である。天井部には、つまみ部が付くものと付かないものがある。つまみ部は天井部から直線的に外傾する高さ数cmの低いリング状を基調とする。つまみ部が無いものは、天端部に僅かな高まりをもつもの(第338図-139)や、側縁部が外側に向かって僅かに張り出すもの(第339図-162-163)がある。

装飾文様は、外面は体部下半から口縁部に限定的に施文される。文様意匠は横位直線文と連弧文もしくは連続山形文の組み合わせを主体とし、この他に、口縁部に横位直線文が多条に施文されるもの(第338図-138-144-145)が認められる。前者は文様内にL R繩文や植物茎回転文が充填されるのに対し、後者にはそれが認められない。連弧文や連続山形文には横位に半單位ずらして2段にわたって施文されるものがあり、隣り合う単位の境界に縦位の短い沈線が施文されるものがある(第338図-140)。また、口縁部内面に横位直線文が施文されるものが少数存在し、L R繩文が充填されるものと、されないものに分かれ。装飾文様が施文されない部分には、绳文原体の回転施文や植物茎回転文の地文が施文されるものが大部分であるが、ナデ調整やミガキ調整のみが施される無文のものも多い(第338図-151-152、第339図-154-156-163-164-166)。

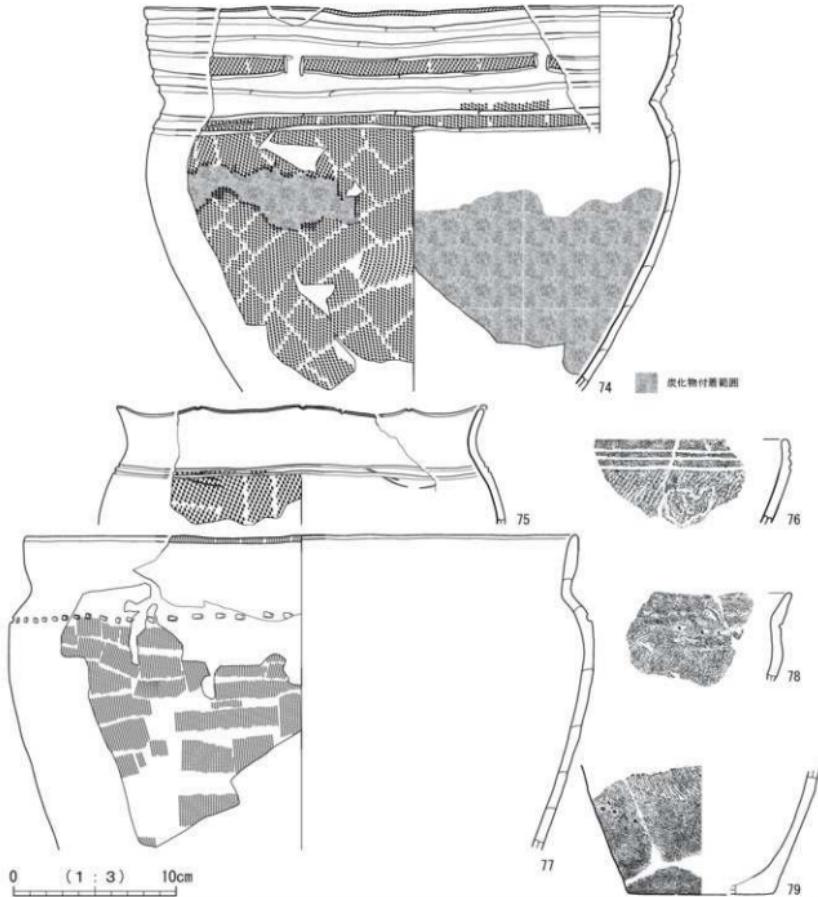
### 2)土製品(第339図)

スプーン形土製品?(第339図-167)は破片資料で、丸底のミニチュア土器の可能性も考えられる。内外面ともナデ調整される。円盤状土製品?(同図-168)は六角形を呈する土器片で、外面にはL R繩文が回転施文される。



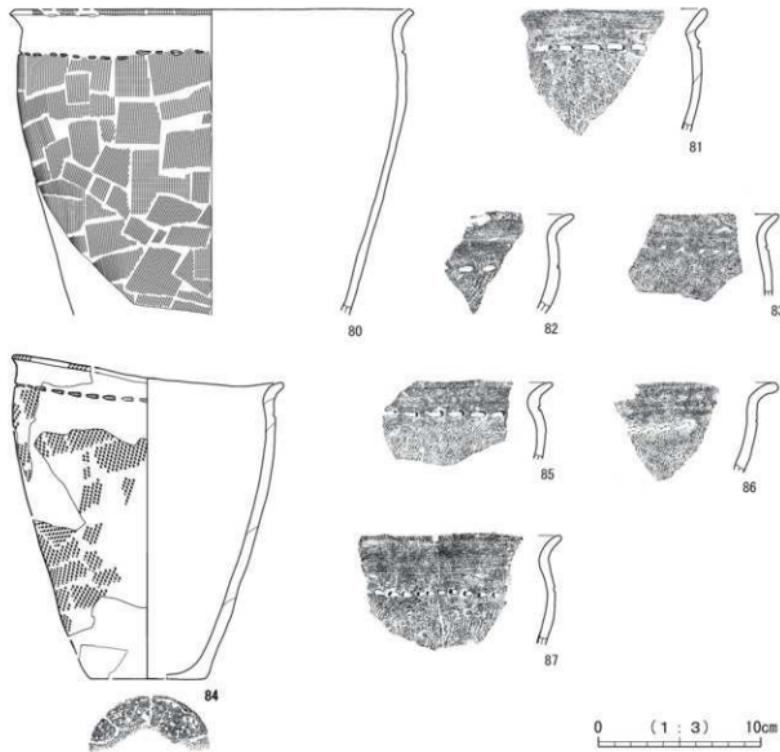
図版 番号	登録 番号	発生 調査区	取上 年号	種別	器種	断面	外周調整・文様	内面調整・文様	考	写真 用図
66	B-320	CIX	P271	共生土器	深鉢	口縁 ~ 体上半	口縁:植物茎葉文+火候印記文。 体上半:沈窓(被印→被印)→火候牛 →火牛。体上半:横竪刻線 (被印直書き×方格文)。	火牛(密)	口径13.6cm、 内外面直書き	130
67	B-319	CIX	P280	共生土器	深鉢	口縁 ~ 体上半	口縁:口縁直書き×方格文。 体上半:火候牛(被印直書き)。	ナギ	口径15.1cm、 口縁直書き+直明瞭	130
68	B-321	BIX	-	共生土器	深鉢	口縁 ~ 体上半	口縁:植物茎葉文+火候印記文。 体上半:沈窓(被印→被印)→火候牛 →火牛。体上半:横竪刻線文被印+斜竪刻線。 体上半:火候直書き。	口縁:口縁直書き×方格文。 底:ナギ	口径11.1cm、底径6.2cm、 器高13.4cm。 口縁直書き+直明瞭化物有。 体部:半外側火ハリによる 消磨著者	130
69	B-338	EIX	P97	共生土器	深鉢	口縁 ~ 体上半	口縁:→火牛(被印直書き)。 体上半:沈窓(被印→被印)、被印直書き →火牛(被印直書き×方格文)。 体上半:火候直書き。	火牛	口縁直上半失失。 外周面直書き者 及び一次加熱による劣化	130
70	B-323	AIX	-	共生土器	深鉢	口縁 ~ 体上半	口縁:沈窓(被印直書き)。 体上半:火候直書き×被進文。	火牛	口径12.7cm、 内外面二次加熱による劣化	130
71	B-328	AIX	-	共生土器	深鉢	口縁 ~ 体上半	口縁:口縁直書き被印記文。 口縁:沈窓(被印直書き)。 体上半:沈窓(被印直書き)。	被印(火牛(密))	130	
72	B-324	EIX	P13	共生土器	深鉢	口縁 ~ 体上半	口縁:口縁直書き被印記文。 口縁:沈窓(被印直書き)。	口縁:沈窓 →火牛(被印直書き)。	内面二次加熱による劣化	130
73	B-325	EIX	P133	共生土器	深鉢	口縁 ~ 体上半	口縁:口縁直書き被印記文。	被印(火牛(密))	口径14.4cm	130

第330図 IV層出土遺物(8)



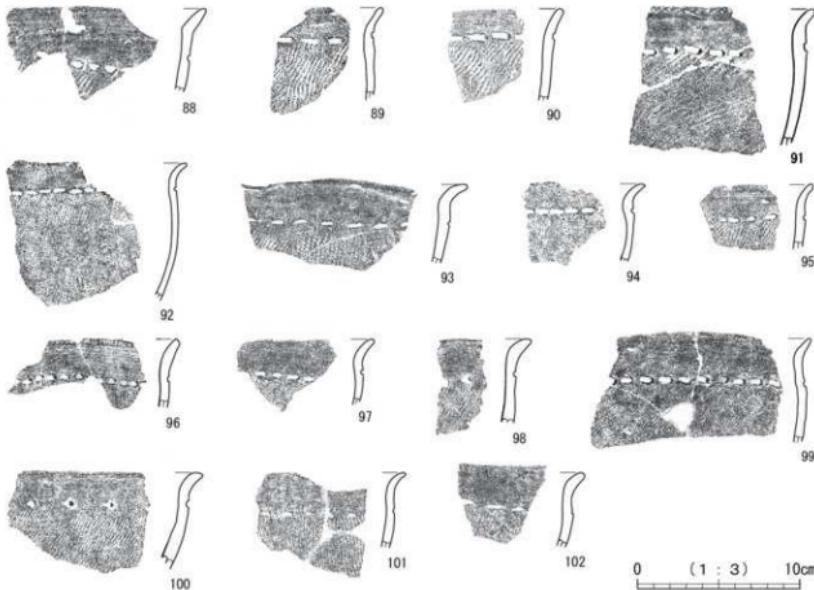
図版 番号	登録 番号	発生 調査区	取上 査号	種別	器種	部位	外面調査・文様	内面調査・文様	備考	写真 回数
74	B330	BRK	P20	弥生土器	深鉢	口縁 体下半	1)縄文模様剥離部。 2)沈縫→L字縄文・沈縫(横位→縱位) →1段位(横位直縄文・方形文)。 3)縦縫(横位直縄文)。	1)沈縫→口→体-ミガキ (横位直縄文)	1)縫合(25.9) cm。 2)縫合-体底上外周面 及び体底下外内面変化物付着。 体部外縄文直縄文底端の解剖有	130
75	B428	BRK	P18	弥生土器	深鉢	口縁 体下半	1)縄文模様剥離部(口-底縫合部近縁み)。 2)コロナテ→口上半(直縄文模様剥離部)。 3)体上縫(沈縫→1段位ミガキ)	縫合ミガキ(質)	1)縫合(25.8) cm。 2)縫合-体底上外周面 及び体底下外内面変化物付着	130
76	B094	AKR	P31	弥生土器	深鉢	口縁 体下半	1)縫合- 2)上半直縄文模様剥離部。 3)沈縫-1段位(横位直縄文)	縫合ミガキ	沈縫内小剥?	130
77	B331	BRK	-	弥生土器	深鉢	縫合 体下半	縫合-斜縫合 →1)縫合-体-横縫合-斜縫合剥離 →2)縫合-斜縫合	縫合ミガキ(質)	1)縫合(34.0) cm。 2)縫合-縫合の可逆性有	131
78	B233	CRK	P344	弥生土器	深鉢	口縁 体上半	1)コロナテ→口上半(横縫合(右)-左)-1段位 2)縫合-斜縫合剥離(右-左)-1段位	縫合ミガキ(粗)	縫合口縁の可逆性有	131
79	B366	CRK	P357	弥生土器	深鉢? 或 要?	体下半 -底	縫合-横縫合剥離。 多く縫合-縫合(右-左)等。 或:縫合-縫合(右-左)等?	縫合ミガキ(質)	近縫合(少) cm	131

第331図 IV層出土遺物(9)



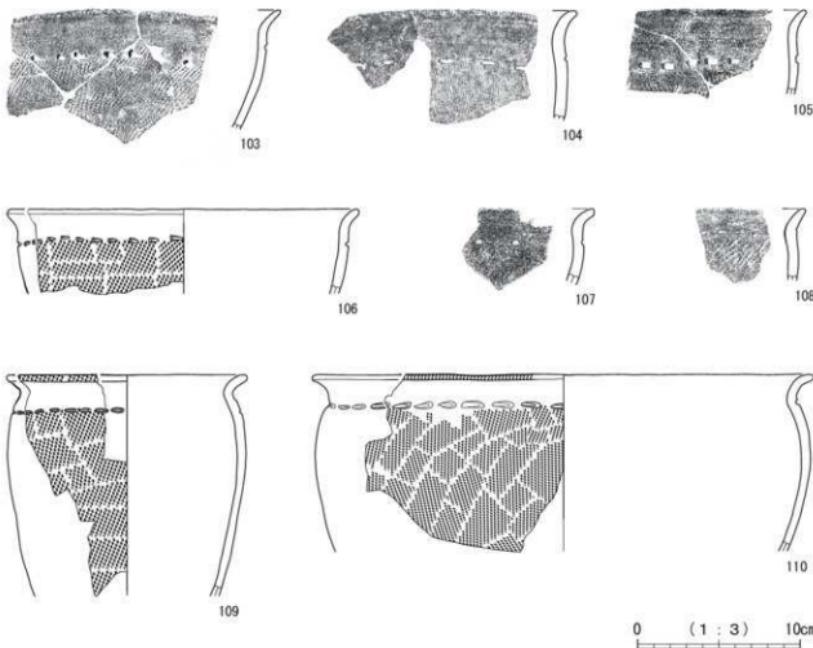
回収 番号	登録 番号	発生 調査区	出土 番号	種別	器種	部位	外面調整・文様	内面調整・文様	備考	写真 図版
80	B-308	BRX	-	陶生土器	甕	口縁 体上半	1)ヨコナメ →1)唇・体:植物葉回転文模様位・斜位回転。 2)唇・点刺割(左→右)	1)ヨコナメ →2)唇・横位1.5年(密)	1)径(24.3) cm	131
81	B-226	CRX	P234	陶生土器	甕	口縁 体上半	1)ヨコナメ →1)唇・植物葉回転文模様位・斜位回転。 2)唇・点刺割(左→右)	横位1.5年	131	
82	B-235	FRX	-	陶生土器	甕	口縁 体上半	1)ヨコナメ →1)唇・植物葉回転文模様位・斜位回転。 2)唇・点刺割(左→右)	1)径 →1)唇・横位1.5年(密)	131	
83	B-232	CRX	P211	陶生土器	甕	口縁 体上半	1)ヨコナメ →1)唇・植物葉回転文模様位・斜位回転。 2)唇・点刺割(左→右)	1)径 →1)唇・横位1.5年(密)	内外面二次加熱痕	131
84	B-303	DXR	P20	陶生土器	甕	口縁 体上半	1)ヨコナメ →1)唇・体:植物葉回転文模様位・斜位回転。 2)唇・点刺割(左→右) 底 底下部(左半) 底上部(右半)	横位1.5年(密)	1)径(16.6) cm、底径(7.0) cm。 器高19.9 cm。 体部中央外周 二次加熱による火ハモ。 底部墨化(焼成後)の可能性有。	131
85	B-267	FRX	-	陶生土器	甕	口縁 体上半	1)ヨコナメ →1)唇・体:植物葉回転文模様位・斜位回転。 2)唇・点刺割(左→右)	横位1.5年		131
86	B-206	ARX	-	陶生土器	甕	口縁 体上半	1)ヨコナメ →1)唇・体:植物葉回転文模様位・斜位回転。 2)唇・点刺割(左→右)	1)ヨコナメ →2)唇・横位1.5年(密)		131
87	B-276	CRX	P220	陶生土器	甕	口縁 体上半	1)ヨコナメ →1)唇・体:植物葉回転文模様位・斜位回転。 2)唇・点刺割(右→左)	横位1.5年(密)	口縁外面黒化物付着	131

第332図 IV層出土遺物(10)



回数 番号	登録 番号	発生 地名	取上 場所	器種	器種	部位	外面調整文様	内面調整文様	備考	写真 回数
88	B-228	EIK	-	陶生土器	変	口縁一 体上半	口縁一 体上縫:列点刺突(押し引け,左→右)	縦波エガキ(密)		132
89	B-229	EIK	P117	陶生土器	変	口縁一 体上半	口縁一 体上縫:列点刺突(押し引け,左→右)	縦波エガキ(粗)		132
90	B-236	BIK	-	陶生土器	変	口縁一 体上半	口縁一 体上縫:列点刺突(押し引け,左→右)	縦波エガキ(粗)		132
91	B-270	BIK	P46	陶生土器	変	口縁一 体上半	口縁一 体上縫:列点刺突(押し引け,左→右)	縦波エガキ(密)		132
92	B-222	CIK	P299	陶生土器	変	口縁一 体上半	口縁一 体上縫:列点刺突(押し引け,左→右)	エガキ	内外面二次加熱痕	132
93	B-237	EIK	P50	陶生土器	変	口縁一 体上半	口縁一 体上縫:列点刺突(押し引け,左→右)	縦波エガキ		132
94	B-217	CIK	P65	陶生土器	変	口縁一 体上半	口縁一 体上縫:列点刺突(押し引け,左→右)	不明	内外面二次加熱痕	132
95	B-271	FIK	-	陶生土器	変	口縁一 体上半	口縁一 体上縫:列点刺突(左→右)	縦波エガキ(密)		132
96	B-275	CIK	P123	陶生土器	変	口縁一 体上半	口縁一 体上縫:列点刺突(左→右)	縦波エガキ(密)		132
97	B-218	AIK	P44	陶生土器	変	口縁一 体上半	口縁一 体上縫:列点刺突(押し引け,左→右)	縦波エガキ		132
98	B-242	CIK	P404	陶生土器	変	口縁一 体上半	口縁一 体上縫:列点刺突(左→右)	縦波エガキ		132
99	B-220	DIK	P40	陶生土器	変	口縁一 体上半	口縁一 体上縫:列点刺突(左→右)	縦波エガキ		132
100	B-241	CIK	P405	陶生土器	変	口縁一 体上半	口縁一 体上縫:列点刺突(左→右)	縦波エガキ		132
101	B-244	CIK	-	陶生土器	変	口縁一 体上半	口縁一 体上縫:列点刺突(左→右)	不明	内外面二次加熱痕	132
102	B-208	AIK	P23	陶生土器	変	口縁一 体上半	口縁一 体上縫:列点刺突(押し引け,左→右)	不明	内面変化	132

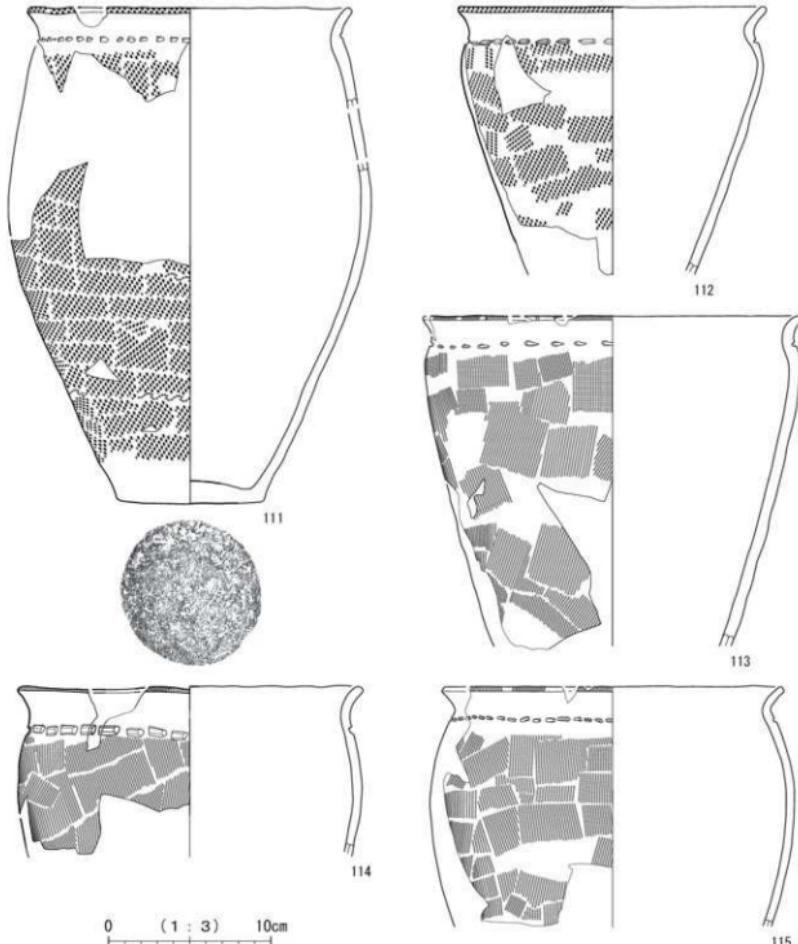
第333図 IV層出土遺物(11)



0 (1 : 3) 10cm

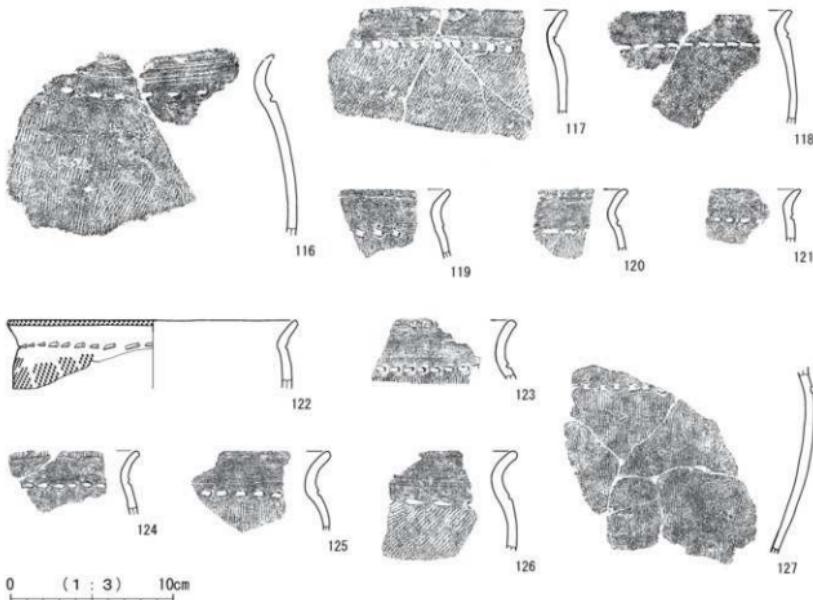
図版 番号	登録 番号	参考 調査区	取上 番号	種別	器種	部位	外面調整・文様	内面調整・文様	備考	写真 回数
103	B-280	D区	P13	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口:ヨコナラ →口唇・体上縁文様位回転 →体上縁・点点刺突(右→左)	横位ミガキ(密)	外表面化物付着	132
104	B-279	C区	P242	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口:ヨコナラ →口唇・植物茎葉文様位回転 →体上縁・点点刺突(右→左)	横位ミガキ(密)		132
105	B-284	C区	P233	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口:ヨコナラ →口唇・植物茎葉文様位回転 →体上縁・点点刺突(右→左)	口:ヨコナラ →口唇・植物茎葉文様位回転 →体上縁・点点刺突(右→左)	外表面化物付着	132
106	B-305	B区	P68	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口:ヨコナラ →体・ハサメ・L字文様位回転 →体上縁・点点刺突(右→左)	横位ミガキ	口径(21.4) cm	132
107	B-256	B区	-	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口:ヨコナラ →体上縁文様位回転 →体上縁・点点刺突(右→左)	横位ミガキ		132
108	B-249	C区	-	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口:ヨコナラ →体上縁文様位回転 →体上縁・点点刺突(右→左)	横位ミガキ		132
109	B-310	E区	-	陶生土器	甕	口縁～ 体下半	口:ヨコナラ →口唇・体・LR撇文様位回転 →体上縁・点点刺突(押し引き、左→右)	口:ヨコナラ →口唇・体・横位ミガキ	口径(14.8) cm	132
110	B-317	C区	P295	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口:ヨコナラ →口唇・体上縁文様位・斜位回転 →体上縁・点点刺突(押し引き、左→右)	横位ミガキ	口径(30.6) cm, 内面・外表面化物付着 口縁部・体部上半内折面 二次加熱による変化	132

第334図 IV層出土遺物(12)



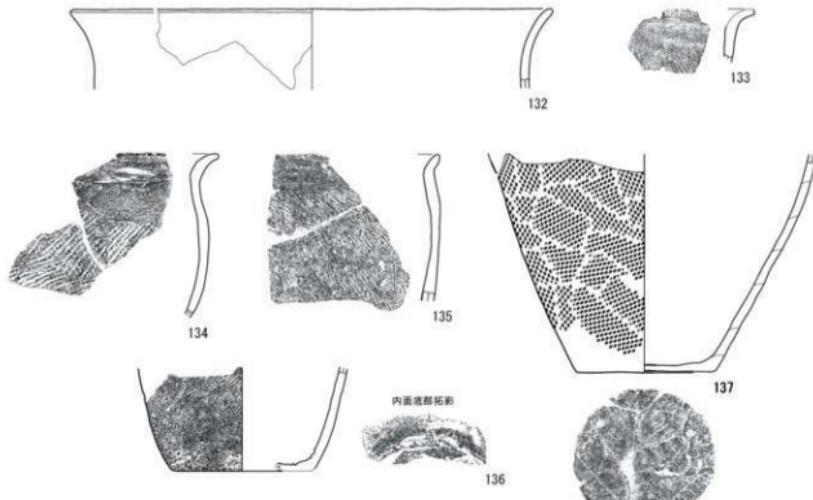
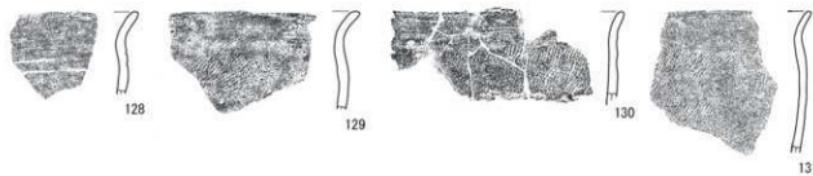
第335図 IV層出土遺物(13)

国版 番号	登録 番号	発生 調査区	取上 番号	種別	器種	部位	外因調整・文様	内因調整・文様	備考	写真 図版
II1	B364	D区	P38	発生土器	甕	口縁 ～ 底下部	口縁一部 ～ 底上部、斜点刺突文様位・斜位斜軸 ～ 底下部、斜点刺突(左→右)。 底:木製裏→口縁(粗)	横位大ガリ(窓)	國上:復元。 口径(29.4)cm, 底径(9.0)cm, 器高(21.0)+(6.3)cm	133
II2	B309	C区	-	発生土器	甕	口縁～ 底下部	口縁一部 ～ 底上部、斜点刺突(左→右)	横位口ガリ	口径(18.9)cm, 内外面二次加熱による劣化	133
II3	B307	E区	P23	発生土器	甕	口縁～ 底下部	口縁一部 ～ 底上部、斜点刺突(右→左)	口縁口ガリ ～ 底位口ガリ(左)	口径(23.2)cm, 内外面劣化物付着	133
II4	B315	A区	P36	発生土器	甕	口縁～ 底下部	口縁一部 ～ 底上部、斜点刺突文様位・斜位斜軸 ～ 底上部、斜点刺突(左→右)	横位口ガリ	口径(20.6)cm	133
II5	B314	E区	P22	発生土器	甕	口縁～ 底下部	口縁一部 ～ 底上部、斜点刺突(左→右)	横位口ガリ	口径(26.0)cm; 底面下部外因劣化物付着	133



回数 番号	登録 番号	発生 調査区	取上 番号	種別	器種	部位	外面調整・文様	内面調整・文様	備考	写真 回数
116	B-312	C区	P295	佛生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナデ →体・植物茎葉模文様付・斜傾斜板 →体・縦・円点刺突(押し引き、左→右)	横位ミガキ	口縫部欠失	133
117	B-227	C区	P171	佛生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナデ →体・口縁・植物茎葉模文様付斜傾斜板 →体・縦・円点刺突(押し引き、左→右)	横位ミガキ		133
118	B-223	C区	-	佛生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナデ →口縫・体・口縁・植物茎葉模文様付斜傾斜板 →体・縦・円点刺突(押し引き、左→右)	ナデ	外面二次加熱痕	133
119	B-286	C区	P81	佛生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナデ →口縫・体・口縁・斜傾斜板 →体・縦・円点刺突(押し引き、左→右)	横位ミガキ		133
120	B-273	C区	P399	佛生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナデ →口縫・体・口縁・斜傾斜板 →体・縦・円点刺突(押し引き、左→右) →口縫(鉛)	横位ミガキ		134
121	B-226	C区	P126	佛生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナデ →体・植物茎葉模文様付斜傾斜板 →体・縦・円点刺突(押し引き、左→右)	横位ミガキ(密)		134
122	B-262	C区	P189	佛生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナデ →口縫・植物茎葉模文様付斜傾斜板 →体・縦・円点刺突(左→右)	口ヨコナデ →口縫・横位ミガキ	口縫(39.8) cm, 外面二次加熱痕・炭化物付着	134
123	B-245	C区	P216	佛生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナデ →口縫・植物茎葉模文様付斜傾斜板 →体・縦・円点刺突(左→右)	横位ミガキ		134
124	B-277	E区	P77	佛生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナデ →口縫・植物茎葉模文様付斜傾斜板 →体・縦・円点刺突(左→右)	横位ミガキ		134
125	B-272	B区	P27	佛生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナデ →口縫・植物茎葉模文様付斜傾斜板 →体・縦・円点刺突(左→右)	横位ミガキ(密)		134
126	B-266	C区	P358	佛生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナデ →口縫・体・口縁・植物茎葉模文様付斜傾斜板 →体・縦・円点刺突(右→左)	口ヨコナデ →口縫・横位ミガキ	口縫内部炭化物付着	134
127	B-336	C区	P301	佛生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナデ →口縫・体・植物茎葉模文様付斜傾斜板 →体・縦・円点刺突(押し引き、左→右)	横位ミガキ	口縫部上半欠失	134

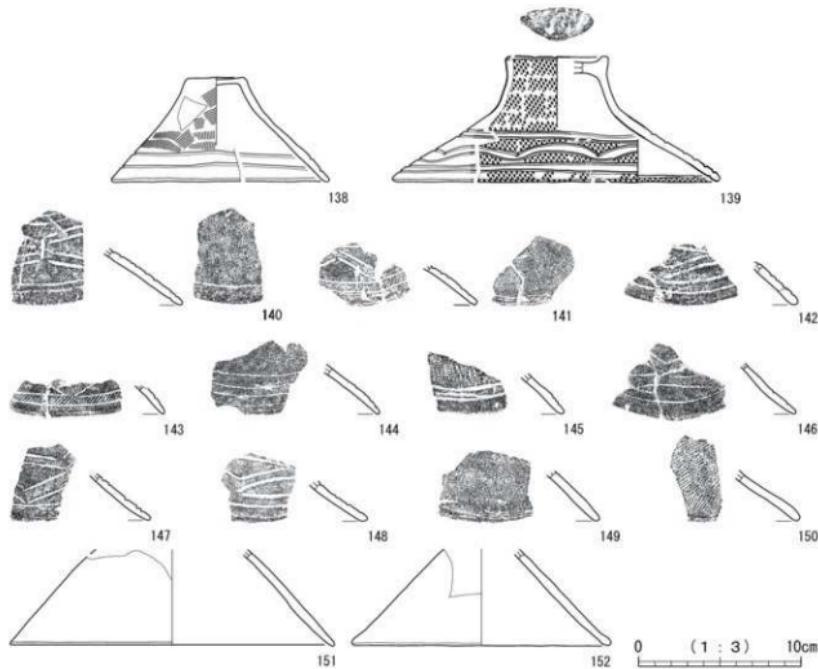
第336図 IV層出土遺物(14)



0 (1 : 3) 10cm

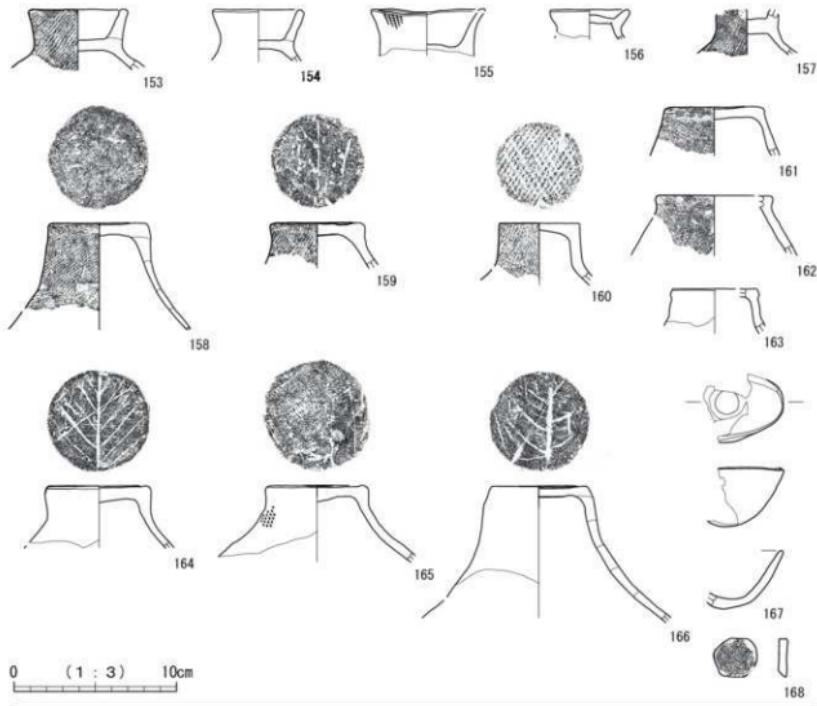
図版 番号	登録 番号	発生 調査区	取上 番号	樹種	岩種	部材	外因調整・文様	内因調整・文様	備 考	写真 図版
128	B-295	CIK	P269	株生土器	變	口縁一 体上半	口縁:不明, リコナダ, 体:地文不明 →体上端:北端(横位置裏文)	無記	内面表面化	134
129	B-292	CIK	P106	株生土器	變	口縁一 体上半	口縁:不明 →体上端:北端(横位置裏文)	無記		134
130	B-298	DIK	P16	株生土器	變	口縁一 体上半	口縁:ナダ →体上端:北端(横位置裏文)	無記		134
131	B-290	CIK	P27	株生土器	變	口縁一 体上半	口縁:ナダ →体上端:リコナダ(第1類)付各面文様位回転	無記		134
132	B-332	CIK	-	株生土器	變?	口縁一 体上半	口縁:ナダ →口縁:リコナダ	無記(密)	13径(29.0) cm	134
133	B-300	CIK	P312	株生土器	變	口縁一 体上半	口縁:ナダ →口縁:リコナダ(横位置裏文)	無記	口縁部外面直面	134
134	B-431	DIK	P31	株生土器	變 or 混	口縁一 体上半	口縁:ナダ →体上端:北端(横位置裏文)	ナデ	複数口縁の可能性有	134
135	B-280	CIK	P15	株生土器	變	口縁一 体上半	口縁:不明, リコナダ →体上端:北端(横位置裏文)	無記		134
136	B-119	AIK	P32	株生土器	變? or 跡?	口縁一 底	口縁:ナダ 底下端:北端(横位置裏文) 底:不規則	無記	底径:8.2 cm, 外腹:一次加熱痕 底:不規則	134
137	B-350	EIK	P20	株生土器	變?	体下半 底	体下半:北端(横位置裏文) 底下端:北端(横位置裏文) 底:不規則	無記	直径:8.3 cm, 外腹:二次加熱痕および劣化	134

第337図 IV層出土遺物(15)



回復番号	登録番号	発生調査区	取上番号	種別	器種	部狀	外面調整・文様	内面調整・文様	備考	写真図版
138	B-166	CK	P25	陶生土器	壺	天井 一 口縁	体上平・植物茎回文模様→斜面回板 →体下平→口縁→横位口乍 (横位直縫文)	天井平	I1径13.4cm、天井部径3.4cm、 器高6.4cm。 天井部外側凸凹調節(割離?)	134
139	B-156	EIK	P52	陶生土器	壺	天井 一 口縫	沈縫 体上(上北端)→L型縫文 →沈縫→口縫 (横位直縫文+進縫文)	I1沈縫 →L型縫文模様回板 →沈縫→口縫(天井)( (横位直縫文))	I1径19.9cm、天井部径6.2cm、 器高7.7cm。 I1縫部外側黒化物付着 及び黒色化	134
140	B-181	CK	P202	陶生土器	壺 or 高杯	体上平 一 口縫	沈縫、縦彫り縫 体上(上北端)→L型縫文 →沈縫→口縫 (横位直縫文+進縫文)	I1沈縫 →L型縫文 →沈縫→口縫 (横位直縫文)	内外二次加熱痕	134
141	B-193	EIK	-	陶生土器	壺	天井 一 口縫	沈縫 体上平 →沈縫 →沈縫 (横位直縫文+進縫文)	I1沈縫 →口縫 →沈縫→口縫 (横位直縫文)	I1縫部内外黒色化	134
142	B-188	CK	P408	陶生土器	壺	体上平 一 口縫	沈縫 体上(上北端)→L型縫文 (横位直縫文+進縫文)	天井平	外面二次加熱痕、 口縫部内外黒色化	135
143	B-082	CK	-	陶生土器	壺	体上平 一 口縫	I1ヨコフタマ体上平→I1沈縫 →L型縫文+沈縫→口縫 (横位直縫文+進縫文)	I1ヨコフタマ →I1沈縫→口縫(天井)( (横位直縫文+進縫文))	I1縫部内外黒色化	135
144	B-095	AIK	P45	陶生土器	壺	天井 一 口縫	体上平→I1L型縫位回板、 I1沈縫→口縫 (横位直縫文+進縫文)	天井平(密)	I1縫部内外黒色化	135
145	B-189	CK	P27	陶生土器	壺	天井 一 口縫	体上L型縫位回板→I1沈縫→口縫 (横位直縫文+進縫文)	天井平(密)	I1縫部内外黒色化	135
146	B-197	CK	P411	陶生土器	壺	天井 一 口縫	体上平 →沈縫→口縫 (横位直縫文+進縫文)	横位口乍(密)	外面二次加熱痕	135
147	B-199	CK	P411	陶生土器	壺	体上平 一 口縫	体上平 沈縫→植物茎回文→沈縫→口縫 (横位直縫文+進縫文)	横位口乍(密)	135	
148	B-191	AIK	P31	陶生土器	壺	体上平 一 口縫	体上平 沈縫→口縫 (横位直縫文+進縫文)	天井平	外側口縫部黒色化	135
149	B-202	AIK	P4	陶生土器	壺	体上平 一 口縫	I1ヨコフタマ 体下平→口縫 植物茎回文 縫隙、斜位回板	横位口乍(密)	I1縫部内外黒色化、 I1縫部内側黒化物付着、 外側二次加熱痕	135
150	B-194	CK	P236	陶生土器	壺	体上平 一 口縫	I1沈縫模様回板	天井平(粗)	内外I1縫部黒色化	135
151	B-178	BIK	P53	陶生土器	壺	体上平 一 口縫	ナギラ→口乍(粗)	横位口乍(密)	I1縫部(20.0cm) I1縫部内外黒色化	135
152	B-179	CK	P239	陶生土器	壺	体上平 一 口縫	I1ヨコフタマ 体上平→口縫→口乍	横位口乍	I1縫部内外黒色化、 化物付着	135

第338図 IV層出土遺物(16)



国號 番号	登録 番号	発生 調査区	現上 番号	種別	器形	部位	外因調整・文様	内因調整・文様	備 考	写真 位置
153	B-153	CH	P230	陶生土器	壺	つまみ ~体上半	LR範文鏡位斜傾回転	つまみ:ヨコナギ 体上半:ヒガリ(密)	つまみ部径(5.8)cm ヒガリ(密)	135
154	B-156	BR	-	陶生土器	壺	つまみ ~体上半	ミガキ(粗)	ミガキ(粗)	つまみ部径5.3cm	135
155	B-158	AB	P33	陶生土器	壺	つまみ ~体上半	LR範文斜位斜傾	ミガキ(粗)	つまみ部径(6.8)cm	135
156	B-162	CH	P403	陶生土器	壺	つまみ ~体上半	ミガキ(粗)	ミガキ(粗) 体上半:ナギ	つまみ部径(6.8)cm ヒガリ(密)	135
157	B-160	CH	P128	陶生土器	壺	つまみ ~体上半	LR範文鏡位斜傾	ミガキ(粗) 体上半:ヒガリ	つまみ部上半欠失 ヒガリ(密)	135
158	B-167	BR	P27	陶生土器	壺	天井一 体上半	体上半LR範文鏡位斜傾回転	ヒガリ	天井部径5.7cm, 外面一次加熱痕	135
159	B-169	CH	P1	陶生土器	壺	天井一 体上半	天井:木製箱→ミガキ 体上半	横位ミガリ	天井部径5.5cm	135
160	B-168	EJ	P2	陶生土器	壺	天井一 体上半	天井:鏡位直 体上半	ミガキ(密)	天井部径5.0cm, 体部表面赤褐色付着	135
161	B-124	CH	P234	陶生土器	壺or壺	天井一 体上半	天井:木製箱→ミガキ 体上半	ミガキ(粗)	天井部径(5.3)cm	135
162	B-163	CH	-	陶生土器	壺	天井一 体上半	天井:木製箱→ミガキ(粗) 体上半	ミガリ	天井部径(6.9)cm	135
163	B-174	CH	-	陶生土器	壺	天井一 体上半	天井:木製箱 体上半:ヒガリ	横位ミガキ(粗)	天井部径(5.2)cm 内外面一次加熱痕	135
164	B-173	CH	P127	陶生土器	壺	天井一 体上半	天井:木製箱 体上半:ヒガリ	横位ミガリ	天井部径6.1cm, 外底一次加熱痕	135
165	B-172	CH	P369	陶生土器	壺	天井一 体上半	天井:織目布→木製箱 体上半	横位ミガキ, 天井:ミガキ(粗)	天井部径5.8cm	135
166	B-171	AB	P43	陶生土器	壺	天井一 体上半	天井:木製箱 体上半:ミガキ(粗)	横位ミガキ(粗)	天井部径5.8cm	135
167	P-030	CH	P391	土製品	スープー製 土製品	口縁一 底	LR範文鏡位斜傾	ナデ	残存高1.9cm、残存幅3.8cm, 残存高3.6cm, L=ナデ土器の可能性有	135
168	P-033	BR	-	土製品	川敷狀 土製品	体	LR範文鏡位斜傾	ヒガリ	径2.7cm、厚さ0.7cm	135

第339図 IV層出土遺物(17)

## b. 石器(第340~348図)

古代の遺構検出面IV層より出土した石器のうち、29点の資料を掲載した。

弥生時代以前の石器については下記の分類基準に従って記載を行った。

### 打製石器

器種ごとの形態、二次加工の観察される範囲、微細剥離痕の施される範囲を中心に分類した。

#### 石鎌

有茎石鎌（I類）、アメリカ式石鎌（II類）に分けられる。これらは長さの違いから、A種：2.5cm以上、B種：2.5cm未満に分けられる。I類・II類は厚幅比（厚さ×幅）から、1種：厚幅比0.40以上、2種：厚幅比0.40未満に分けられる。

#### 二次加工のある剥片

二次加工の加工面によりI~III類に分けられる。

I類：表面に加工があるもの

II類：裏面に加工があるもの

III類：表面と裏面に加工があるもの

#### 微細剥離痕のある剥片

微細剥離痕の分布範囲によりI・II類に分けられる。

I類：1縁辺に微細剥離痕があるもの

II類：複数縁辺に微細剥離痕があるもの

### 礫石器

礫石器にみられる使用痕跡には磨痕・凹痕・敲打痕の3つがあり、単独やこれらの組み合わせのものがみられる。凹痕の中には痕跡が僅かで、敲打痕との区別が困難なものも含まれていた。従って便宜上の判断基準として、凹面を形成しているものを凹痕、素材の形状を残しているものを敲打痕とした。使用痕跡は、その範囲・部位・数・程度について観察し、記述を行っている。礫石器として報告した器種では、磨石、凹石、敲石、台石があり、使用痕と素材形状から下記の分類を行った。

#### 磨・凹・敲石

磨痕・凹痕・敲打痕の組み合わせから、以下のように分類される。

I類：磨痕のみのもの

II類：凹痕のみのもの

III類：敲打痕のみのもの

IV類：磨痕と凹痕がみられるもの

V類：磨痕と敲打痕がみられるもの

VI類：凹痕と敲打痕がみられるもの

VII類：全てがみられるもの

I~VII類は素材形状からA~C種に細分される。なお、素材形状は便宜上の判断基準として長幅比（長さ÷幅）から認定している。

A種：円錐素材のもの（長幅比0.95以上1.05未満）

B種：梢円錐素材のもの（長幅比1.05以上2.00未満）

C種：棒状錐素材のもの（長幅比2.00以上）

## 1) 打製石器

### 石鎚

169・170は未成品であるが完成形態はI類A1種と推測される。171はI類A2種、172はI類B2種、173は石鎚未成品である。169は先端部、171は先端部と基部、173は基部を欠損している。169～172は両面を整形しており、周縁を入念に調整している。173は周縁を整形している。170～172は素材剥片の剥離面を僅かに残しており、173は素材剥片の剥離面を大きく残している。169の断面形は身部、基部共に凸レンズ状を呈している。170の断面形は身部、基部共に六角形を呈している。171の断面形は身部が三角形で、基部は凸レンズ状を呈している。172の断面形は身部が凸レンズ状で、基部は六角形を呈している。173の断面形は凸レンズ状を呈している。石鎚に用いられている石材は、169は流紋岩、170は鉄石英、171は珪質頁岩、172は玉髓、173は珪化凝灰岩である。

### 二次加工のある剥片

174～179はⅢ類である。174は平坦剥離で周縁を調整している。尖端部が作出されておらず、石鎚とは区別され、別の用途の小型の石器と考えられる。175・176・179は二次加工を縁辺に施しており、二次加工の施された縁辺には微細剥離痕も観察される。177は二次加工を1縁辺に施しており、自然面を残している。178は素材剥片の一部を折り取り、その面を打面とした二次加工を施している。本来の素材縁辺に施された二次加工とあわせて、尖端部を作り出している。二次加工のある剥片に用いられている石材は全て流紋岩である。

### 微細剥離痕のある剥片

180はI類であり、横長剥片を素材とし、自然面を残している。石材は流紋岩である。

### 2) 砥石器

#### 磨・凹・敲石

181はI類B種、182～184・185はIV類B種、186～188はV類B種、189はVI類B種、190・191はVII類B種である。181はa面中央に磨痕が認められる。182はa面中央に浅い凹痕とb面中央に磨痕が認められる。183・184はa面中央に磨痕と凹痕が複合して残され、b面中央に浅い凹痕が認められる。185はa面中央に凹痕が複数残され、一方の端部に磨痕が認められる。186はa面中央に磨痕が残され、a面右側縁に強い敲打痕が認められる。187は両面中央に磨痕が残され、両端に敲打痕が認められる。188は両面中央に磨痕が残され、上下両端部とb面に敲打痕が観察され、特に下端部の敲打痕は損傷が著しい。189は両面中央に深い凹痕が残される。a面右側縁に敲打痕が認められる。190はb面の中央左側に磨痕が残され、両面中央に深い凹痕が観察され、下端部に敲打痕が認められる。191は両端に磨面と敲打痕が残され、a面中央に浅い凹痕が観察される。磨・凹・敲石に用いられている石材は181～184・189・190は凝灰岩、185～188・191は安山岩である。

#### 台石

192はa面中央に浅い凹痕が認められる。193はa面の広範囲に磨痕が観察され、中央の凹んだ部分は特に顕著である。破損は火ハネによるものである。台石に用いられている石材は、192は凝灰岩、193は安山岩である。

#### 礫器

194はd面側より連続的な二次加工を施し、2箇所に片刃の刃部を形成している。石材は珪化凝灰岩である。

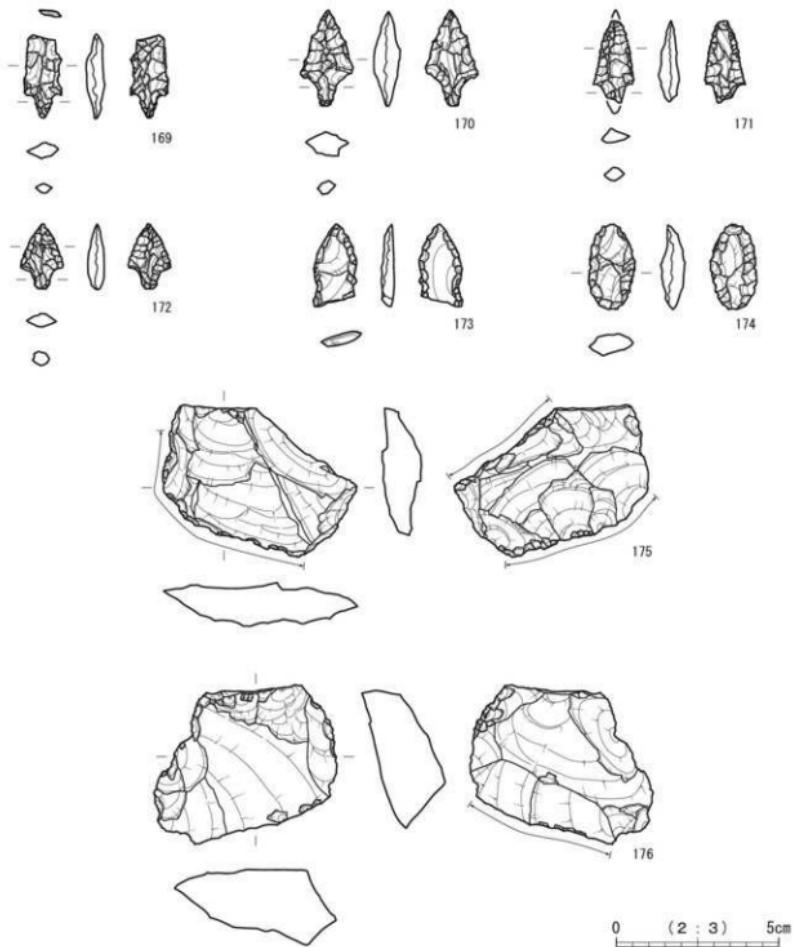
### 3) 石製品

#### 縁辺に粗い条痕のある礫片

195・196は1縁辺に直交する粗い条痕が認められ、使用による痕跡と考えられる。石材はいずれも凝灰岩である。

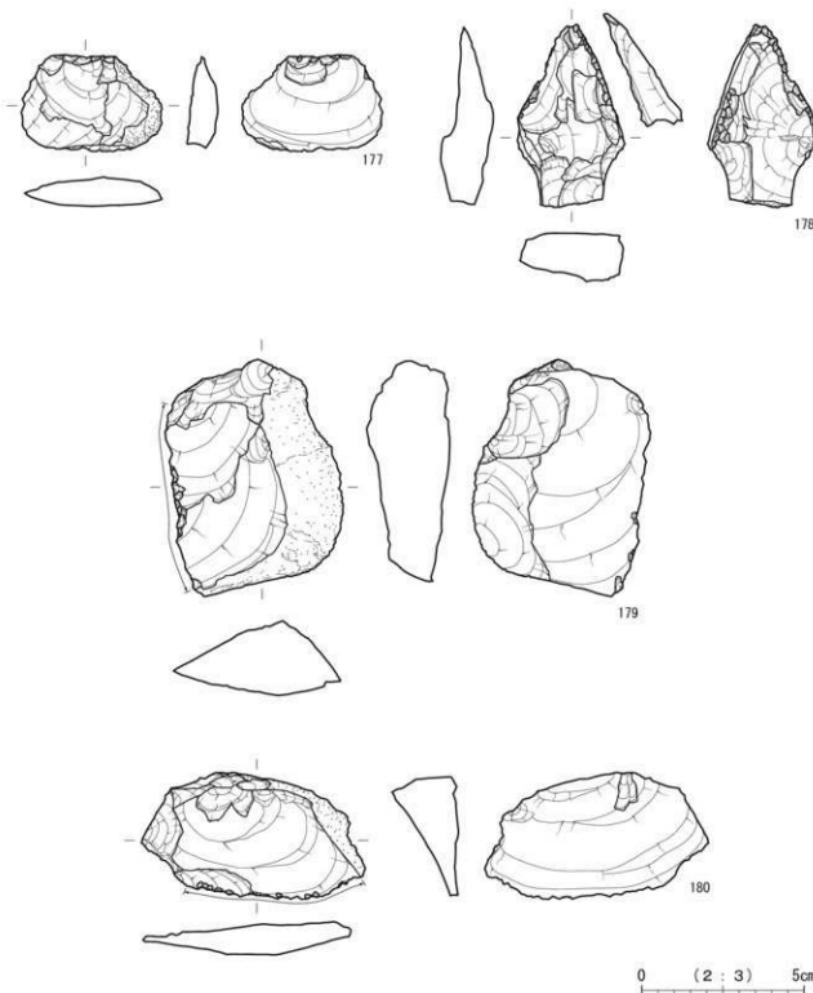
#### 筋筋石

197は3条の筋状の研磨痕が形成された後、a面に深い凹痕が顕著であることから、凹石に転用されている。石材は凝灰岩である。



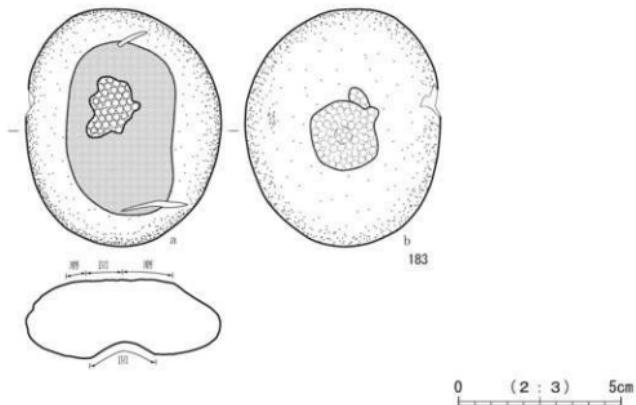
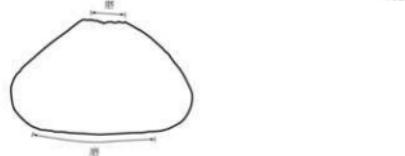
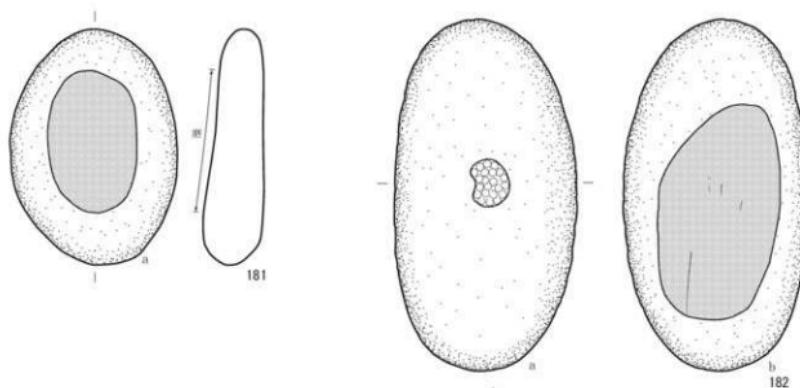
第340図 IV層出土遺物(18)

回収 番号	登録 番号	地質 層	類別	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
169	Ku-009	C区	N層	S22	打製石器	石器	I A1	(2.5)×1.2×0.5	1.19	流紋岩	有茎,未成品,厚幅比0.41	136
170	Ku-011	E区	N層	S14	打製石器	石器	I A1	29×15×0.8	2.31	流石英	有茎,未成品,厚幅比0.53,素材面残字	136
171	Ku-006	C区	N層	S25	打製石器	石器	I A2	(2.5)×1.6×0.6	1.37	珪質頁岩	有茎,完成品,先端欠損,厚幅比0.37,素材面残字	136
172	Ku-007	C区	N層	S82	打製石器	石器	I B2	28×13×0.5	0.95	玉髓	有茎,完成品,先端角55°,厚幅比0.38	136
172	Ku-002	B区	N層	-	打製石器	石器	-	(2.4)×1.2×0.4	1.50	二氧化矽岩	未成品,先端角59°,厚幅比0.30,素材面残字	136
174	Ku-008	C区	N層	S168	打製石器	石器	二次加工の ある石片	2.6×1.4×0.7	2.25	流紋岩	打面部加工,表面×裏面加工,周縁×二次加工のみ	136
175	Ku-387	B区	N層	-	打製石器	石器	二次加工の ある石片	4.1×0.9×1.7	32.53	流紋岩	平坦打面,底面角140°,表面×裏面加工, 周縁×二次加工のみ,周縁側に微細剥離痕あり	136
176	Ku-388	B区	N層	-	打製石器	石器	二次加工の ある石片	4.6×5.4×2.4	52.48	流紋岩	平坦打面,底面角120°,表面×裏面加工, 周縁×二次加工のみ,周縁側に微細剥離痕あり	136



図版 番号	登録 番号	発生 調査区	層位	取土 番号	種別	器種	分幅	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
177	Ka-389	CK	N層	-	打製石器	二次加工の ある断片	Ⅱ	2.9×4.3×0.9	33.07	流紋岩	打削部加工、剥離角122°、表面+裏面加工、自然面あり	136
178	Ka-390	CK	N層	S198	打製石器	二次加工の ある断片	Ⅱ	5.4×3.2×1.7	22.58	流紋岩	平行打削、剥離角102°、表面+裏面加工、自然面あり	136
179	Ka-001	BK	N層	-	打製石器	二次加工の ある断片	Ⅱ	6.7×5.2×2.5	88.77	流紋岩	切子打削、剥離角121°、表面+裏面加工、 同様に剥離角剥離あり、自然面あり	136
180	Ka-005	CK	N層	S24	打製石器	微細剥離板 のある断片	I	3.7×6.4×2.1	30.60	流紋岩	平行打削、剥離角103°、1辺に微細剥離あり、 自然面あり	136

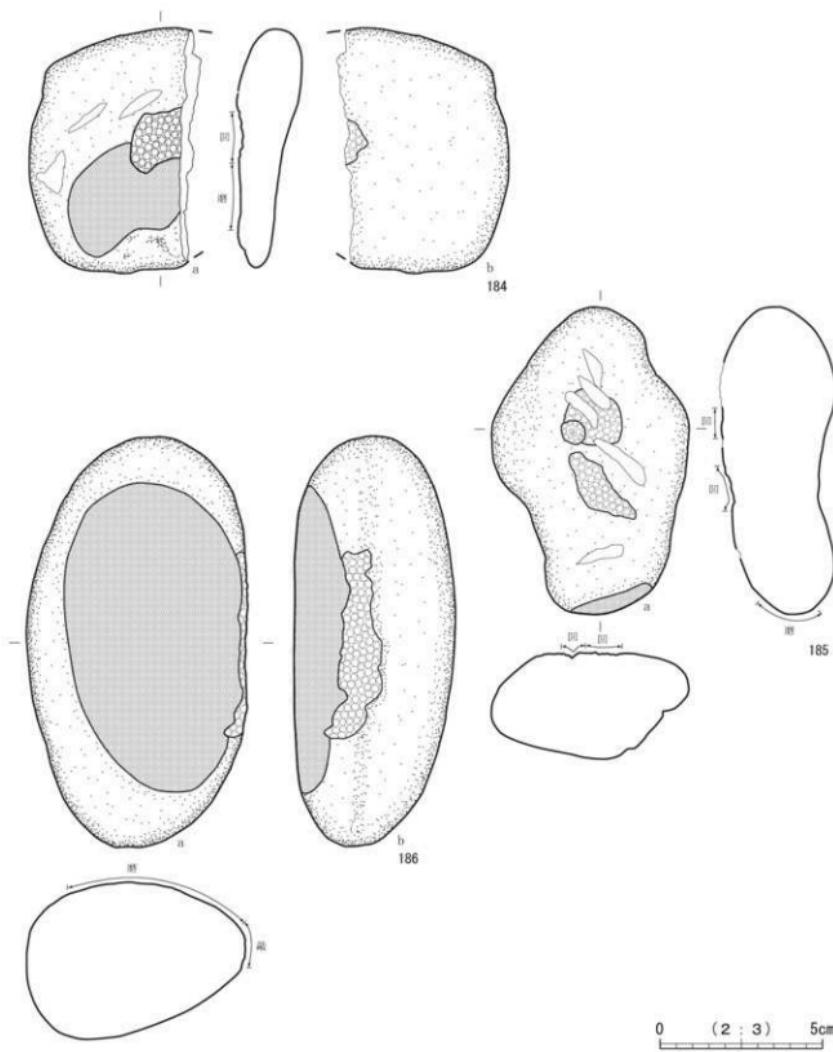
第341図 IV層出土遺物(19)



0 (2 : 3) 5cm

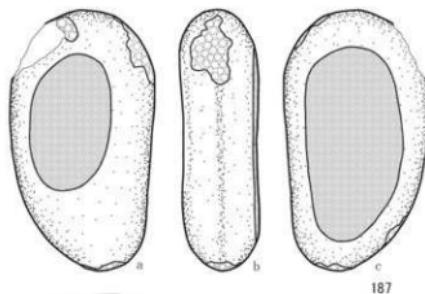
图版 番号	登録 番号	発生 調査区	層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
181	Kc-168	C区	N層	S175	砾石器	磨石	II B	9.7×6.8×2.5	125.47	湖底岩	不定形品。楕円形。磨1面(平)	136
182	Kc-159	C区	N層	S135	砾石器	磨+凹	N/B	14.5×7.5×4.5	394.53	湖底岩	不定形品。楕円形。磨1面(平), 凹1面(平)(深2面)	136
183	Kc-149	B区	N層	S72	砾石器	磨+凹	N/B	9.7×8.0×3.3	178.45	湖底岩	不定形品。楕円形。磨1面(平), 凹2面(平+中)深2面(浅)	136

第342図 IV層出土遺物(20)

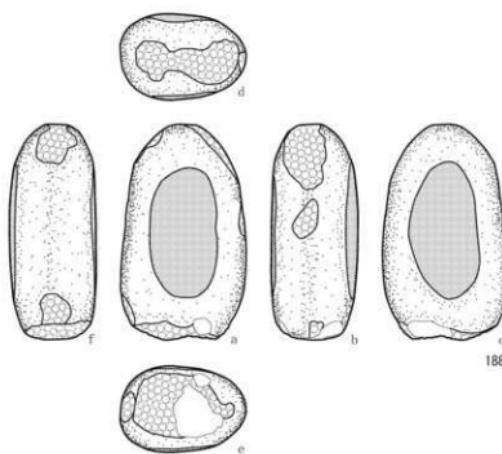


第343図 IV層出土遺物(21)

図版 番号	登録 番号	発生 層位	層位 名	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
184	Ke-177	E層	N層	-	磨石器	磨+凹	N/B	9.8×6.8×2.5	133.03	蕭何岩	欠損品。施円溝。磨1面(平),磨2面(平+单)深さ(浅)	136
185	Ke-179	D層	N層	S12	磨石器	磨+凹	N/B	12.6×8.3×4.4	512.25	安山岩	完形品。施円溝。磨1面(凸),磨1面(平)深さ(浅)	136
186	Ke-162	C層	N層	S125	磨石器	磨+凹	VB	16.8×9.1×6.2	1265.35	安山岩	完形品。施円溝。磨1面(凸),磨(第1箇所)斜度(傾)	136



187

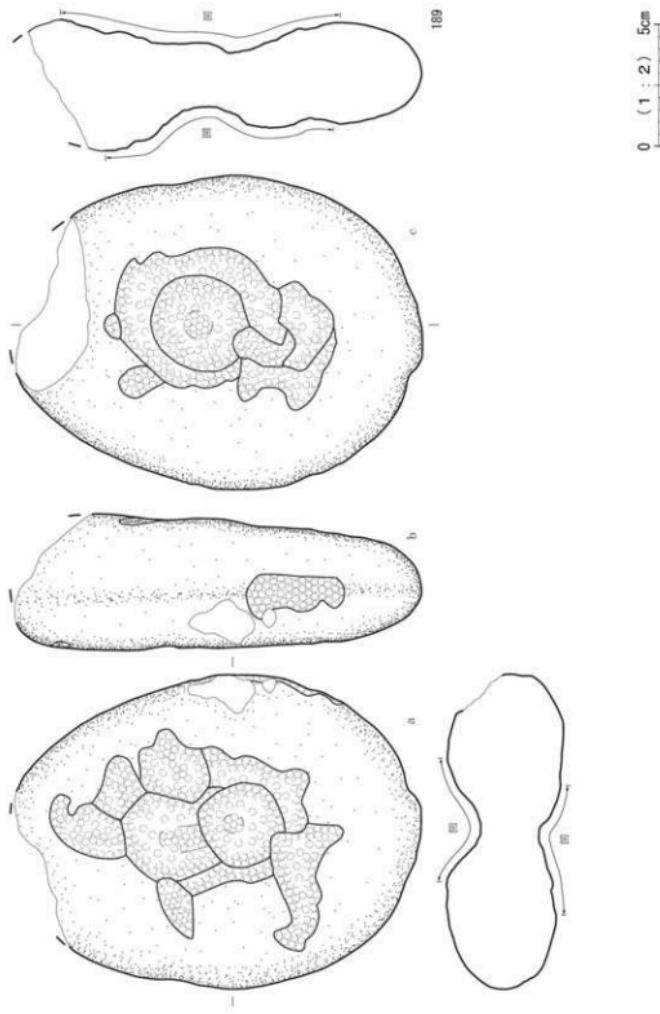


188

0 (2 : 3) 5cm

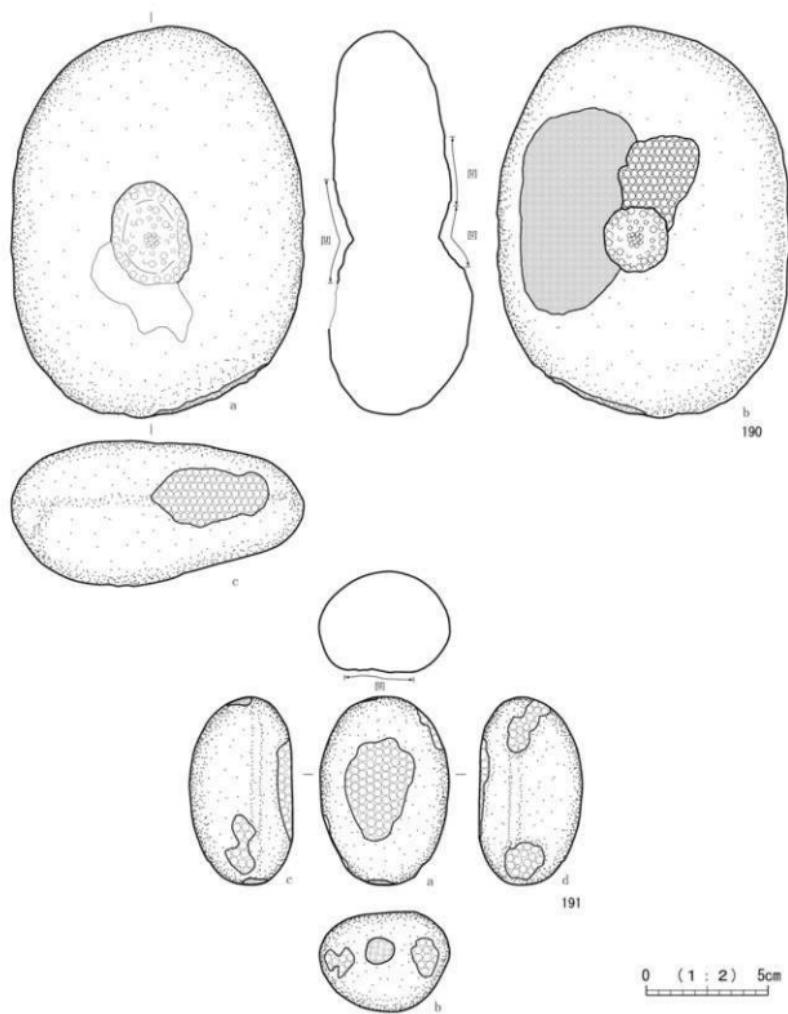
国號 番号	登録 番号	衛生 調査区	層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
187	Ke-165	C区	IV層	S5	砾石器	磨・敲	VB	10.7×5.9×3.4	300.23	安山岩	定期品。楕円形、横2面(平)、縦(縦2面)・斜面(側面)。	137
188	Ke-171	D区	IV層	S16	砾石器	磨・敲	VB	8.8×5.1×3.5	270.06	安山岩	定期品。楕円形、横2面(平)、縦(縦2面)・斜面(側面)。	137

第344図 IV層出土遺物(22)



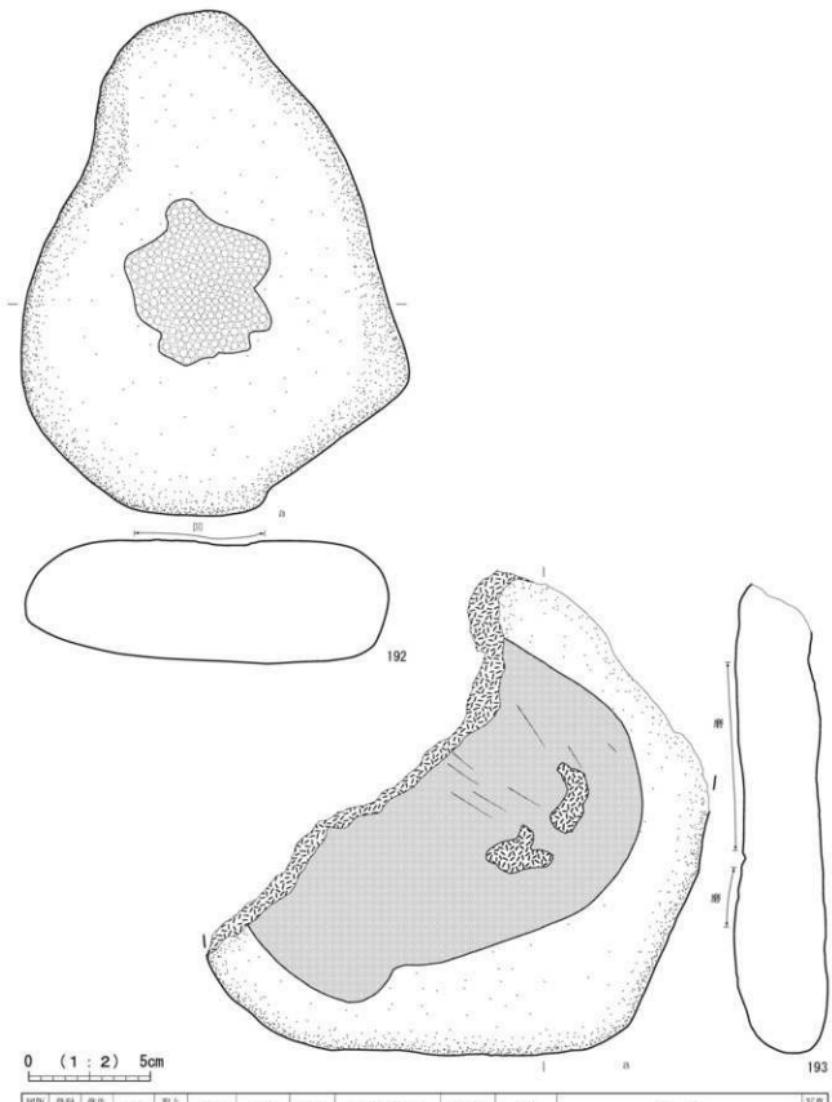
図版番号	登録番号	発生調査区	層位	取土番号	種別	基粒	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真番号
189	Kc-154	CDK	N層	S109	礫石器	凹+縫	VIB	(16.6)×12.8×5.3	804.04	凝灰岩	多面品、拘門型、凹2個(縫+縫)、縫5(縫)、縫(縫)箇所(縫)程度(縫)	137

第345図 IV層出土遺物(23)



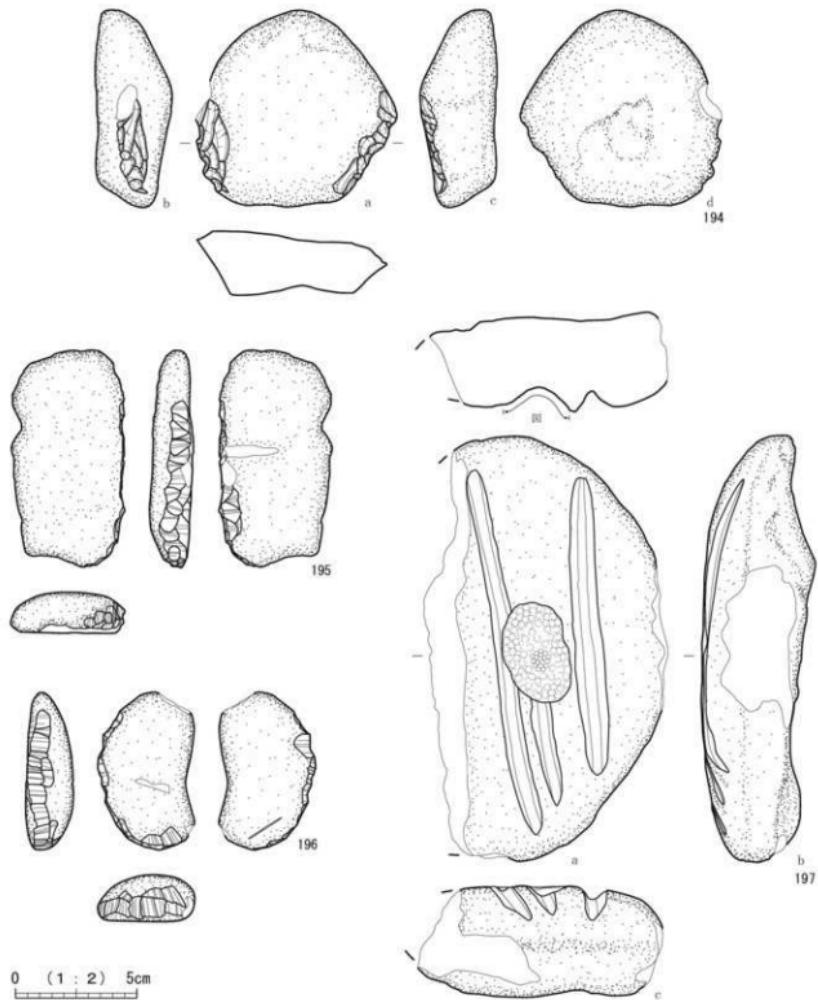
国版 番号	登録 番号	発生 調査区	層位	取上 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石種	備考	写真 番号
190	Kc-174	EBK	B層	S52	磨石器	磨+凹+縫	吸B	16.8×12.9×5.2	86.24	凝灰岩	文形品、椎円錐、磨1箇(平)、 凹2箇(平+縫)縫1箇(深)、縫1箇(所)程度(縫)	137
191	Kc-162	CPK	B層	S509	磨石器	磨+凹+縫	吸B	7.7×5.3×4.1	243.47	安山岩	文形品、椎円錐、磨2箇(凸)、 凹1箇(平)縫2箇(深)、縫3箇(所)程度(縫)	138

第346図 IV層出土遺物(24)



第347図 IV層出土遺物(25)

國版 番号	登記 番号	地名 調査区	層位 番号	取土 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
192	Kc 155	C4	IV層	S117	磨石器	台石	-	20.7×16.0×5.0	1500.24	凝灰岩 完形品, 扁円錐, 四面(半)削平(微)	-	138
193	Kc 156	BK	IV層	S33	磨石器	台石	-	(19.5)×(20.6)×3.7	1640.23	安山岩 欠損品, 扁円錐, 四面(半), 全面被熱	-	138



第348図 IV層出土遺物(26)

図版 番号	登録 番号	発生 調査区	層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
194	Kc-369	CIX	N層	S14	縫合器	縫器	-	7.9×8.3×3.2	302.92	珪化凝灰岩	完形品、地凹窪、片刃	138
195	Kd-037	BIX	N層	-	石製品	縫合器	縫合に無い 条痕のある 縫合	8.9×4.6×1.5	43.72	凝灰岩	完形品、自然縫、板状、1縫辺に溝続する条痕あり	138
196	Kd-038	CIX	N層	-	石製品	縫合器	縫合に無い 条痕のある 縫合	6.5×4.0×1.9	30.83	凝灰岩	完形品、自然縫、板状、1縫辺に溝続する条痕あり	138
197	Kd-039	CIX	N層	S159	石製品	筋状石	-	17.4×10.0×4.5	520.14	凝灰岩	欠損品、自然縫、板状、無孔、溝状張りあり、 自然縫あり、凹凸面(单/深さ2mm)	138

## (7) その他の出土遺物(第349～372図)

弥生時代に帰属すると考えられる遺物は、前項に掲載した弥生調査区IV層から出土した遺物のほか、IV層の遺構堆積土やそれらの検出作業中においても相当数出土している。本項では、それらの遺物について記載する。

### a. 土器・土製品(第349～361図)

#### 1) 弥生土器

土器は、壺21点、高坏11点、鉢26点、深鉢12点、甕61点、蓋24点、ミニチュア土器1点を掲載した（各器種に推定されるものを含む）。いずれも弥生時代中期の形形開式に比定される。したがって、器形や装飾文様の特徴については前項とはほぼ共通するが、本項においても器種毎の概要を記載する。

#### 壺(第349～350図)

壺（壺と推定されるものを含む）は全て破片資料であるが、残存する器形の特徴から、小型（第349図-6・9）・中型（第349図-2・10・11、第350図-14・15・19）・大型（第349図-1・3・4・7・8、第350図-16・18・20・21）に区別される。器形はいずれも最大径を体部上半にもち、口縁部形態は平縁を基調とするが、第349図-1・8のように山形突起を有するものも認められ、後者においては山形突起の頂部に刻みを伴う。装飾文様は口縁部と体部上半に施文され、口縁部には内面にも施文されるものもある（第349図-1・2）。口縁部には内外面共に横位直線文が施文され、体部には横位直線文と連続山形文の組み合わせが施文されるもの（同図-6）のほか、横位直線文に同心円文、渦文、鑑形文と思われる意匠のいずれかが組み合わされて施文されるものがある（同図-1・2・4・5）。それらの多くは、文様内に縄文や植物茎回転文が充填されるほか、文様帶が赤彩されるものもある（同図-1）。装飾文様が施文されない口縁部や頭部はヨコナデ調整、ナデ調整、ミガキ調整のいずれかが施されるだけのものが多く、大型品と推定されるものの中には、頭部上端に断面三角形の隆帯が横位に貼り付けされるものがある（同図-7・8）。装飾文様が施文されない粗製のものには、地文にLR縄文の回転施文もしくは植物茎回転文が多用されるほか、地文が施文されずにミガキ調整されるだけのものがある（第350図-19）。

#### 高坏(第351図)

高坏は全て装飾文様が施される精製の破片資料である。器形は、坏部が直線的ないし内湾気味に外傾するものを基調とし、口縁部形態は平縁が大部分であるが、山形突起を有するものもある（第351図-1～3）。脚部は中空の円錐台形を呈し、裾部から直線的に立ち上がるものと裾部が僅かに外反するものがある。装飾文様は、坏部・脚部と共に横位直線文と連弧文の組み合わせを主体とし、連弧文は横位に半單位ずらして複数段施文されるものが少なくない（同図-25・27・29・30）。他には坏部に方形文が施文されるものがある（同図-28）。また、口縁部内面にも横位直線文が施文されるもの（同図-22～24・26～28）や、これに縦位の短い沈線が加わるもの（同図-24・28）がある。脚部には方形文が施文されるもの（同図-32）や、横位直線文が多条に施文されるもの（同図-31）がある。装飾文様内は縄文や植物茎回転文により充填されるものが多く、充填後に文様内が赤彩されるもの（赤彩された可能性のあるものを含む）が認められる（同図-30・31）。

#### 鉢(第352・353図)

鉢（鉢と推定される破片資料を含む）は、器高5cm程度の小型品（第352図-33・35・36、第353図-48）と、10cm程度ないしそれ以上と推定される中型品（第352図-34・37～46、第353図-47・49～58）がある。器形は、小型品が内湾する体部から先細の口縁部へと立ち上がるカップ状を呈し、第352図-33の口径と底径の比は、約1.5:1となる。中型品と推定されるものは、口縁部から体部が直線的に外傾するものと内湾するものがあり、他には口縁部と体部の境界が汚れるもの（第352図-38・39、第353図-50）や、口縁部が外反するもの（同図-49）がある。口縁部形態は平縁を基調とするが、山形突起を有するものもある（第352図-46）。装飾文様は口縁部から体部上半に施文され、横位直線文と連弧文もしくは連続山形文の組み合わせを主体とし、文様内は縄文や植物茎回転文で充填されるものが多い。このほか、横位直線文が

数条施文されるもの（第352図-46、第353図-47～53）や、口縁部内面にも横位直線文が施文されるもの（第352図-33・41～43・46、第353図-47・50）もある。連弧文および連続山形文には、横位に半單位ずらして複数条施文されるもの（第352図-34・38・39）や、隣り合う単位の境界に縦位の短い沈線が施文されるものがある（同図-34）。また、縦位の短い沈線は、山形突起内面頂部にも施文される（第352図-46）。この他、焼成前に口縁部が内面側から穿孔されるものがある（第352図-36・39）。地文には、L R 縄文の回転施文や植物茎回転文が施文される。

#### 深鉢（第354図）

深鉢（深鉢と推定されるものを含む）として掲載したものは、口縁部あるいは口縁部から体部上端の破片資料のみである。残存部の特徴から、いずれも器高20cm前後もしくはそれ未満の中型品と推定されるが、第354図-69・70は器高35cm程の大型品の可能性がある。器形は頸部に括れをもち、内済する口縁部を基調とし、口縁部形態はいずれも平縁である。装飾文様は口縁部と体部上半に施文され、括れを持つ口縁部と体部の境界はミガキ調整により無文となる。口縁部の装飾文様は横位直線文が多条に施文されるものが多く、中には文様間に縄文が充填されるものがある（第354図-69）。また、同図-59・60のように、横位直線文と方形文の組み合わせが施文されるものも認められる。前者については隣り合う単位の間に縦位の短い沈線が施文される。体部の装飾文様については不明な点が多く、横位直線文や方形文の施文が部分的に確認されるのみである（第354図-61・62）。装飾文様が施文されない粗製のものは、1点のみである（同図-70）。地文としてL R 縄文が横位回転施文される。

#### 甕（第355～359図）

甕（甕と推定される底部破片を含む）は、破片資料が多いものの、大部分が器高20cm前後の中型品と推定される。第355図-71・74、第357図-102、第359図-131は器高35cm程の大型品に属する。また、中型・大型を問わず、外面に二次加熱痕が認められるものが多い。器形は、最大径を口縁部にもつものと体部上端にもつものに大別される。体部上半は丸みを帯び、口縁部との境界に括れをもつ。口縁部は短く外反するものを基調とし、口唇部は上方ないし斜め上方を向くものと、ほぼ直横を向くものがある。口縁部は明瞭なヨコナデ調整、体部は地文として縄文原体の回転施文や植物茎回転文が施文され、地文は口唇部に施文されるものも多い。また、体部には縄文原体の開端を結ぶた痕跡や、地文を施文する前段階のハケメ調整が観察されるものも認められる。殆どの体部上端には地文を施文した後に列点刺突文が施され、刺突方向には左右の別が認められるほか、押し引きが施されるものも多い。また、体部上端に沈線が施文されるもの（第359図-128）や、無文のもの（同図-124～127・129）がある。内面は丁寧にミガキ調整されるものが多い。

#### 蓋（第360・361図）

蓋（蓋と推定される破片資料を含む）は、器高が10cm未満の小型品に推定されるもの（第360図-132・142）と、口径20cm前後、器高10cm前後もしくはそれ以上の中型品に推定されるもの（第360図-133・140）がある。また、口縁部における装飾文様の有無についても区別される。このほか、殆どの口縁部破片には、使用に伴うものと考えられる黒色化が認められる。器形は円錐台形を基調とする。体部から口縁部は外反するもの、内済するもの、直線的なものに三大別され、口縁部形態はすべて平縁である。天井部には、つまみ部が付くものと付かないものがある。つまみ部の器形は、天井部から直線的に外傾する高さ数cmの低いリング状を呈する。つまみ部がないものは、天端部に僅かな高まりをもつもの（第361図-148・149）や、側縁が外側に向かって僅かに張り出するもの（同図-150～154）がある。装飾文様は、外面は体部下半から口縁部に限定的に施文される。文様は横位直線文と連弧文もしくは連続山形文（連続山形文の可能性があるものを含む）の組み合わせを主体とし、連弧文や連続山形文には横位に半單位ずらして2段にわたり施文されるものがある（第360図-132・134）。この他に、口縁部に横位直線文が複数条施文されるもの（同図-142・143）や、口縁部内面にも横位直線文が施文されるものがある（同図-132・133・137・140・142・143）。外面の文様内には縄文や植物茎回転文が充填されるものの他に、雑な磨消縄文手法により文様内に地文を残すものも認められる（第360図-133・137）。装飾文様が施文されない体部上半やつまみ部には、縄文原体の回転施文や植物茎回転文の地文が施文されるものが大部分である。

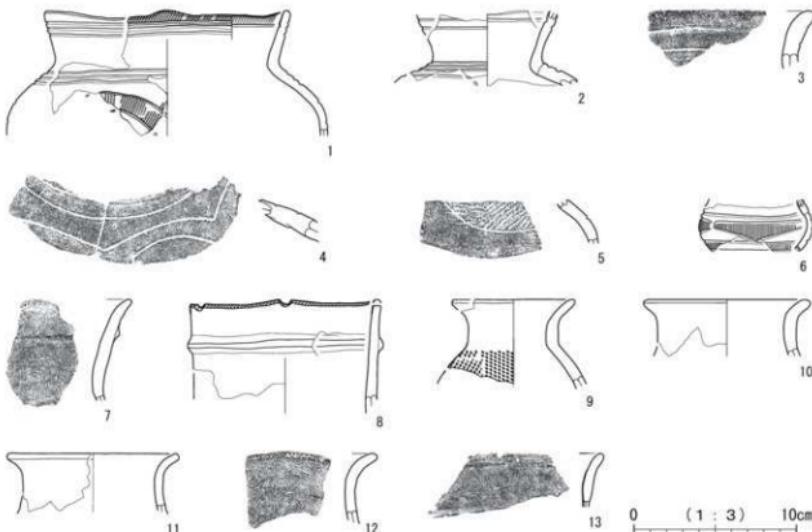
が、ナデ調整やミガキ調整のみが施される無文のものも多い(第361図-145・150・151)。

### ミニチュア土器(第361図)

第361図-156は外面全体がミガキ調整された後、体部中程に横位の沈線が施文される。内面はナデ調整される。

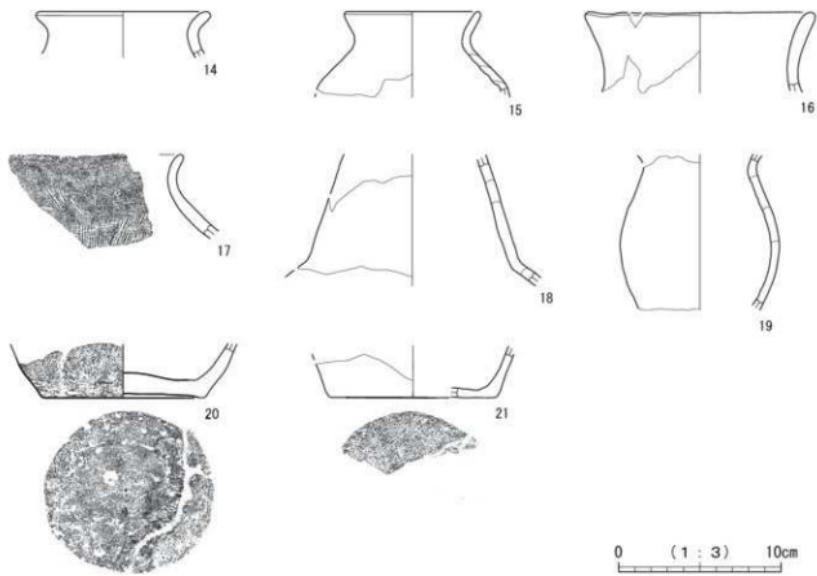
### 2) 土製品(第361図)

円盤状土器品の可能性がある弥生土器破片2点を掲載した。第361図-157は六角形、同図-158は隅丸長方形を呈し、外面にはLR繩文が回転施文される。



国版 番号	登録 番号	出土場所	種別	器種	基底	外面調整・文様	内面調整・文様	備考	写真 図版	
1	B-429	Pit248	堆積土	弥生土器	直	口縁 ～ 体上半	口縁→LR繩文(横位斜面) →沈線→LR繩文(横位直面) →(横位直面→第一横位)→椎骨直面 (横位直面→同心円文?)	口縁→LR繩文(横位斜面) →沈線→ミガキ(椎骨直面文)、 体上ガラス面	HfH(13.0) cm, JIS規格山形突起	139
2	B-419	SI127	堆積土	弥生土器	直	口縁 ～ 体上半	沈線→ミガキ (椎骨直面文・溝文?)	ミガキ	JIS規格上端矢矢	139
3	B-415	-	-	弥生土器	直	口縁 ～ 第二横位	ナデ	ナデ	139	
4	B-439	SI127	堆積土	弥生土器	直	体上半	沈線→LR繩文→沈線→ミガキ (椎骨直面文・溝文?)	ミガキ(直)	体内部輪輪模痕	139
5	B-438	SI99	床面	弥生土器	直	体上半	沈線→LR繩文→ミガキ (溝文?)	ヘラナデ	139	
6	B-449	SI99	床面	弥生土器	直	沈線→椎骨直面文(斜面)→ミガキ (椎骨直面文・溝文?)	ナデ	外延毛急削付有、 内面滑らか	139	
7	B-390	SI133	堆積土	弥生土器	直	口縁 ～ 直上端	直上端: 椎骨直面斜面 ～直上端: 椎骨直面斜面	ミガキ(直)	溝帶面直毛二角	139
8	B-388	SI119	脚付	弥生土器	直	口縁 ～ 直上端	口縁: 山形分岐頭面(削み、LR繩文横位斜面) 直上端: 椎骨直面斜面	ミナデ ～(直上端: 椎骨直面斜面) ミガキ(直)	HfH(11.6) cm, JIS規格山形突起5単位。 溝帶面直毛二角	139
9	B-397	-	-	弥生土器	直	口縁 ～ 体上半	口縁→LR繩文(横位斜面) ～(直上端: 椎骨直面)	ミガキ(直) 体ナデ	HfH(7.2) cm	139
10	B-403	SI109	堆積土	弥生土器	直	口縁 ～ ナデ	ミガキ(直)	HfH(9.9) cm	139	
11	B-404	-	-	弥生土器	直	口縁 ～ 直上端	口縁→LR繩文(横位斜面) ～直上端: ミガキ	ミガキ	HfH(10.4) cm	139
12	B-405	-	-	弥生土器	直	口縁 ～ 直上端	口縁→LR繩文(横位斜面) ～直上端: ミガキ	ミガキ(直)	139	
13	B-412	SI127	堆積土	弥生土器	直	口縁 ～ 直上端	直上端ミガキ	ミガキ(直)	139	

第349図 その他の出土遺物(1)



回収 番号	登録 番号	出土遺構	種別	器種	部位	外面調査・文様	内面調査・文様	備考	写真 図版
14	B-402	-	-	陶生土器	壺	口縁 -側	ヨコナナフ	ミガキ	直径(10.3) cm. 内外面劣化
15	B-394	-	-	陶生土器	壺	口縁~ 体上手	ミガキ	ミガキ	直径(8.0) cm. 全体内面輪郭み直
16	B-409	Pt148	堆積土	陶生土器	壺?	口縁 -側	輪郭ミガキ	ミガキ	直径(13.8) cm
17	B-432	-	-	陶生土器	壺	口縁~ 体上端	体上端・植物茎葉模文横位・斜位斜板 -口縫付ミガキ	ミガキ	
18	B-037	-	-	陶生土器	壺?	第一 体上端	輪郭ミガキ 体上端 横位ミガキ	ミガキ(粗)	
19	B-455	-	-	陶生土器	壺?	第一 体下手	輪郭ミガキ 体-ナデ	体部内面輪郭み直	139
20	B-365	-	-	陶生土器	壺?	体下手 -底 底-本葉模-ナナフ	(粗)	直径(10.0) cm. 底部内外面沿い付着物有	140
21	B-385	-	-	陶生土器	壺?	体下手 -底 底-織布痕-ナナフ	ミガキ	直径(10.2) cm	140

第350図 その他の出土遺物(2)



22

23

24



25

26

27



28

29

30



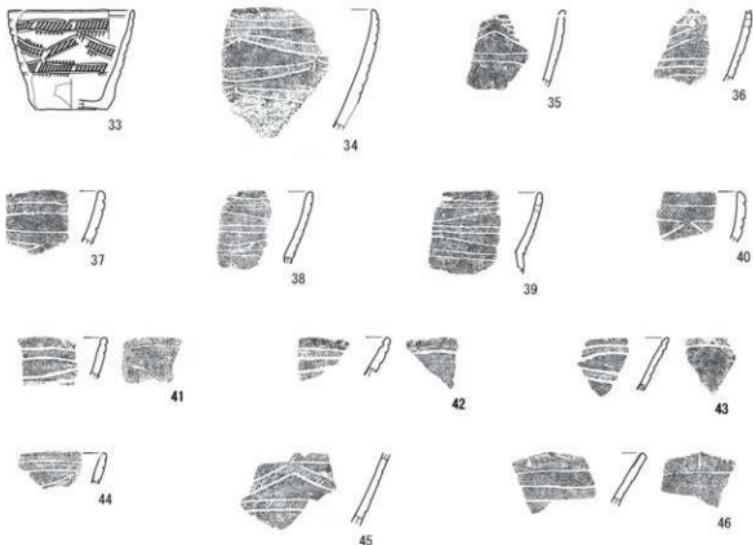
31

32

0 (1 : 3) 10cm

回収 番号	登録 番号	出土遺構	種別	器種	部位	外面調査・文様	内部調査・文様	備 考	写真 回数	
22	B-072	SII3	I層	衛生土器	高环	I層～ II層上半 体上半	沈縞→LR横文斜線斜転→±ガホ (横分直縞文・透底文?)	沈縞→±ガホ (横分直縞文)	II層基部山形突起、内外面劣化	140
23	B-050	SII4	堆積土	衛生土器	高环	I層～ II層 体上半	沈縞→植物葉斜縞文 沈縞→±ガホ (横分直縞文・透底文?)	沈縞→±ガホ (横分直縞文)	II層基部山形突起	140
24	B-087	SII5	堆積土	衛生土器	高环	I層～ II層上半 体上半	沈縞→LR横文→沈縞→±ガホ 沈縞→±ガホ (横分直縞文・透底文)	沈縞→±ガホ (横分直縞文)	II層基部山形突起	140
25	B-084	SII9	未記	衛生土器	高环	I層～ II層上半 体上半	沈縞→植物葉斜縞文→±ガホ (横分直縞文・透底文)	±ガホ		140
26	B-077	SII26	堆積土	衛生土器	高环?	I層～ II層 体上半	沈縞→LR横文→±ガホ (横分直縞文・透底文?)	沈縞→±ガホ (横分直縞文)	外側劣化	140
27	B-066	-	-	衛生土器	高环	I層～ II層上半 体上半	沈縞→植物葉斜縞文→花輪→±ガホ (横分直縞文・透底文)	沈縞→±ガホ (横分直縞文)	内外面劣化	140
28	B-090	SD59	堆積土	衛生土器	高环	I層～ II層上半 体上半	II層及横文規格回転。 I～II層上半→沈縞→LR横文 II層上半→±ガホ (方彌文)	沈縞→II層横文規格回転 →±ガホ→横分直縞→±ガホ (横分直縞文)	II層基部山形突起	140
29	B-051	Pn1302	堆積土	衛生土器	脚	沈縞→植物葉斜縞文 (横分直縞文・透底文)	ナシ	外側二次加熱痕	140	
30	B-075	SII8	堆積土	衛生土器	高环	沈縞→II層下→花輪 →±ガホ→±ガホ	ナシ		140	
31	B-053	SII9	脚力	衛生土器	高环	沈縞→±ガホ→赤彩? (横分直縞文)	(±ガホ(粗))	瓦底内に赤彩残存	140	
32	B-056	-	-	衛生土器	高环	沈縞→LR横文 →沈縞(横食→横位)→±ガホ (方彌文)	ナシ(粗)	新端部欠失	140	

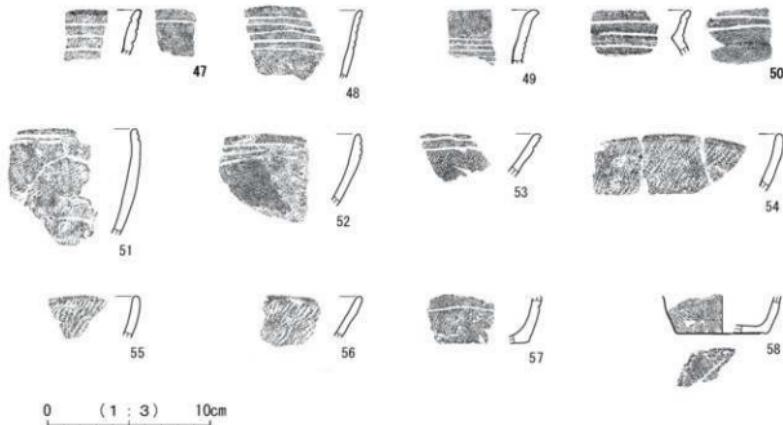
第351図 その他の出土遺物(3)



0 (1 : 3) 10cm

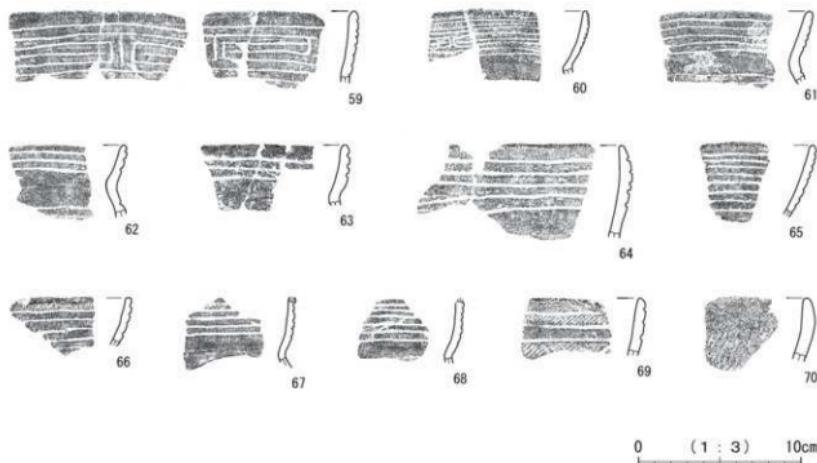
回収番号	登録番号	出土遺物	種別	器種	部位	外面調整・文様	内部調整・文様	備考	写真回数
33	B-063	-	-	陶生土器	鉢	口縁～ 体上半	△縦～沈縦→△ガラ(横) →沈縦+十字 →横筋直縦(山形文)	△ガラ(横) (横筋直縦文)	△口(7.8) cm. 底径(4.8) cm. 高さ6.2 cm
34	B-065	-	-	陶生土器	鉢	口縁～ 体上半	△縦～植物葉形(横文) →横筋直縦→△ガラ(横) (横筋直縦文+横文)	△ガラ(横)	外面二次加熱による火ハネ
35	B-067	SH107	堆積土	陶生土器	鉢	口縁～ 体上半	△縦～△ガラ △縦～△ガラ(横文)	△ガラ(横)	口縫部上端欠失
36	B-109	-	-	陶生土器	鉢	口縁～ 体上半	△縦～△ガラ(横文+山形文) △縦～△ガラ(横文+横文)	不明	△縫部上端欠失。 △縫部穿孔(焼成前、内→外)。 内面黒化
37	B-070	SH199	床面	陶生土器	鉢	口縁～ 体上半	△縦～植物葉形(横文+山形文) (横筋直縦文+横文)	△ガラ	
38	B-047	SH184	用織土	陶生土器	鉢?	口縁～ 体上端	△縦～植物葉形(横文+山形文) △縦～△ガラ(横文+植物葉形(横文))	△ガラ	B-062と同一個体。 △縫部穿孔(焼成前、内→外)。 △縫部(可能性有)
39	B-062	SH127	堆積土	陶生土器	鉢?	口縁～ 体上端	△縦～植物葉形(横文+山形文) △縦～△ガラ(横文+山形文)	△ガラ	B-062と同一個体。 △縫部穿孔(焼成前、内→外)。 △縫部(可能性有)
40	B-069	SH109	2冠	陶生土器	鉢	口縁～ 体上半	△縦～△ガラ(横文+山形文) △縦～△ガラ(横文+横文)	△ガラ	
41	B-081	SD66	6冠	陶生土器	鉢	口縁～ 体上半	△縦～△ガラ(横文+山形文)	△ガラ(横文)	
42	B-049	SH199	床面	陶生土器	鉢	口縁～ 体上半	△縦～△ガラ(横文+山形文)	△ガラ(横文)	
43	B-200	SD66	堆積土	陶生土器	鉢?	口縁～ 体上半	△縦～植物葉形(横文) △縦～△ガラ(横文+山形文)	△ガラ(横文+山形文)	△縫部内外黒化。 蓋の可能性有
44	B-083	SH199	削溝	陶生土器	鉢	口縁～ 体上半	△縦～植物葉形(横文) △縦～△ガラ(横文+山形文)	△ガラ	
45	B-110	SD59	堆積土	陶生土器	鉢	体上半	△縦～△ガラ(横文+山形文) △縦～△ガラ(横文+山形文)	ナシ	
46	B-066	SH113	脚付	陶生土器	鉢	口縁～ 体上半	△縦～植物葉形(横文+山形文) →横筋直縦→植物葉形(横文) △縦～△ガラ(横文+山形文)	△縫部山形突起 (横筋直縦文)	△縫部山形突起

第352図 その他の出土遺物(4)



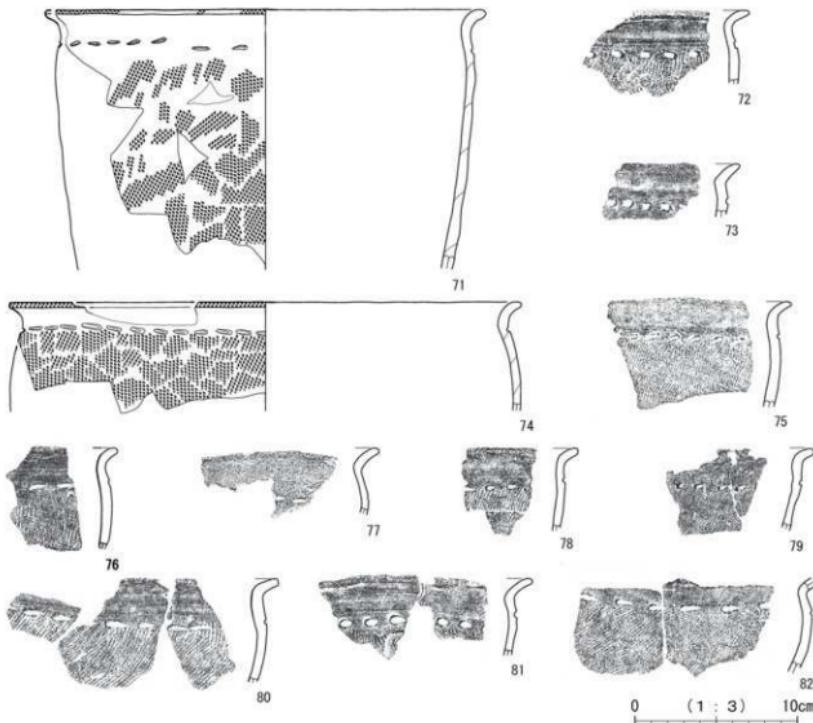
国版 番号	登録 番号	出土遺物	種別	器種	部位	外面調査-文様	内面調査-文様	備考	写真 国版
47	B-091	SH13	埴塗土	陶生土器	蹄	口縁- 体上半 体上半	口縁:植物多角輪文。 口縁-体上半:沈繩?, 体上半:斜線文(斜線直繩文)	口縁:沈繩→1ガ年(側) (側又直繩文)	140
48	B-088	SH90B	埴塗土	陶生土器	蹄	口縁- 体上半 体上半	口縁:植物葉輪文→1ガ年, 体上半:植物葉輪文(斜線), (斜線直繩文)	1ガ年(粗)	140
49	B-059	SD42	埴塗土	陶生土器	蹄	口縁- 体上半 体上半	口縁:沈繩(横位直繩文)	不明	内外面変化
50	B-424	SH15B	埴塗土	陶生土器	蹄or壺	口縁- 体上半 体上半	口縁:沈繩→1ガ年 (横位直繩文)	11.沈繩→1ガ年 (横位直繩文)	140
51	B-100	-	-	陶生土器	蹄	口縁- 体上半 体上半	口縁:植物直繩文, 体上半:植物葉輪文→斜位斜板	ナガ→1ガ年(粗)	140
52	B-096	-	-	陶生土器	蹄	口縁- 体上半 体上半	口縁:植物葉輪文(粗) (横位直繩文)	1ガ年	140
53	B-190	SH119	掘り方	陶生土器	蹄	口縁- 体上半 体上半	体上半:口縁:文様位斜板 →11.沈繩→1ガ年 (横位直繩文)	横位1ガ年	141
54	B-101	SD42	埴塗土	陶生土器	蹄or壺	口縁- 体上半	口縁:植物直繩文 体上半:LR繩文横位斜板	ナガ→1ガ年	141
55	B-103	-	-	陶生土器	蹄	口縁- 体上半	LR繩文横位斜板	1ガ年	141
56	B-104	SH115B	埴塗土	陶生土器	蹄	口縁- 体上半	ナガ→LR繩文横位斜板	1ガ年	141
57	B-117	SD115A	埴塗土	陶生土器	蹄?	体下半- 底?	体下半:沈繩→LR繩文横位斜板 →11.沈繩→1ガ年(横位直繩文)?, 底部:木質物→1ガ年(粗)	1ガ年	141
58	B-135	SH99	埴塗土	陶生土器	蹄?	体下半- 底?	体下半:植物葉輪文斜位斜板。 底:木質物	底径(5.5)cm. 体外部赤色顔料付着	141

第353図 その他の出土遺物(5)



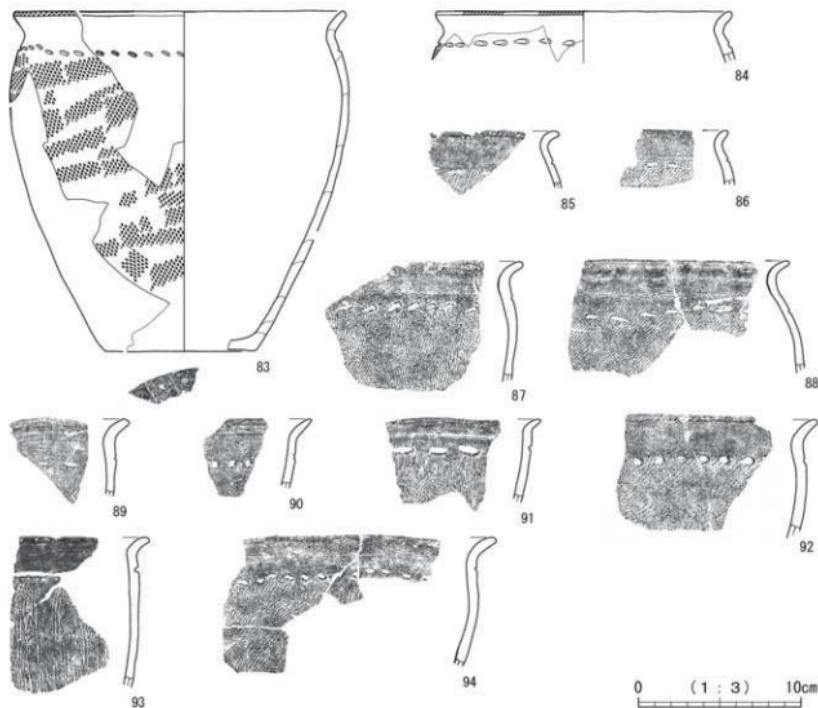
図版 番号	登録 番号	出土遺物	種別	器種	部位	外面調査・文様	内面調査・文様	備 考	写真 回数
59	B-092	SI66	Ia型	弦生土器	深鉢	口縁	沈縞(横位→縱位)→1ガキ	1ガキ	141
60	B-322	-	II型	弦生土器	深鉢	口縁～ 鉢上端	1.沈縞(横位→縱位)→1ガキ 2.沈縞(横位→縱位)→方形文	横位1ガキ(密)	141
61	B-420	SI83	床面	弦生土器	深鉢?	口縁	沈縞(横位→縱位)→1ガキ、赤彩?	横位1ガキ(密)	141
62	B-421	SI89	I型	弦生土器	深鉢	口縁～ 鉢上端	沈縞(横位→1ガキ 2.沈縞(横位→1ガキ)	不明	内外面二次加熱痕
63	B-422	SI103B	角植土	弦生土器	深鉢	口縁	沈縞(横位→1ガキ 2.沈縞(横位→1ガキ)	不明	内外面二次加熱痕
64	B-093	SI107	角植土	弦生土器	深鉢	口縁～ 鉢上端	1.口上横文(横位斜軸) 2.沈縞(横位→1ガキ(粗)) (横位直縞文)	横位1ガキ(粗)	141
65	B-326	SI99	2型	弦生土器	深鉢	口縁	沈縞→1ガキ(横位直縞文)	横位1ガキ(密)	141
66	B-055	SI106	P2	弦生土器	深鉢?	口縁	沈縞→LR横位回転→1ガキ (横位直縞文)	1ガキ(粗)	141
67	B-340	-	II型	弦生土器	深鉢	口縁～ 鉢上端	沈縞→1ガキ (横位直縞文)	横位1ガキ	1.口上横文失 2.B-339と同一個体の可能性有
68	B-339	SI90B	22型	弦生土器	深鉢	口縁～ 鉢上端	沈縞→1ガキ (横位直縞文)	横位1ガキ	1.口上横文失 2.B-340と同一個体の可能性有
69	B-089	SI92B	角植土	弦生土器	深鉢	口縁	沈縞→LR横位→1ガキ (横位直縞文)	ナデ→横位1ガキ	内面化物付着
70	B-102	SI42	角植土	弦生土器	深鉢	口縁	口上横文横位回転	不明	内外面変化

第354図 その他の出土遺物(6)



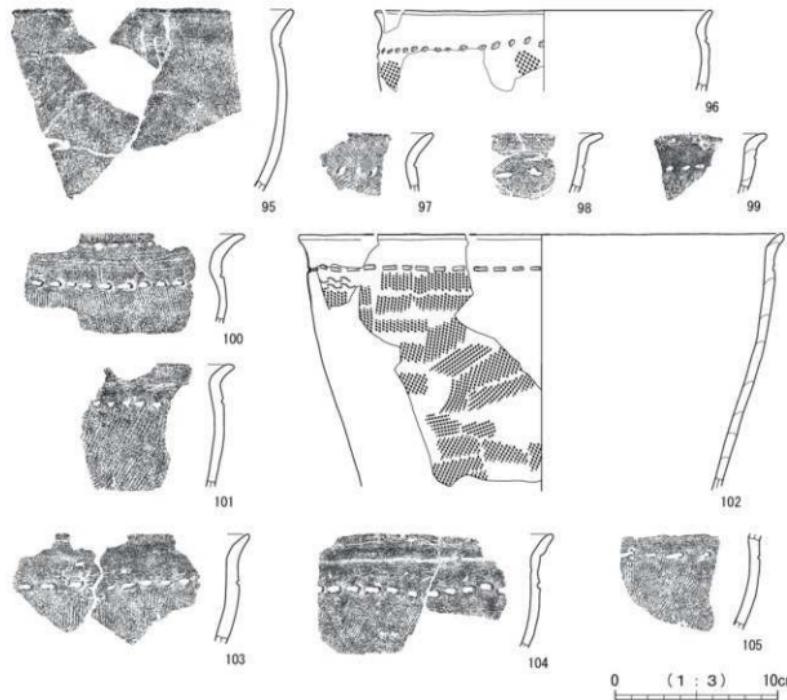
国版 番号	登録 番号	出土遺物	種別	器種	部位	外表面調査-文様	内面調査-文様	備 考	写真 回数
71	B-309	-	-	陶生土器	甕	I1:ヨコナメ→体-縦肋ハケヌ →体上端-体上縁文様付斜肋 →体上端-体上縫(右引左左→右)	Iガサ	外表面化物付着	141
72	B-254	SH126	-	陶生土器	甕	I1:ヨコナメ→体-縦肋文様付斜肋 →体上端-体上縫(右引左左→右)	横位ヒガサ	外表面二次加熱痕	141
73	B-274	-	-	陶生土器	甕	I1:ヨコナメ I1:ヨコナメ→体-縦肋文様付斜肋 →体上端-体上縫(右引左左→右)	横位ヒガサ	外表面化物付着	141
74	B-318	-	-	陶生土器	甕	I1:ヨコナメ I1:ヨコナメ→体-縦肋文様付斜肋 →体上端-体上縫(右引左左→右)	横位ヒガサ	外表面化物付着	142
75	B-263	S88	撫刀	陶生土器	甕	I1:ヨコナメ I1:ヨコナメ→体-縦肋文様付斜肋 →体上端-体上縫(右引左左→右)	横位ヒガサ	外表面及び 内面化物付着	142
76	B-213	SH127	埴生土	陶生土器	甕	I1:ヨコナメ I1:ヨコナメ→体-縦肋文様付斜肋 →体上端-体上縫(右引左左→右)	横位ヒガサ(直)	外表面化物付着	142
77	B-269	-	-	陶生土器	甕	I1:ヨコナメ I1:ヨコナメ→体-縦肋文様付斜肋 →体上端-体上縫(右引左左→右)	横位ヒガサ	外表面化物付着	142
78	B-276	SH108	埴生土	陶生土器	甕	I1:ヨコナメ I1:ヨコナメ→体-縦肋文様付斜肋 →体上端-体上縫(右引左左)	横位ヒガサ	外表面化物付着	142
79	B-243	S199	床面	陶生土器	甕	I1:ヨコナメ I1:ヨコナメ→体-縦肋文様付斜肋 →体上端-体上縫(右引左左)	Iガサ	外表面化物付着	142
80	B-264	-	-	陶生土器	甕	I1:ヨコナメ I1:ヨコナメ→体-縦肋文様付斜肋 →体上端-体上縫(右引左左)	横位ヒガサ	外表面化物付着	142
81	B-287	S180	埴生土	陶生土器	甕	I1:ヨコナメ I1:ヨコナメ→体-縦肋文様付斜肋 →体上端-体上縫(右引左左)	横位ヒガサ	外表面二次加熱痕	142
82	B-333	S190	埴生土	陶生土器	甕	I1:ヨコナメ I1:ヨコナメ→体-縦肋文様付斜肋 →体上端-体上縫(右引左左)	Iガサ	外表面半消失, 内面化物付着	142

第355図 その他の出土遺物(7)



出典 番号	登録 番号	出土遺物	種別	器種	部位	外觀調整文様	内面調整文様	備考	写真 回数	
83	B-311	SH96	輪印方	弦生土器	裏	口縁～ 体上半 ～ 底	1.ヨコフサ →1.円・体上部織文横斜回転 →体上縁・円点刺突(押し込、左→右)。 或 側面凹凸等。	横段ミガキ	1.目付(20.8)cm、底径(8.8) cm、 高さ20.9cm。 底面は側面後、外→内、 1.円部劣化	142
84	B-215	SH82	下縁	弦生土器	裏	口縁～ 体上半	1.ヨコフサ→1.円・体上部織文横斜回転 →体上縁・円点刺突(右→左)。	横段ミガキ	1.目付18.0cm	142
85	B-262	SH86	輪印方	弦生土器	裏	口縁～ 体上半	1.ヨコフサ→1.円・体上部織文横斜回転 →体上縁・円点刺突(押し込、左→右)。	横段ミガキ(密)		142
86	B-210	SH115A	堆積土	弦生土器	裏	口縁～ 体上半	1.ヨコフサ→1.円・体上部織文横斜回転 →体上縁・円点刺突(押し込、左→右)。	横段ミガキ(密)		142
87	B-212	SH83	堆積土	弦生土器	裏	口縁～ 体上半	1.ヨコフサ→1.円・体上部織文横斜回転 →体上縁・円点刺突(右→左)。	横段ミガキ	全体内部灰化物付着	142
88	B-211	SH99	輪印方	弦生土器	裏	口縁～ 体上半	1.ヨコフサ→1.円・体上部織文横斜回転 →体上縁・円点刺突(右→左)。	横段ミガキ		142
89	B-228	SH88	堆積土	弦生土器	裏	口縁～ 体上半	1.ヨコフサ→1.円・体上縁・円点刺突(押し込、左→右)。	横段ミガキ		142
90	B-246	-	-	弦生土器	裏	口縁～ 体上半	1.ヨコフサ →1.円・体・植物葉回転文様位回転 →体上縁・円点刺突(押し込、左→右)。	横段ミガキ		142
91	B-207	SH13	堆積土	弦生土器	裏	口縁～ 体上半	1.ヨコフサ→1.円・ハナテ →1.円・体上縁・円点刺突(右→左)。	横段ミガキ		143
92	B-251	-	-	弦生土器	裏	口縁～ 体上半	1.ヨコフサ→1.円・体上部織文横斜回転 →体上縁・円点刺突(押し込、左→右)。	横段ミガキ		143
93	B-258	SH9-P15	堆積土	弦生土器	裏	口縁～ 体上半	1.ヨコフサ→1.円・底段ハナテ →1.円・体上縁・円点刺突(押し込、左→右)。	1.ヨコフサ →体・底段ミガキ	B-0015同一個体	143
94	B-233	SH96	輪印方	弦生土器	裏	口縁～ 体上半	1.ヨコフサ →1.円・体上部織文横斜回転 →体上縁・円点刺突(押し込、左→右)。	横段ミガキ		143

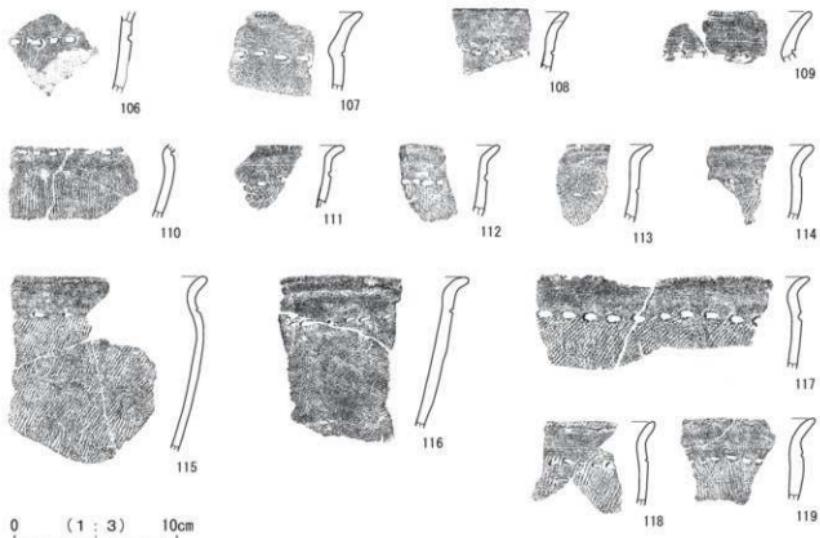
第356図 その他の出土遺物(8)



0 (1 : 3) 10cm

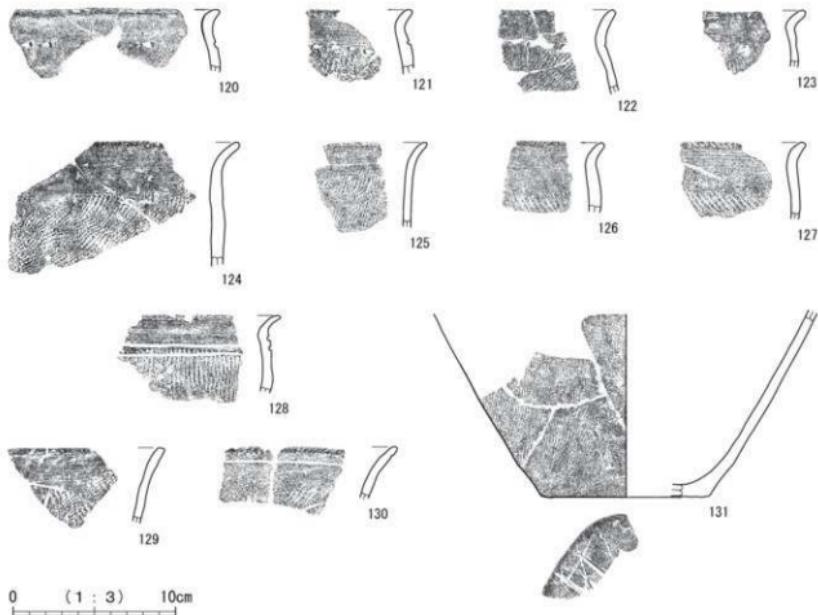
国版 番号	登録 番号	出土遺物	種別	器種	部位	外観調整-文様	内面調整-文様	備考	写真 写真 部
95	B-313	-	-	陶	口縁上半 体上半	I:コマチ II:植物茎葉回転文様位相転 →体・植物茎葉回転文様(左→右) →体上端・別点刺突(印)(左→右)	横段ミガキ	外面劣化	143
96	B-232	S89	網の刃	陶生土器	口縁一 体上半	I:コマチ→I:波文調文様位相転 →体上端・別点刺突(印)(左→右)	横段ミガキ	I:波(20.4) cm	143
97	B-250	SH126	角鏡土	陶生土器	口縁一 体上半	I:コマチ→I:波文調文様位相転 →体上端・別点刺突(印)(左→右)	横段ミガキ		143
98	B-239	SK73	角鏡土	陶生土器	口縁一 体上半	I:コマチ →体・植物茎葉回転文様位相転 →別点刺突(左→右)	横段ミガキ		143
99	B-240	SA5	角鏡土	陶	口縁一 体上半	I:コマチ →I:波・体上端・模様位相転 →体上端・別点刺突(左→右)	横段ミガキ	I:波部内外面灰化物付着、 外面劣化	143
100	B-265	SD42	角鏡土	陶	口縁一 体上半 体上半	I:コマチ→I:波・模様位相転; 体・植物茎葉回転文様位相転 →体上端・別点刺突(左→右)	横段ミガキ(密)		143
101	B-234	SH13	角鏡土	陶生土器	口縁一 体上半	I:コマチ→I:波文調文様位相転 →体上端・別点刺突(左→右)	横段ミガキ		143
102	B-316	SH127	角鏡土	陶生土器	口縁一 体上半	I:コマチ→I:波文調文様位相転 →体上端・別点刺突(印)(左→右)	横段ミガキ(密)	I:波(29.8) cm	143
103	B-263	SH12	筒講	陶生土器	口縁一 体上半	I:コマチ・体・植物茎葉回転文様位相転 →体上端・別点刺突(印)(左→右)	横段ミガキ	外面二次加熱痕	143
104	B-221	-	陶生土器	陶	口縁一 体上半	I:コマチ→I:波文調文様位相転 →体上端・別点刺突(印)(左→右)	ミガキ	内面二次加熱痕	143
105	B-334	SD121	床面	陶生土器	口縁一 体上半	I:コマチ→I:波文調文様位相転 →体上端・別点刺突(印)(左→右)	ミガキ	I:波部予欠失、 内外面灰化物付着	143

第357図 その他の出土遺物(9)



出典 番号	登録 番号	出土遺物	種別	器種	部位	外面調整・文様	内面調整・文様	備 考	写真 図版	
106	B-335	SI127	堆積土	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナメ～体上縁文斜位回転 →体上縁・列点刺突(押し出し左→右)	横位ミガキ	口縫部上半消失	143
107	B-268	SM140	灰面	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナメ～(口縁・体上縁文斜位回転) →体上縁・列点刺突(左→右)	横位ミガキ(密)		143
108	B-231	SH129	灰面	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口縁不明、口ヨコナメ →体上縁・列点刺突(左→右)	不明	内面輪郭み細、 外表面変化	143
109	B-260	SD66	7層	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナメ～(口縁・体上縁文斜位回転) →体上縁・列点刺突(右)	横位ミガキ		143
110	B-237	SI131	堆積土	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナメ～(口縁・体上縁文斜位回転) →体上縁・列点刺突(右)	横位ミガキ(密)	口縫部上半消失、 外表面変化付着	143
111	B-247	-	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナメ～(口縁・体上縁文斜位回転) →体上縁・列点刺突(右→左)	横位ミガキ		144	
112	B-219	SI113	堆積	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナメ～(口縁・体上縁文斜位回転) →体上縁・列点刺突(右→左)	ミガキ	外表面変化	144
113	B-288	SD62	堆積土	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナメ～(口縁・体上縁文斜位回転) →体上縁・列点刺突(右→左)	横位ミガキ(密)		144
114	B-245	-	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナメ～(口縁・体上縁文斜位回転) →体上縁・列点刺突(右)	横位ミガキ		144	
115	B-280	SH108	堆積土	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナメ～(口縁・体上縁文斜位回転) →体上縁・列点刺突(右→左)	横位ミガキ		144
116	B-205	-	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナメ～(口縁・体上縁文斜位回転) →体上縁・列点刺突(右→左)	横位ミガキ(密)	内面口縫部黒色化、 内面底部変化付着	144	
117	B-306	-	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口縁不明、口ヨコナメ →体上縁文斜位回転 →体上縁・列点刺突(右→左)	横位ミガキ	口縫部変化	144	
118	B-261	SH118	糊の方	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナメ～(口縁・体上縁文斜位回転) →体上縁・列点刺突(右)	横位ミガキ(密)		144
119	B-230	SB5B	堆積土	陶生土器	甕	口縁～ 体上半	口ヨコナメ～(口縁・体上縁文斜位回転) →体上縁・列点刺突(右→左)	ミガキ	内面変化	144

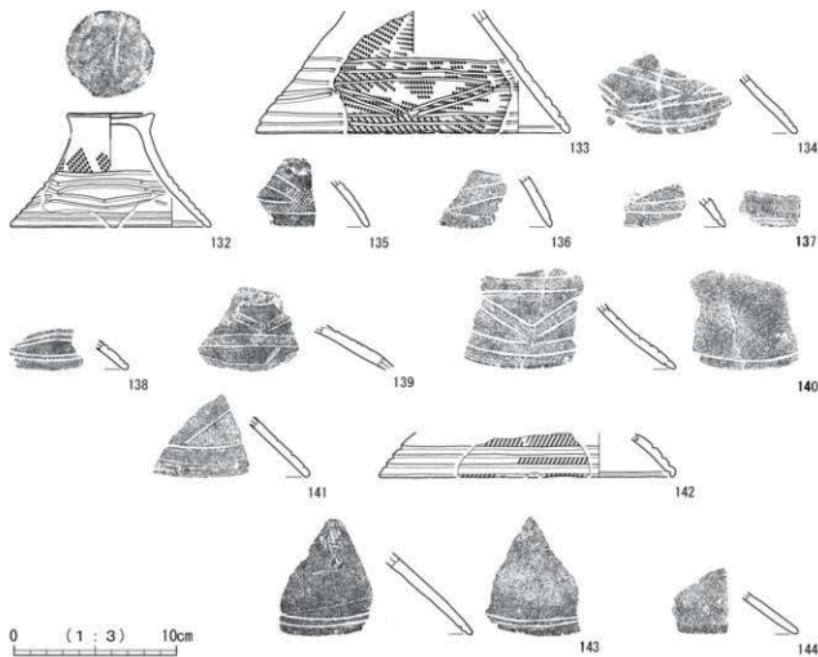
第358図 その他の出土遺物(10)



0 (1 : 3) 10cm

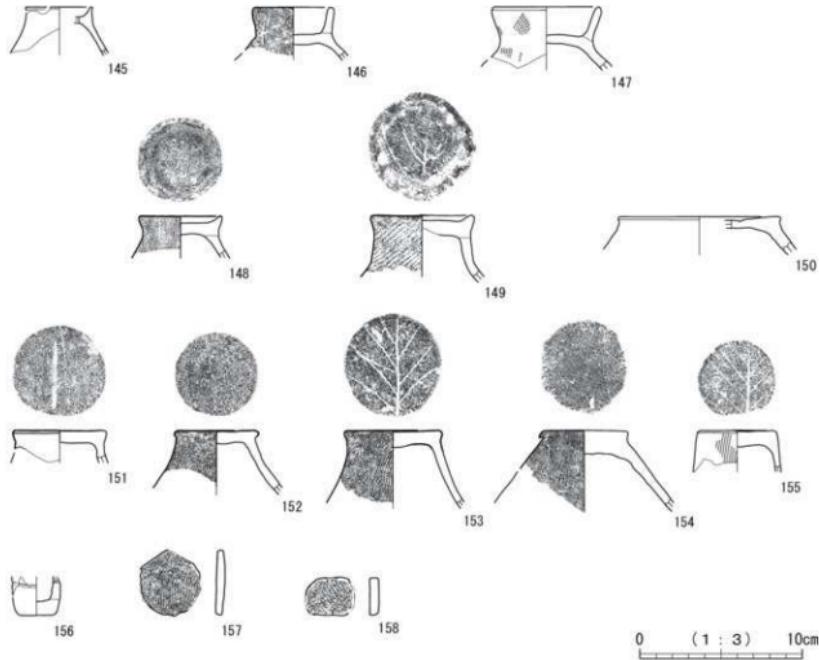
国名 登録 番号	出土 遺構	種別	器種	部位	外面調査-文様	内面調査-文様	備考	写真 図版
120 B-255	S09	堆积土	陶生土器	裏 体上半	口:ヨコナメ→体上端文様凹削低 →体上端・窓点刺突(左→右)	横位立ガキ		144
121 B-236	-	-	陶生土器	裏 体上半	口:ヨコナメ→体上端文様凹削低 →体上端・窓点刺突(左→左)	立ガキ		144
122 B-214	-	-	陶生土器	裏 体上半	口:ヨコナメ→ハケメ→凹窓文様凹削低 →体上端・窓点刺突(右→左)	立ガキ		144
123 B-295	Pt1302	-	陶生土器	裏 体上半	口:不明→ヨコナメ →体上端文様凹削低,口:ヨコナメ	横位立ガキ	外面一部剥離	144
124 B-291	Pt1113	堆积土	陶生土器	裏 体上半	口:ヨコナメ →体上端文様凹削低	横位立ガキ	外面化物付着,口唇部劣化	144
125 B-061	-	-	陶生土器	裏 体上半	口:ヨコナメ →口沿・体上端文様凹削低	横位立ガキ		144
126 B-296	SK79	堆积土	陶生土器	裏 体上半	口:ヨコナメ→ハケメ→口:ヨコナメ→落・斜位ハケメ	横位立ガキ	ハケメは筋状施文具, B-299と同一直体	144
127 B-299	-	-	陶生土器	裏 体上半	口:ヨコナメ→ヨコナメ→落・斜位ハケメ	横位立ガキ	ハケメは筋状施文具, B-296と同一直体	144
128 B-302	-	-	陶生土器	裏 体上半	口:ヨコナメ→体上端文様凹削低, 口:ヨコナメ,窓点刺突(横位直窓文)	立ガキ(縦)		144
129 B-293	S088	掘り方	陶生土器	裏 体上半	口:ヨコナメ →体上端・窓点刺突	口:ヨコナメ →口沿・体上端文様凹削低	窓状口縫?, 深縫の可能性有	144
130 B-301	-	-	陶生土器	裏 体上半	口:ヨコナメ,沈窓? →口沿・体上端文様凹削低	横位立ガキ(縦)	元縫?は堅形狀の可能性大	144
131 B-351	SD66	4層	陶生土器	裏?	体下半 底 底下端 底	体下半・口沿文様凹削低 →体下端・横位立ガキ, 底,本窓張	底径(10.0)cm, 外周二次加熱帯, 底部孔(焼成窓)の可能性有	144

第359図 その他の出土遺物(11)



図版番号	登録番号	出土遺構	種別	器種	部位	外面調整文様	内部調整文様	備考	写真図版
132	B-157	SH9	埋藏土器	壺	天井 体下半 口縁	天井 体上半(横文彫り・斜面斜板、 体下一半(横文彫り・L字彫文・ 斜面斜板)	口:沈縫→1ガリ (横文直縫文)	口:12.2cm、 天井部径5.2cm、 底径7.0cm 内面黒化	145
133	B-176	SH19	側面	埋生土器	壺手 口縁	壺手半 →口縁	沈縫→1ガリ →口縫直縫文・連弧文(横文直縫文)	口:沈縫→1ガリ (横文直縫文)	145
134	B-185	SD66	4a層	埋生土器	壺	体下半 口縁	沈縫→L字彫文→1ガリ (横文直縫文・連弧山形文)	1ガリ	145
135	B-187	SB9-P11	埋藏土器	壺	体下半 口縁	沈縫→L字彫文→1ガリ (横文直縫文・連弧山形文)	1ガリ	145	
136	B-080	Pit1111	埋藏土器	壺?	体下半 口縁	沈縫→植物葉形彫文→1ガリ (横文直縫文・連弧山形文)	1ガリ(粗)		145
137	B-071	SD72	埋藏土器	壺	体下半 口縁	体下半→口縫直縫斜板→沈縫 →口縫直縫文・連弧文(横文直縫文)	口:沈縫→1ガリ (横文直縫文)	145	
138	B-192	SH15A	埋藏土器	壺	体下半 口縁	沈縫斜板→沈縫 →口縫直縫文・連弧山形文(横文直縫文・連弧山形文)	1ガリ	145	
139	B-203	SD69	埋藏土器	壺	体下半 口縁	沈縫→植物葉形彫文 沈縫→L字彫文→沈縫→1ガリ (横文直縫文・連弧山形文)	横拉ミガリ(密)	145	
140	B-180	SB9-P16	埋藏土器	壺	体下半 口縁	体下半→沈縫→1ガリ (横文直縫文・連弧山形文)	口:沈縫→1ガリ(密) (横文直縫文)	内外面:145	
141	B-048	SH15A	埋藏土器	壺?	体下半 口縁	沈縫→L字彫文→沈縫→1ガリ (横文直縫文・連弧山形文)	1ガリ(粗)	145	
142	B-177	SH9	床面	埋生土器	壺?	沈縫	沈縫→1ガリ (横文直縫文)	口:18.2cm、 内面黒化	145
143	B-203	SH132	陶隠	埋生土器	壺	体下半 口縁	ハナメ→1:沈縫→1ガリ (横文直縫文)	145	
144	B-195	SH9	床面	埋生土器	壺	体下半 口縁	沈縫斜板	145	

第360図 その他の出土遺物(12)



固版 番号	登録 番号	出土遺構	種別	器種	部位	外面調整-文様	内面調整-文様	備 考	写真 回数	
145	B-161	SD42	堆積土	陶生土器	蓋	つまみ 一体上半	つまみ 体上半: Lガキ	つまみ: ナデ, 体: Lガキ	つまみ: 頂径(4.0) cm Lガキ	145
146	B-153	S99	掘り方	陶生土器	蓋	つまみ 一体上半	LR調文模様・斜位回転	つまみ: ナデ(瓶), 体: Lガキ(瓶)	つまみ: 頂径(4.6) cm, 外周一次加熱痕	145
147	B-132	-	-	陶生土器	蓋	つまみ 一体上半	LR調文模様・斜位回転	つまみ: ナデ(瓶), 体: Lガキ(瓶)	つまみ: 頂径(6.4) cm, 外周一次加熱痕	145
148	B-159	SH16	堆積土	陶生土器	蓋	天井一 体上半	天井: 織布痕・本葉痕→ナデ, 体上半: 体上半: 勝手葉多回転文模様・斜位回転	天井: ナデ	天井部徑(4.9) cm	145
149	B-158	SH95B	村?	陶生土器	蓋	天井一 体上半	天井: 本葉痕→ナデ	天井部徑(6.2) cm, 天井部内面一部剥離	145	
150	B-143	Pt1284	-	陶生土器	蓋?	天井一 体上端	ナデ	天井部徑(9.6) cm, 内面剥離・内面化物付着, 内面斑状化物付着	145	
151	B-175	-	-	陶生土器	蓋	天井一 体上端	天井: 木葉痕→ナデ, 体上半: ナデ	天井部徑(5.6) cm, 外周一次加熱痕	145	
152	B-165	SD66	2層	陶生土器	蓋	天井一 体上半	天井: 木葉痕→ナデ, 体上半: ハマメ-LR調文模様・斜位回転	天井(瓶)	天井部徑(4.8) cm	145
153	B-164	Pt248	堆積土	陶生土器	蓋	天井一 体上半	天井: 木葉痕, 体上半: 体上半: LR調文模様・斜位回転	天井(瓶)	天井部徑(5.6) cm	145
154	B-136	Pt943	堆積土	陶生土器	蓋	天井一 体上半	天井: 織縫文等, 体上半: 勝手葉多回転文模様・斜位回転?	ナデ	天井部徑(4.6) cm, 外周充てん	145
155	B-170	SB9-P3	堆積土	陶生土器	蓋	天井一 体上半	天井: 勝手葉多回転文模様・斜位回転?	天井(瓶)	天井部徑(4.8) cm, 外周一次加熱痕	145
156	B-464	-	-	陶生土器	[ニチュア]	体一端	体: Lガキ→沈縫, 底: Lガキ	ナデ	底径2.0 cm	145
157	P-031	SB4	堆積土	土製品	[土製品?]	体	LR調文模様・斜位回転	不明	洋: 1.0 cm, 厚: 0.6 cm, 内面化物	145
158	P-032	-	-	土製品	[土製品?]	体	LR調文模様・斜位回転	天井(瓶)	径: 2.4 cm, 厚: 0.6 cm	145

第361図 その他の出土遺物(13)

b . 石器(第362～372図)

堅穴住居跡をはじめとする古代の遺構内堆積土及び現代の掠奪から出土した石器48点の資料を一括して掲載した。

1) 打製石器

石鏽

159～162はⅠ類A1種、163～166はⅠ類A2種、167～170はⅠ類B1種、171～174はⅠ類B2種、175はⅡ類B2種、176はⅠ類2種である。177～179は未成品である。159は先端部を欠損している。両面を平坦剥離で整形しており、側縁を入念に調整している。両面の中央の棱は器軸に沿っていない。断面形は身部が扁平な菱形で、基部は菱形を呈している。160は平坦剥離で周縁を調整しており、両面に素材剥片の剥離面を残している。断面形は身部が扁平な菱形で、基部は菱形を呈している。161は基部を欠損している。両面を平坦剥離で整形しており、側縁を入念に調整している。両面の中央の棱は器軸に沿っている。断面形は身部・基部共に菱形を呈している。162は基部を欠損している。両面を平坦剥離で整形しており、側縁を入念に調整している。両面の中央の棱は器軸に沿っていない。断面形は身部が扁平な菱形で、基部は菱形を呈している。163は基部を欠損しているが、推定される長さは2.5cm以上であり、A種とした。平坦剥離で周縁を調整しており、片面に素材剥片の剥離面を残している。断面形は身部が扁平な菱形で、基部は菱形を呈している。164は平坦剥離で周縁を調整しており、片面に素材剥片の剥離面を残している。断面形は身部が扁平な三角形で、基部は菱形を呈している。165は両面を平坦剥離で整形しており、側縁を入念に調整している。両面の中央の棱は器軸に沿っている。断面形は身部が扁平な菱形で、基部は菱形を呈している。166は基部を欠損しているが、推定される長さは2.5cm以上であり、A種とした。平坦剥離で周縁を調整しており、片面に素材剥片の剥離面を残している。断面形は身部が菱形を呈している。167は尖端部を欠損している。両面を平坦剥離で整形しており、側縁を入念に調整している。裏面に素材面をわずかに残す。両面の中央の棱は器軸に沿っていない。断面形は身部・基部共に菱形を呈している。168はスクリントーン部分が調整面とは異なりくすんだ状態であり、加熱処理が施されたものと考えられる。平坦剥離で周縁を調整しており、調整剥離面は光沢をもっている。片面に素材剥片の剥離面を残している。断面形は身部が凸レンズ状を呈している。169は平坦剥離で周縁を調整しており、片面に素材剥片の剥離面を残している。断面形は身部が凸レンズ状で、基部は菱形を呈している。170は両面を平坦剥離で整形しており、側縁を入念に調整している。両面の中央の棱は器軸に沿っていない。断面形は身部が扁平な菱形で、基部は三角形を呈している。171は平坦剥離で周縁を調整しており、両面に素材剥片の剥離面を残している。断面形は身部・基部共に五角形を呈している。172は両面を平坦剥離で整形しており、側縁を入念に調整している。両面の中央の棱は器軸に沿っていない。断面形は身部が扁平な菱形で、基部は菱形を呈している。尖端部を再加工している。173はスクリントーン部分が調整面とは異なりくすんだ状態であり、加熱処理が施されたものと考えられる。加熱処理後、平坦剥離で周縁を調整しており、光沢が見られる。片面に素材剥片の剥離面を残している。断面形は身部・基部共に凸レンズ状を呈している。174はスクリントーン部分が節理面を示している。平坦剥離で周縁を調整しており、両面に素材剥片の剥離面を残している。断面形は身部が凸レンズ状で、基部は菱形を呈している。175はアメリカ式石鏽である。基部両端及び先端部を欠損している。両面を平坦剥離で整形しており、側縁を入念に調整している。両面の中央の棱は器軸に沿っていない。断面形は身部・基部共に凸レンズ状を呈している。176は先端部を大きく欠損している。平坦剥離で周縁を調整しており、両面に素材剥片の剥離面を残している。断面形は身部が凸レンズ状で、基部は菱形を呈している。177～179は二次加工を周縁に施している。長さ2.0～3.4cmと石鏽の範疇に収まるものであり、製作途中に成品に仕上げるには不適合と判断され廃棄した失敗品と考えられる。177のスクリントーン部分は火ハネを示しているが、剥離面を切っていることから、加工後に生じたものである。石鏽に用いられている石材は、159～161・165・170・173・174は鉄石英、164・167・171・172・175・176・178・179は珪質頁岩、166・168・169・177は玉髓、163は流紋岩、162は瑪瑙で

ある。

#### 板状石器

180は残存刃部長6.7cmで、刃角68°～73°である。左側縁を欠損し、右側縁と上端縁は自然面である。181は残存刃部長3.4cmで、刃角76°～84°である。刃部は連続的な二次加工により形成している。裏面下端部には、わずかに光沢が認められる。左側縁は欠損し、右側縁は折損、上端縁は折り取り後、二次加工を施している。182は残存刃部長9.4cmで、刃角43°である。刃部にはスナップ剥離による剥離面が生じている。左右両側縁と上端縁は自然面である。板状石器に用いられている石材は、全て安山岩である。

#### 二次加工のある剥片

183～186はI類、187はII類、188～192はIII類である。183は打面部を欠損している。表面下端縁に連続的な二次加工を施している。184は裏面に自然面を残している。表面下端縁には連続的な二次加工が認められる。185は表面下端縁側に自然面を残している。186の網掛けスクリントーン部分は加熱範囲を示しており、黒変している。裏面上端縁のスクリントーン部分は火ハネを示している。187は表面に自然面を残している。剥片剥離工程の初期の剥片を素材としている。188は連続する二次加工を周縁に施している。表面には、自然面を残している。189は平坦剥離で周縁を調整しており、両面に素材剥片の剥離面を残している。スクリントーン部分は火ハネを示している。断面形は凸レンズ状を呈している。190のスクリントーン部分は加熱範囲を示している。加熱後、二次加工を周縁に施しており、剥離面には光沢が認められる。191は素材剥片の末端側に二次加工を施している。同一縁辺には微細剥離痕が認められる。192は打面部を加工している。上端縁にはツブレが見られ、周辺は二次加工が施されている。裏面に原石時の転石による潜在割れで生じたと考えられる円錐割れが認められる。二次加工のある剥片に用いられている石材は、183～185・187・189は流紋岩、186・191は珪化凝灰岩、188は玉髓、190は鉄石英、192は瑪瑙である。

#### 微細剥離痕のある剥片

193・194はI類であり、195～197はII類である。195～197は縦長剥片の縁辺に微細剥離痕が認められる。微細剥離痕のある剥片に用いられている石材は、193～195は流紋岩、196は珪質頁岩、197は珪化凝灰岩である。

#### 2) 磨製石器

##### 磨製石斧

198は太型蛤刃石斧であり、刃角116°～120°である。刃部は入念に研磨を施しているが、器体には調整時の敲打痕が残存する。折損後、折れ面に二次加工を施している。199は太型蛤刃石斧の基部と考えられ、器体には調整時の敲打痕が残存する。折損後、折れ面に二次加工を施している。基端面に敲打痕の著しい部分が認められる。磨製石斧に用いられている石材は、198は石英安山岩、199は安山岩である。

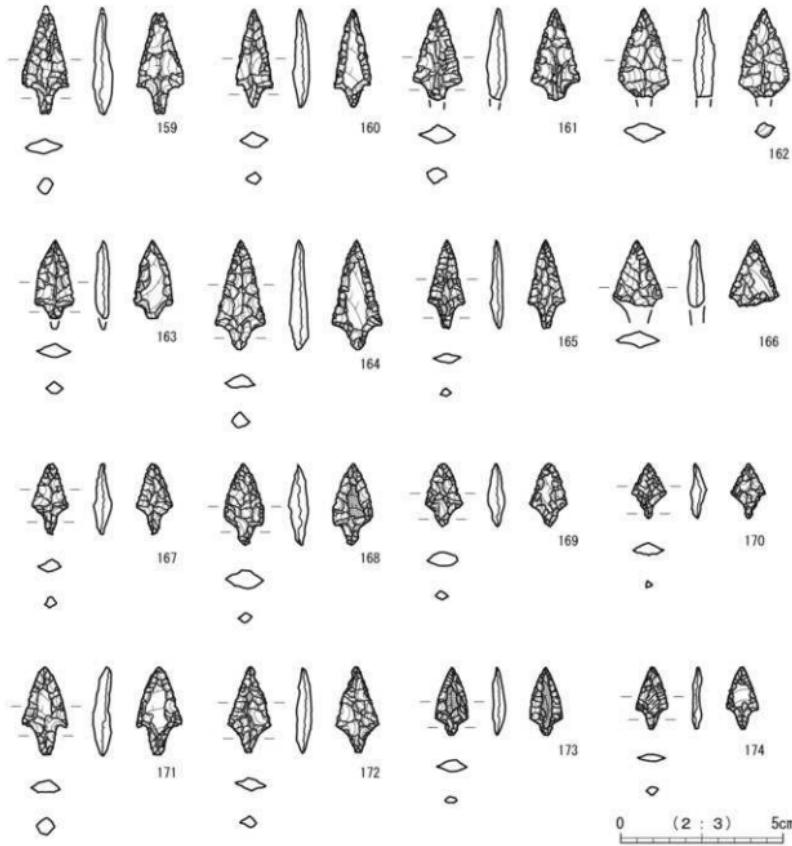
##### 3) 磨石器

##### 磨・凹・敲石

200・201はII類B種、202はIII類C種、203はIV類B種、204はV類C種、205はVI類B種、200はa面中央に複数の深い凹痕が残され、b面中央の平坦面に浅い凹痕が認められる。201は中央に凹痕形成後、複数の溝状痕が認められる。202は両端に敲打痕が認められる。203はa面中央に浅い凹痕を残し、b面に磨痕が認められる。204はb面上端部側とc面中央に浅い凹痕が残され、両側縁と下端部に敲打痕が認められる。205はb、c両面とa面に磨痕を残し、b面中央に浅い凹痕が認められる。磨・凹・敲石に用いられている石材は、200・201・203は凝灰岩、202・204・205は安山岩である。

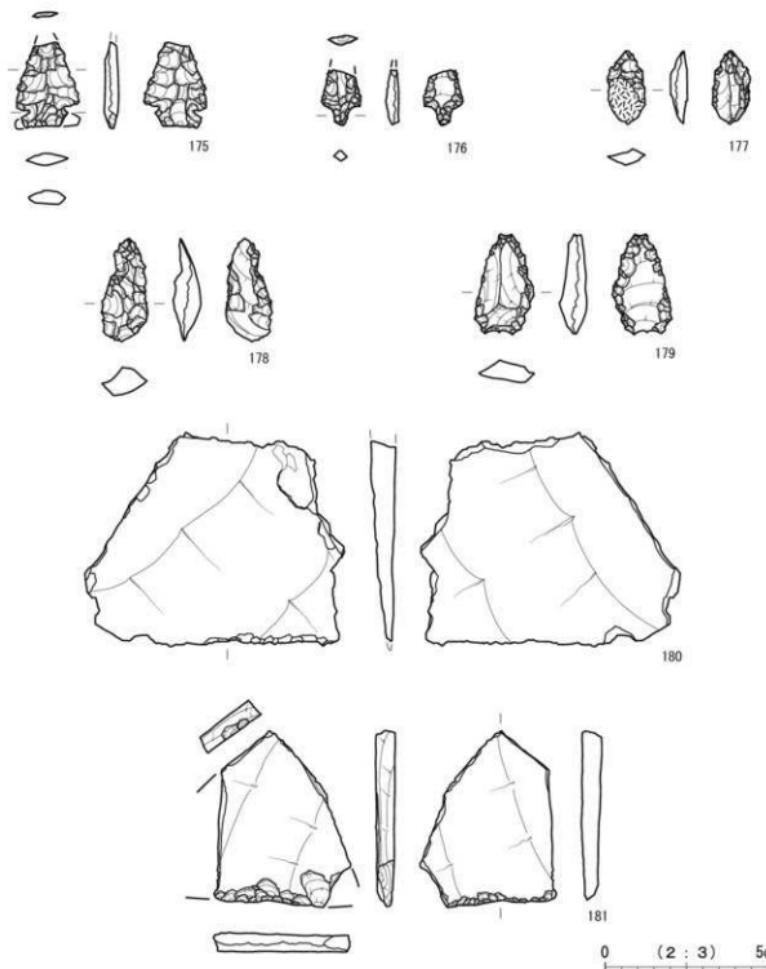
##### 台石

206は片面に、複数の浅い凹痕が認められる。石材は凝灰岩である。



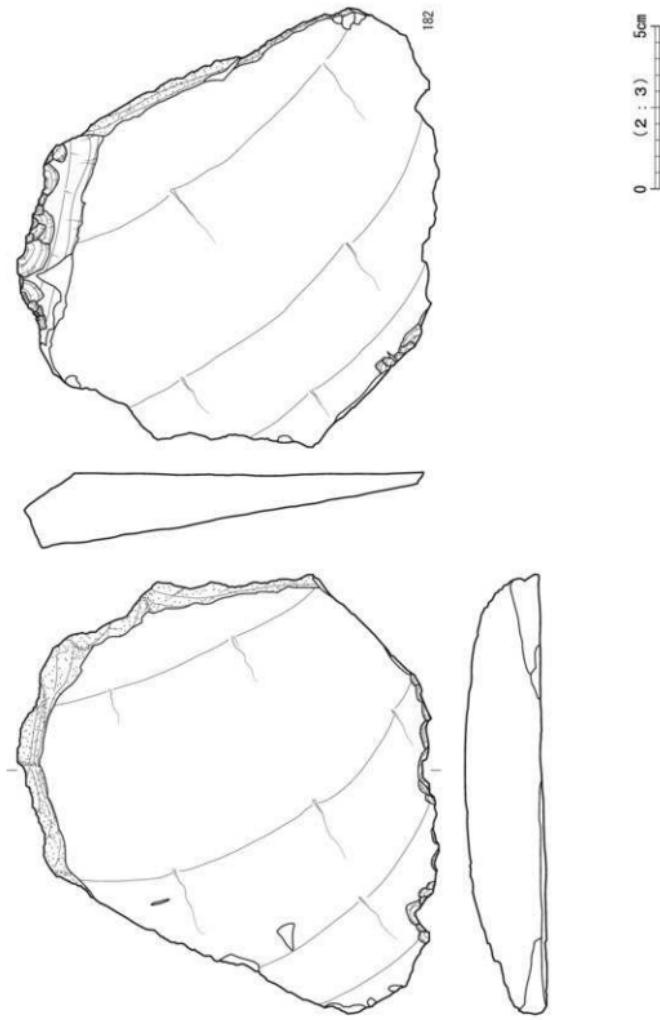
登録番号	出土遺構・層位	種別	部材	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真番号
159 Ka-023	Pt564-堆積土	打製石器	石繩	IA1	(3.1)×1.4×0.6	1.62	鉄石美	有茎, 完成品, 先端部欠損, 扇幅比0.42	146
160 Ka-015	SD65-堆積土	打製石器	石繩	IA1	3.0×1.3×0.5	1.17	鉄石美	有茎, 完成品, 先端角28°, 扇幅比0.45, 素材面残す	146
161 Ka-027	遺構検出面	打製石器	石繩	IA1	(2.8)×1.3×0.6	1.74	鉄石美	有茎, 完成品, 基部欠損, 先端角38°, 扇幅比0.48	146
162 Ka-026	遺構検出面	打製石器	石繩	IA1	(2.7)×1.5×0.6	1.65	瑪瑙	有茎, 完成品, 基部欠損, 先端角37°, 扇幅比0.48	146
163 Ka-018	SB3-堆積土	打製石器	石繩	IA2	(2.4)×1.2×0.4	0.99	武鉄石	有茎, 完成品, 基部欠損, 扇幅比0.33, 素材面残す	146
164 Ka-012	SA5-堆積土	打製石器	石繩	IA2	3.3×1.2×0.5	1.88	珪質白岩	有茎, 完成品, 先端角33°, 扇幅比0.33, 素材面残す	146
165 Ka-030	カクラン	打製石器	石繩	IA2	2.7×1.1×0.3	0.70	鉄石美	有茎, 完成品, 先端角32°, 扇幅比0.27	146
166 Ka-024	Pt131-堆積土	打製石器	石繩	IA2	(2.0)×1.5×0.5	0.77	玉髓	有茎, 完成品, 基部欠損, 扇幅比0.33, 素材面残す	146
167 Ka-033	遺構検出面	打製石器	石繩	IB1	(2.1)×1.3×0.5	0.70	珪質白岩	有茎, 完成品, 先端欠損, 扇幅比0.45	146
168 Ka-021	遺構検出面	打製石器	石繩	IB1	2.5×1.2×0.5	1.34	玉髓	有茎, 完成品, 先端角33°, 扇幅比0.41, 加熱処理跡, 素材面残す	146
169 Ka-029	遺構検出面	打製石器	石繩	IB1	1.9×1.1×0.5	0.76	玉髓	有茎, 完成品, 先端角45°, 扇幅比0.45, 素材面残す	146
170 Ka-019	SB90-堆積土	打製石器	石繩	IB1	1.7×1.0×0.4	0.44	玉髓	有茎, 完成品, 先端角45°, 扇幅比0.40,	146
171 Ka-013	SD42-堆積土	打製石器	石繩	IB2	2.7×1.4×0.5	1.35	珪質白岩	有茎, 完成品, 先端角40°, 扇幅比0.45, 素材面残す	146
172 Ka-028	遺構検出面	打製石器	石繩	IB2	2.6×1.2×0.4	1.00	珪質白岩	有茎, 完成品, 先端部加工, 扇幅比0.30,	146
173 Ka-022	Pt276-堆積土	打製石器	石繩	IB2	2.4×1.0×0.3	0.57	鉄石美	有茎, 完成品, 先端角45°, 扇幅比0.30, 素材面残す	146
174 Ka-025	遺構検出面	打製石器	石繩	IB2	1.9×1.0×0.3	0.35	鉄石美	有茎, 完成品, 先端角45°, 扇幅比0.30, 素材面残す	146

第362図 その他の出土遺物(14)



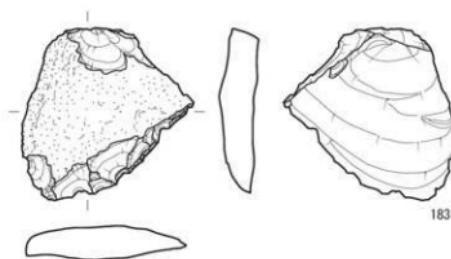
第363図 その他の出土遺物(15)

図版 番号	登録番号	出土遺物・層位	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
175	Ka-016	S266-堆積土	打製石器	石核	BB2	2.6×1.9×0.4	2.02	珪質頁岩	アモリ式、完成品、両端部欠損、厚幅比0.21	146
176	Ka-030	遺構検出面	打製石器	石核	12	1.6×1.2×0.4	0.69	珪質頁岩	有茎、完成品、先端部欠損、厚幅比0.33、表材面残す	146
177	Ka-032	遺構検出面	打製石器	石核	-	2.2×1.1×0.5	1.07	玉髓	未完成品、先端角欠損、厚幅比0.45、表材面残す	146
178	Ka-021	S219-堆積土	打製石器	石核	-	3.4×1.4×0.8	2.44	珪質頁岩	未完成品、先端角欠損、厚幅比0.27、表材面残す	146
179	Ka-034	遺構検出面	打製石器	石核	-	3.0×1.7×0.8	4.08	珪質頁岩	未完成品、先端角35°、厚幅比0.47、表材面残す	146
180	Ka-020	S290-A-堆積土	打製石器	板状石器	-	6.4×7.6×0.9	48.54	安山岩	未完成品、先端角35°、厚幅比0.27、右側端欠損、左側端自然崩、上端端欠損	146
181	Ka-027	遺構検出面	打製石器	板状石器	-	5.2×4.0×0.6	20.76	珪質頁岩	未完成品3.4cm、先角76°～84°、下端端二次加工、右側端折れ、左側端欠損、上端端欠損+二次加工	146

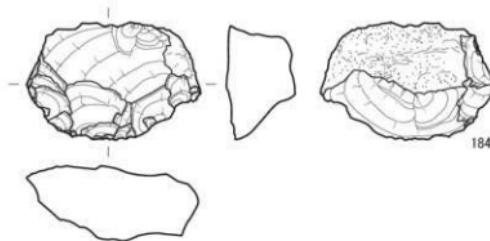


図版 番号	登錄番号	出土遺構・層位	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石種	備考	写真 番号
182	Ka017	SD66-2層	打制石器	板状石器	-	12.6×13.1×2.3	375.34	安山岩	刃部長9.4cm、刃角45°、右側縁自然崩 落、左側縁自然崩落	146

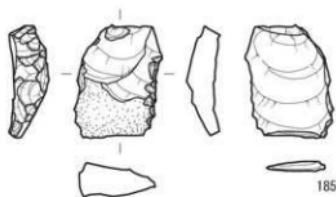
第364図 その他の出土遺物(16)



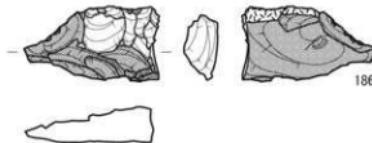
183



184



185

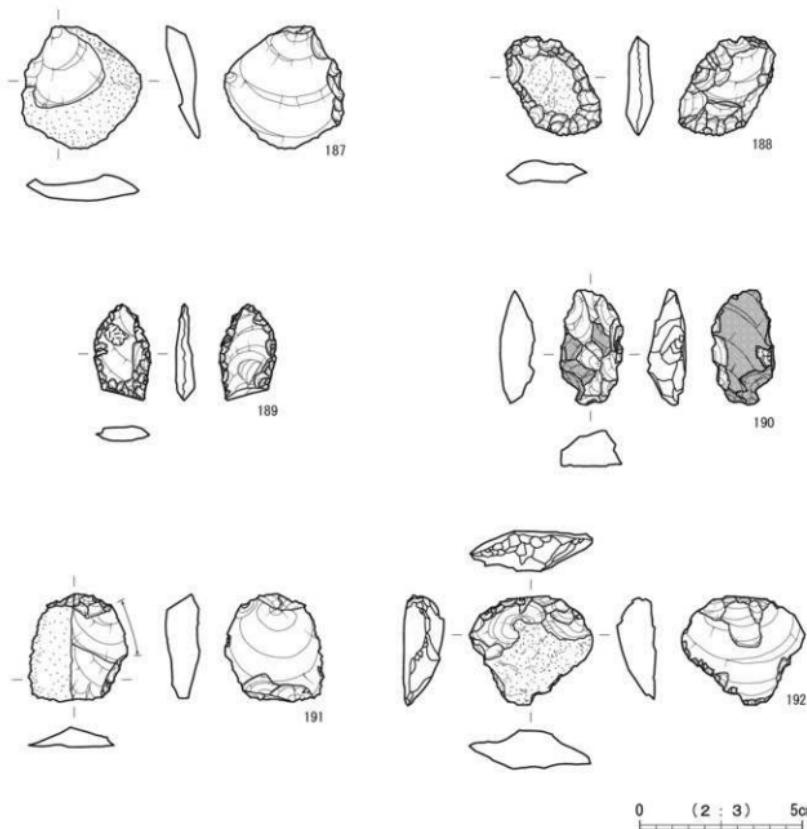


186

0 (2 : 3) 5cm

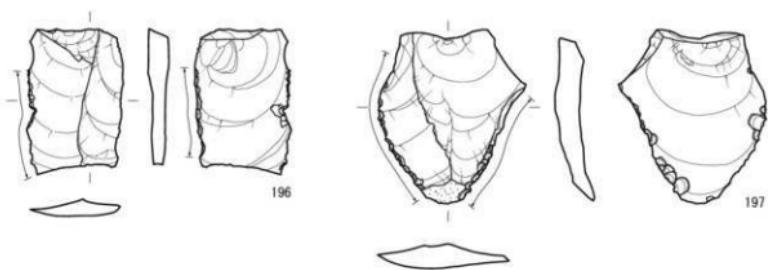
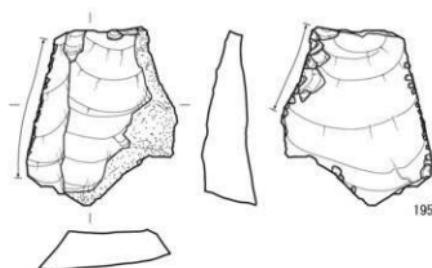
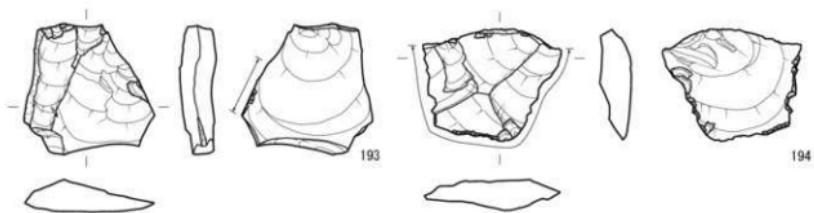
測量 番号	登録番号	出土遺跡・層位	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	実物 番号
183	Ka-397	Pt1412堆積土	打製石器	二次加工の ある破片	I	5.5×5.1×1.4	35.80	流紋岩	背面部欠損、表面加工、自然面あり	146
184	Ka-394	SK3堆積土	打製石器	二次加工の ある破片	I	6.7×5.4×2.4	41.9	流紋岩	自然面打削、剥離角123°、表面加工、自然面あり	146
185	Ka-396	道耕椚出面	打製石器	二次加工の ある破片	I	3.4×2.4×1.0	9.88	流紋岩	平坦打削、剥離角116°、表面加工、自然面あり	146
186	Ka-393	SK2堆積土	打製石器	二次加工の ある破片	I	2.2×4.0×1.1	10.06	珪化墨灰岩	打削部欠損、表面加工、加熱処理	146

第365図 その他の出土遺物(17)



第366図 その他の出土遺物(18)

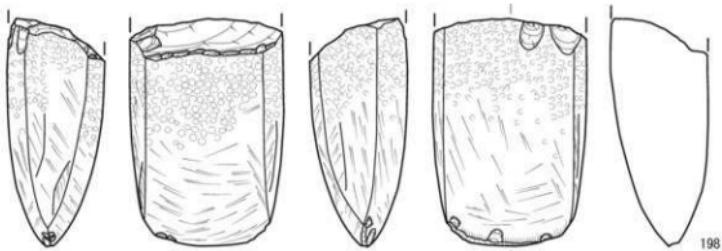
回収 番号	登録番号	出土遺構・層位	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
187	Ka-291	SD55-導管土	打製石器	二次加工の ある剥片	Ⅲ	3.7×3.6×1.0	9.15	流紋岩	平出打面、剥離角116°、表面加工、自然面あり	146
188	Ka-636	導管後底面	打製石器	二次加工の ある剥片	Ⅲ	3.0×2.4×0.8	6.93	玉髓	打面基部加工、表面+裏面加工。 周縁に一次加工あり、自然面あり	146
189	Ka-635	導管後底面	打製石器	二次加工の ある剥片	Ⅲ	2.8×1.7×0.6	2.69	流紋岩	平出打面、剥離角139°、表面+裏面加工。 周縁に一次加工あり、自然面あり	146
190	Ka-400	導管後底面	打製石器	二次加工の ある剥片	Ⅲ	3.5×1.9×1.1	7.85	鍾乳石英	打面底部加工、表面+裏面加工。周縁に二次加工あり、 裏面欠損	146
191	Ka-392	SD78-導管土	打製石器	二次加工の ある剥片	Ⅲ	3.3×3.0×1.0	8.02	珪化矽灰岩	平出打面、剥離角120°、表面+裏面加工。 1縫合に微細剥離痕あり、自然面あり	146
192	Ka-402	SD115-A-導管土	打製石器	二次加工の ある剥片	Ⅲ	3.3×1.8×1.2	13.68	瑪瑙	打面部加工、表面+裏面加工。1縫合に流れあり	146



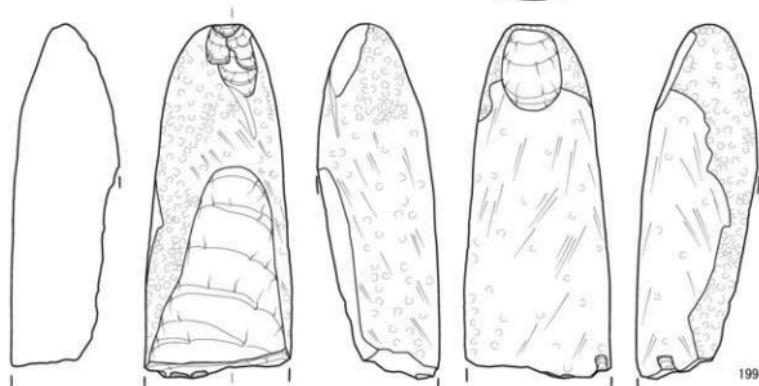
0 (2 : 3) 5cm

図版 番号	登録番号	出土遺跡・層位	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
193	Ku-295	SI126-堆積土	打製石器	微細凹凸痕 のある薄片	I	4.0×4.0×1.2	16.11	流紋岩	平頭打面、両端角123°、1枚辺に微細凹凸痕あり、 自然面あり	146
194	Ku-399	カクラン	打製石器	微細凹凸痕 のある薄片	I	3.4×4.2×1.0	13.03	流紋岩	平頭打面、両端角123°、1枚辺に微細凹凸痕あり	146
195	Ku-401	道標塗出面	打製石器	微細凹凸痕 のある薄片	II	5.4×4.4×1.6	34.53	流紋岩	打頭崩欠損、両端辺に微細凹凸痕あり、自然面あり	146
196	Ku-396	SI126-堆積土	打製石器	微細凹凸痕 のある薄片	II	4.6×3.1×0.9	8.88	珪質頁岩	平頭打面、両端角124°、両端辺に微細凹凸痕あり	146
197	Ku-614	SD55-堆積土	打製石器	微細凹凸痕 のある薄片	II	5.0×4.4×1.1	17.04	珪化海灰岩	平頭打面、両端角119°、両端辺に微細凹凸痕あり、 自然面あり	146

第367図 その他の出土遺物(19)



198

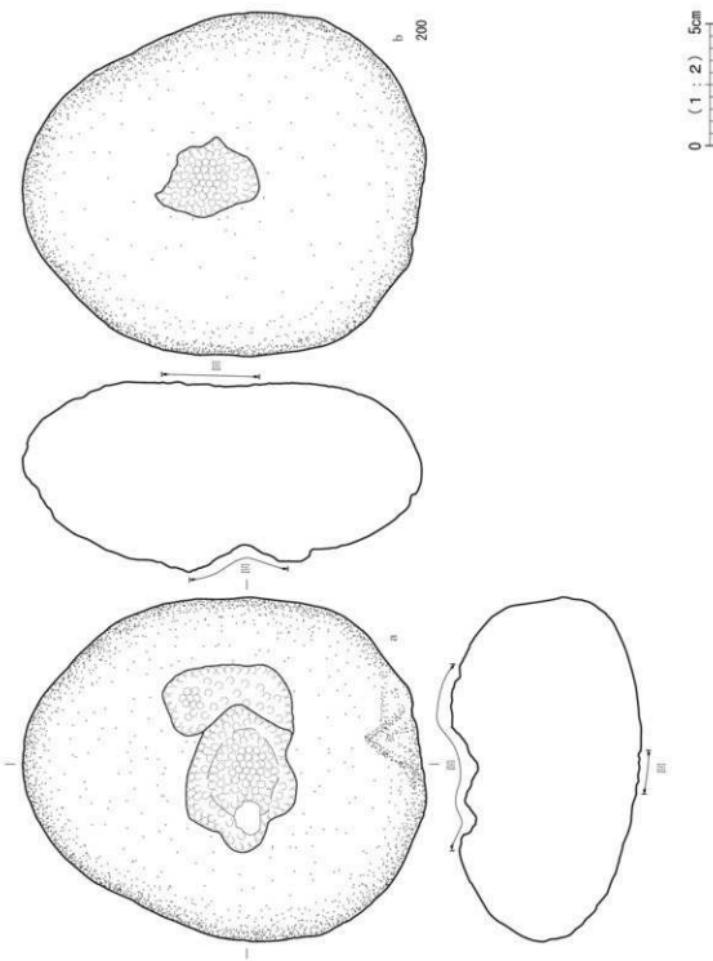


199

0 (1 : 2) 5cm

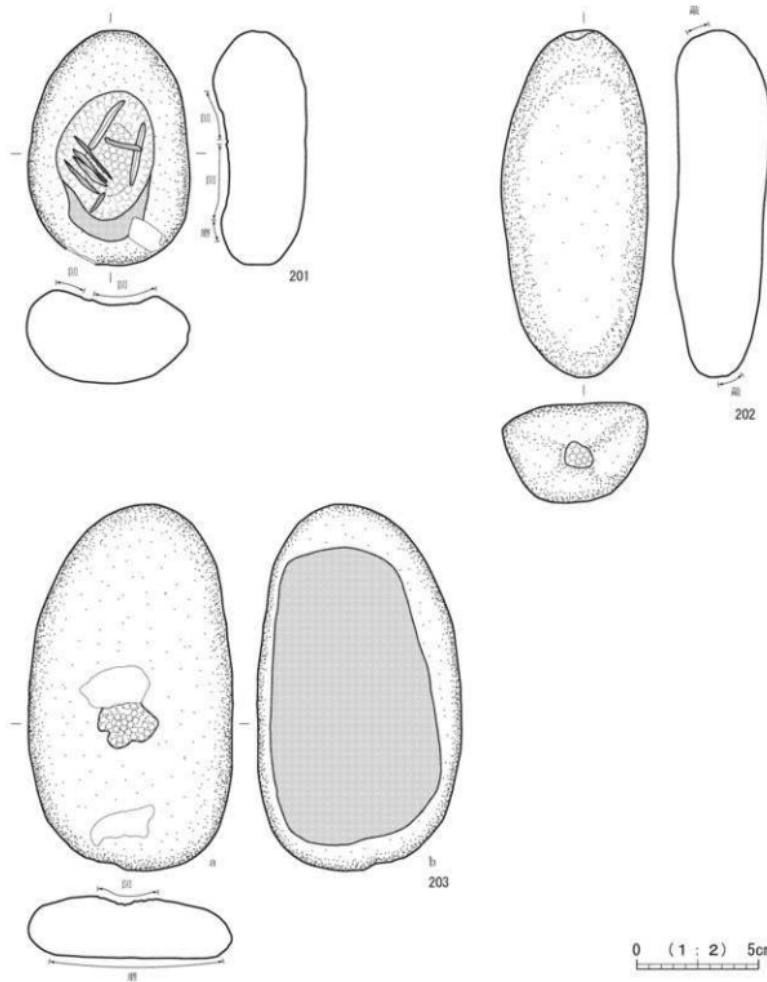
回数 番号	登録番号	出土遺構・層位	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
198	Kb-01	SI106-堆积土	磨製石器	磨製石斧	-	(9.3)×6.3×4.2	389.34	石英安山岩	欠損品、刃角116°～120°	147
199	Kb-02	SD66-2層	磨製石器	磨製石斧	-	(14.6)×6.2×4.5	593.68	安山岩	欠損品、棒状部、磨1面(凸), 茎(端1箇所)斜削(強)	147

第368図 その他の出土遺物(20)



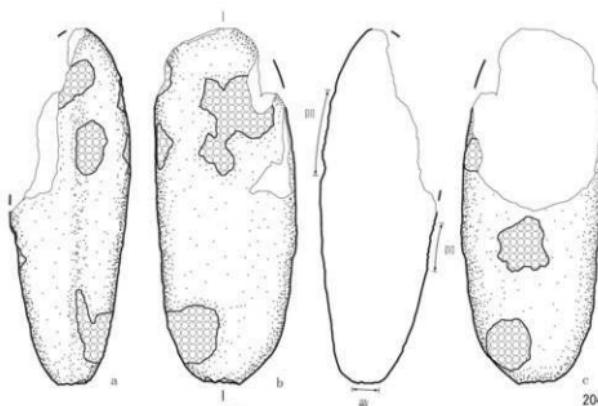
図版 番号	登録番号	出土遺跡・層位	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	保管 番号
200	Kr-138	遺跡検出面	石器	石斧	日目	16.5×14.0×7.7	1580.39	湖田岩	完形品、格円錐、刃2面(刃+平)溝2(浅)	147

第369図 その他の出土遺物(21)

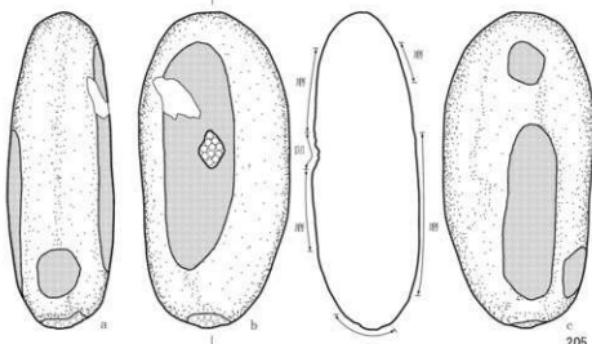


図版 番号	登録番号	出土遺物・層位	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石種	備考	写真 番号
201	Kc-129	道標後山面	雜石器	圓石器	BB	9.5×5.6×3.6	150.47	凝灰岩	完形品、地円盤、四2面(半)突出(深),薄状裂痕あり	147
202	Kc-133	SM156-海抜土	雜石器	圓石器	C	14.2×6.0×4.0	476.83	安山岩	完形品、修状態、最(端2箇所)削度(削)	147
203	Kc-13b	道標後山面	雜石器	器+凹	BB	14.0×8.4×2.5	262.72	凝灰岩	完形品、地円盤、器1面(平),凹1面(半)突出(浅)	147

第370図 その他の出土遺物(22)



204

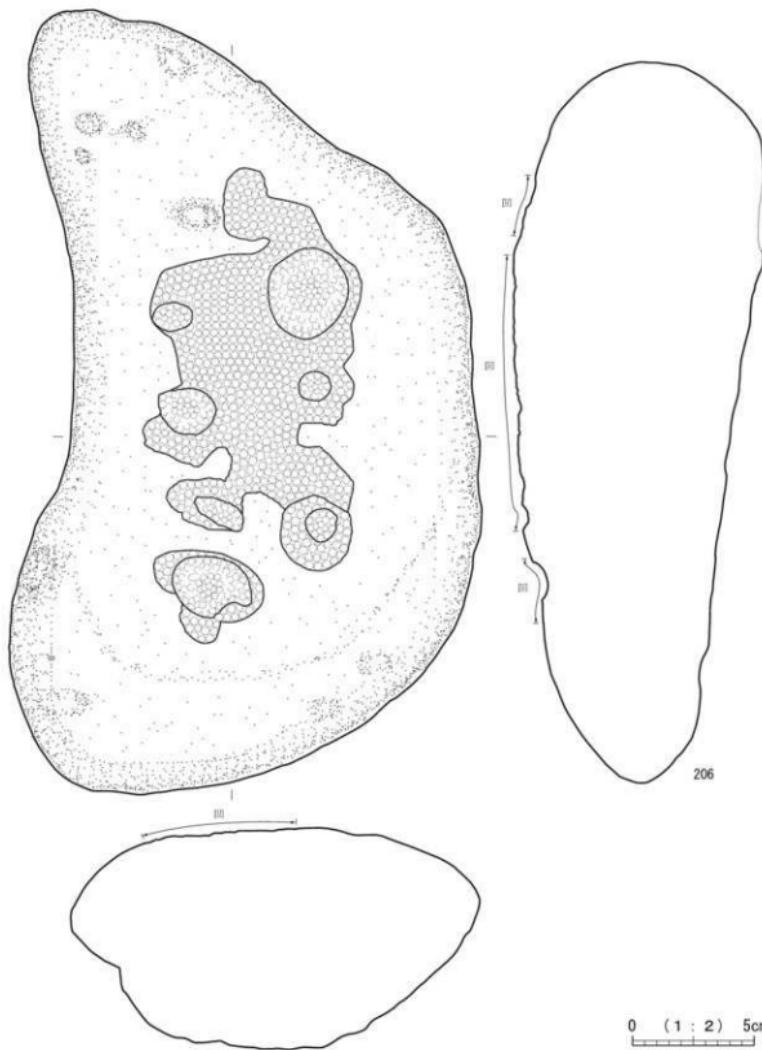


205

0 (1 : 2) 5cm

国版 番号	登録番号	出土遺跡・層位	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
204	Kc-140	道耕換出面	櫻石器	四+羅	M.C.	14.6×5.8×1.7	423.46	安山岩	欠損品。棒状形。円2面(单+单)深さ(浅)、 縫(縫2箇所+縫2箇所)程度(浅)	147
205	Kc-141	道耕換出面	櫻石器	碧+四+羅	M.B	12.9×6.2×1.4	520.13	安山岩	完形品。棒円錐。碧(表面(凸))、四1箇(单)深さ(浅)、 縫(縫1箇所)程度(浅)	147

第371図 その他の出土遺物(23)



登録番号	出土遺物-部位	種別	断面	分類	大きさ幅×厚さ(cm)	重量(g)	石種	備考	写真番号
206	Kc-145	遺構検出面	礫石器	台石	-	32.1×19.3×10.7	4600.00	凝灰岩 定期品、施円標、凹1面(複)	147

第372図 その他の出土遺物(24)

## (8) 接合資料(第373～492図)

IV層とV層及び、古代の遺構内堆積土、現代の搅乱から出土した石器のうち、122点の接合資料を掲載した。これらは、剥片剥離作業を示すものである。

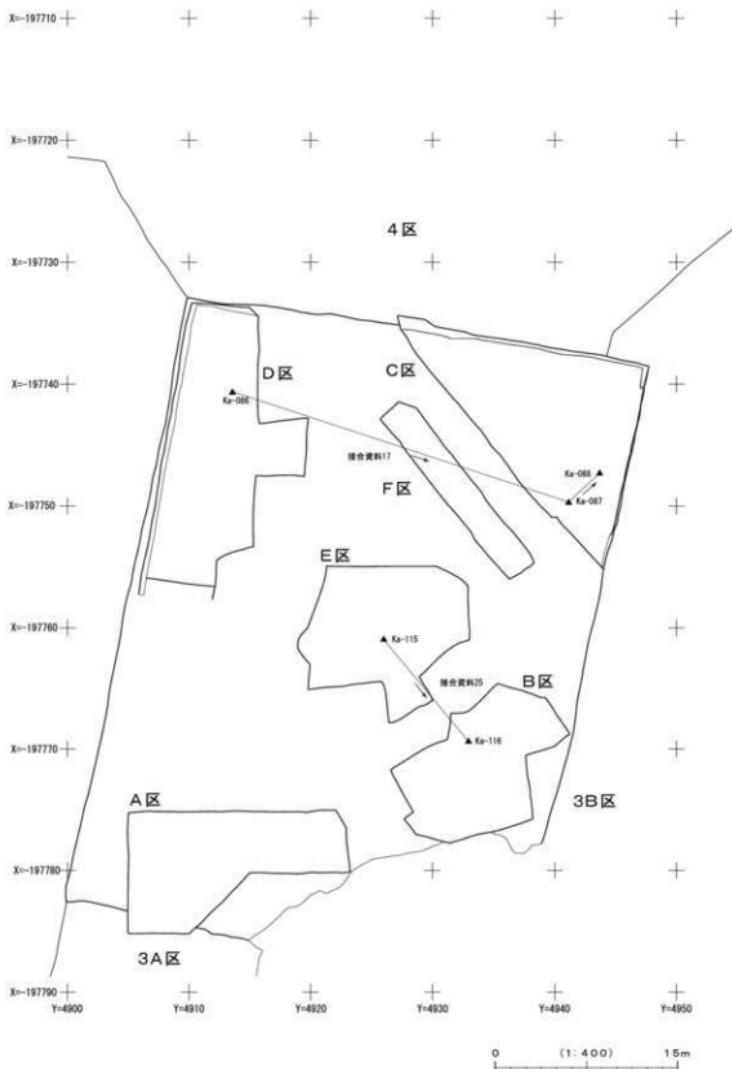
平面分布図中に記入した「▲」は剥片を「△」は石核の出土位置を示し、Ka-○○の登録番号を付した。矢印の方向は剥片剥離の順番を意味し、それは古い剥離段階から新しい剥離段階へ移ることを示す。

第373図～第375図は接合資料の出土地点分布図であり、第373図は各弥生調査区を越えて接合したものである。接合資料17は、D区から出土した原砾を分割した際の剥片であるKa-086と、約28m離れた場所のC区において検出されたKa-087とKa-088の2点の剥片が接合したものである。D区での分割とC区での剥片剥離作業が推定される。接合資料25は、剥片同士の接合であり、Ka-115とKa-116は約10m離れて出土している。第374図は弥生B区内で接合したものである。接合資料112は、石核であるKa-343から剥離された剥片Ka-344が約6m離れた場所から出土している。第375図は弥生C区内で接合したものである。接合資料66は、原砾を分割した際の剥片Ka-222と石核であるKa-223から剥離されたKa-224は約1.2mの範囲内で剥片剥離が行われている。接合資料20は、剥片同士の接合であり、Ka-095・Ka-096とKa-097は約6m離れて出土している。接合資料67は、剥片同士の接合であり、Ka-225とKa-226は約1.5m離れて出土している。接合資料101は、微細剥離痕のある剥片同士の接合であり、Ka-319とKa-320は約1.5m離れて出土している。接合資料121は、剥片であるKa-367とKa-368は約1.5m離れて出土している。石核であるKa-366の出土位置は不明である。接合資料122は、同時割れを起こした剥片であるKa-369とKa-370は約0.7m離れて出土している。接合資料127は、同時割れを起こした剥片であるKa-379とKa-380は約0.4m離れて出土している。

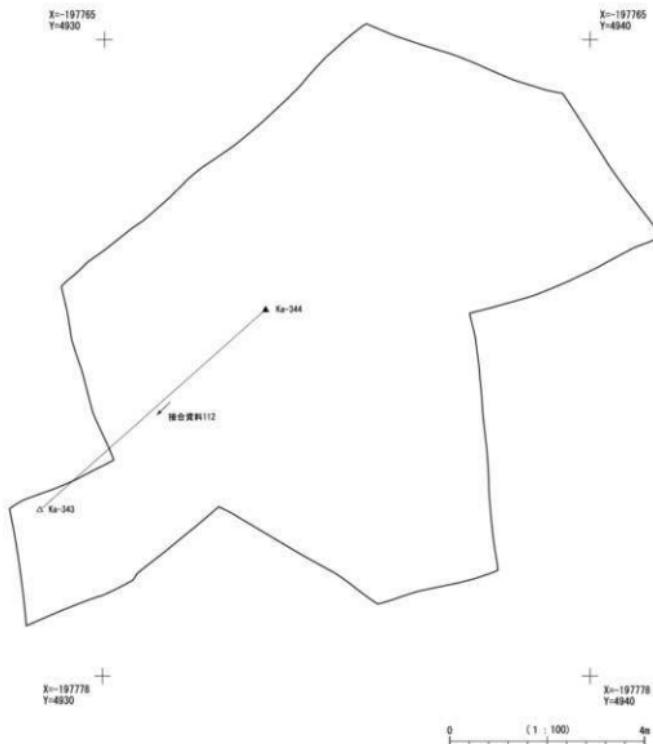
また、各弥生調査区の打製石器の分布は、A区32点、B区263点、C区219点、D区40点、E区93点、F区6点の出土となっている。砾石器の分布は、A区3点、B区6点、C区16点、D区2点、E区2点の出土となっており、F区からは出土していない。石製品の分布は、B区1点、C区2点のみの出土となっている。

各弥生調査区の石器組成については、A区は二次加工のある剥片・剥片・石核・凹石・台石、B区は石礫・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・石核・磨石・磨+凹・台石・縁辺に粗い条痕のある砾片、C区は石礫・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・剥片・石核・磨石・凹石・敲石・磨+凹・磨+敲・凹+敲・磨+凹+敲・台石・砾器・筋砥石・縁辺に粗い条痕のある砾片、D区は微細剥離痕のある剥片・剥片・磨+凹・磨+敲の構成となっている。

これらの石器の分布・組成・接合状況と重ね合わせると、C区は剥片石器200点以上の集中域となっており、砾石器の分布で最も多く出土している調査区もC区である。他の調査区については極めて少ない。そして、剥片剥離作業に関わると推測される加工工具の、敲石類（敲石・磨+敲・凹+敲・磨+凹+敲）を含み、石礫・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・剥片・石核を含むことから、剥片剥離作業から石器製作及び廃棄までの一連の作業の中心がC区で展開されていると推測される。敲石類を含まないものの、B区も石器の分布・組成がC区と類似しており、剥片石器の総数ではC区を上回る集中域となっていることから、同じく剥片剥離作業から石器製作及び廃棄までの一連の作業の中心であったと考えられる。E区の剥片石器は100点以下であり、剥片剥離作業に関わると推測される加工工具が認められないが、石礫・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・剥片・石核を含むことから、石器製作及び廃棄を行っていたと考えられる。A区の剥片石器も100点以下であり、剥片剥離作業に関わると推測される加工工具は認められないが、二次加工のある剥片・剥片・石核を含むことから、石器製作及び廃棄を行っていたと考えられる。D区は剥片石器100点以下で石核も認められず、微細剥離痕のある剥片と剥片の構成となっている。F区は剥片石器6点と弥生調査区中もっとも希薄な分布であり、石核が認められず、剥片のみである。D・F区の剥片石器は廃棄されたものと考えられる。



第373図 弥生調査区接合資料出土地点分布図



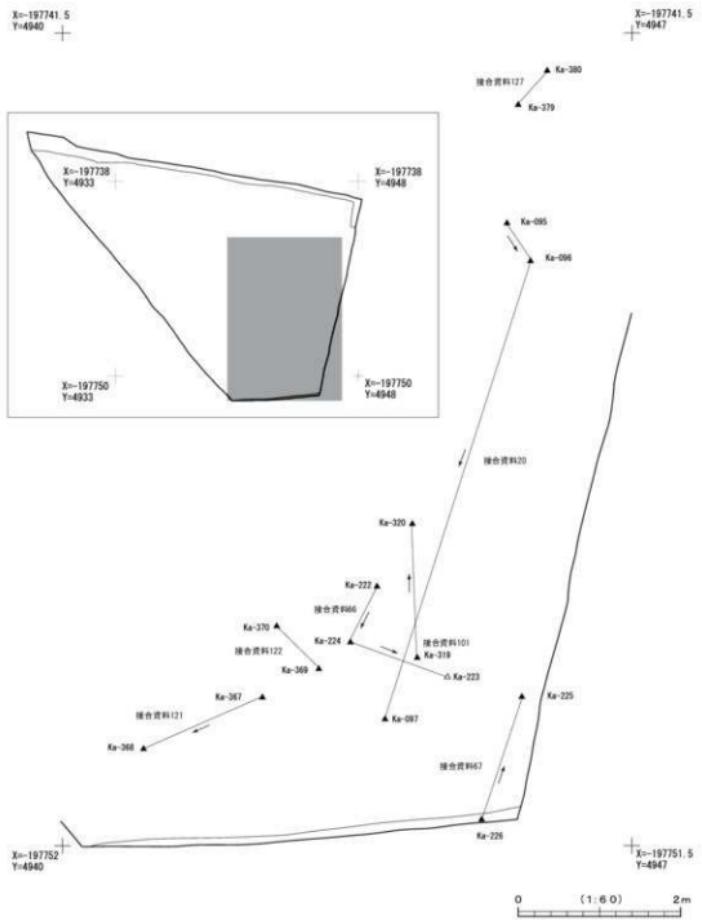
第374図 弥生B区接合資料出土地点分布図

#### 接合資料1（第376図、写真図版148）

二次加工のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。ともに自然面を打面とし、同一方向からの加撃によって剥離されている。1は垂直割れを起こしている剥片である。2は二次加工のある剥片Ⅲ類である。ともに古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料2（第377図、写真図版148）

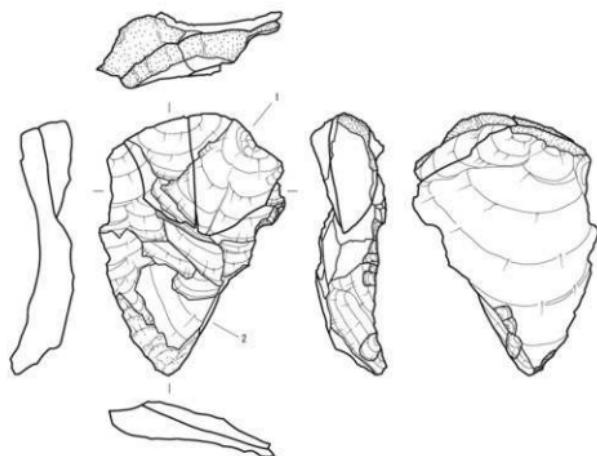
微細剥離痕のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。ともに自然面を打面とし、同一方向からの加撃によつて剥離されている。1は先行する剥離によって形成された後線が伸びる方向に打撃を加えて剥離された微細剥離痕のある継長剥片である。2の剥片は末端に自然面を残しており、石核の高さが確認できる。同時割れを起こしている。1は微細剥離痕のある剥片Ⅰ類である。1は古代の遺構内堆積土、2は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。



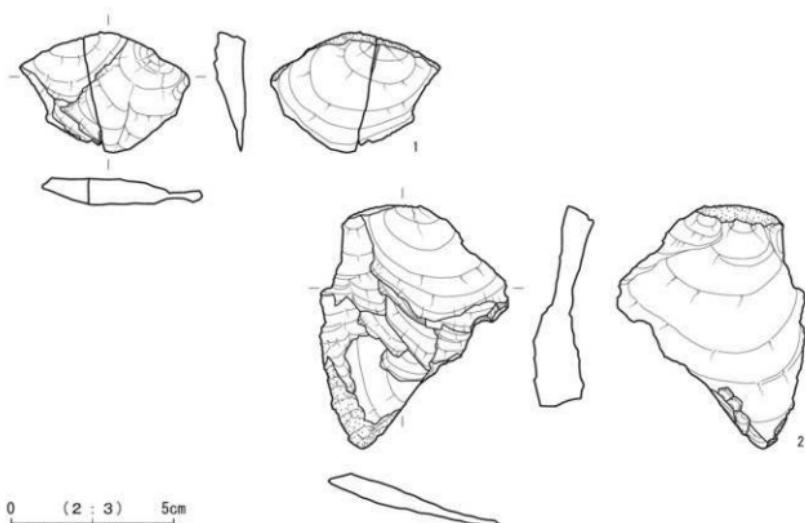
第375図 弥生B区接合資料出土地点分布図

### 接合資料3(第378図、写真図版148)

微細剥離痕のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。ともに表面に自然面を残している。1は剥離面を打面として剥離された、微細剥離痕のある剥片である。2の剥片も同一方向からの加熱によって剥離されている。1は微細剥離痕のある剥片1類である。1は古代の遺構内堆積土、2は弥生C区からの出土である。石材は流紋岩である。

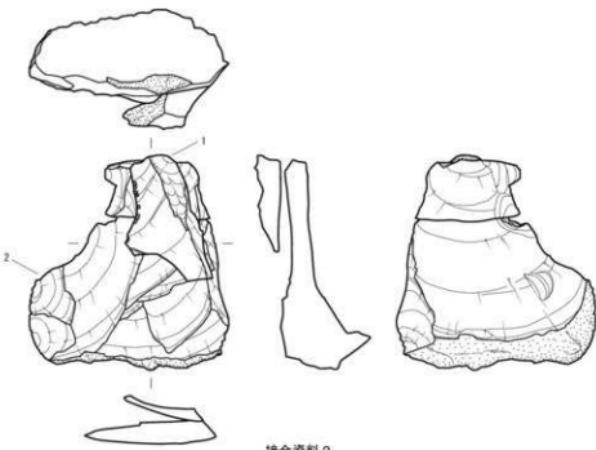


接合資料 1

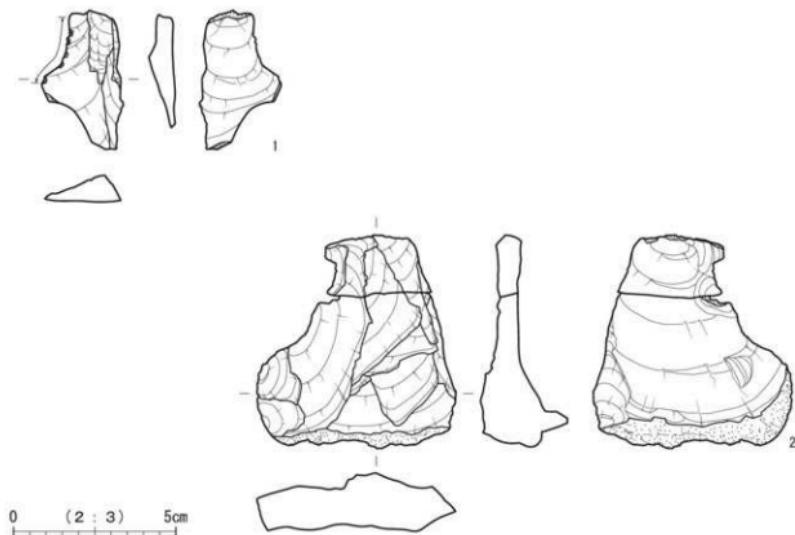


回数 番号	登録 番号	考古 学名	出土遺跡・層位	版上 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚 (cm)	重量 (g)	石材	備　考	写真 図版
1	Ka-029	-	S082堆積土	-	打製石器	酒舟	-	3.7×5.0×0.9	8.98	流紋岩	接合資料1。Ka-040と並ぶ削丸面接合、自然面打面、 剥離角115°(自然面か)	148
2	Ka-041	-	SH7-A堆積土	-	打製石器	二次加工の ある酒舟	Ⅲ	7.2×7.8×2.0	44.03	流紋岩	接合資料1。自然面打面、剥離角100°、去面+表面加工、 自然面か	148

第376図 接合資料(1)

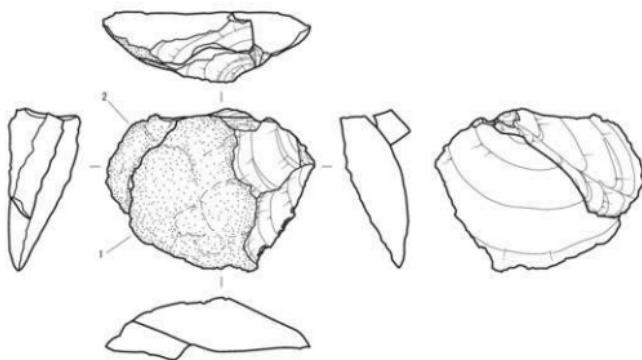


接合資料 2

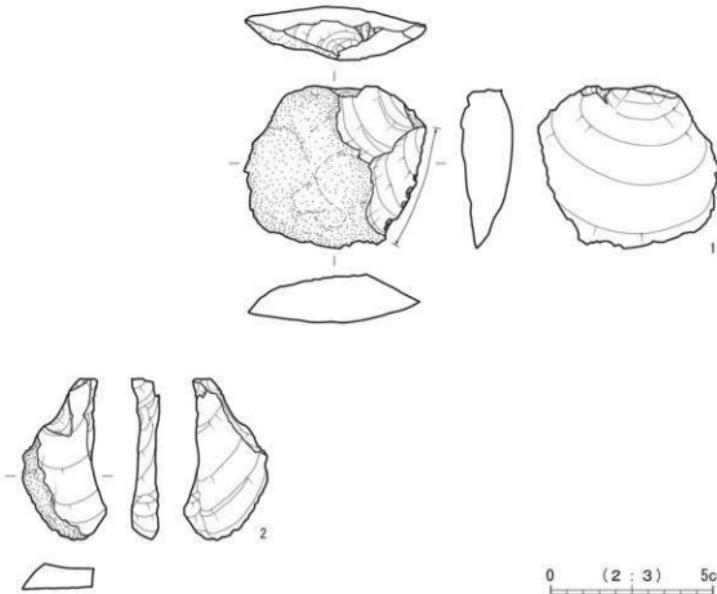


回数 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺跡・層位	取土 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-043	-	SD99-第1層土	-	打製石器	磨削剥離板 のあら片	I	4.1×2.4×1.0	6.80	淡灰岩	接合資料2.自然面打削.剥離角11°, 11段.2.磨削剥離板.あら片.自然面	148
2	Ka-042	-	道横換出面	-	打製石器	剥削	-	6.6×6.1×2.7	5.28	淡灰岩	接合資料2.自然面打削.剥離角11°,自然面あら	148

第377図 接合資料(2)

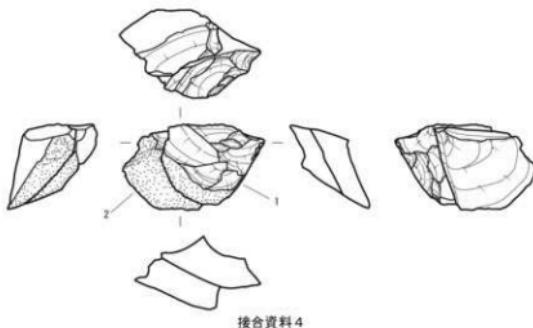


接合資料3

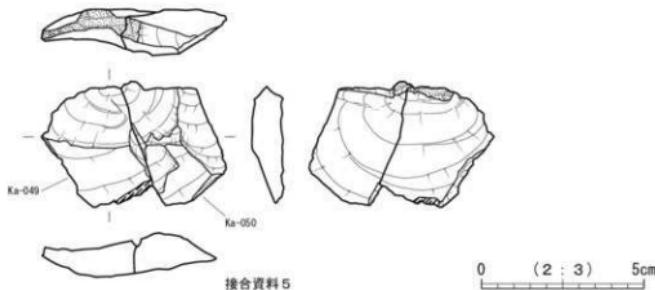
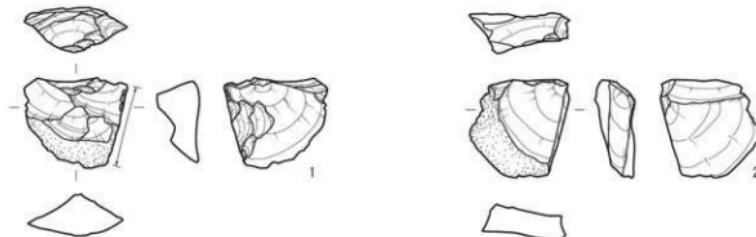


回収 番号	登録 番号	地先 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	参考	写真 図版
1	Ka-045	-	SD66-堆积土	-	打製石器	磨削剥離面 のある剥片	I	4.9×5.3×1.6	39.30	流紋岩	接合資料3. 平削打片. 斜面角 138°. 1枚辺に磨削剥離面あり. 自然面あり	148
2	Ka-046	CR	堆積	P32	打製石器	剥片	-	4.9×2.2×1.1	11.01	流紋岩	接合資料3. 打削剥離片. 自然面あり	148

第378図 接合資料(3)



接合資料4



接合資料5

回収 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺跡・層位	取土 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考	写真 図版
1	Ka-047	C区	刮削	-	打制石器	二次加工の ある薄片	II	2.7×3.2×1.3	8.71	流紋岩	複合資料4.打制部加工.剥離角122°.裏面加工. [上端]:二面削減剥離あと.自然面あと	148
2	Ka-048	C区	刮削	-	打制石器	薄片	-	3.0×2.8×1.2	8.41	流紋岩	複合資料4.打制部欠損.自然面あと	148
	Ka-049	-	遺構側外面	-	打制石器	薄片	-	3.5×3.0×1.2	11.84	流紋岩	複合資料5.自然面打面.剥離角125°.自然面あと	148
	Ka-050	B区	刮削	S26	打制石器	剥離剥離部 のある薄片	-	3.7×2.5×1.1	10.52	流紋岩	複合資料5.自然面打面.剥離角125°. [上端]:二面削減剥離あと.自然面あと	148

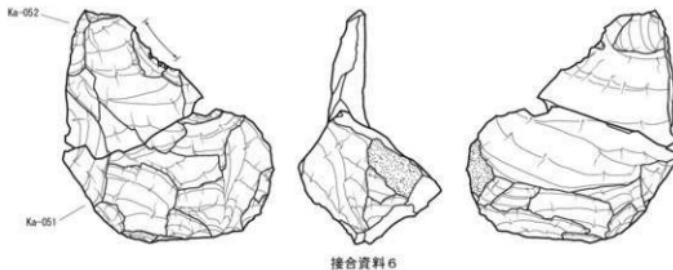
第379図 接合資料(4)

接合資料4（第379図、写真図版148）

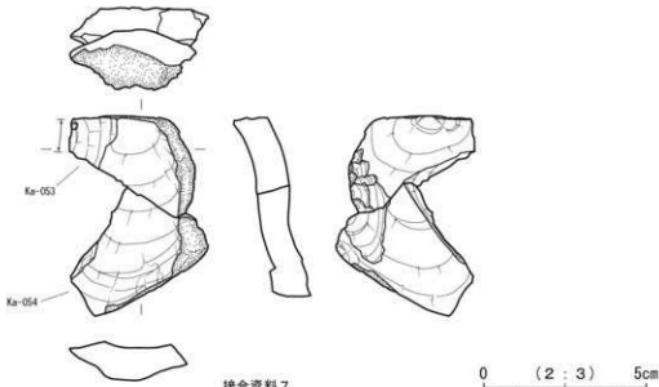
二次加工のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。ともに表面に自然面を残している。2は垂直割れを起こしている。1は剥離面から成る面を打面として、剥離された剥片である。2の剥片も1の剥片と同一方向からの加撃によって剥離されている。1は二次加工のある剥片Ⅱ類である。1・2は弥生C区からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料5（第379図、写真図版148）

垂直割れを起こした剥片の接合資料である。自然面を打面としている。Ka-049は古代の遺構検出面、Ka-050は弥生B区からの出土である。石材は流紋岩である。



接合資料6

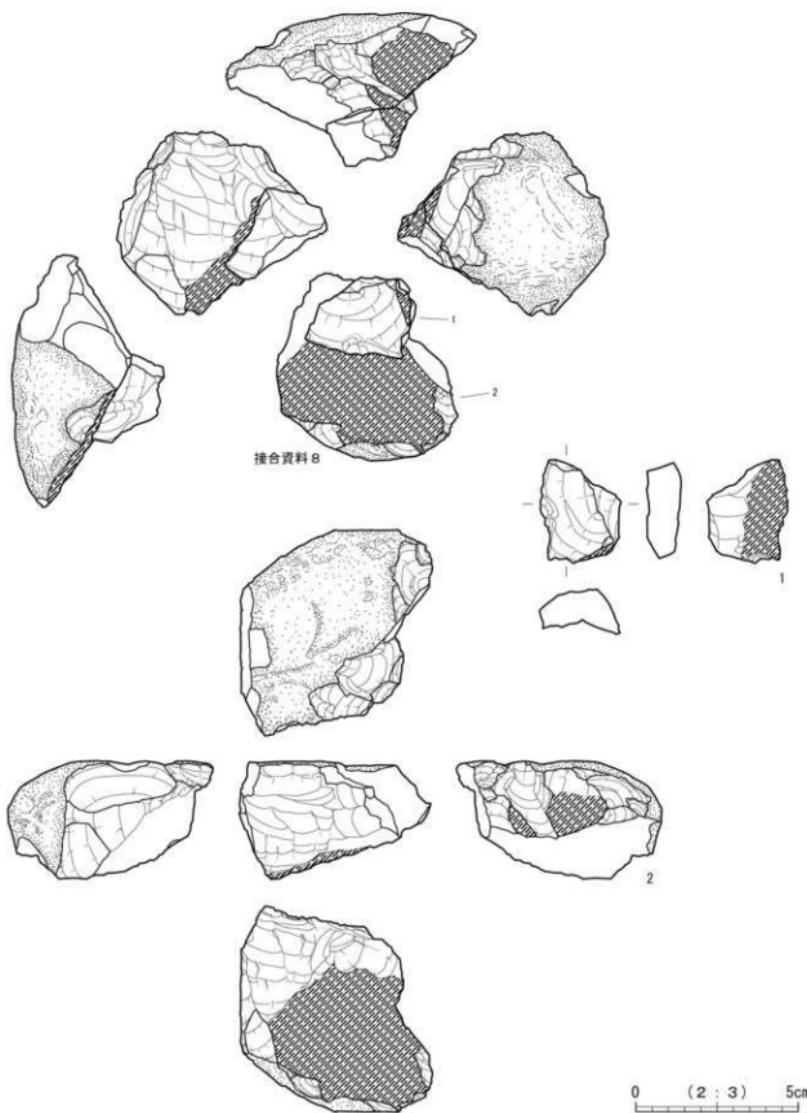


接合資料7

0 (2 : 3) 5cm

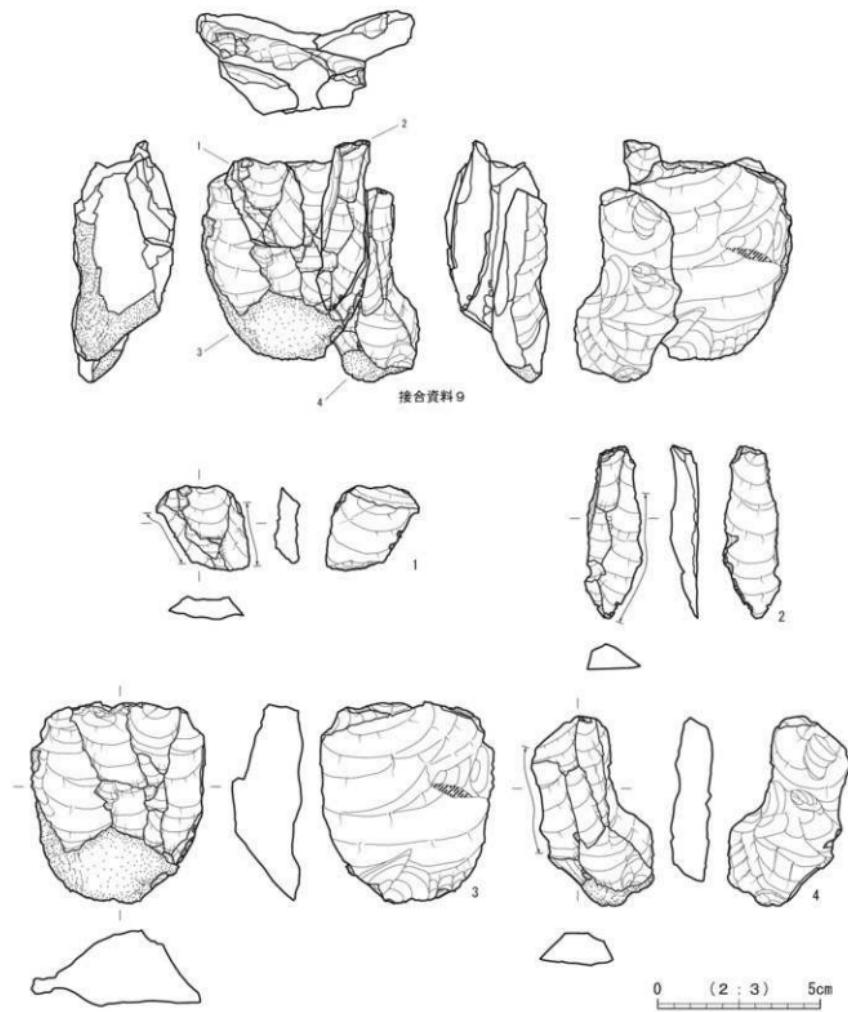
図版番号	登録番号	歴史調査区	出土遺構・層位	取上番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真図版
Ka-051	-	遺構検出面	-	-	打製石器	石核	-	3.7×2.5×3.1	77.11	流紋岩	接合資料6. 延素材. 打面和核あり. 自然面あり	148
Ka-052	EIE	普切	S37	打製石器	剥片	-	4.9×4.4×1.3	17.98	流紋岩	接合資料6. 打面和核あり. 自然面あり	148	
Ka-053	-	遺構検出面	-	打製石器	二次加工のあら剥片	II	3.0×3.6×1.2	34.41	流紋岩	接合資料7. 自然面打面. 剥離角122°. 表面加工. 1種切. 剥離面剥離あり. 自然面あり	148	
Ka-054	BIE	普切	S38	打製石器	二次加工のあら剥片	II	3.8×3.7×1.8	37.30	流紋岩	接合資料7. 打面和核あり. 表面加工. 自然面あり	148	

第380図 接合資料(5)



図版 番号	登録 番号	地生 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-055	-	SH127-地耕土	-	打制石器	刮削器	-	3.1×2.5×1.8	11.82	流纹岩	接合資料8、打面部欠損	148
2	Ka-056	BK	刮削	S2	打制石器	石核	-	3.6×5.7×5.9	121.69	流纹岩	接合資料8、維持材、打面部欠損(1)、自然面(2)	148

第381図 接合資料(6)



国版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-058	-	SII13>堆積土	-	打製石器	微細剥離痕 のある剥片	II	2.6×2.6×0.9	5.62	流紋岩	接合資料9、平坦打面、剥離角136°、 鏡面辺に微細剥離痕あり	149
2	Ka-060	BK	瓦割	S25	打製石器	微細剥離痕 のある剥片	I	5.3×1.7×0.9	5.72	流紋岩	接合資料9、平坦打面、剥離角126°、 1辺辺に微細剥離痕あり	149
3	Ka-059	-	SII12B>堆積土	堆積土	打製石器	ある剥片	I	6.1×5.2×2.4	66.86	流紋岩	接合資料9、打面欠損、表面加工、自然面あり	149
4	Ka-057	-	遺構後山面	-	打製石器	微細剥離痕 のある剥片	I	5.6×3.4×1.3	22.35	流紋岩	接合資料9、平坦打面、剥離角131°、 1辺辺に微細剥離痕あり、自然面あり	149

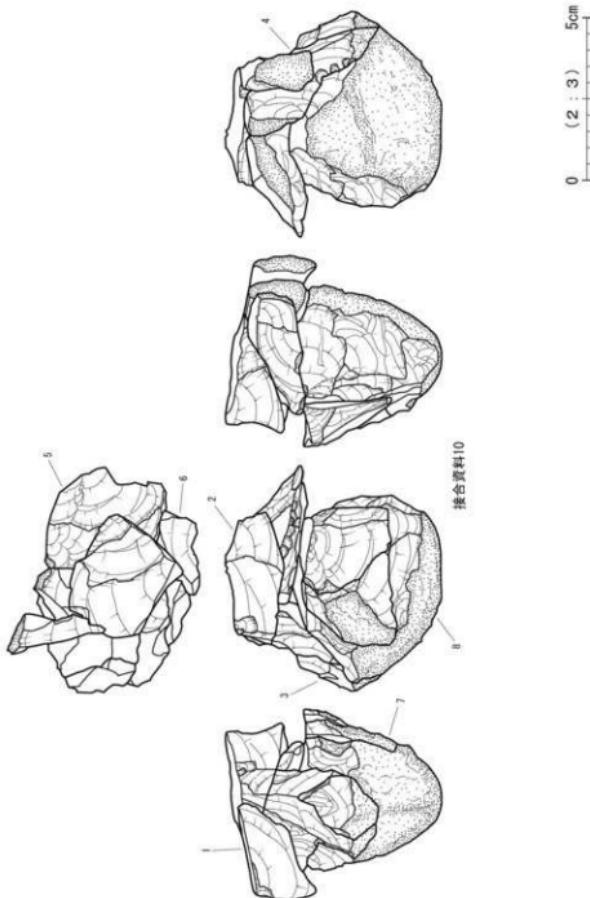
第382図 接合資料(7)

接合資料6（第380図、写真図版148）

同時割れを起こした剥片の接合資料である。石核の下端を剥ぎ取り、ウートラバッセが生じている。一縁辺に微細剥離痕が認められる。Ka-051は古代の遺構検出面、Ka-052は弥生E区からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料7（第380図、写真図版148）

自然面を打面とした二次加工のある剥片の接合資料である。折面で接合している。二次加工のある剥片Ⅱ類であり、側縁への二次加工により折れたものである。Ka-053は古代遺構検出面、Ka-054は弥生B区からの出土である。石材は流紋岩である。

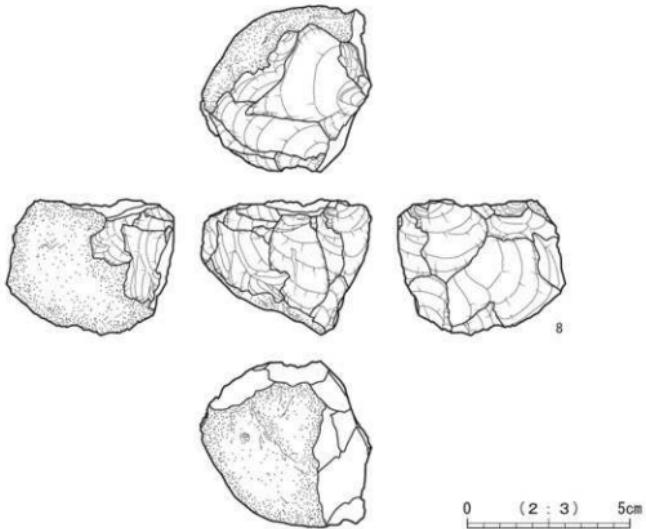


第383図 接合資料(8)



国版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺跡・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-064	-	道標痕山面	-	打製石器	調片	-	3.1×1.8×4.8	4.79	流紋岩	集合資料10,自然面打面,調離角113°,自然面みか	149
2	Ka-062	-	道標痕山面	-	打製石器	調片	-	3.4×3.0×1.8	38.79	流紋岩	集合資料10,打面部欠損	149
3	Ka-061	-	道標痕山面	-	打製石器	調片	-	2.6×1.7×0.8	2.84	流紋岩	集合資料10,打面部欠損,自然面みか	149
4	Ka-067	-	SH27-堆積土	-	打製石器	ある調片	I	3.9×4.0×1.4	17.29	流紋岩	集合資料10,自然面打面,調離角104°,表面加工,	149
5	Ka-063	-	道標痕山面	-	打製石器	ある調片	II	3.5×3.6×1.2	15.72	流紋岩	集合資料10,自然面打面,調離角110°,表面・裏面加工,	149
6	Ka-068	BIE	古削	S35	打製石器	調片	-	2.7×2.6×1.3	6.84	流紋岩	集合資料10,平頭打面,調離角108°,自然面みか	149
7	Ka-066	-	SH26-堆積土	-	打製石器	調片	-	2.8×3.1×0.8	5.82	流紋岩	集合資料10,平頭打面,調離角115°,自然面みか	149

第384図 接合資料(9)



図版 番号	登録 番号	弥生 調査区	出土遺跡・切片	出土 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
8	Ka-065	-	遺構検出面	-	打製石器	石核	-	4.1×5.1×4.9	111.32	流紋岩	接合資料10. 遺構内、打面転移あり、自然面あり	149

第385図 接合資料(10)

#### 接合資料8 (第381図、写真図版148)

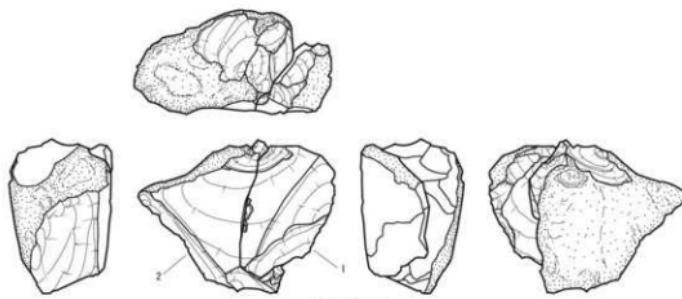
石核1点と剥片1点の接合資料である。2は分割礫素材の石核であり、自然面を多く残している。1は、節理面を介在して剥離されている。1は古代の遺構内堆積土、2は弥生B区からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料9 (第382図、写真図版149)

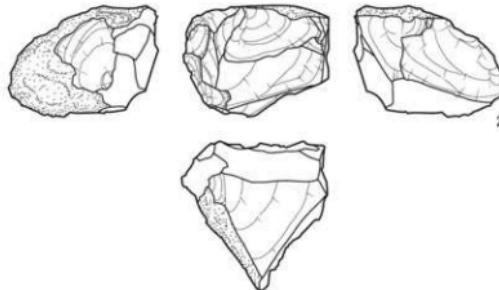
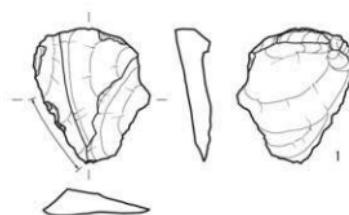
二次加工のある剥片1点と微細剥離痕のある剥片3点の接合資料である。3・4は表面末端側に自然面を残している。1は剥離面から成る面を打面とし、先行する剥離によって形成された棱線が伸びる方向に打撃を加えて剥離された剥片である。2・3・4の剥片も同一方向からの加撃によって連続的に剥離されている。3は二次加工のある剥片I類である。2・4は微細剥離痕のある剥片I類であり、1は微細剥離痕のある剥片II類である。1・3は古代の遺構内堆積土、2は弥生B区、4は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料10(第383～385図、写真図版149)

石核1点、二次加工のある剥片2点、剥片5点の接合資料である。1・6・7・8は表面に自然面を残している。1は自然面を打面とし、剥離された剥片である。2は75°の打面転移が行われ、剥離面を打面とし、剥離された剥片である。3・4は75°の打面転移が行われ、自然面を打面とし、剥離された剥片である。5は90°作業面を移動し、自然面を打面とし、剥離された剥片である。6・7は90°の打面転移が行われ、剥離面を打面とし、剥離された剥片である。8は石核である。以上のように頻繁に打面転移が行われた剥離作業であることがわかる。4は二次加工のある剥片I類であり、5は二次加工のある剥片III類である。1・2・3・5・8は古代の遺構検出面、4・7は古代の遺構内堆積土、6は弥生B区からの出土である。石材は流紋岩である。



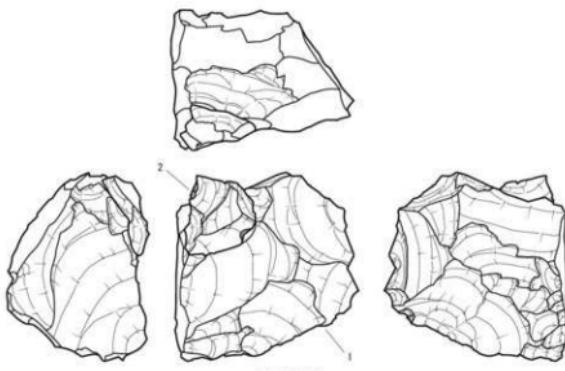
接合資料11



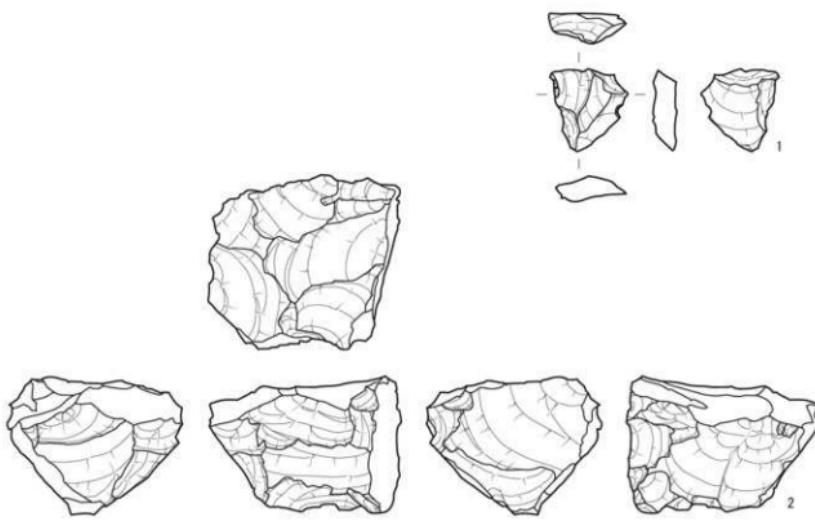
0 (2 : 3) 5cm

回収 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-070	-	道標候山面	-	打製石器	微細波擦痕 のあざ波片	1	4.2×3.3×1.4	11.21	流紋岩	接合資料11, 平坦打痕, 波擦角120°, 1縁辺に微細波擦痕あり, 自然面あり	149
2	Ka-069	-	道標候山面	-	打製石器	石核	-	3.4×4.4×4.3	61.00	流紋岩	接合資料11, 稲妻材, 打面軋様あり, 自然面あり	149

第386図 接合資料(11)



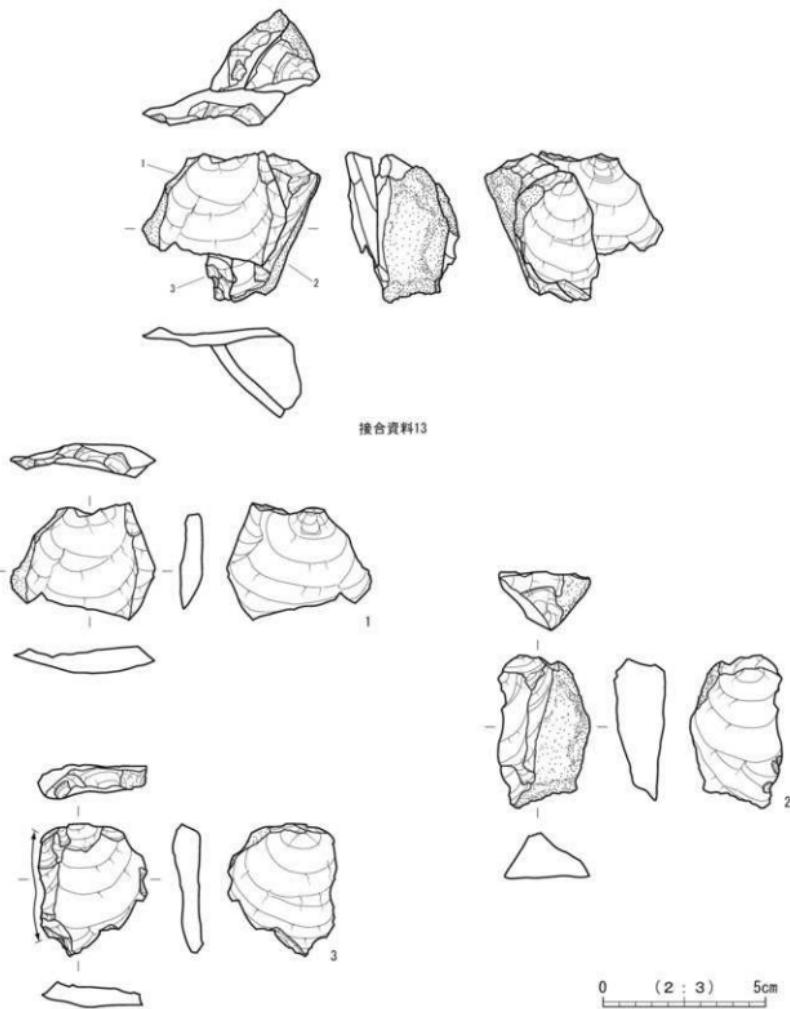
接合資料12



0 (2 : 3) 5cm

回復 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺跡-層位	取土 番号	種類	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-071	-	SD42-堆積土	-	打製石器	刮削石器 刮削器片	I	2.5×2.2×0.9	3.67	泥灰岩	接合資料12, 平坦打面, 表面角12°, 表面加工	150
2	Ka-072	-	SD113-堆積土	-	打製石器	石核	-	4.2×5.8×5.3	127.17	泥灰岩	接合資料12, 材料不明, 打面(砂利)	150

第387図 接合資料(12)



第388図 接合資料(13)

回収 番号	骨器 番号	地質 調査区	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
1	Ka-073	B14	苔層	-	打製石器	薄片	I	3.6×4.4×0.9	10.46	泥灰岩	接合資料13,切子打頭,直觀角116°,自然面あり	150
2	Ka-073	-	SD06-堆積土	-	打製石器	二次加工の ある薄片	II	4.7×2.7×1.7	38.06	泥灰岩	接合資料13,手擗打頭,直觀角126°, 表面加工,自然面あり	150
3	Ka-074	-	SH92-堆積土	-	打製石器	微細剥離痕 のある薄片	I	4.0×3.3×1.0	11.11	泥灰岩	接合資料13,切子打頭,直觀角120°, 1枚辺に微細剥離痕あり,自然面あり	150

接合資料11(第386図、写真図版149)

石核1点と微細剥離痕のある剥片1点の接合資料である。1の剥片は、分割礫素材の石核である2から剥ぎ取ったものである。1・2は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料12(第387図、写真図版150)

石核1点と剥片1点の接合資料である。2の石核には多方向からの剥離が確認され、打面転移が頻繁に行われている。1は二次加工のある剥片I類である。1・2は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料13(第388図、写真図版150)

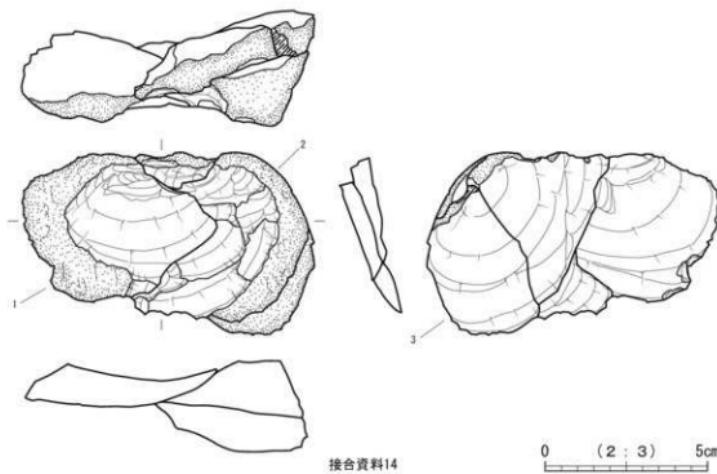
剥片3点の接合資料である。1・2は表面に自然面を残している。1は剥離面と自然面から成る面を打面とし、先行する剥離と同一の方向に打撃を加えて剥離されている。2・3の剥片も同一方向からの加撃によって連続的に剥離されている。2は二次加工のある剥片II類であり、3は微細剥離痕のある剥片I類である。1は弥生B区、2・3は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料14(第389・390図、写真図版150)

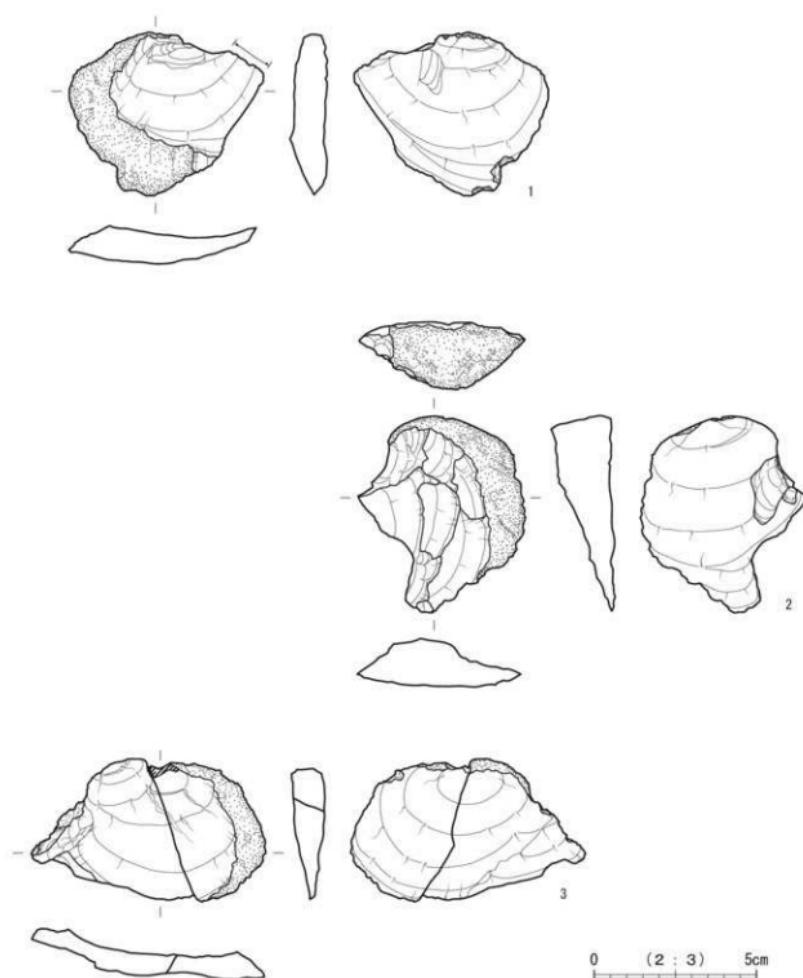
剥片3点の接合資料である。1～3は自然面を打面として、連続的に剥離されている。3は垂直割れを起こしている。1は微細剥離痕のある剥片I類である。1～3は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料16(第391図、写真図版150)

剥片3点の接合資料である。1は表面の右側縁に、2と3は左側縁に自然面を残している。1は自然面を打面とし、剥離された剥片である。2は180°の打面転移が行われ、剥離面を打面とし、剥離された剥片である。同時割れを起こしている。3は90°の打面転移が行われ、節理面を打面とし、剥離された剥片である。2は、微細剥離痕のある剥片I類である。1～3は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

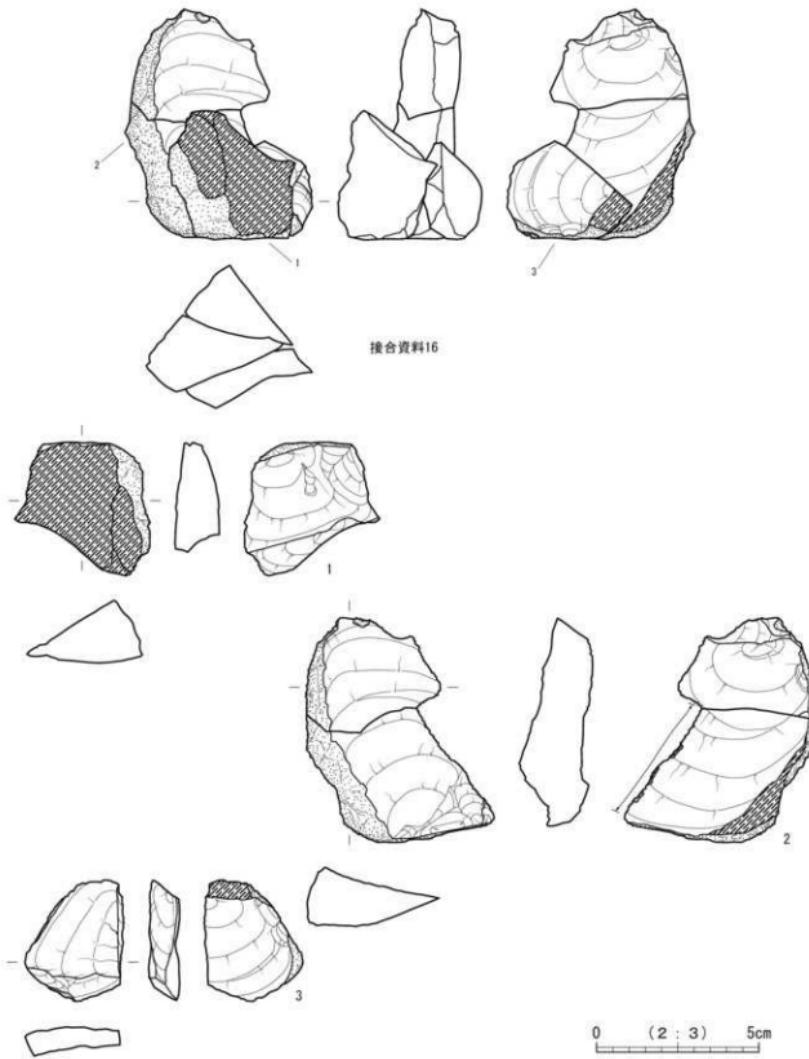


第389図 接合資料(14)



第390図 接合資料(15)

図版番号	登錄番号	出土年	調査区	出土遺構・層位	取上番号	種別	器種	分類	長×幅×厚( cm )	重量(g)	石種	備考	写真 回数
1	Ka-079	-	SII9	堆积土	-	打制石器	微细剥落有 のある剥片	I	5.0×5.9×1.3	30.84	流纹岩	複合資料14.自然面打面.剥離角100°. 工具刃.微細剥離有り.自然面あり	150
2	Ka-078	-	SII13	堆积土	-	打制石器	剥片	-	6.0×5.1×2.0	41.40	流纹岩	複合資料14.自然面打面.剥離角100°.自然面あり	150
3	Ka-076	-	SII13	堆积土	-	打制石器	剥片	-	4.2×7.2×3.0	17.90	流纹岩	複合資料14.自然面打面.剥離角131°.自然面あり	150



第391図 接合資料(16)

回収 番号	登録 番号	発生 地層・場所	出土遺物・場所	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
1	Ka-085	-	直後後面	-	打製石器	調片	-	4.0×4.1×2.1	36.00	流紋岩	接合資料16,自然面打削,剥離角120°,自然面凹り	150
2	Ka-082	-	直後後面	-	打製石器	微細剥離板 のあら剥片	I	6.7×4.7×1.0	64.07	流紋岩	接合資料16,平削打削,剥離角130°, 1縫合:微細剥離板のあら剥片	150
3	Ka-083	-	直後後面	-	打製石器	調片	-	3.6×2.9×0.9	10.29	流紋岩	接合資料16,平削打削,剥離角132°,自然面凹り	150

#### 接合資料17(第392・393図、写真図版151)

二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片1点の接合資料である。1・2は表面に自然面を残している。3は折れ面で接合したものである。1・2は剥離面を打面とし、剥離された剥片である。1・2は連続的に剥離された剥片であり、3は作業面を移動して剥離された二次加工のある剥片Ⅲ類である。1は厚手の剥片であり、微細剥離痕のある剥片I類、3は二次加工のある剥片Ⅲ類である。1は弥生D区、2・3は弥生C区からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料18(第394図、写真図版151)

剥片2点の接合資料である。ともに表面に自然面を残している。Ka-091は自然面を打面とし、剥離された剥片である。Ka-090の剥片も同一方向からの加撃によって剥離されているが、打面側を失っている。Ka-091は古代の遺構内堆積土、Ka-090は弥生C区S X Iからの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料19(第394図、写真図版151)

微細剥離痕のある剥片2点の接合資料である。ともに表面に自然面を残している。1は剥離面を打面とし、剥離された剥片である。2の剥片は90°の打面転移が行われ、1と異なる剥離面を打面として、剥離されている。ともに微細剥離痕のある剥片I類である。1・2は古代の遺構検出面から出土している。石材は流紋岩である。

#### 接合資料20(第395図、写真図版151)

剥片4点の接合資料である。1・3・4は表面下端に自然面を残している。1の剥片は打面を失っている。2は1と同一方向から剥離されているが、3は打面を180°転移して剥離されている。4はさらに打面を90°転移して、1・2と3の剥離によって形成された稜が伸びる方向に打撃を加えて剥離されている。1は古代の遺構内堆積土、2は弥生C区S X I、3・4は弥生C区からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料21(第396図、写真図版152)

微細剥離痕のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。ともに表面の左側縁に自然面を残している。1は剥離面を打面とし、剥離された剥片である。2の剥片は同一方向からの加撃によって剥離されているが、打面側を欠損する。2は微細剥離痕のある剥片I類である。1は弥生B区、2は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料22(第397図、写真図版152)

石核1点と剥片1点の接合資料である。ともに一部分に自然面を残している。1は剥離面を打面とし、剥離された剥片である。2は剥離面に覆われた残核状の石核である。1は弥生B区、2は弥生E区からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料23(第398~400図、写真図版152)

石核1点、微細剥離痕のある剥片3点、剥片5点の接合資料である。1・2と3~9は分割後別々の個体として剥片剥離がなされている。1・2はともに表面の右側に自然面を大きく残し、3~8は表面の上端面に自然面を残している。9は表面の左側縁側に自然面が残存する。1・2は平坦剥離面を打面とし、剥離された剥片である。3~8は自然面を打面とし、剥離された剥片である。9は90°の打面転移が行われ、剥離面から成る面を打面とし、剥離された剥片である。1・2・9は微細剥離痕のある剥片I類である。1・4は古代の遺構検出面、2・3・5~8は古代の遺構内堆積土、9は弥生B区からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料24(第401図、写真図版153)

剥片2点の接合資料である。1は表面の右側縁側に自然面を残し、2の表面の左側縁側にも自然面が残されている。ともに剥離面を打面としており、1を剥離し、それによって形成された面を打面として90°の打面転移が行われている。2は打面転移後に剥離されている。1・2は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料25(第402図、写真図版153)

剥片3点の接合資料である。1・2は表面の中央から右側縁側に広がる自然面を残し、3は表面の中央から左側縁側に自然面を残している。1は剥離面と自然面によって構成される面を打面とし、剥離された剥片である。2は90°の打面転移が行われ、剥離面を打面とし、剥離された剥片である。3はさらに90°の打面転移が行われ、剥離面を打面としている。1・2は弥生E区、3は弥生B区からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料26(第403図、写真図版153)

二次加工のある剥片1点と垂直割れを起こした剥片の接合資料である。ともに自然面を打面としている。1は、2より先に剥ぎ取ったものであり、二次加工のある剥片1類である。1は弥生B区SK42・43、2は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料27(第404図、写真図版153)

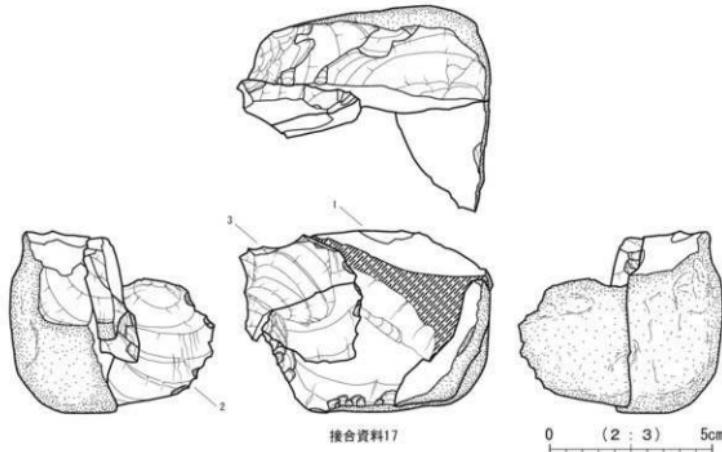
剥片2点の接合資料である。剥離面を打面とし、1を剥離している。90°の打面転移が行われ、剥離面から成る面を打面とし、2を剥離している。1は古代の遺構検出面、2は弥生B区からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料28(第405図、写真図版154)

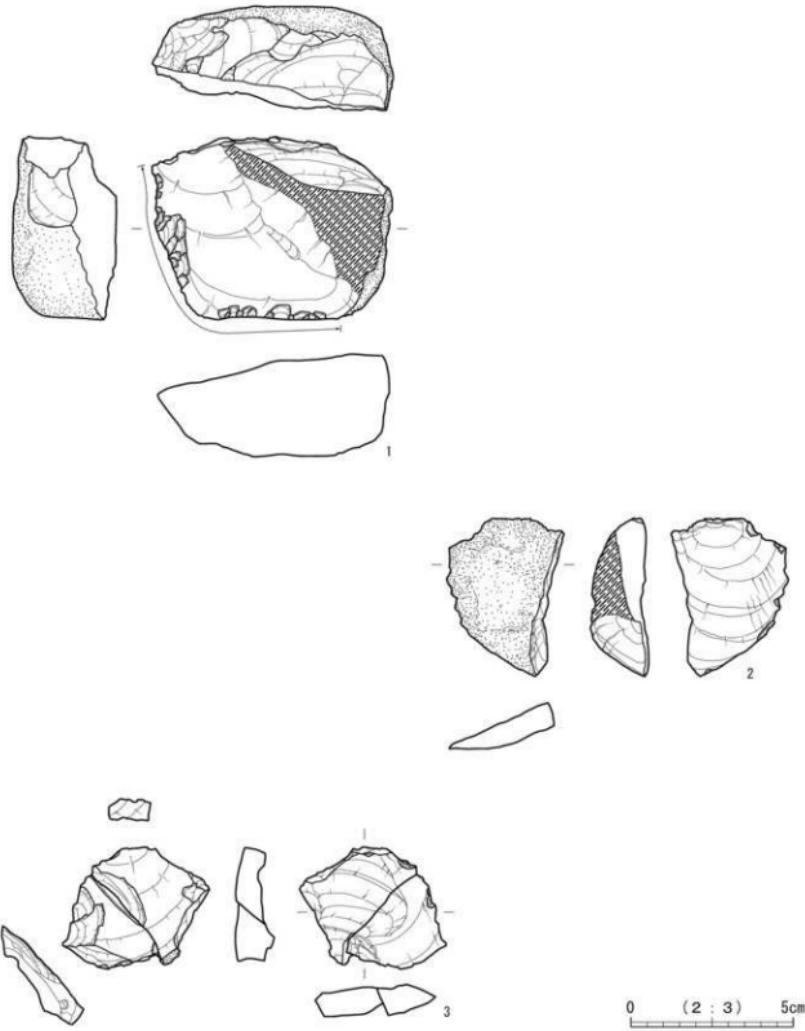
剥片2点の接合資料である。ともに表面の左側縁側に自然面を残している。1は剥離面と自然面から成る面を打面とし、表面右方向からの剥離によって形成された稜線が伸びる方向に打撃を加えて剥離された綫長剥片である。2の剥片も同一方向からの加撃によって剥離されている。1は弥生E区、2は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料29(第406図、写真図版154)

石核1点と剥片3点の接合資料である。3は、垂直割れを起こしている。1は自然面を打面とし、剥離された剥片である。2は180°の打面転移が行われ、剥離面から成る面を打面とし、剥離された剥片である。3は再度180°の打面転移が行われ、剥離面を打面とし、剥離された剥片である。1・3・4は弥生A区、2は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

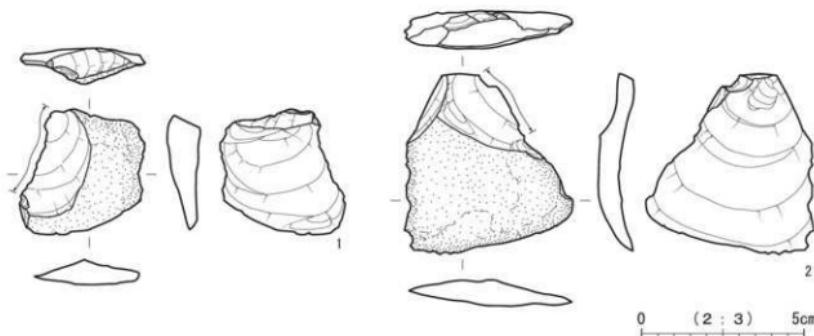
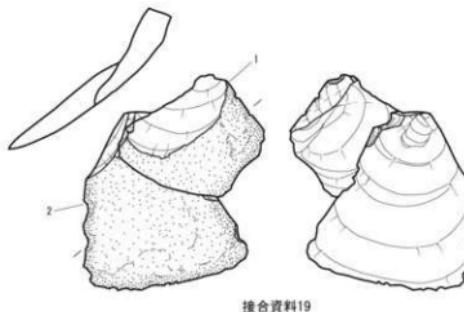
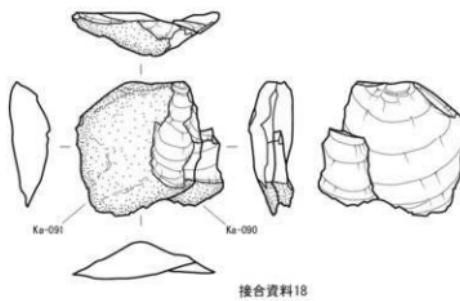


第392図 接合資料(17)



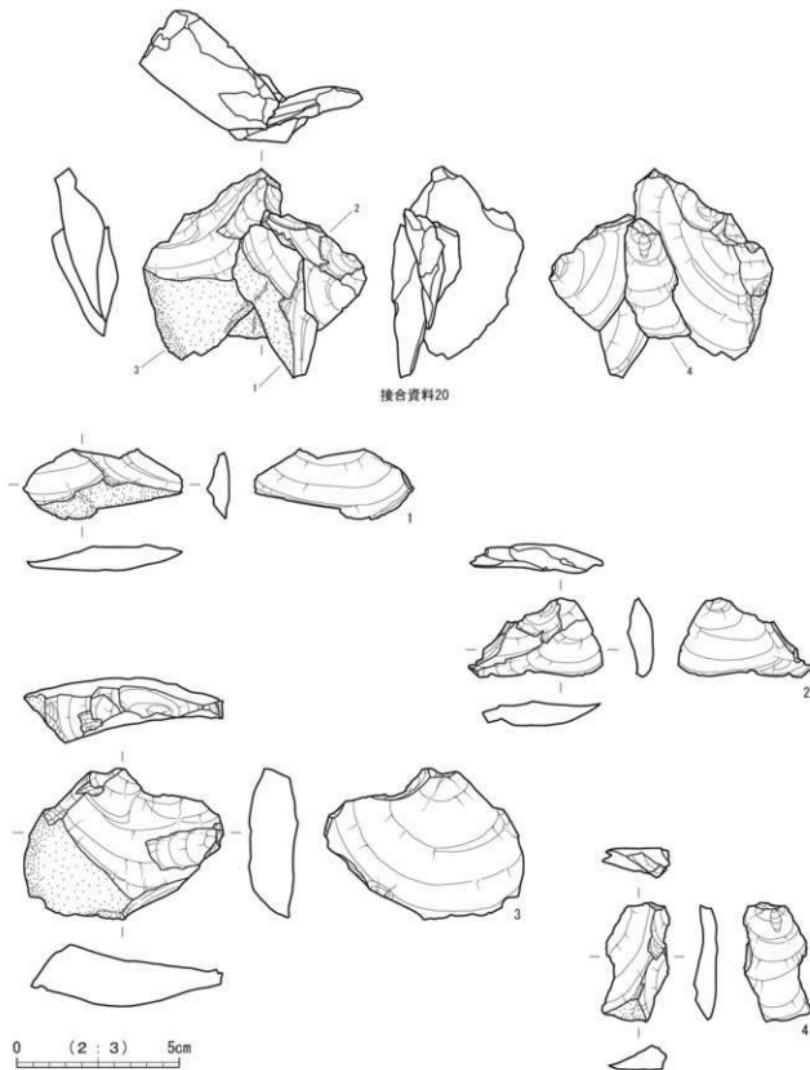
第393図 接合資料(18)

図版 番号	標記 番号	地名 調査区	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-086	DK	灰層	-	打製石器	圓錐形刃部 のある破片	I	5.6×7.3×3.2	164.39	泥灰岩	荷合資料17, 行画部欠損, 1枚辺に微細網状模様あり。 (自然風化)	151
2	Ka-087	CK	灰層	S6	打製石器	適合	-	4.8×3.4×1.7	15.78	泥灰岩	荷合資料17, 平坦打面, 刃端角129°, 自然風化	151
3	Ka-088	CK	灰層	S154	打製石器	二次加工の ある破片	III	3.8×4.7×1.2	16.73	泥灰岩	荷合資料17, 平坦打面, 刃端角109°, 表面・裏面加工。 (自然風化)	151



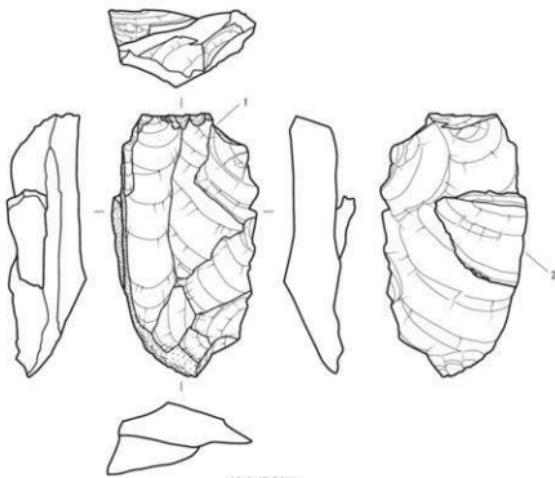
回収 番号	登録 番号	地生 調査区	出土遺跡・層位	取土 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石経	備考	写真 図版
Ka-001	-	SII-9地盤土	-	打削石器	断片	-	-	4.0×4.1×1.2	15.40	流紋岩	接合資料18. 平削打削. 断面角105°. 自然面あり.	151
Ka-000	C14	SXI-堆積土	S3	打削石器	断片	-	-	2.2×1.8×0.5	1.26	流紋岩	接合資料18. 平削打削. 断面角105°.	151
1	Ka-092	-	道徳地出面	-	打削石器	断片	I	3.8×3.7×1.0	10.20	流紋岩	接合資料19. 平削打削. 断面角105°. 自然面あり.	151
2	Ka-093	-	道徳地出面	-	打削石器	断片	I	5.5×5.0×0.8	18.89	流紋岩	接合資料19. 平削打削. 断面角105°. [断面: 滑面消磨面あり]. 自然面あり.	151

第394図 接合資料(19)

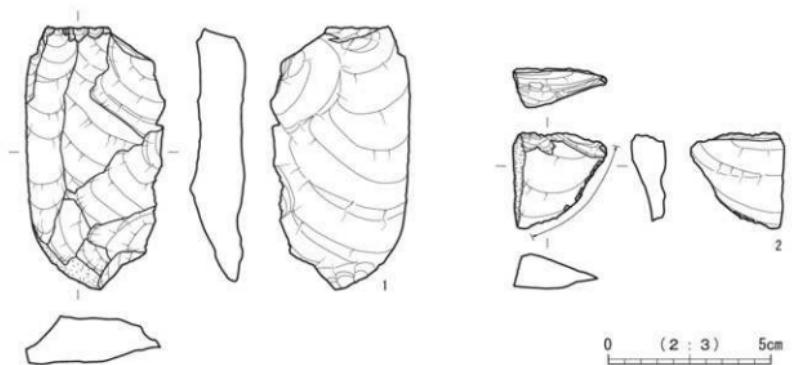


第395図 接合資料(20)

図版 番号	登録 番号	発生 場所	出土遺跡・鉢位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-094	-	SH19-堆積土	-	打製石器	調片	-	2.1×4.9×0.8	5.49	流紋岩	接合資料20, 打面崩欠損, 自然面あり	151
2	Ka-096	CIR	S2-1堆積土	S2	打製石器	調片	-	2.4×4.1×0.9	5.96	流紋岩	接合資料20, 斜状打面, 断面角125°	151
3	Ka-095	CIR	剖面	S2%	打製石器	調片	-	4.6×6.0×1.9	42.23	流紋岩	接合資料20, 平削打面, 断面角128°, 自然面あり	151
4	Ka-097	CIR	基盤	S183	打製石器	調片	-	2.6×1.8×0.8	4.60	流紋岩	接合資料20, 平削打面, 断面角125°, 自然面あり	151

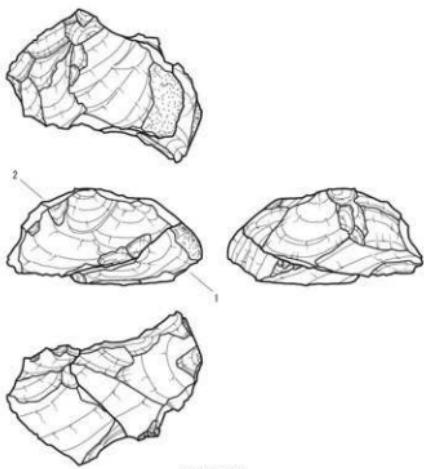


接合資料21

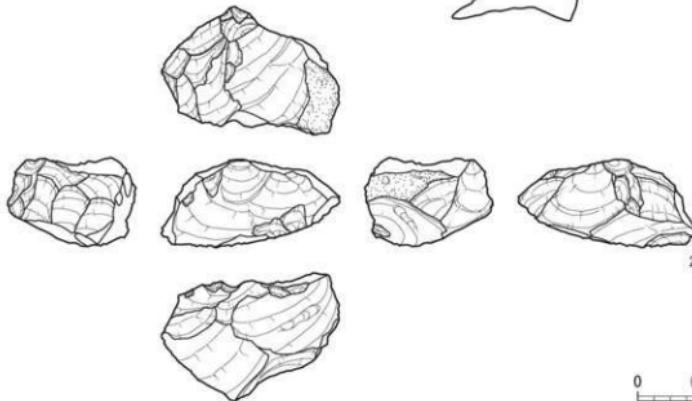
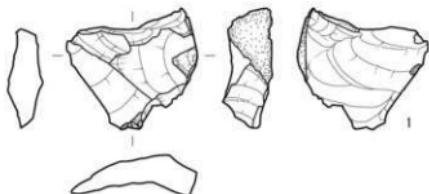


図版 番号	登録 番号	保存 調査区	出土遺物・層位	取土 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備　考	写真 図版
1	Ka-009	B1C	石器	-	打製石器	砾石	-	8.1×4.3×1.8	35.00	流紋岩	接合資料21. 平頂打面. 滑離角120°. 自然面あり.	152
2	Ka-008	-	SII2c-堆積土	-	打製石器	圓錐形刮削器 のあら波片	1	2.9×2.9×1.2	7.41	流紋岩	接合資料21. 打面部欠損. 1枚辺に微細剥離痕あり. 自然面あり.	153

第396図 接合資料(21)



接合資料22



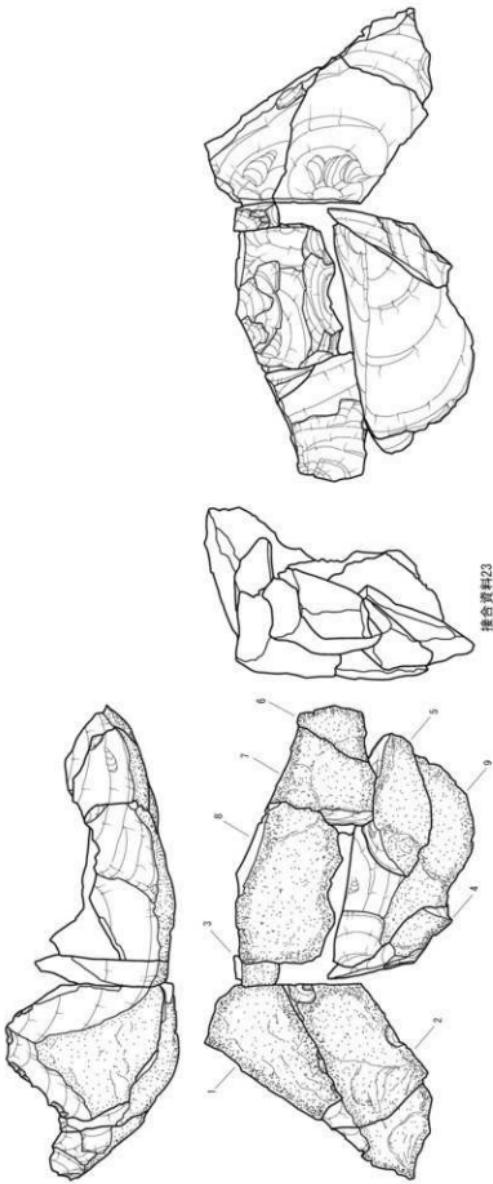
0 (2 : 3) 5cm

图版 番号	登録 番号	産生 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
1	Ka-100	BIE	灰層	-	打製石器	断片	-	3.1×4.0×1.3	14.85	流紋岩	接合資料22.打面部欠損.自然面あり	152
2	Ka-101	EIE	灰層	-	打製石器	石核	-	2.6×5.0×3.8	49.78	流紋岩	接合資料22.標素材.打面部移り.自然面あり	152

第397図 接合資料(22)

0 (2 : 3) 5cm

接合資料23



第398図 接合資料(23)



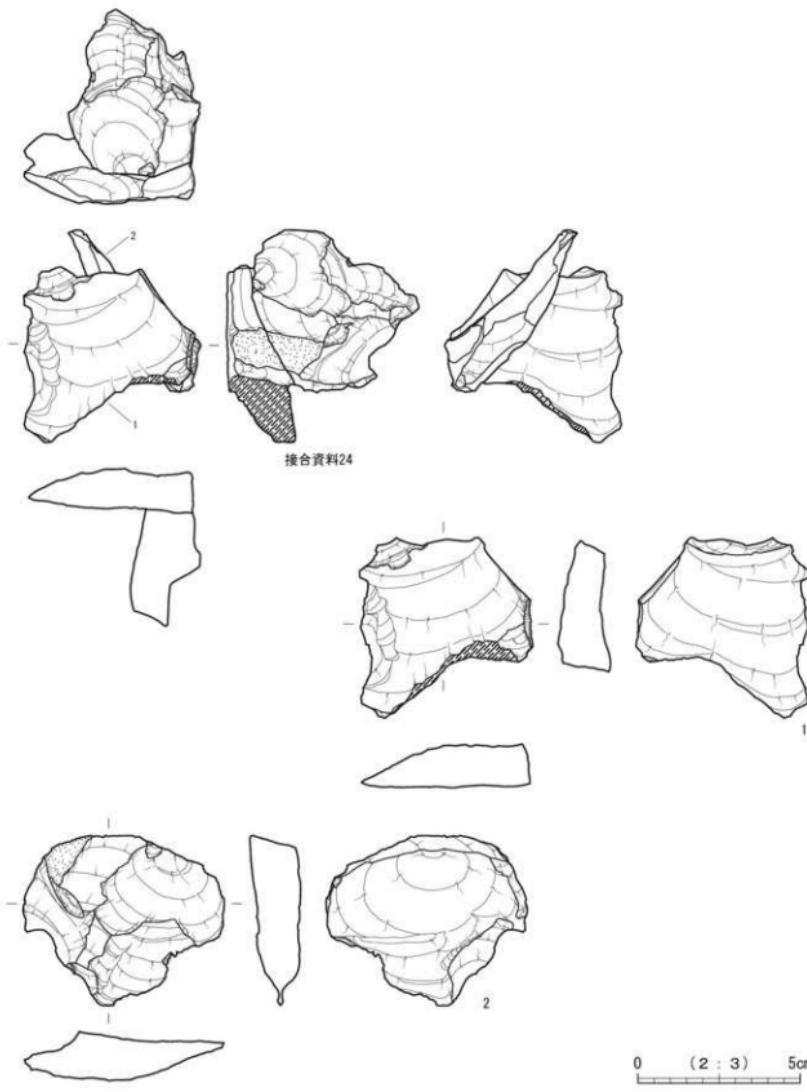
回収 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺跡・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	参考	写真 回数
1	Ka-103	-	遺構検出面	-	打製石器	微細剥離痕 のある剥片	I	4.8×5.6×1.8	37.35	流紋岩	複合資料23.平打打扁.剥離角135°. 1端辺に微細剥離痕あり.自然面あり	152
2	Ka-102	-	SH13堆積土	-	打製石器	微細剥離痕 のある剥片	I	7.3×5.2×1.9	42.73	流紋岩	複合資料23.平打打扁.剥離角126°. 1端辺に微細剥離痕あり.自然面あり	152
3	Ka-111	-	SH13堆積土	-	打製石器	薄片	-	4.1×1.2×0.9	4.86	流紋岩	複合資料23.自然面打扁.剥離角93°.自然面あり	152
4	Ka-109	-	遺構検出面	-	打製石器	薄片	-	3.6×3.8×1.1	11.87	流紋岩	複合資料23.自然面打扁.剥離角110°.自然面あり	152
5	Ka-107	-	Pi148堆積土	-	打製石器	薄片	-	2.5×4.6×1.1	9.60	流紋岩	複合資料23.自然面打扁.剥離角140°.自然面あり	152

第399図 接合資料(24)



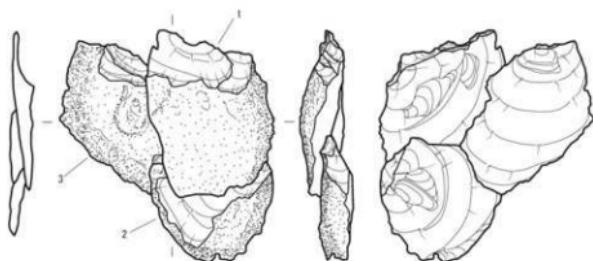
第400図 接合資料(25)

団号	登記 番号	発生 場所	出土遺物・組合	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石種	備考	写真 提供
6	Ka 306	-	SII2°地積土	-	打製石器	刮削器	-	3.4×2.9×1.5	10.05	流紋岩	集合資料23、自然面打面、剥離角92°、自然面あり	152
7	Ka 304	-	SII9°地積土	-	打製石器	刮削器	-	2.3×3.4×2.5	18.15	流紋岩	集合資料23、自然面打面、剥離角113°、自然面あり	152
8	Ka 305	-	SII15°地積土	-	打製石器	石核	-	2.9×3.2×2.7	42.84	流紋岩	集合資料23、標素材、打面軸移あり、自然面あり	152
9	Ka 308	B区	石器	S22	打製石器	刮削器	-	6.8×3.8×1.8	35.05	流紋岩	集合資料23、打面部欠損、自然面あり	152

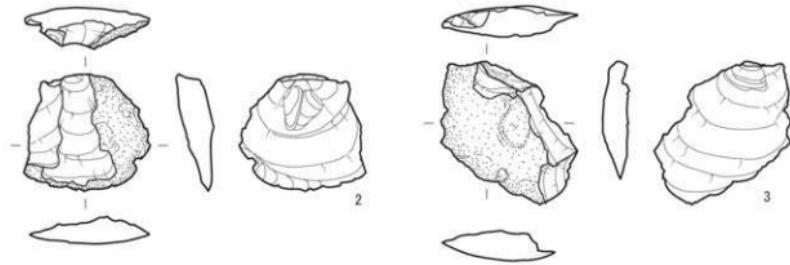
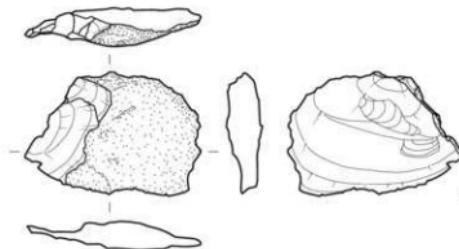


第401図 接合資料(26)

国版 番号	登録 番号	誕生 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 国版
1	Ka-112	-	遺構焼出面	-	打製石器	剥片	-	5.3×5.2×1.8	39.75	泥凝岩	接合資料24, 打面部欠損, 自然面刃	153
2	Ka-113	-	遺構焼出面	-	打製石器	剥片	-	5.2×6.2×1.7	42.87	泥凝岩	接合資料24, 平削打面, 斜面角114°, 自然面刃	153



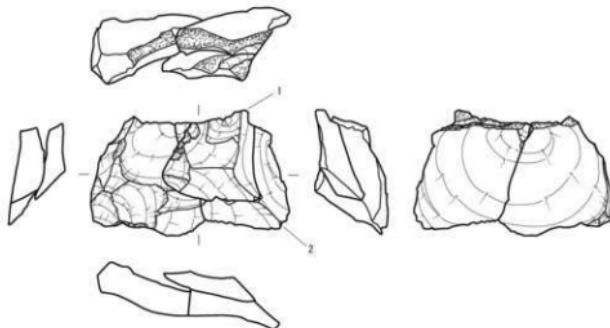
接合資料25



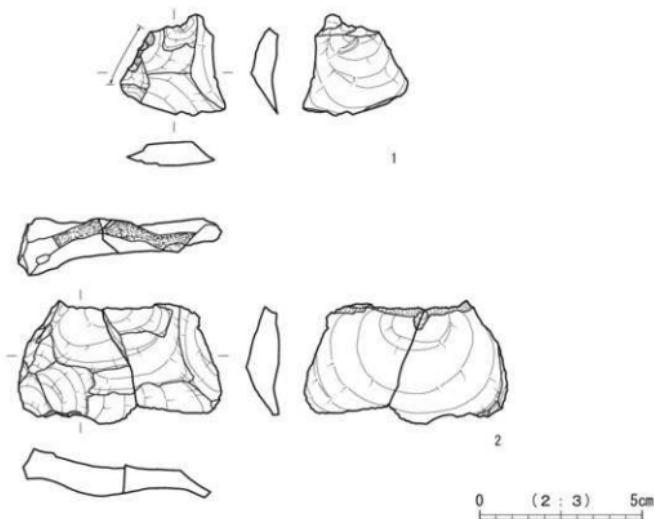
0 (2 : 3) 5cm

圖版 番号	登錄 番号	地生 調査区	出土遺物・類別	取上 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-115	EIK	灰層	-	打製石器	刮削	-	3.7×5.3×1.2	18.06	流紋岩	接合資料25、切子打面、剥離角116°、自然面あり	153
2	Ka-114	EIK	灰層	-	打製石器	刮削	-	3.6×3.7×1.0	12.28	流紋岩	接合資料25、切子打面、剥離角116°、自然面あり	153
3	Ka-116	BIK	灰層	S41	打製石器	刮削	-	3.7×4.4×0.9	12.13	流紋岩	接合資料25、打面部欠損、自然面あり	153

第402図 接合資料(27)

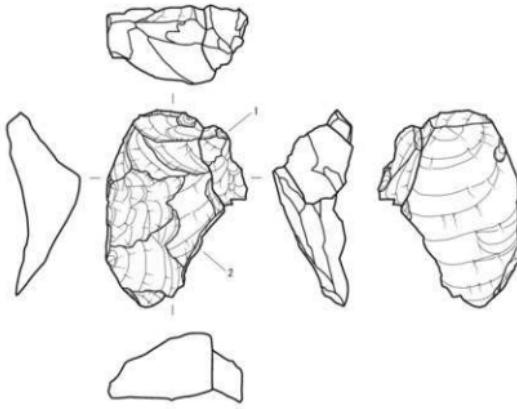


接合資料26

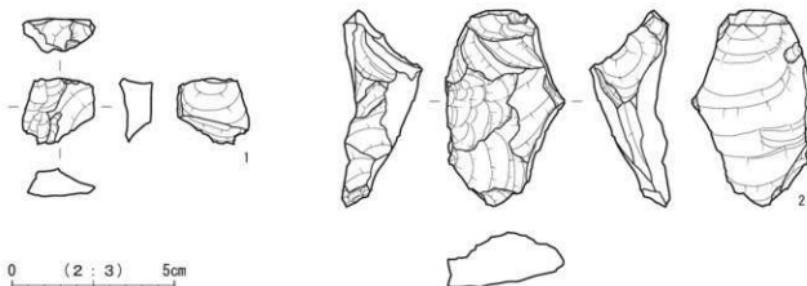


第403図 接合資料(28)

図版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-117	BDK	SK42-43- 地盤土	-	打製石器	二次加工の ある薄片	I	3.3×2.9×0.8	5.66	流紋岩	接合資料26.自然面打面.剥離角120°.表面加工. 自然面あり	153
2	Ka-118	-	遺構検出面	-	打製石器	薄片	-	3.6×6.2×1.2	9.97	流紋岩	接合資料26.自然面打面.剥離角118°.自然面あり	153

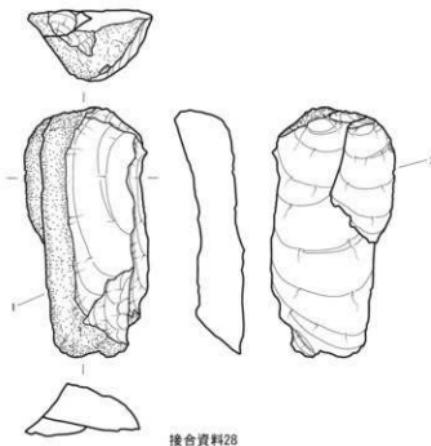


接合資料27

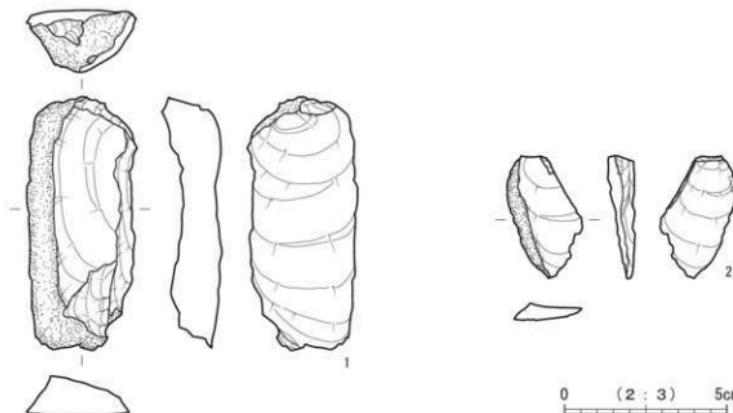


回収 番号	登録 番号	地生 調査区	出土遺物・位置	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-121	-	遺構後表面	-	打制石器	刮片	-	2.0×2.2×1.0	4.05	流紋岩	接合資料27, 平然打面, 斜離角105°	153
2	Ka-120	BK	刮削	S36	打制石器	刮片	-	6.0×3.6×2.1	36.05	流紋岩	接合資料27, 平然打面, 斜離角123°	153

第404図 接合資料(29)

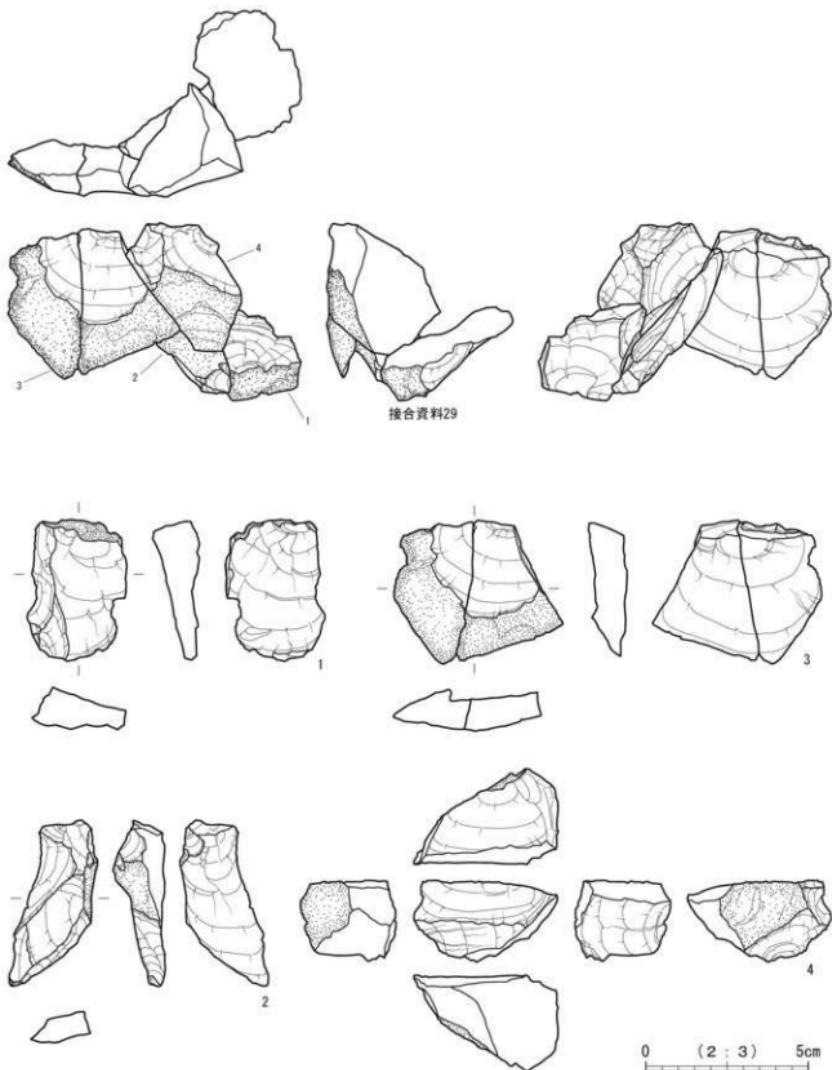


接合資料28



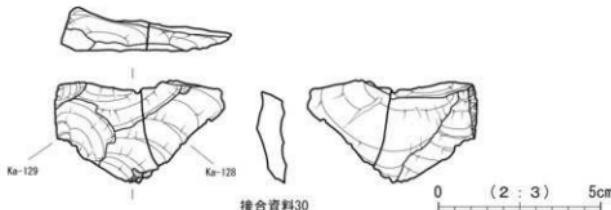
第405図 接合資料(30)

図版 番号	登錄 番号	地名 調査区	出土遺物・部位	取上 番号	種別	部種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
1	Ka-122	EIE	刮削器	-	打製石器	剥片	-	7.7×3.2×1.7	47.82	流紋岩	接合資料28,自然面打削,剥離角120°,自然面あり	154
2	Ka-123	-	SD55-用植土	-	打製石器	剥片	-	3.6×2.1×0.8	4.55	流紋岩	接合資料28,平行打削,剥離角105°,自然面あり	154



第406図 接合資料(31)

図版 番号	登録 番号	地生 性	出土遺跡・部位	出土 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石種	筆 考	写真 図版
1	Ka-127	AIK	灰層	-	打製石器	刮削片	-	4.3×2.9×1.6	16.19	流紋岩	接合資料29,自然面打面,剥離角10°,自然面凹	154
2	Ka-010	AIK	灰層	-	打製石器	石核	-	2.4×4.1×2.8	27.32	流紋岩	接合資料29,刮削片,打面斜角9°,自然面凸	154
3	Ka-124	AIK	灰層	-	打製石器	刮削片	-	4.3×4.7×1.3	14.12	流紋岩	接合資料29,平行打面,剥離角15°,自然面凹	154
4	Ka-126	-	遺構候出面	-	打製石器	刮削片	-	4.4×2.2×1.5	11.36	流紋岩	接合資料29,平行打面,剥離角125°,自然面凹	154



第407図 接合資料(32)

#### 接合資料30(第407図、写真図版154)

折れ面で接合した剥片である。表面の左側縁側に自然面を残している。Ka-128は弥生B区出土、Ka-129は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料31(第408・409図、写真図版154)

微細剥離痕のある剥片2点と剥片1点の接合資料である。いずれも表面の左側縁側に自然面を残している。1は剥離面と自然面から成る面を打面として、2は自然面を打面として、剥離された剥片であり、3は2の剥離によって形成された剥離面を打面とし、剥離された剥片である。2・3は微細剥離痕のある剥片1類である。1は弥生C区、2・3は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料34(第410図、写真図版154)

二次加工のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。剥離面から成る面を打面とし、1、2の順序で剥離されている。2は同時割れを起こしており、そのうち1点は二次加工のある剥片Ⅲ類である。1は弥生E区、2は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料35(第411図、写真図版154)

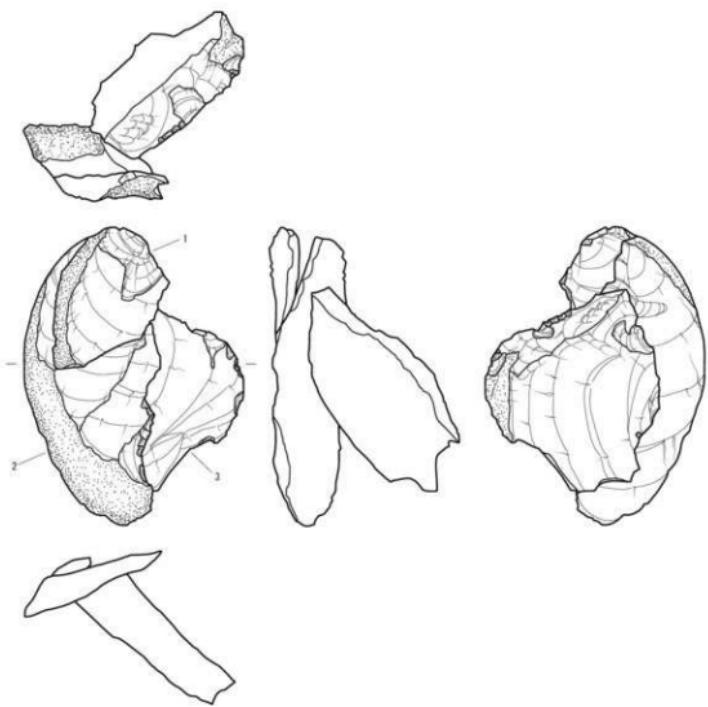
二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片1点の接合資料である。1は表面に自然面を残し、2・3は表面の右側縁側に自然面を残している。2は同時割れを起こしている。1は剥離面を打面とし、剥離された剥片である。2は90°の打面転移が行われ、1の剥離によって形成された剥離面を打面とし、剥離された剥片である。3は90°の打面転移が行われ、剥離面を打面とし、剥離された剥片である。1は二次加工のある剥片Ⅱ類であり、3は微細剥離痕のある剥片Ⅰ類である。1は古代の遺構内堆積土、2は古代の遺構検出面、3は弥生C区からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料36(第412図、写真図版154)

剥片3点の接合資料である。いずれも表面に自然面を大きく残している。1は同時割れを起こしている。1～3は連続的に剥離されているが、打面は剥離時に欠損している。1は弥生E区、2は弥生B区、3は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料37(第412図、写真図版154)

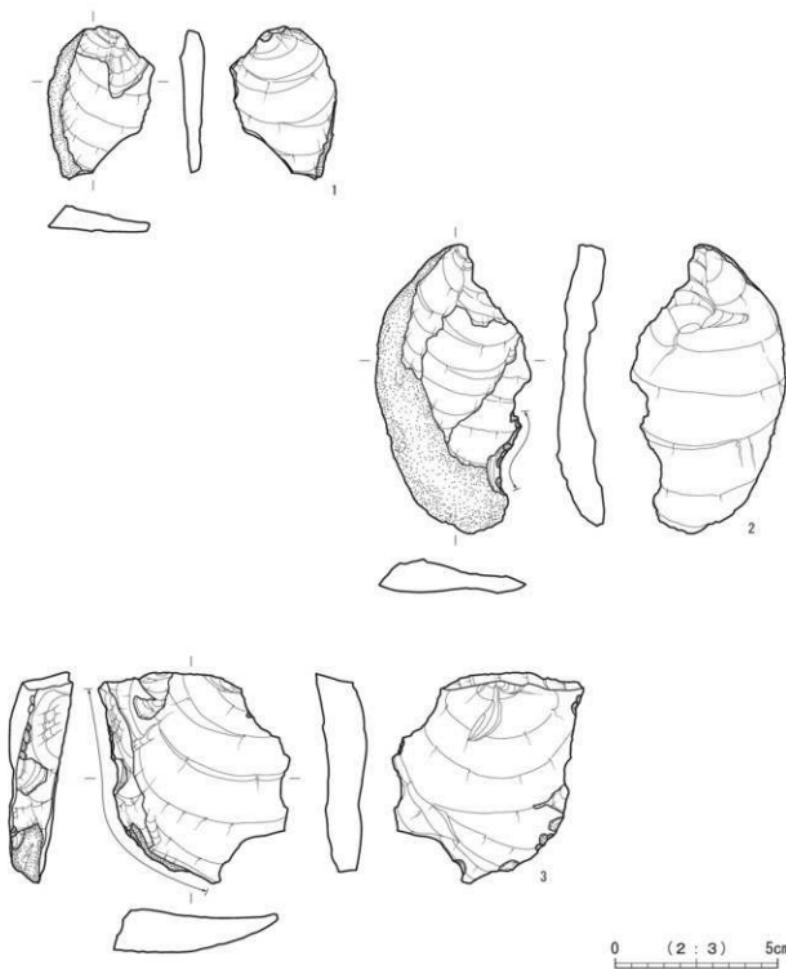
Ka-148～151は同時割れを起こした剥片である。剥離面から成る面を打面として、剥離されている。Ka-148・149は古代の遺構検出面、Ka-150は弥生B区、Ka-151は弥生E区からの出土である。石材は流紋岩である。



接合資料31

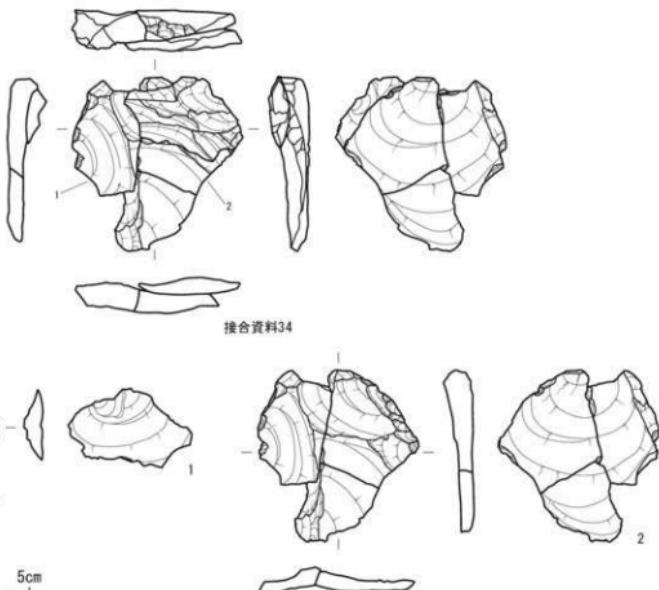
0 (2 : 3) 5cm

第408図 接合資料(33)



図版 番号	登録 番号	株生 調査区	出土遺物・割位 番号	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-131	CJK	瓦塊	S174	打製石器	刮削片	-	4.4×3.1×1.0	10.25	流紋岩	集合資料31, 平坦打削, 刮削角120°, 自然面あり	154
2	Ka-130	-	S199-堆積土	-	打製石器	微細剥離痕 のある刮削片	1	8.8×4.7×1.3	45.15	流紋岩	集合資料31, 打削部欠損, 1縁辺に微細剥離痕あり,	154
3	Ka-132	-	S198-堆積土	-	打製石器	微細剥離痕 のある刮削片	1	6.3×5.4×1.7	53.75	流紋岩	集合資料31, 平坦打削, 刮削角120°, 1縁辺に微細剥離痕あり, 自然面あり	154

第409図 接合資料(34)



第410図 接合資料(35)

#### 接合資料38(第413図、写真図版155)

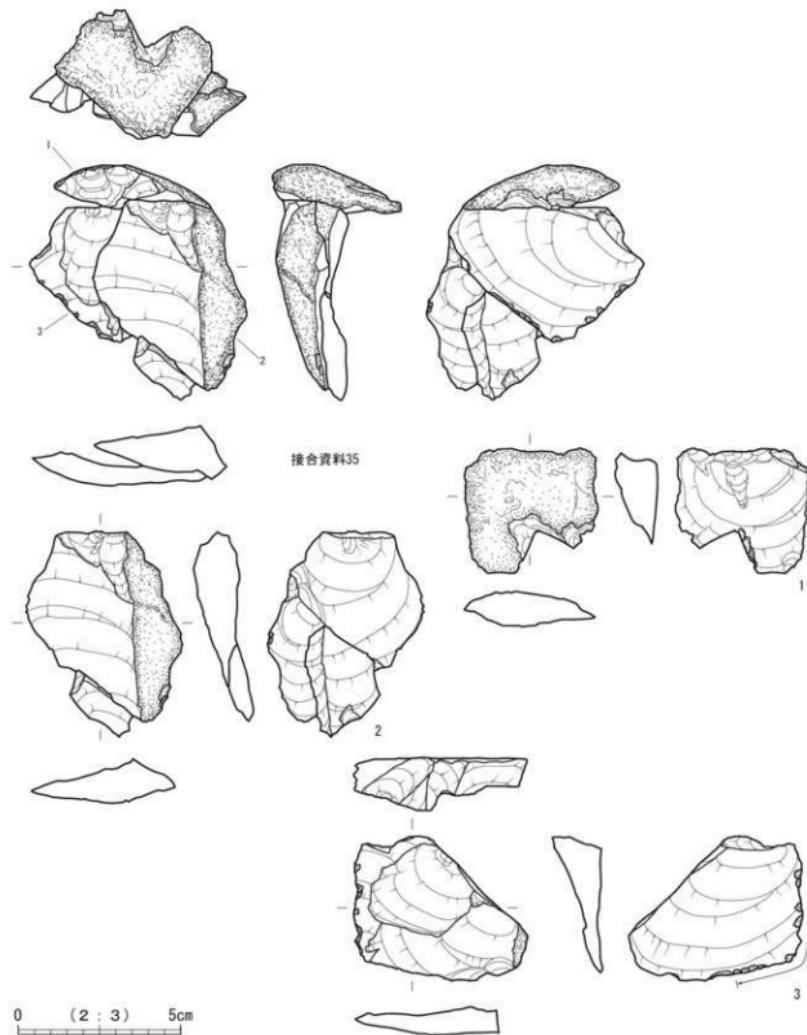
二次加工のある剥片1点と剥片2点の接合資料である。1・2は表面の右側縁側に自然面を残しており、剥離面を打面として、連続的に剥離された剥片である。3は90°の打面転移が行われた後、剥離されている。3は二次加工のある剥片Ⅲ類である。1・3は古代の造構検出面、2は弥生B区から出土している。石材は流紋岩である。

#### 接合資料39(第414図、写真図版156)

二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片1点の接合資料である。1は表面の左側縁側に自然面を残し、2は表面の右側縁側、3は表面の末端端に自然面を残している。1は剥離面から成る面を打面とした剥片であり、2は平坦打面から剥離された剥片である。3は90°の打面転移が行われ、剥離された剥片である。2は二次加工のある剥片Ⅱ類であり、1は微細剥離痕のある剥片Ⅰ類である。1・2は古代の造構検出面、3は弥生E区からの出土である。石材は流紋岩である。

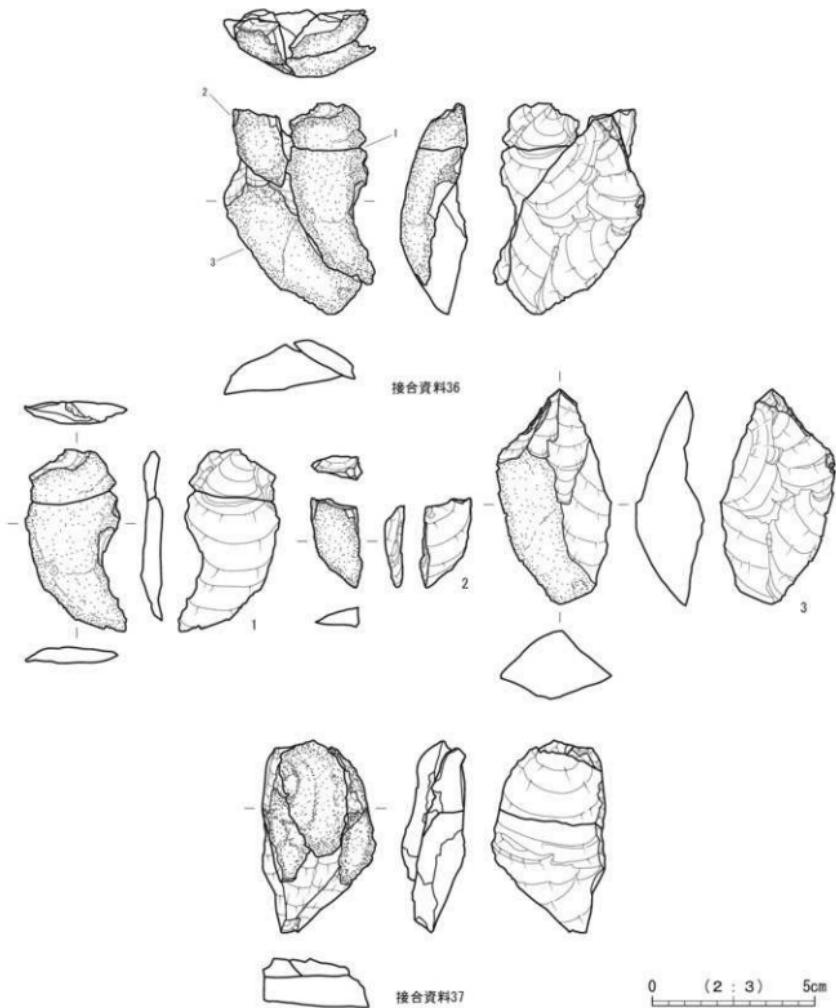
#### 接合資料40(第415図、写真図版156)

剥片2点の接合資料である。ともに表面に自然面を残している。同一の剥離面を打面として連続的に剥離された剥片である。1は古代の造構内堆積土、2は弥生E区SIIからの出土である。石材は流紋岩である。



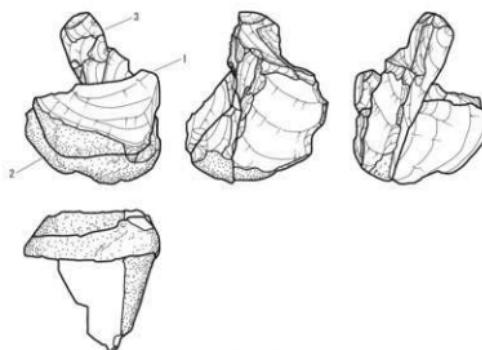
第411図 接合資料(36)

図版 番号	骨器 番号	地質 調査区	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	参考	写真 回数
1	Ka-140	-	SII96堆積土	-	打製石器	二重加工の ある破片	Ⅱ	3.8×4.0×1.3	36.33	流紋岩	接合資料35. 打面部欠損. 表面加工. 自然面あり	155
2	Ka-141	-	遺構検出面	-	打製石器	破片	-	6.2×4.5×1.6	26.69	流紋岩	接合資料35. 平坦打面. 断面角129°. 自然面あり	155
3	Ka-142	CIE	B層	S200	打製石器	微細剥離痕 のある破片	I	4.2×5.2×1.6	20.86	流紋岩	接合資料35. 切丁打面. 断面角110°. 1枚2回. 微細剥離痕あり. 自然面あり	155

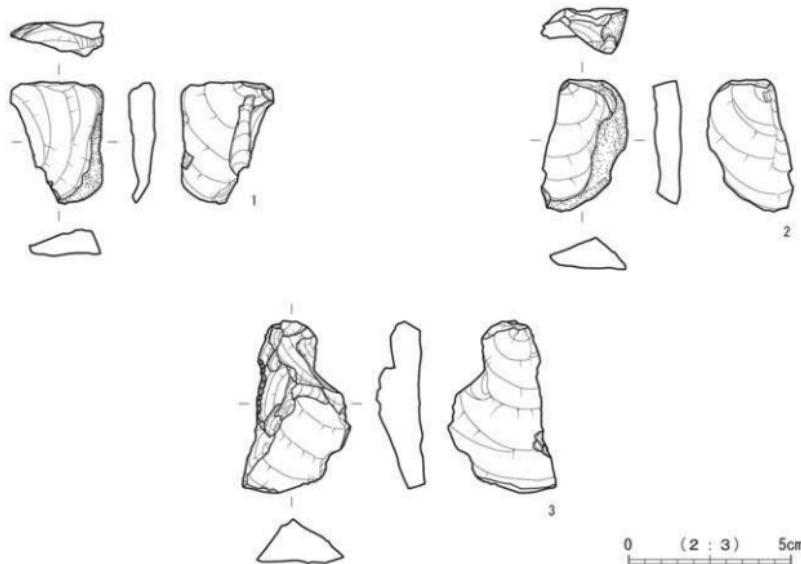


第412図 接合資料(37)

圖版 番号	登錄 番号	発生 調査区	出土場所・部位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石種	備考	写真 箇数
1	Ka-146	E区	刮削	-	打制石器	刮片	-	5.6×2.9×0.6	6.27	流紋岩	接合資料36, 打面部欠損, 自然面刃	155
2	Ka-145	E区	刮削	-	打制石器	刮片	-	1.4×2.5×0.7	2.22	流紋岩	接合資料36, 打面部欠損, 自然面刃	155
3	Ka-144	-	造形機出面	-	打制石器	刮片	-	6.6×3.4×2.5	29.04	流紋岩	接合資料36, 打面部欠損, 自然面刃	155
	Ka-148	-	造形機出面	-	打制石器	刮片	-	3.4×3.4×1.3	10.68	流紋岩	接合資料37, 打面部欠損, 自然面刃	155
	Ka-149	-	造形機出面	-	打制石器	刮片	-	4.2×1.3×0.8	4.57	流紋岩	接合資料37, 打面部欠損, 自然面刃	155
	Ka-150	E区	刮削	S68	打制石器	刮片	-	3.6×2.1×0.8	4.09	流紋岩	接合資料37, 打面部欠損, 自然面刃	155
	Ka-151	E区	刮削	S63	打制石器	刮片	-	2.9×3.2×1.0	14.05	流紋岩	接合資料37, 打面部欠損, 自然面刃	155



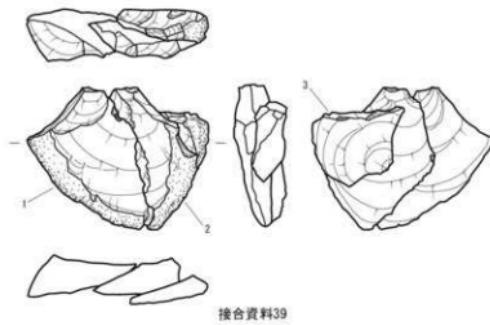
接合資料38



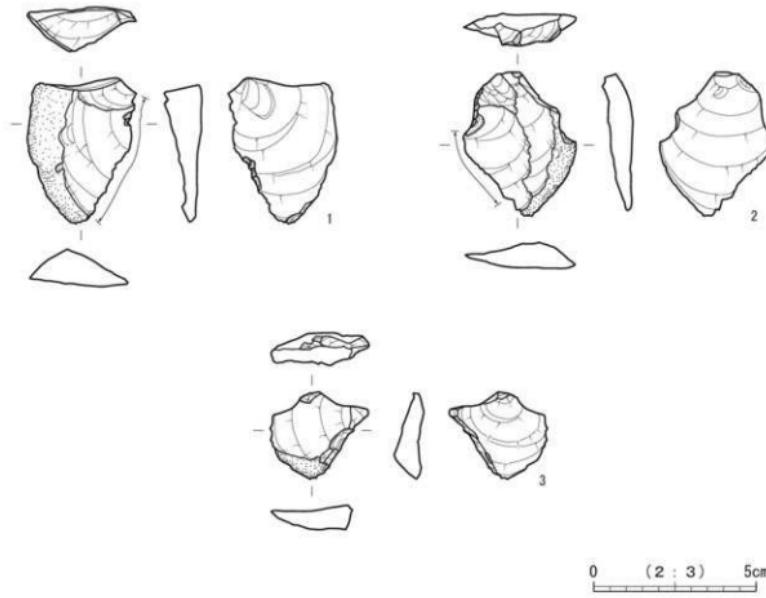
0 (2 : 3) 5cm

圖版 番号	登錄 番号	出土 場所・調査区	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
1	Ka-152	-	遺構後山面	-	打制石器	砾片	-	3.7×2.8×1.0	9.27	流纹岩	接合資料38, 平凹打面, 断面角134°, 自然面あり	155
2	Ka-153	BHK	-	-	打制石器	砾片	-	4.0×2.4×1.3	9.83	流纹岩	接合資料38, 平凹打面, 断面角115°, 自然面あり	155
3	Ka-154	-	遺構後山面	-	打制石器	二次加工の 核心砾片	Ⅲ	5.2×2.8×1.4	18.28	流纹岩	接合資料38, 切子打面, 断面角122°, 表面+裏面加工(自然面あり)	155

第413図 接合資料(38)



接合資料39



0 (2 : 3) 5cm

図版 番号	登録 番号	発生 層位	出土遺跡・場所	取土 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石種	備考	写真 回数
1	Ka-156	-	道橋後出面	-	打製石器	複数剥離断面 のある断片	I	4.2×3.2×1.3	12.90	流紋岩	接合資料39、点状打削、剥離角10°、 2段芯打削による剥離面あり。自然面あり。	156
2	Ka-155	-	道橋後出面	-	打製石器	二次加工の ある断片	II	4.2×3.4×0.8	9.26	流紋岩	接合資料39、平面打削、剥離角11°、 剥離斜面による剥離面あり。自然面あり。	156
3	Ka-157	EIK	加留	-	打製石器	断片	-	2.6×2.9×1.0	4.71	流紋岩	接合資料39、点状打削、剥離角12°、自然面あり。	156

第414図 接合資料(39)



第415図 接合資料(40)

#### 接合資料41(第416・417図、写真図版156)

石核1点と二次加工のある剥片1点の接合資料である。大型の剥片が剥離された際、同時割れが生じて2分された剥片の末端側が石核として用いられ、剥片剥離作業が行われたものと考えられる。素材剥片は剥離面と自然面から成る面を打面とし、表面に自然面を残している。1は二次加工のある剥片Ⅲ類である。2の石核の一端にはマツ痕が確認され、剥片剥離作業後は、何らかの用途に使用されたものと考えられる。一方、打面側の剥片には表面左側縁に二次加工が施されている。1は弥生B区、2は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料42(第418図、写真図版156)

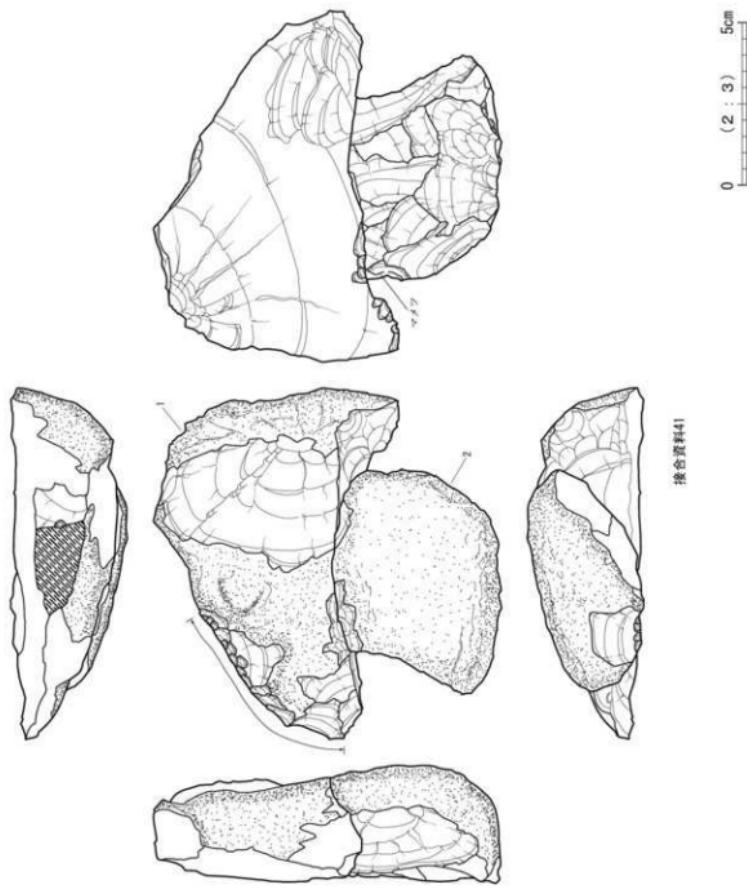
剥片2点の接合資料である。1・2とも剥離面と自然面から成る面を打面とし、剥離された剥片である。1は古代の遺構検出面、2は弥生E区からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料43(第419図、写真図版156)

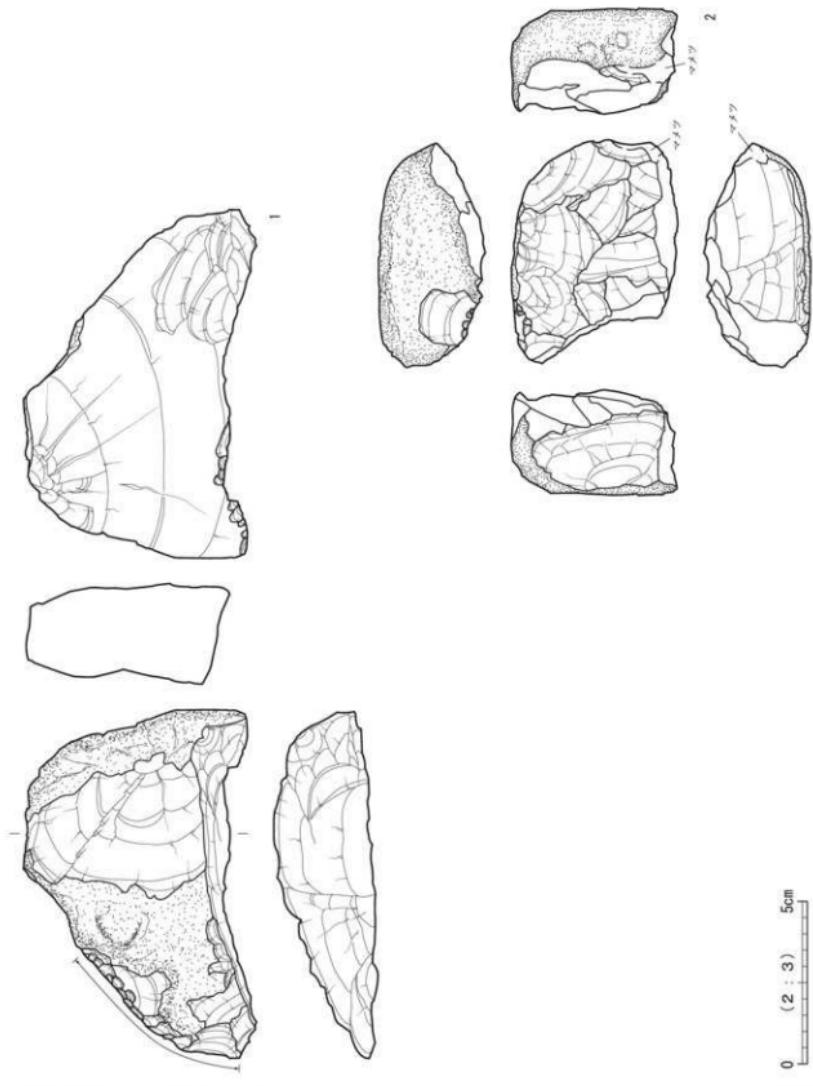
石核1点と剥片1点の接合資料である。2の石核の素材は扁平な亜円礫と推定され、自然面を打面として剥離作業を行い、その後作業面を打面にして剥片を剥離している。1・2ともに古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料44(第420図、写真図版156)

同時割れを起こした剥片の接合資料である。自然面を打面としている。Ka-166は古代の遺構検出面、Ka-167は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

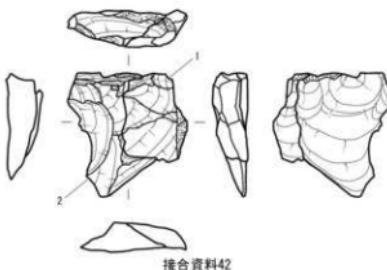


第416図 接合資料(41)

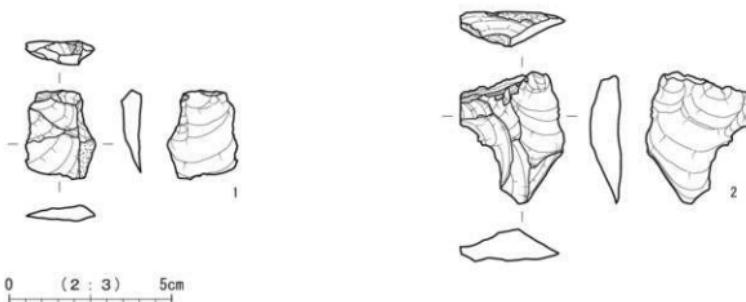


第417図 接合資料(42)

回収 番号	登録 番号	地先 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	参考	写真 番号
1	Ka-160	-	S288-P7	-	打製石器	二次加工の ある断片	Ⅲ	6.3×10.4×3.1	224.34	流紋岩	複合資料41, 平坦打削面、底面角132°、表面+侧面加工。 同様様に側面消磨面あり、自然面あり	156
2	Ka-161	BK	BK層	S7	打製石器	石核	-	4.9×6.0×3.2	129.36	流紋岩	複合資料41, 横立木打削面あり、自然面あり	156



接合資料42



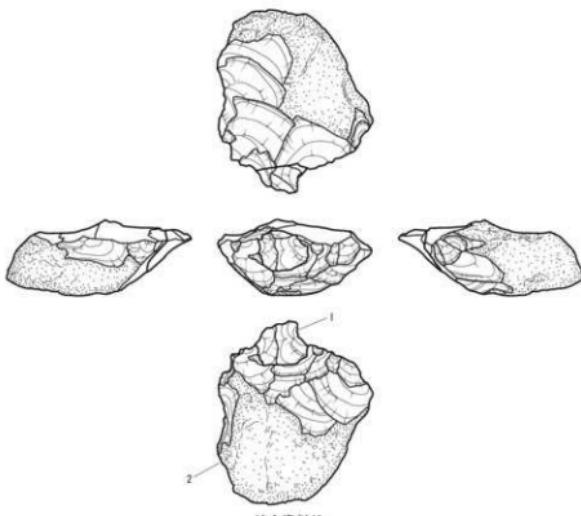
第418図 接合資料(43)

接合資料45(第420図、写真図版157)

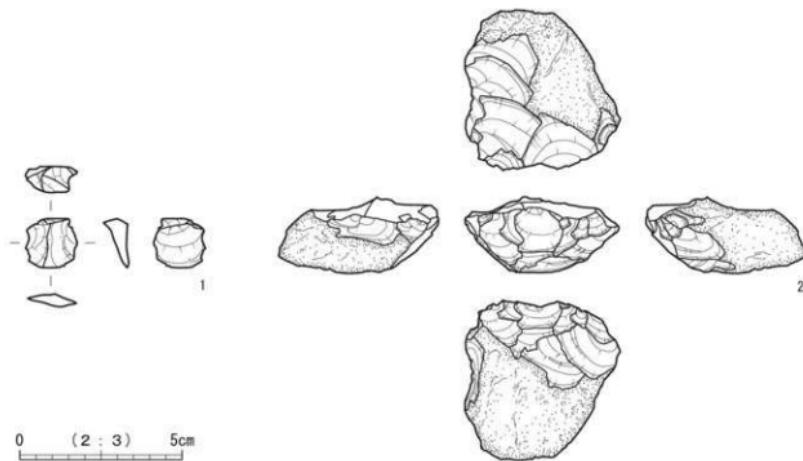
微細剥離痕のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。1・2とも同一の剥離面を打面としている。1は縦長剥片である。表面の右側縁間に自然面を残しており、先行する剥離によって形成された稜線が伸びる方向に打撃を加えて剥離されている。2の剥片も同一方向からの加撃によって剥離されている。1は微細剥離痕のある剥片Ⅱ類である。1は古代の遺構内堆積土、2は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料46(第421図、写真図版157)

折れ面で接合した剥片である。表面は自然面であり、打面は剥片剥離時に失われている。Ka-170・171は、折面で接合したものである。Ka-170は古代の遺構内堆積土、Ka-171は弥生C区からの出土である。石材は流紋岩である。



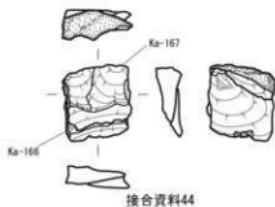
接合資料43



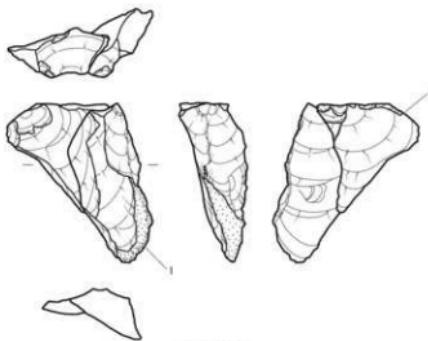
0 (2 : 3) 5cm

國版 番号	登錄 番号	地性 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長S×幅×厚S(cm)	重量(g)	石材	備 考	写真 図版
1	Ka-H65	-	SM16G堆積土	-	打制石器	断片	-	1.5×1.5×0.8	1.06	泥灰岩	接合資料43,切子打削,剥離角110°	156
2	Ka-164	-	SD66地積土	-	打制石器	石核	-	2.3×4.6×4.3	48.04	泥灰岩	接合資料43,標木村,打削軸移み,自然面み)	156

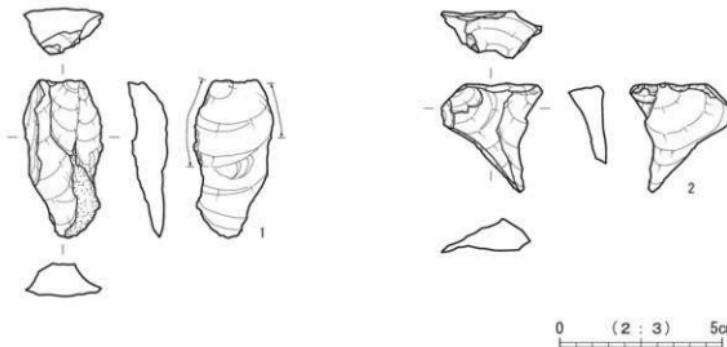
第419図 接合資料(44)



接合資料44



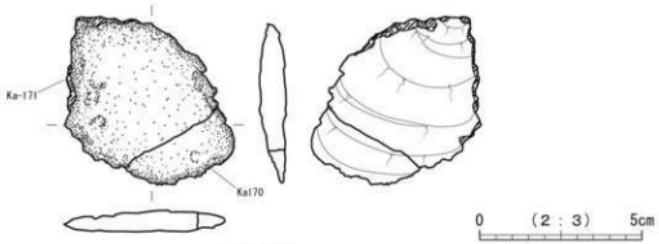
接合資料45



0 (2 : 3) 5cm

回数 番号	登録 番号	地性 調査区	出土遺物・割位	取上 番号	種別	岩相	分解	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
	Ka-366	-	遺構後出面	-	打製石器	調査	-	2.0×1.9×0.8	1.46	泥灰岩	接合資料44.自然面打面.剥離角100°.自然面刃片	156
	Ka-367	-	SD99-堆積土	-	打製石器	調査	-	2.0×2.0×0.4	2.55	泥灰岩	接合資料44.打面部欠損	156
1	Ka-369	-	SI13-堆積土	-	打製石器	調査	Ⅱ 微細剥離痕 のある面片	4.8×2.4×1.2	12.18	泥灰岩	接合資料45.平行刃面.剥離角132°. 剥離刃に微細剥離痕あり.自然面刃片	157
2	Ka-368	-	遺構後出面	-	打製石器	調査	-	3.3×2.8×1.4	5.82	泥灰岩	接合資料45.平行打面.剥離角152°	157

第420図 接合資料(45)



接合資料46

図版番号	登録番号	発生地	出土遺物・層位	取上面番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真図版
	Ka-170	-	S076堆積土	-	打製石器	剥片	-	1.7×3.3×0.8	3.78	流紋岩	接合資料46.打面欠損,自然面あり	157
	Ka-171	CJK	鉢	P180	打製石器	剥片	-	4.5×4.5×0.8	30.57	流紋岩	接合資料46.自然面打面,剥離角88°,自然面あり	157

第421図 接合資料(46)

#### 接合資料47(第422～424図、写真図版157)

石核1点、微細剥離痕のある剥片4点、剥片2点の接合資料である。1は表面の下端縁に自然面を残し、2・3は表面の左側縁に自然面を残している。1～6は剥離面を打面として、連続的に剥離された剥片である。7は分割礫素材の石核であり、一部に自然面を残している。1は微細剥離痕のある剥片II類であり、2・5・6はI類である。1・3・4・5は古代の遺構内堆積土、2・6・7は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料48(第425図、写真図版157)

同時割れと考えられる剥片の接合資料である。末端に自然面を残している。打面は剥片剥離時に失われている。ともに古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料49(第425図、写真図版158)

微細剥離痕のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。1・2とも自然面を打面とし、同一方向からの加撃によって剥離されている。1は微細剥離痕のある剥片1類である。ともに古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料50(第426図、写真図版158)

同時割れと考えられる剥片の接合資料である。表面の右側縁側に自然面を残し、Ka-189は上端面に自然面を残している。Ka-188・189は同時割れを起こしている。Ka-188・189の剥離面を打面として、1が剥離されている。Ka-188・189は剥片素材の石核である。1・Ka-189は古代の遺構検出面、Ka-188は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料51(第426図、写真図版158)

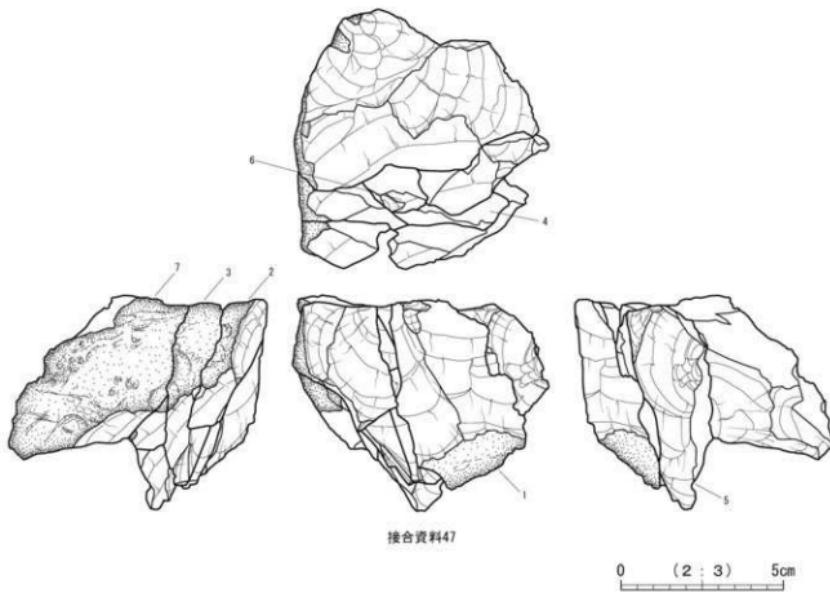
剥片2点の接合資料である。Ka-191は末端側に自然面を残している。Ka-190・191は剥離面を打面とし、打面転移が頻繁におこなわれている石核の一端から、剥離された縦長剥片である。ともに古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料52(第427図、写真図版158)

石核1点、剥片1点の接合資料である。1は表面に自然面を残し、2は下端縁に自然面を残している。1は剥離面から成る面を打面とし、剥片素材の石核である2より剥離されている。Ka-193は古代の遺構検出面、Ka-192は弥生A区からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料53(第428図、写真図版158)

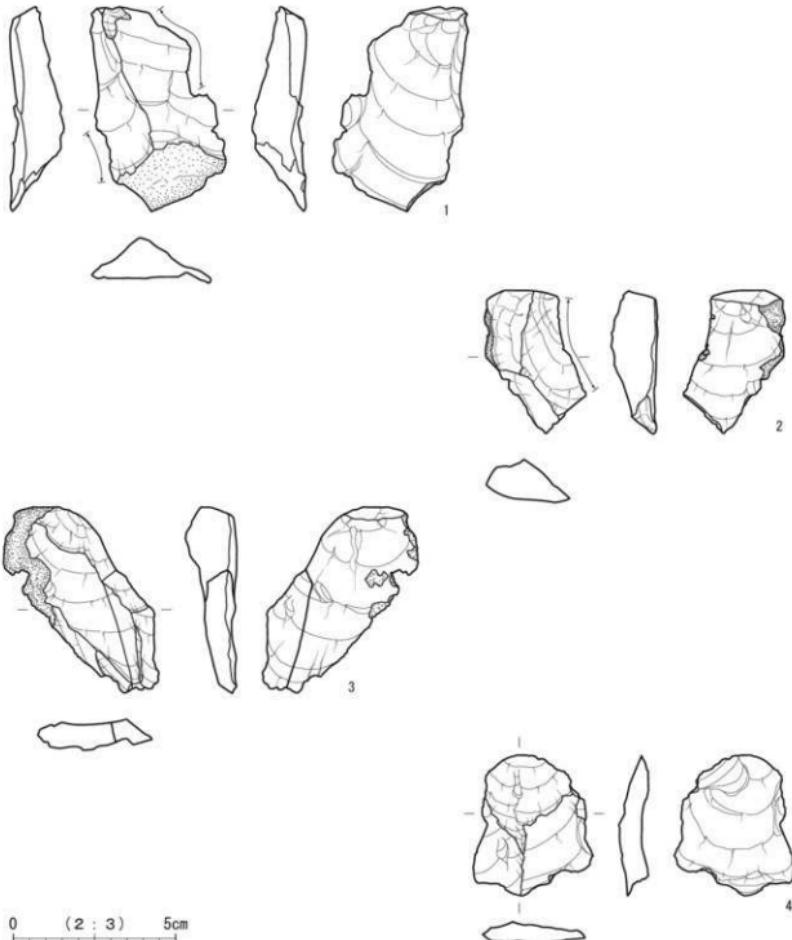
剥片2点の接合資料である。1は表面の左側縁に自然面を残している。1は節理面を打面とし、打撃を加えて剥離された剥片である。2の剥片も同一方向からの加撃によって剥離されているが、節理面に隣接する剥離面を打面としている。ともに古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。



接合資料47

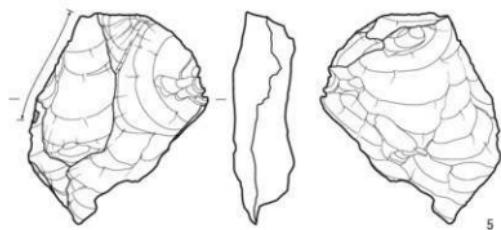
0 (2 : 3) 5cm

第422図 接合資料(47)



回数 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-181	-	SH13堆積土	-	打製石器	微細剥離痕 のある石片	II	6.0×3.7×1.4	21.96	泥灰岩	接合資料47, 平打面, 刃部角123°, 脊線辺に微細剥離 痕あり	157
2	Ka-172	-	遺構後山面	-	打製石器	微細剥離痕 のある石片	I	4.3×2.6×1.4	13.36	泥灰岩	接合資料47, 平打面, 刃部角115°, 1辺辺に微細剥離痕あり	157
3	Ka-179	-	SH12堆積土	-	打製石器	適所	-	4.8×3.5×1.6	38.94	泥灰岩	接合資料47, 平打面, 刃部角105°, 自然面あり	157
4	Ka-172	-	Pt25堆積土	-	打製石器	適所	-	4.2×3.6×0.9	10.73	泥灰岩	接合資料47, 錐状打面, 刃部角100°	157

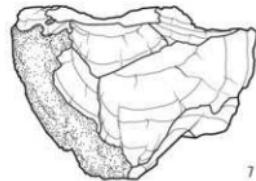
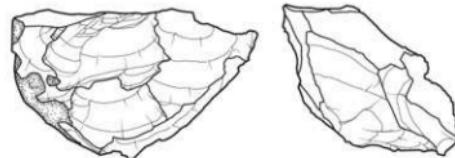
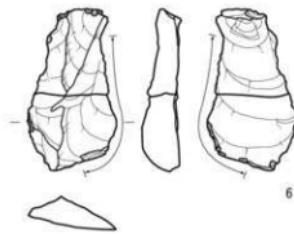
第423図 接合資料(48)



5



6

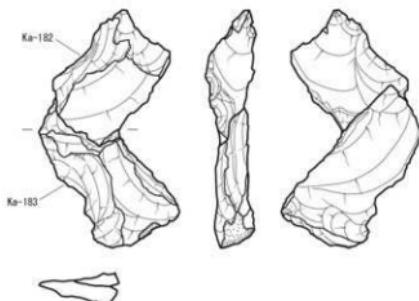


7

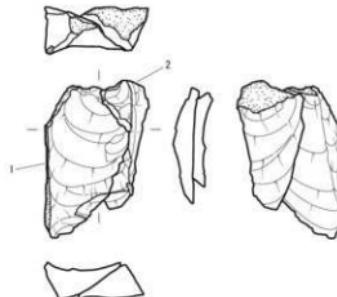
0 (2 : 3) 5cm

図版 番号	登録 番号	共生 調査区	出土遺物・埋灰	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
5	Ka-176	-	SII9-角積土	-	打製石器	磨製酒酛灰 のあら片	I	6.4×5.3×1.9	47.06	流紋岩	混合資料C, 平然打削。剥離角135°。 [135度:二面削離剥離角]。	157
6	Ka-174	-	道標後出面	-	打製石器	磨製酒酛灰 のあら片	I	4.8×2.7×1.1	4.53	流紋岩	混合資料C, 平然打削。剥離角120°。 [120度:一面削離剥離角]。(自然面あり)	157
7	Ka-175	-	道標後出面	-	打製石器	石核	-	4.4×7.5×4.5	136.10	流紋岩	混合資料C, 磨素材、打削剥離あり。自然面あり。	157

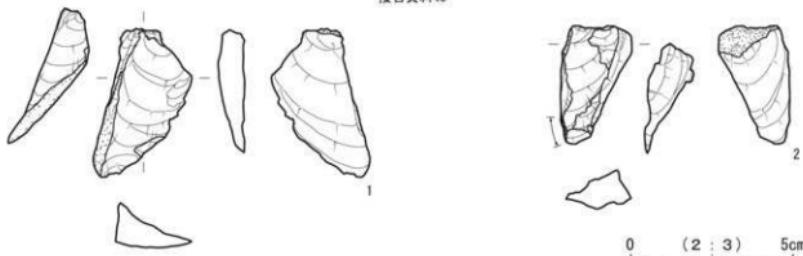
第424図 接合資料(49)



接合資料48

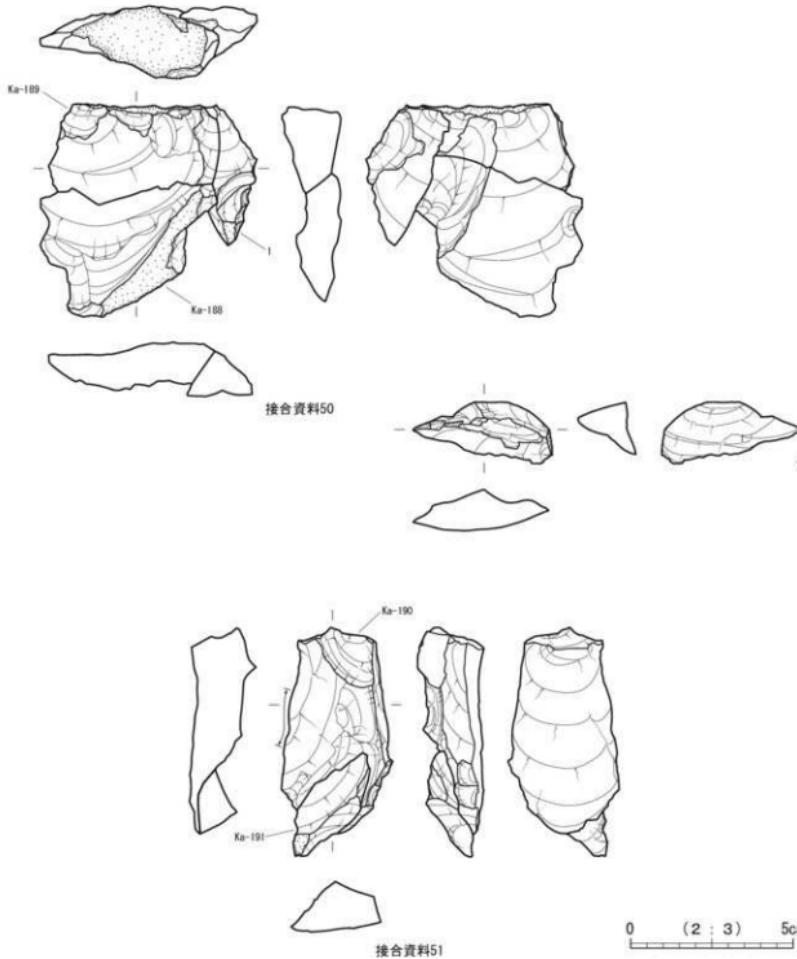


接合資料49



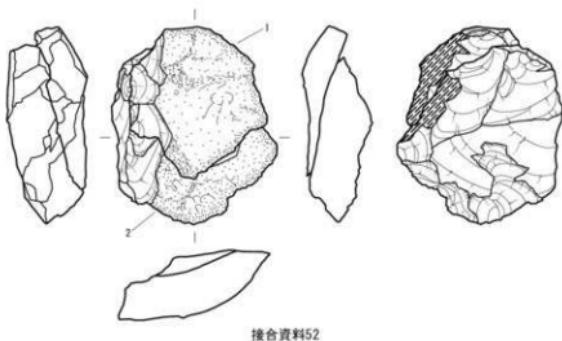
図版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺物・留保	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備 考	写真 回数
	Ka-182	-	SD06-海積土	-	打製石器	調片	-	5.1×2.8×1.0	13.72	流紋岩	接合資料48, 打面部欠損	157
	Ka-183	-	SD05-海積土	-	打製石器	調片	-	4.3×3.1×0.7	9.24	流紋岩	接合資料48, 打面部欠損	157
1	Ka-185	-	SH13-堆積土	-	打製石器	調片	-	4.1×2.3×1.4	9.70	流紋岩	接合資料49, 自然面打面, 斧部角108°(自然面あり)	158
2	Ka-184	-	SD09-地積土	-	打製石器	微側面削痕 のある調片	1	3.6×2.1×1.2	6.48	流紋岩	接合資料49, 自然面打面, 斧部角152°, 1端辺に微側面削痕あり(自然面あり)	158

第425図 接合資料(50)



第426図 接合資料(51)

固版 番号	登録 番号	地生 調査区	出土遺跡-切片	取上 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
1	Ka-187	-	遺跡地出面	-	打制石器	刮片	-	1.8×4.2×1.4	7.59	流纹岩	接合資料50, 平理打面, 斜断角90°	158
	Ka-188	-	S255-堆積土	-	打制石器	刮片	-	2.1×2.0×1.0	22.09	流纹岩	接合資料50, 打面部欠損, 自然断面	158
	Ka-189	-	遺跡地出面	-	打制石器	刮片	-	3.1×5.3×2.1	29.28	流纹岩	接合資料50, 打面部欠損, 自然断面	158
	Ka-190	-	遺跡地出面	-	打制石器	刮片	-	6.3×3.3×1.7	30.98	流纹岩	接合資料51, 平理打面, 斜断角115°	158
	Ka-191	-	遺跡地出面	-	打制石器	刮片	-	4.9×1.5×1.1	4.49	流纹岩	接合資料51, 打面部欠損, 自然断面	158

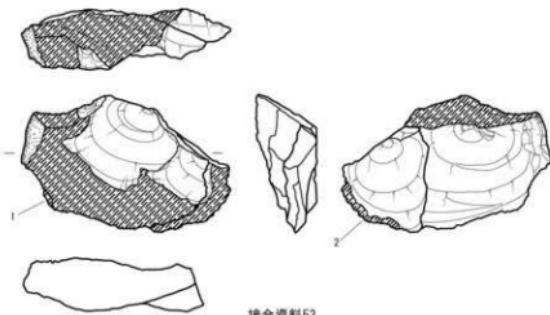


接合資料52

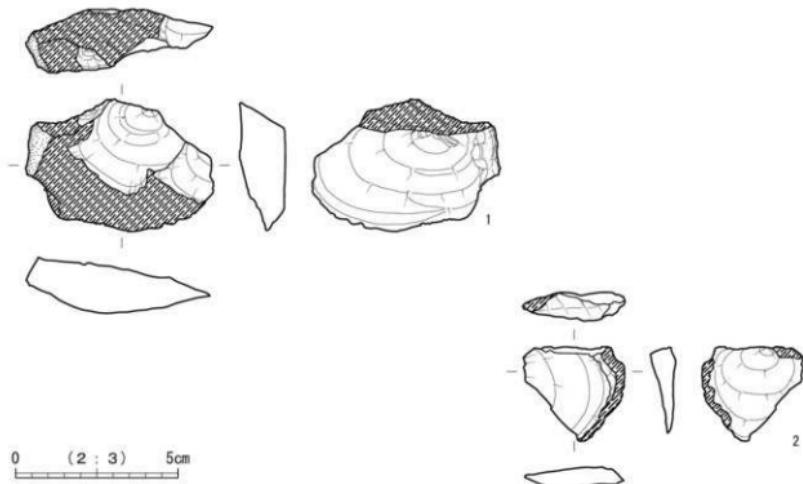


図版 番号	登録 番号	地生 調査区	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備　考	写真 回数
1	Ka-190	-	遺構複出面	-	打製石器	滴片	-	4.2×3.9×1.2	16.36	流紋岩	接合資料52, 削て打面, 調整角切り, 自然面あり	158
2	Ka-192	A1K	Ⅲ層	S6	打製石器	滴片	-	5.6×4.5×2.0	43.99	流紋岩	接合資料52, 打面崩欠損, 自然面あり	158

第427図 接合資料(52)

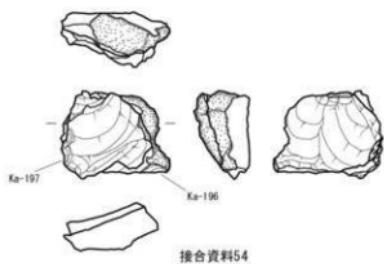


接合資料53

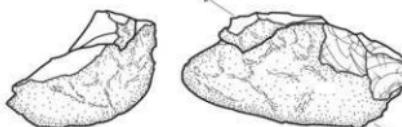
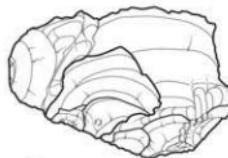


回収 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-194	-	SII26-地盤土	-	打制石器	調片	-	4.0×5.7×1.9	34.00	流紋岩	接合資料53, 平打面, 斜面角130°, 自然面あり	158
2	Ka-195	-	SII26-地盤土	-	打制石器	調片	-	2.8×3.1×0.9	5.32	流紋岩	接合資料53, 平打面, 斜面角80°	158

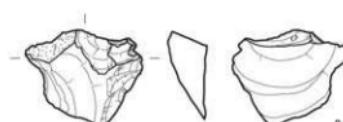
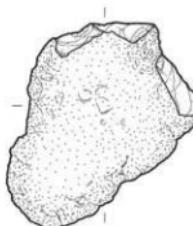
第428図 接合資料(53)



接合資料54



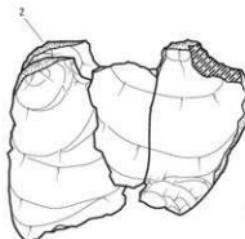
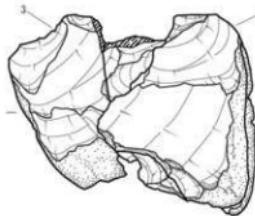
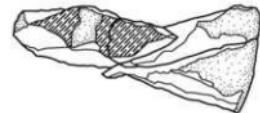
接合資料55



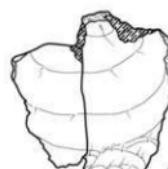
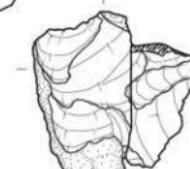
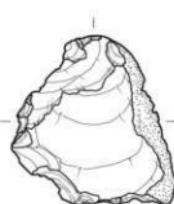
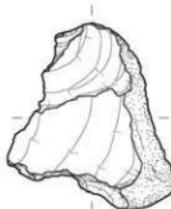
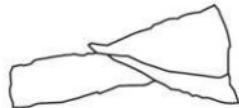
0 (2 : 3) 5cm

図版 番号	登録 番号	株生 調査区	出土遺跡・層位	面上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
	Ka-196	-	SH13-堆积土	-	打製石器	剥片	-	2.7×2.9×0.5	3.38	流紋岩	接合資料54, 打面部欠損, (自然面あり)	158
	Ka-197	-	堆积块表面	-	打製石器	剥片	-	2.5×3.2×1.3	9.03	流紋岩	接合資料54, (自然面打面, 断面角116°, 自然面あり)	158
1	Ka-198	-	SH109-堆积土	-	打製石器	剥片	-	5.9×5.3×2.2	74.25	流紋岩	接合資料55, 平面部打面, 断面角129°, (自然面あり)	158
2	Ka-199	-	SH25-堆积土	-	打製石器	剥片	-	2.7×3.5×1.4	9.23	流紋岩	接合資料55, 平面部打面, 断面角112°, (自然面あり)	158

第429図 接合資料(54)



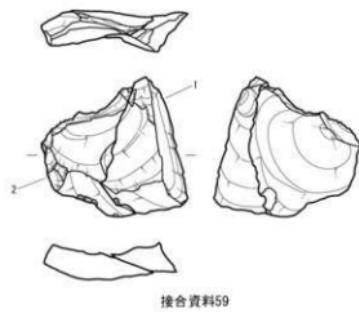
接合資料56



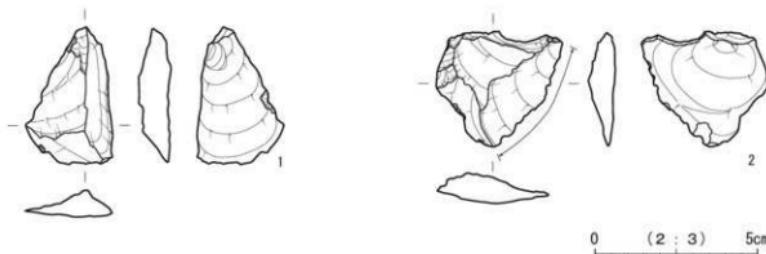
0 (2 : 3) 5cm

編號 番号	登錄 登記	地點 場所	出土遺物-類別 出土地點-類別	取上 番号	種類 器種	器種 分類	長×寬×厚(cm) 長×寬×厚(cm)	重量(g) 重量(g)	石材 石材	備註 備註	寫真 圖版
1 Ka-202	-	遺構檢出面	-	打制石器 剥片	剥片	-	5.5×5.0×2.0	27.86	泥狀岩	接合資料56,自然面打面,剥離角115°,自然面加工。	158
2 Ka-203	B区	刮削	S12	打制石器 砾石片	二次加工內 砾石片	I	5.2×4.8×1.3	27.20	泥狀岩	接合資料56,自然面打面,剥離角112°,表面加工。	158
3 Ka-300	B区	刮削	-	打制石器 剥片	剥片	-	5.2×5.0×1.7	27.83	泥狀岩	接合資料56,自然面打面,剥離角109°,自然面加工。	158

第430圖 接合資料(55)



接合資料59



0 (2 : 3) 5cm

図版 番号	登録 番号	出土 場所	出土遺物・割合	出土 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
1	Ka-208	CPK	石片	S33	打製石器	剥片	-	4.2×2.6×1.0	6.99	流紋岩	接合資料59, 平坦打面, 剥離角12°	159
2	Ka-207	-	SD66-堆積土	-	打製石器	微細剥離痕 のあら剥片	I	3.5×3.6×1.1	9.27	流紋岩	接合資料59, 平坦打面, 剥離角119°, 1辺に微細剥離痕あり。	159

第431図 接合資料(56)

#### 接合資料54(第429図、写真図版158)

同時割れと考えられる剥片の接合資料である。表面の右側縁側に自然面を残しており、自然面を打面としている。Ka-196は古代の遺構内堆積土、Ka-197は古代の検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料55(第429図、写真図版158)

同時割れと考えられる剥片の接合資料である。1は表面に自然面を残し、2は表面の左側縁に自然面を残している。剥離面を打面としており、1の打面には數度の打撃痕が観察される。1、2は潜在割れにより三分されたものである。ともに古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料56(第430図、写真図版158)

二次加工のある剥片1点と剥片2点の接合資料である。1・2は表面の右側縁側に自然面を残し、3は左側縁に自然面を残している。3は節理が影響して同時割れを起こしている。自然面を打面として連続的に剥離された剥片である。2は二次加工のある剥片I類である。1は古代の遺構検出面、2・3は弥生B区からの出土である。石材は流紋岩である。

**接合資料59(第431図、写真図版159)**

微細剥離痕のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。1は剥離面を打面とし、打撃を加えて剥離された剥片である。1と2は同一作業面で剥片剥離作業を行っているが、打面を異にして剥離された剥片である。2は微細剥離痕のある剥片I類である。1は弥生C区、2は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

**接合資料60(第432図、写真図版159)**

二次加工のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。1は表面に自然面を残しており、剥離面を打面とし、打撃を加えて剥離された剥片である。2は90°の打面転移を行い剥離面を打面とし、打撃を加えて剥離された剥片である。1は二次加工のある剥片I類である。ともに古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

**接合資料61(第433図、写真図版159)**

微細剥離痕のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。ともに自然面を打面としている。1は先行する剥離によって形成された棱線が伸びる方向に打撃を加えて剥離された剥片である。2の剥片も同一方向からの加撃によって剥離されているが垂直割れを起こしている。2は微細剥離痕のある剥片I類である。1は古代の遺構内堆積土、2は弥生B区からの出土である。石材は珪質頁岩である。

**接合資料62(第433図、写真図版159)**

剥片2点の接合資料である。ともに表面に自然面を残している。1は自然面を打面とし、打撃を加えて剥離された剥片である。2は90°の打面転移を行い剥離面を打面とし、打撃を加えて剥離された剥片である。1は古代の遺構検出面、2は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

**接合資料63(第434図、写真図版159)**

石核1点と二次加工のある剥片1点の接合資料である。1の縦長剥片は表面の末端側に自然面を残しており、打面は線状打面である。2は剥離面を打面として剥離されている。1は二次加工のある剥片II類である。2は剥片素材の石核である。1は古代の遺構検出面、2は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

**接合資料64(第435図、写真図版159)**

節理による同時割れと考えられる剥片の接合資料である。剥離面を打面とし、先行する剥離によって形成された棱線が伸びる方向に打撃を加えて剥離された縦長剥片である。ともに古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

**接合資料65(第435図、写真図版159)**

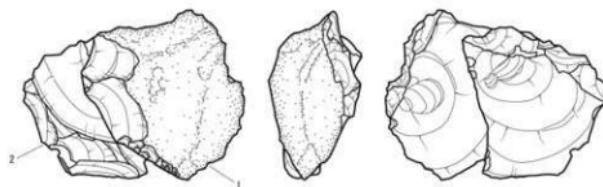
剥片3点の接合資料である。自然面を打面とし、連続的に剥離された剥片である。Ka-219・220は弥生D区、Ka-221は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

**接合資料66(第436・437図、写真図版159)**

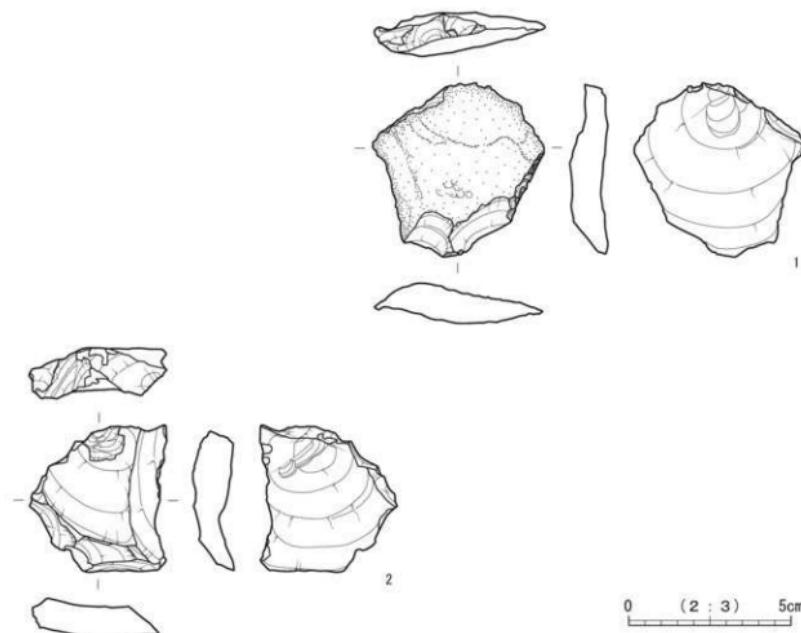
剥片2点と石錐に転用された石核1点の接合資料である。1は原礫を分割した際の剥片であり、剥片剥離作業は行われていない。3は原礫を分割後、剥片素材の石核として剥片剥離作業が行われており、2はその一連の作業によって剥離されている。3は剥片剥離が進行し残核となった後、その形状を利用し石錐として転用されたものと考えられる。1～3は弥生C区からの出土である。石材は流紋岩である。

**接合資料67(第438図、写真図版160)**

剥片2点の接合資料である。ともに表面の右側縁側に自然面を残している。1は剥離面を打面とし、打撃を加えて剥離された剥片である。2の剥片も同一方向からの加撃によって剥離している。ともに弥生C区からの出土である。石材は流紋岩である。

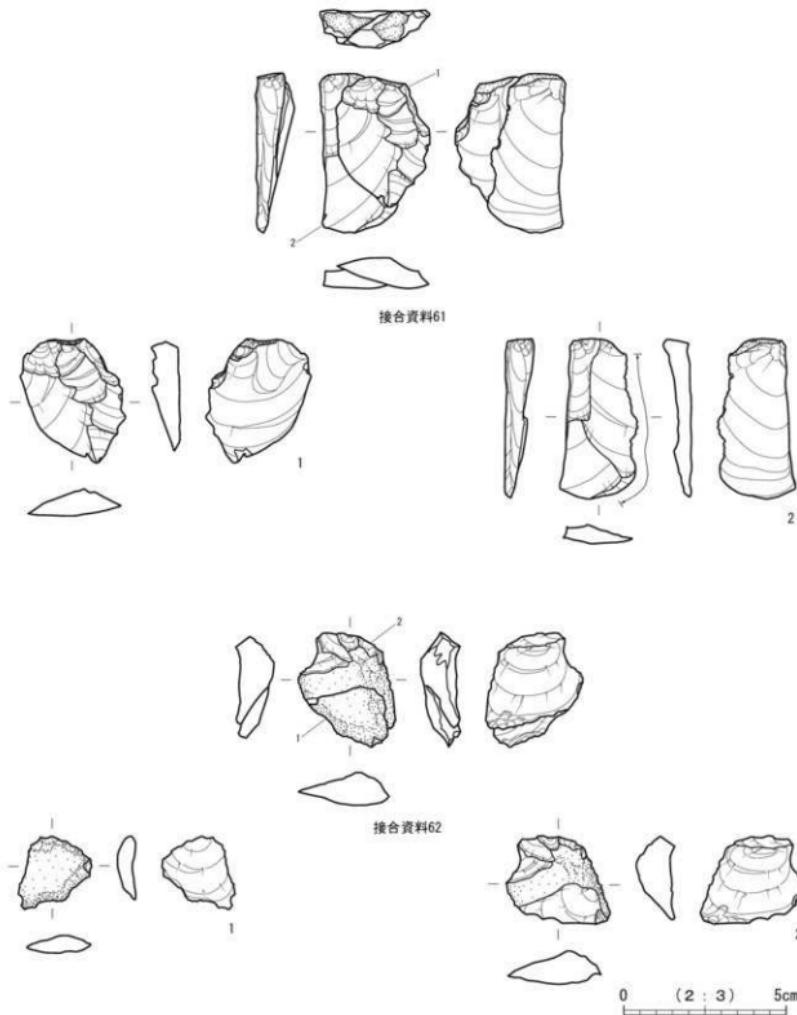


接合資料60



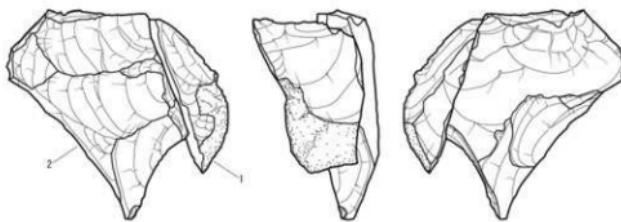
国版 番号	登録 番号	出土 調査区	出土遺構・部位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-210	-	遺構後山面	-	打製石器 ある痕片	1		5.2×5.2×1.3	26.94	流紋岩 自然崩れ	接合資料60. 切子打面。剥離角116°、表面加工。	159
2	Ka-209	-	遺構後山面	打製石器 調片				4.4×3.9×1.5	23.31	流紋岩	接合資料60. 平坦打面。剥離角112°	159

第432図 接合資料(57)

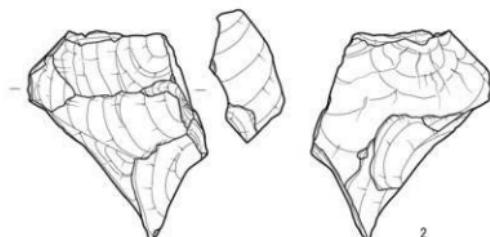
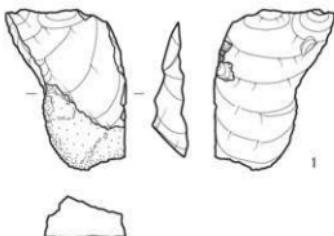


図版 番号	登録 番号	地生 調査区	出土遺跡・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石種	備考	写真 図版
1	Ka-211	-	SD43堆積土	-	打製石器	薄片	-	3.6×3.0×0.9	9.43	珪質頁岩	接合資料61,自然面打面,剥離角117°,自然面あり	159
2	Ka-212	B区	新層	S93	打製石器	微細剥離板 のあら西片	1	4.9×2.3×0.9	7.96	珪質頁岩	接合資料61,自然面打面,剥離角100°, 1面2点,微細剥離板あり,自然面あり	159
1	Ka-213	-	遺構復元面	-	打製石器	薄片	-	2.1×1.9×0.6	2.29	流紋岩	接合資料61,自然面打面,剥離角97°,自然面あり	159
2	Ka-214	-	S199-回復	-	打製石器	薄片	-	2.6×2.9×1.1	7.46	流紋岩	接合資料61,平然打面,剥離角123°,自然面あり	159

第433図 接合資料(58)



接合資料63

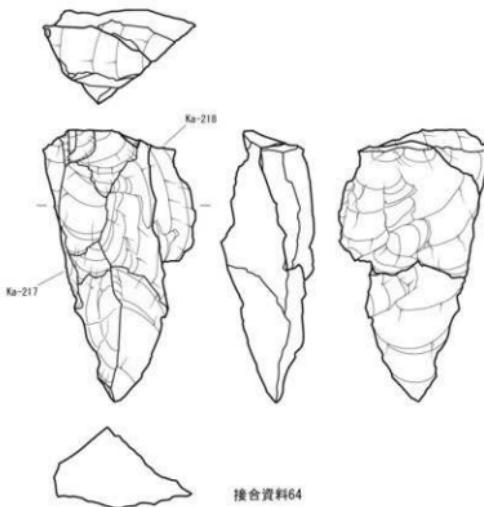


2

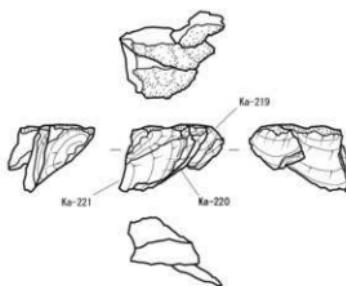
0 (2 : 3) 5cm

図版 番号	登録 番号	保存 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備　考	写真 図版
1	Ka-215	-	遺構複出面	-	打制石器	あらわ削片	II	4.9×3.2×1.4	21.70	流紋岩	接合資料63、板状打面、剥離角85°、裏面加工、自然面あり	159
2	Ka-216	-	SAI-堆積土	-	打制石器	石核	-	6.2×4.8×2.2	59.30	流紋岩	接合資料63、剥片素材、打面板形あり	159

第434図 接合資料(59)



接合資料64



接合資料65

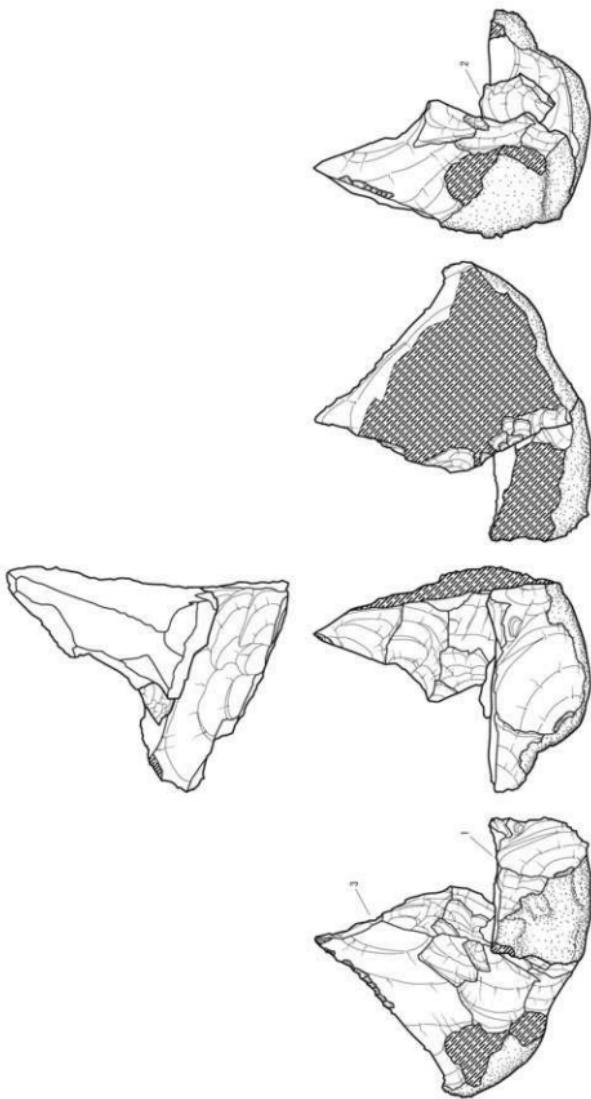
0 (2 : 3) 5cm

國版 番号	登記 番号	地生 調査区	出土遺跡・切付	出土 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
Ka-217	-	-	遺構後表面	-	打製石器	刮片	-	8.3×3.4×1.3	51.41	流紋岩	接合資料64、平糾打面、剥離角112°	159
Ka-218	-	-	遺構後表面	-	打製石器	刮片	-	4.2×4.5×1.1	16.91	流紋岩	接合資料64、平糾打面、剥離角118°	159
Ka-221	-	-	遺構後表面	-	打製石器	刮片	-	1.2×1.7×0.7	2.41	流紋岩	接合資料65、自然面打面、剥離角118°、自然面剥片	159
Ka-220	D64	剖層	-	-	打製石器	刮片	-	2.1×2.5×0.7	3.20	流紋岩	接合資料65、自然面打面、剥離角113°、自然面剥片	159
Ka-219	D64	剖層	-	-	打製石器	刮片	-	3.1×2.2×0.9	0.99	流紋岩	接合資料65、自然面打面、剥離角120°、自然面剥片	159

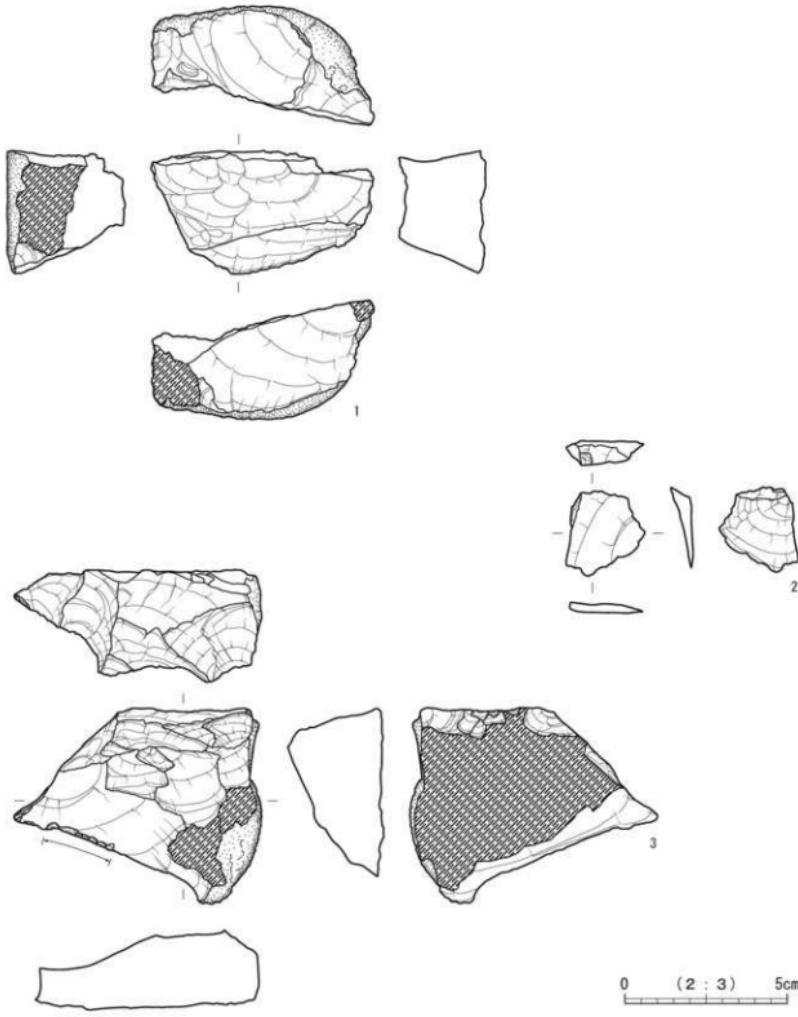
第435図 接合資料(60)

接合資料66  
(2 : 3)  
5cm

接合資料66

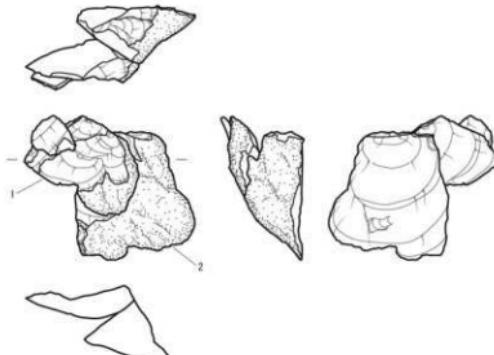


第436図 接合資料(61)

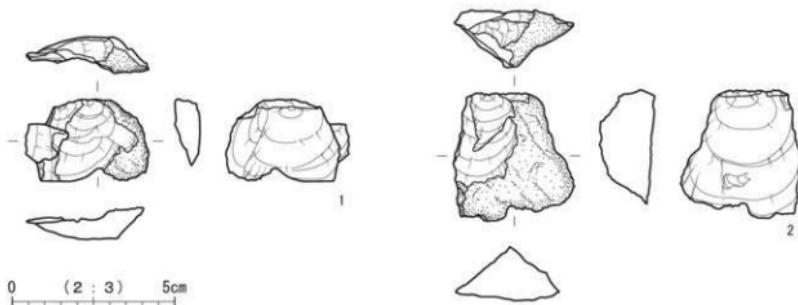


図版 番号	登録 番号	地生 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
1	Ka-222	C区	灰層	S105	打製石器	刮削	-	3.7×6.7×3.6	87.08	流紋岩	複合資料66、打削部欠損、自然面あり	159
2	Ka-224	C区	N層	S200	打製石器	刮削	-	2.5×2.3×0.6	2.37	流紋岩	複合資料66、平照打削、剥離角130°	159
3	Ka-223	C区	N層	S112	打製石器	微細剥離有 るのみの薄片	1	5.9×7.6×3.4	115.69	流紋岩	複合資料66、切子打削、剥離角83°、 1端辺に微細剥離面あり、自然面あり	159

第437図 接合資料(62)



接合資料67



図版 番号	登録 番号	施主 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
1	Ka-226	CIE	弥生	S184	打削石器	剥片	Ⅲ類	2.5×3.7×1.1	7.52	流紋岩	複合資料67, 打削打面, 剥離角114°, 自然剥あり	160
2	Ka-225	CIE	弥生	S100	打削石器	剥片	Ⅰ類	3.9×3.6×1.6	38.09	流紋岩	複合資料67, 剥離打面, 剥離角113°, 自然剥あり	160

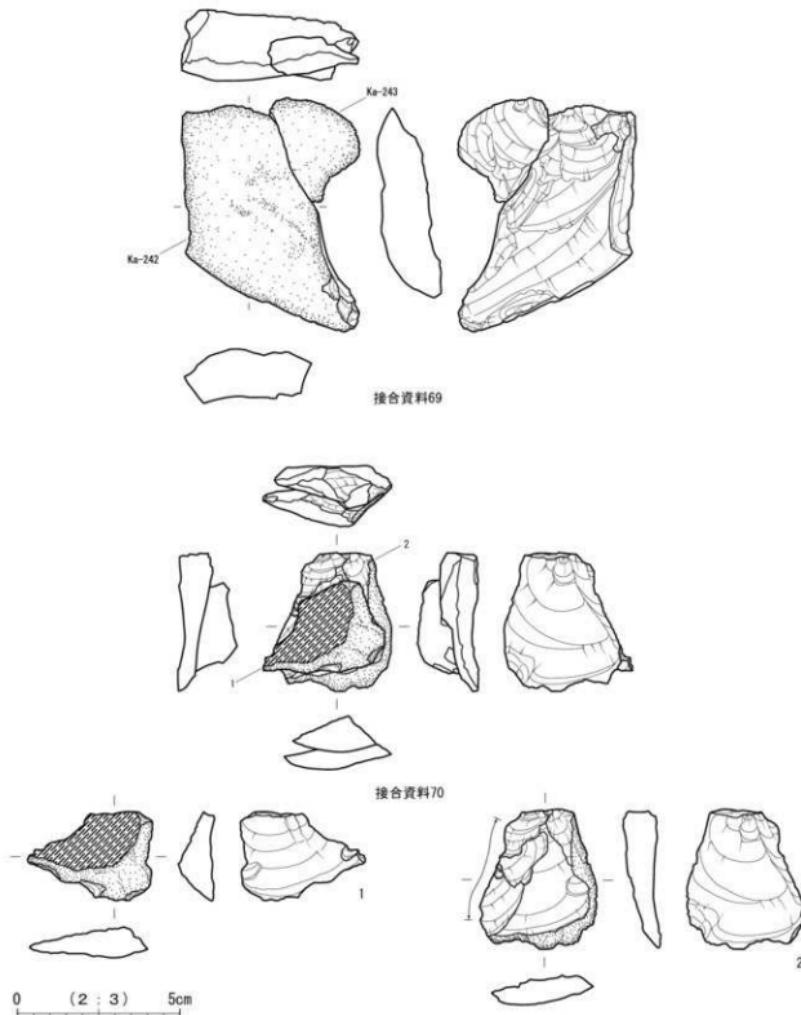
第438図 接合資料(63)

#### 接合資料69(第439図、写真図版160)

節理が影響し同時割れを起こしたと考えられる剥片の接合資料である。表面は自然面である。Ka-242は古代の遺構検出面、Ka-243は弥生B区からの出土である。石材は流紋岩である。

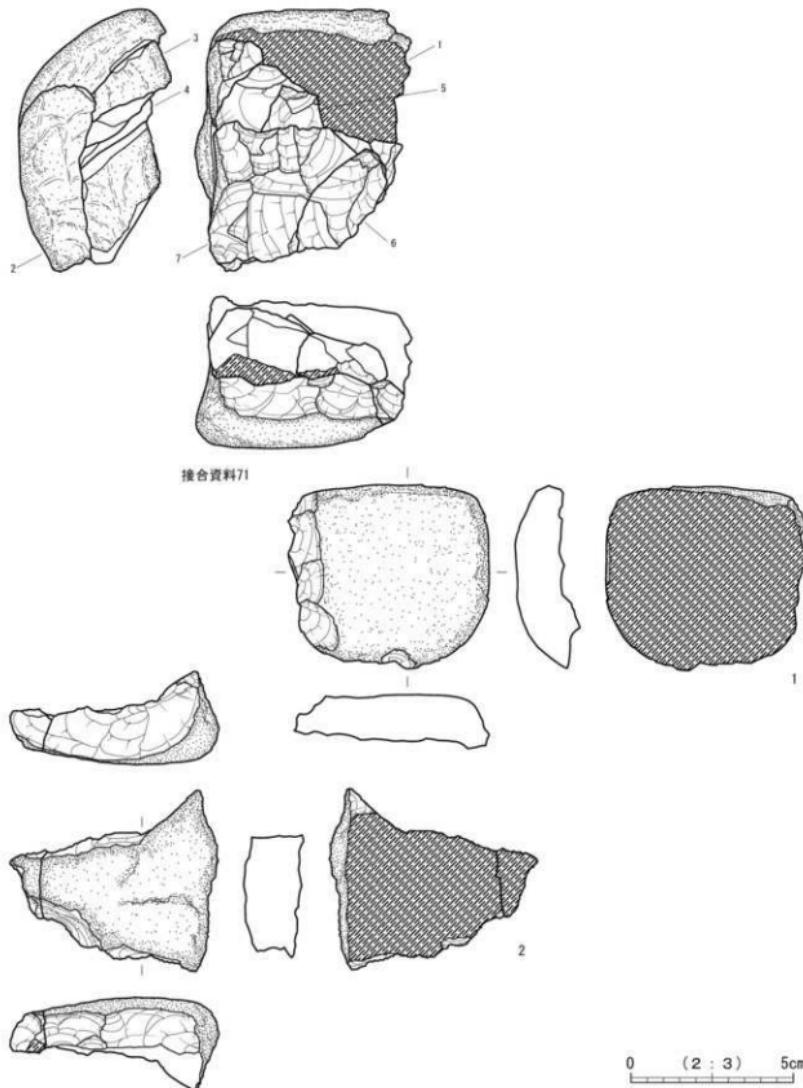
#### 接合資料70(第439図、写真図版160)

二次加工のある剥片1点と微細剥離痕のある剥片1点の接合資料である。ともに表面の右側縁側から下端縁に自然面を残している。1と2は同一方向からの加撃によって剥離されているが、打面側は剥離の際に失われている。1の表面には節理面が認められる。2の剥片は剥離面を打面として剥離されている。1は二次加工のある剥片Ⅲ類であり、2は微細剥離痕のある剥片Ⅰ類である。1は弥生A区、2は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。



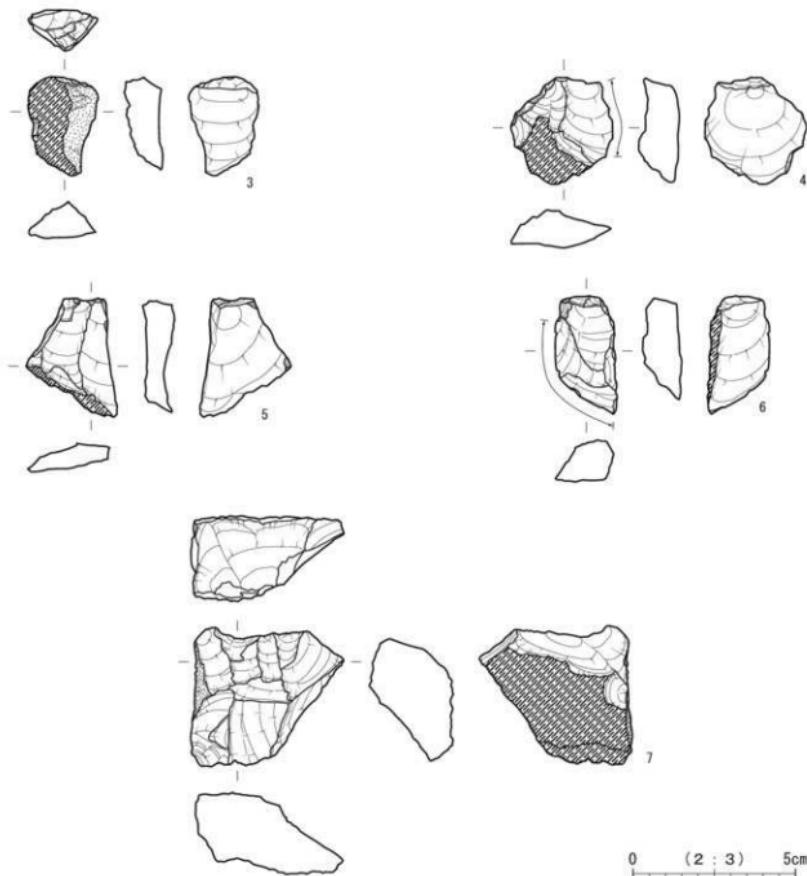
第439図 接合資料(64)

回数	登録番号	発生層名	出土遺物・層位	取土番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真回数
	Ka-242	-	遺跡施出面	-	打製石器	砾石	-	6.5×3.9×1.9	53.52	流紋岩	接合資料69、打面部欠損、自然面あり	160
	Ka-243	BIIK	打製	SII	打製石器	砾石	-	3.0×2.7×1.2	6.37	流紋岩	接合資料69、打面部欠損、自然面あり	160
1	Ka-244	A区	打製	-	打製石器	砾石	三次加工の ある砾片	2.7×3.7×1.1	8.09	流紋岩	接合資料70、打面部欠損、表面・裏面加工、自然面あり	160
2	Ka-245	-	SB9堆土	-	打製石器	微細剥離砾 のある砾片	1	4.3×3.6×1.2	13.66	流紋岩	接合資料70、平行打削、裏面角100°、 [接合]:微細剥離砾あり、自然面あり	160



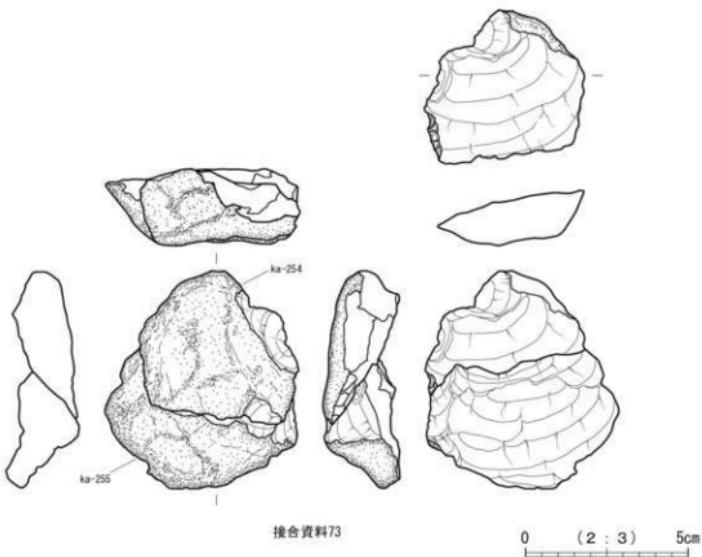
第440図 接合資料(65)

国版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺物・留位	現上 番号	種別	器種	分類	長S×幅×厚S(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka 249	-	SH13-堆積土	堆積土	打製石器	滴片	-	6.2×5.7×2.2	9.41	泥凝岩	接合資料71, 行面部欠損, 自然面あり	160
2	Ka 250	-	SH127-堆積土	堆積土	打製石器	滴片	-	6.4×5.6×2.7	60.02	泥凝岩	接合資料71, 行面部欠損, 自然面あり	160



回収 番号	登録 番号	地生 調査区	出土遺物・傾向	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
3	Ka-253	-	遺構後出面	-	打製石器	剥片	-	3.0×2.2×1.2	6.00	流紋岩	複合資料71, 平然打面, 斜面角122°, 自然面あり	160
4	Ka-252	-	遺構後出面	-	打製石器	複合剥離板 のある剥片	I	3.2×3.1×1.3	10.66	流紋岩	複合資料71, 平然打面, 斜面角129°, 1端辺に微細剥離面あり	160
5	Ka-248	-	SI13-堆積土	-	打製石器	剥片	-	3.6×2.6×1.0	7.67	流紋岩	複合資料71, 平然打面, 斜面角115°	160
6	Ka-247	-	SI13-堆積土	-	打製石器	複合剥離板 のある剥片	I	3.4×1.9×1.5	80.20	流紋岩	複合資料71, 平然打面, 斜面角136°, 1端辺に微細剥離面あり	160
7	Ka-246	-	SI102-堆積土	-	打製石器	石核	-	4.6×4.2×2.6	43.63	流紋岩	複合資料71, 剥片素材, 打面粗鈍あり, 自然面あり	160

第441図 接合資料(66)



接合資料73

0 (2 : 3) 5cm

国版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
Ka-254	-	SH33堆積土	-	-	打製石器	ある剥片	II	4.4×4.8×1.9	43.90	流紋岩	接合資料73, 打面部欠損, 表面加工, 自然面あり	160
Ka-255	-	遺構検出面	-	-	打製石器	剥片	-	4.0×6.0×2.1	27.60	流紋岩	接合資料73, 打面部欠損, 自然面あり	160

第442図 接合資料(67)

#### 接合資料71(第440・441図、写真図版160)

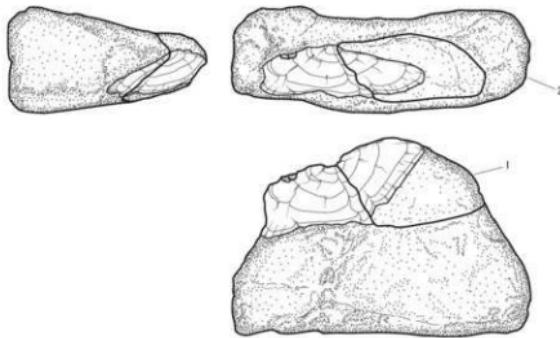
石核1点、微細剥離痕のある剥片2点、剥片4点の接合資料である。1~3・7は表面に自然面を残している。1・2の剥片は節理面に沿って自然面除去が行われた際に生じたものであり、同時割れを起こしている。3~5の打面作出を目的としたものと考えられる。3~5は剥離面を打面とし、先行剥離や自然面・節理面によって形成された稜線の伸びる方向に打撃を加えて連続的に剥離された剥片である。6の剥片は90°の打面転移が行われ、剥離面を打面とし、打撃を加えて剥離されている。7は残核である。4~6は微細剥離痕のある剥片1類である。1・2・5~7は古代の遺構内堆積土、3・4は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料73(第442図、写真図版160)

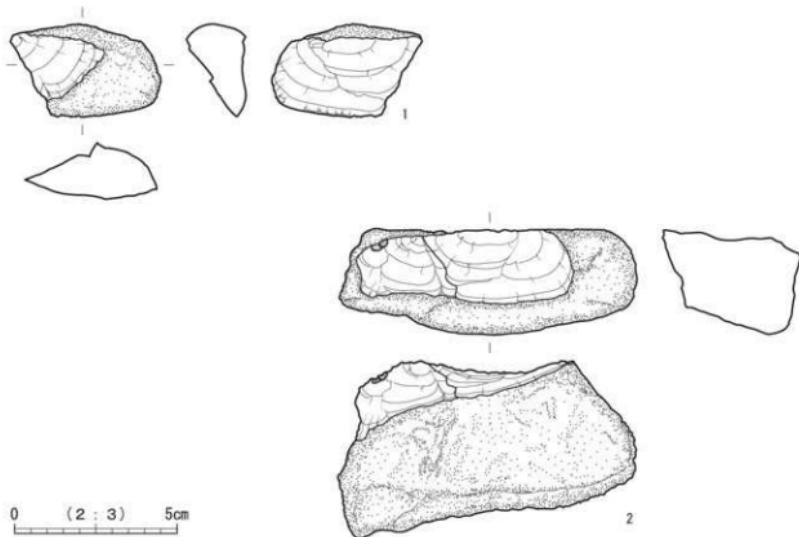
同時割れと考えられる剥片の接合資料である。表面に自然面を残している。Ka-255は同時割れ後に二次加工を施したものであり、二次加工のある剥片II類である。Ka-254は古代の遺構内堆積土、Ka-255は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料74(第443図、写真図版160)

石核1点と剥片1点の接合資料である。1は原砾の一端を剥離した剥片である。2は平面形が三角形を呈する扁平な砾を素材とした石核である。ともに弥生C区からの出土である。石材は流紋岩である。

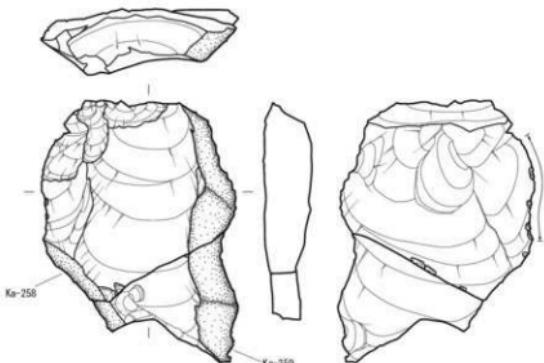


接合資料74

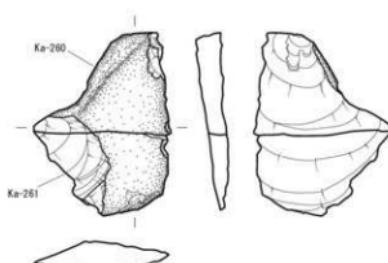


国別	登録 番号	地生 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種質	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-257	C区	瓦層	-	打制石器	石片	-	2.1×4.0×2.3	19.47	流紋岩	接合資料74,自然面打面,剥離角123°,自然面あり	160
2	Ka-256	C区	瓦層	S163	打制石器	石核	-	3.2×9.0×5.4	178.42	流紋岩	接合資料74,複合材,打面転移なし,自然面あり	160

第443図 接合資料(68)



接合資料75



接合資料76

0 (2 : 3) 5cm

図版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
Ka-258	-	SK63堆積土	-	-	打製石器	微細剥離痕 のある剥片	I	6.2×6.0×2.0	66.44	流紋岩	接合資料75. 手彫打削. 溝割角120°. 縁辺に微細剥離痕あり. 自然面あり	160
Ka-259	-	SI122-例溝	-	-	打製石器	剥片	-	4.3×3.7×1.2	15.21	流紋岩	接合資料75. 打削部欠損. 自然面あり	160
Ka-260	A1K	B層	SI	-	打製石器	剥片	-	3.2×4.2×1.2	12.59	流紋岩	接合資料76. 自然面打削. 溝割角97°. 自然面あり	160
Ka-261	-	Pi412-堆積土	-	-	打製石器	剥片	-	2.5×4.1×0.9	8.05	流紋岩	接合資料76. 打削部欠損. 自然面あり	160

第444図 接合資料(69)

接合資料75(第444図、写真図版160)

節理で折れており、折れ面で接合する剥片の接合資料である。表面の両側縁側に自然面を残している。Ka-258は微細剥離痕のある剥片1類である。Ka-258・259は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料76(第444図、写真図版160)

折面で接合した剥片の接合資料である。表面に自然面を残している。Ka-260は弥生A区、Ka-261は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料77(第445図、写真図版161)

剥片素材の石核1点と微細剥離痕のある剥片1点の接合資料である。1の剥片は表面に自然面が残されており、剥離面を打面とし、打撃を加えて剥離されている。2の石核には連続的な二次加工が施され転用されたものと考えられる。1は微細剥離痕のある剥片I類である。1は古代の遺構検出面、2は弥生B区からの出土である。石材は珪質頁岩である。

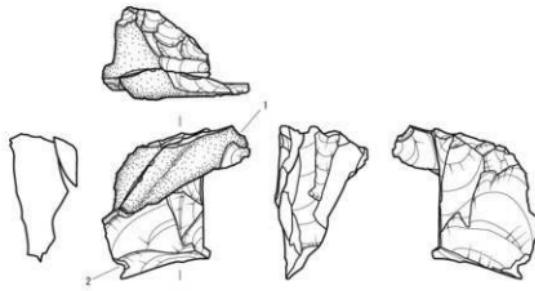
接合資料78(第446図、写真図版161)

剥片2点の接合資料である。1は表面の右側縁側に自然面を残し、2は表面の右側縁側から下端縁にかけて自然面を残している。1は剥離面と自然面から成る面を打面とし、打撃を加えて剥離された剥片である。2は打面を移動して剥離された剥片であり、剥離面を打面としている。1は弥生E区S I 1、2は弥生B区からの出土である。石材は流紋岩である。

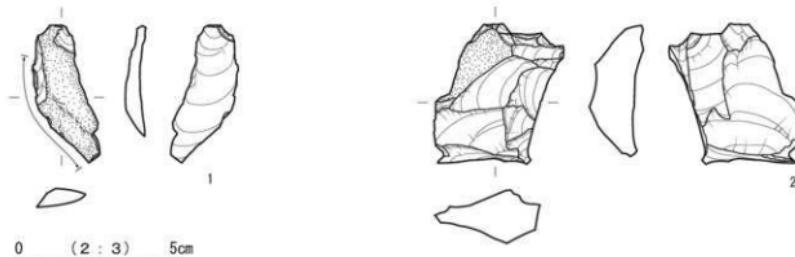
接合資料79(第447図、写真図版161)

微細剥離痕のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。ともに右側縁側に自然面を残している。1は剥離面を打面とし、先行する剥離によって形成された棱線が伸びる方向に打撃を加えて剥離された縱長剥片である。2の縱長剥片も同一の剥離面を打面とし、同一方向からの加撃によって剥離している。1は微細剥離痕のある剥片II類である。ともに古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料80(第448図、写真図版161)

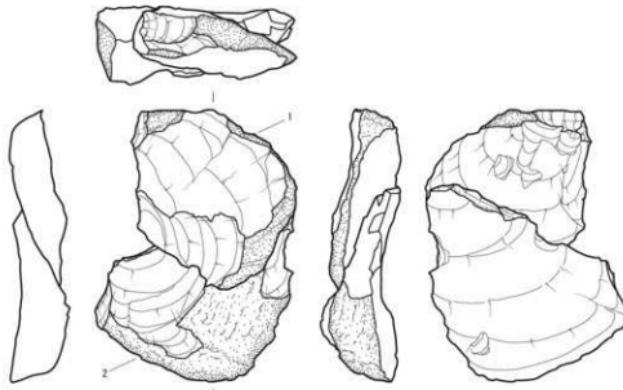


接合資料77

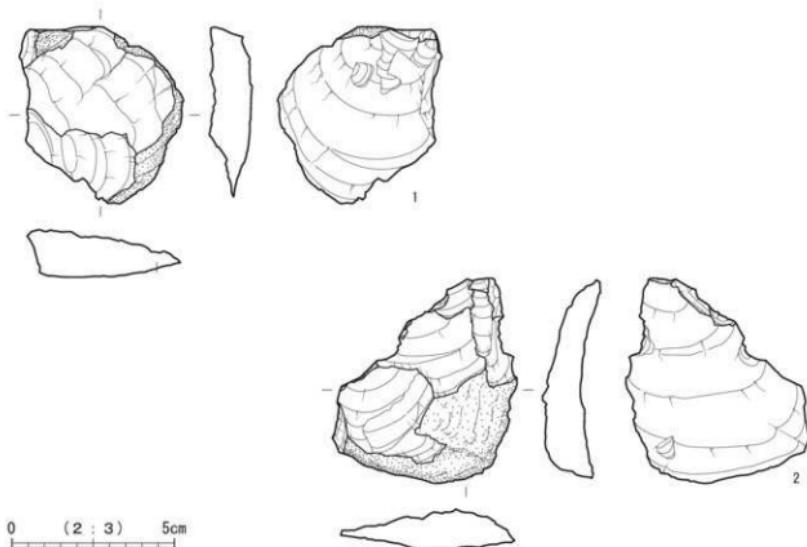


国版 番号	登録 番号	考古 区分	出土遺跡・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備 考	写真 図版
1	Ka-263	-	遺構後出面	-	打製石器	剥離痕有 る剥片	I	3.5×1.6×0.7	3.99	珪質頁岩	接合資料77、平坦打面、剥離角90°、 打撃部に微細剥離痕あり、自然面あり	161
2	Ka-262	E区	刮削	-	打製石器	二次加工の ある剥片	I	4.2×3.2×1.8	21.26	珪質頁岩	接合資料77、打面部加工、表面加工、自然面あり	161

第445図 接合資料(70)



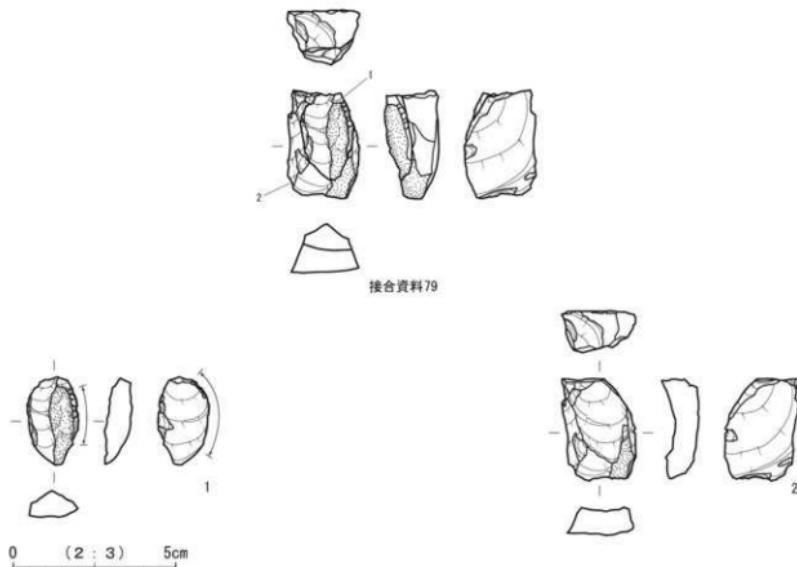
接合資料78



0 (2 : 3) 5cm

圖版 番号	登錄 番号	地名 調査区	出土遺物・層段	取上 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
1	Ka-364	EIE	SII-堆積土		打制石器	刮片		5.4×4.8×3.7	40.96	流纹岩	接合資料78. 横打面. 涡槽角122°. 直擦面60°	161
2	Ka-365	BIE	堆層	SII4	打制石器	刮片		6.2×5.5×2.2	55.30	流纹岩	接合資料78. 打面部尖端. 自然面60°	161

第446図 接合資料(71)



第447図 接合資料(72)

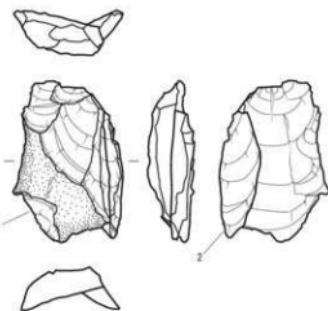
剥片2点の接合資料である。1は表面に自然面を残している。1は剥離面を打面とし、剥離された剥片である。2の剥片も同一方向からの加撃によって剥離されている。2は同時剥れで打面部分を失っている。ともに古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料81(第448図、写真図版161)

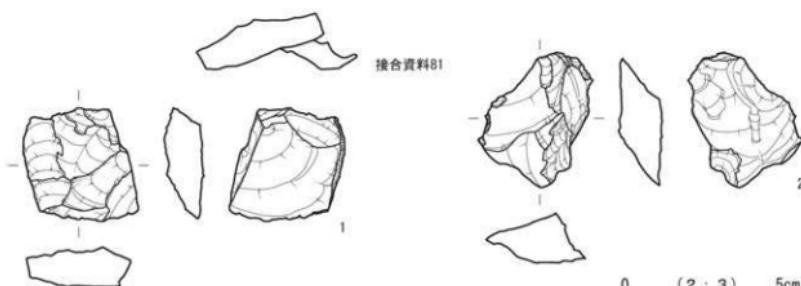
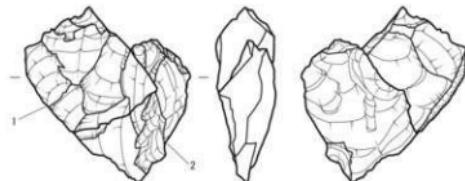
剥片2点の接合資料である。1は表面の左側縁に自然面を残しており、剥離面を打面とし、剥離された剥片である。2の剥片は同一方向からの剥片剥離が進行した後、剥離されている。1は古代の遺構内堆積土、2は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料82(第449～451図、写真図版161)

石核2点、石錐1点、二次加工のある剥片1点の接合資料である。本来、同一の石核であり、剥片剥離が行われ、1・2と3・4の別個体になった後、それぞれで剥片剥離が行われている。1は剥片素材の石核である。2は剥離面を打面として剥離された剥片に二次加工を施し、石錐へ加工している。3は剥離面から成る面を打面とし、剥離された剥片である。4の石核は、残された剥離面の観察から、打面転移を頻繁に繰り返し、求心状に剥片剥離を行っている。3は二次加工のある剥片Ⅲ類である。1・4は古代の遺構内堆積土、3は古代の遺構検出面からの出土、2は出土地不明である。石材は流紋岩である。



接合資料80



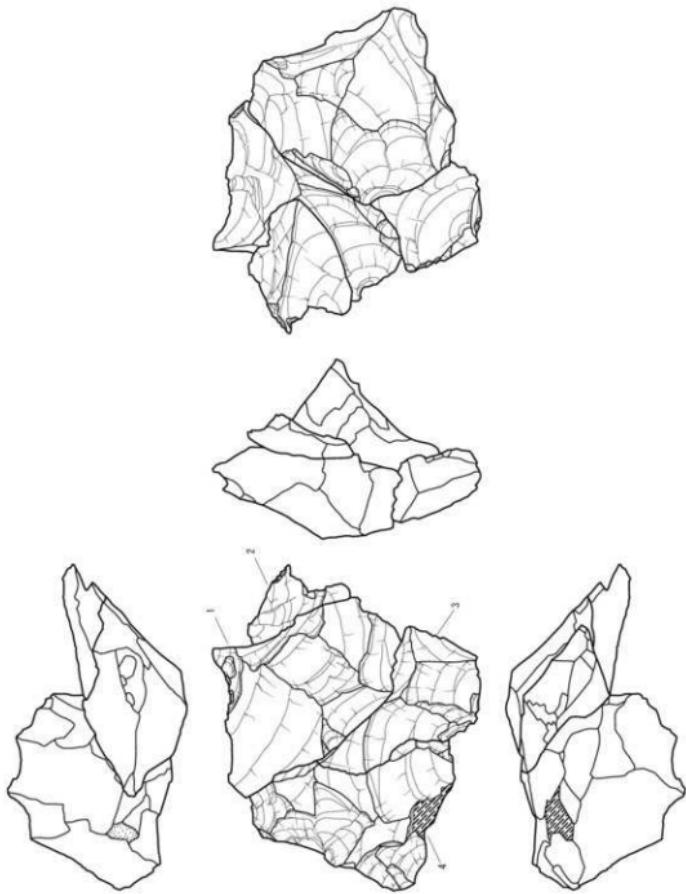
0 (2 : 3) 5cm

図版 番号	登録 番号	株生 調査区	出土遺跡・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-368	-	Pi246-用積土	-	打製石器	剥片	-	4.8×3.0×1.0	13.95	流紋岩	接合資料80, 錐状打削, 刃部角109°, 自然面丸	161
2	Ka-269	-	SI153-堆積土	-	打製石器	剥片	-	3.9×1.3×0.5	2.00	流紋岩	接合資料80, 打削欠損	161
1	Ka-271	-	SA1-堆積土	-	打製石器	剥片	-	3.5×1.2×1.3	15.21	流紋岩	接合資料81, 削子打削, 刃部角134°	161
2	Ka-270	-	遺構検出面	-	打製石器	剥片	-	4.0×3.1×1.6	12.47	流紋岩	接合資料81, 平削打削, 刃部角136°	161

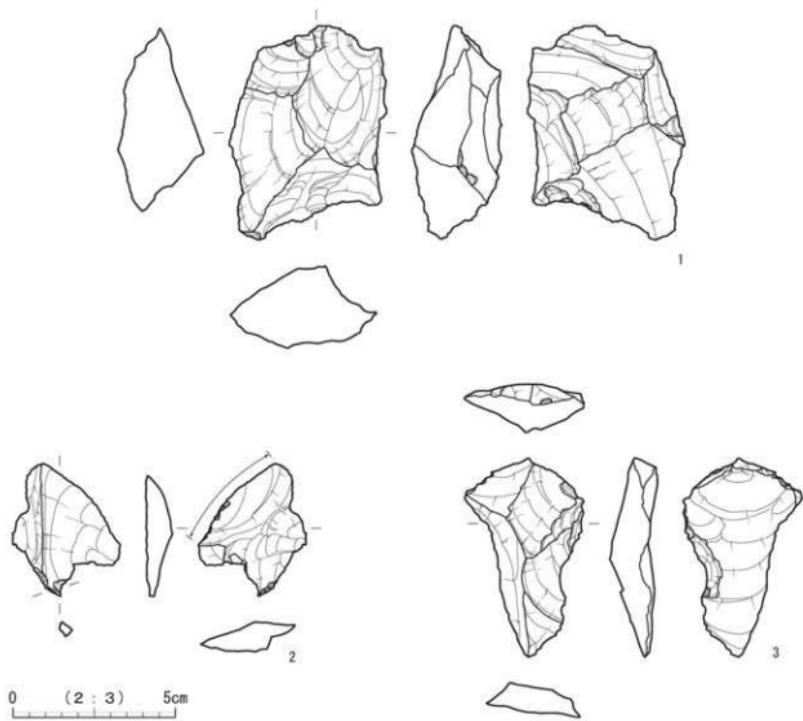
第448図 接合資料(73)

0 (2 : 3) 5cm

接合資料82

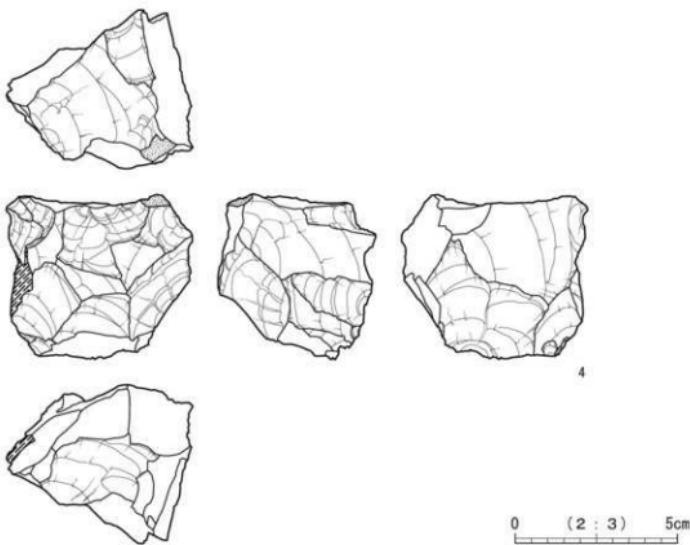


第449図 接合資料(74)



図版 番号	登録 番号	地 方	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備　考	写真 図版
1 Ka-273	-	SH07	地盤土	打製石器	石核	-	Ⅴ	5.8×4.6×2.7	59.13	流紋岩	複合資料82, 破片素材, 打削転移あり	161
2 Ka-275	-	不明		打製石器	石核	-	Ⅲ	3.8×3.3×1.0	8.01	流紋岩	複合資料82, 完整品, 鋸部1.0cm×1.5cm×0.5cm, 両端長12.5cm, 片面加工	161
3 Ka-272	-	遺構接地面		打製石器	二次加工の あらわし片	Ⅲ	6.1×3.5×1.3	16.36	流紋岩	複合資料82, 削子打削, 調整角131°, 表面+裏面加工	161	

第450図 接合資料(75)



図版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺物・解説	取土 番号	種別	岩種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	著者	写真 回数
4	Ka-274	-	SII04地積土	-	打製石器	石核	-	4.8×5.6×4.7	115.92	流紋岩	接合資料83, 素材, 打面面無なし, 自然面あり	161

第451図 接合資料(76)

#### 接合資料83(第452図、写真図版162)

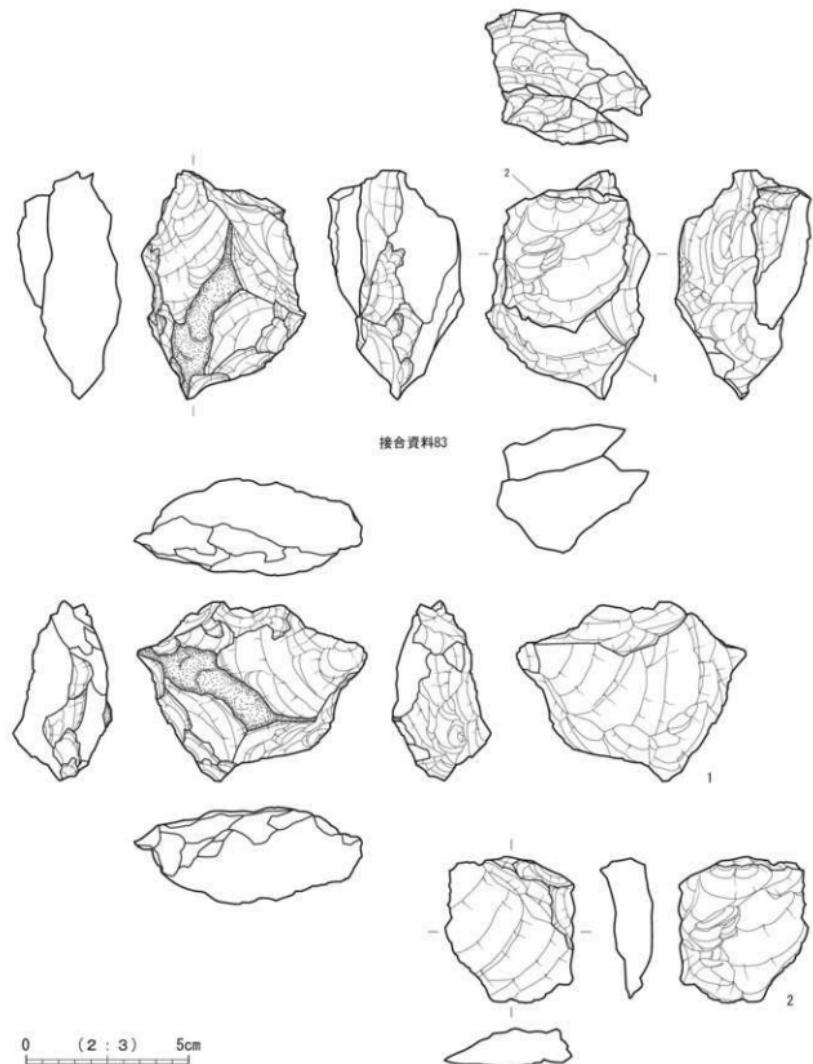
石核1点と剥片1点の接合資料である。1の石核の一部に自然面を残している。1は剥片素材の石核であり、節理によって素材の打面部分は失われている。2の剥片は剥離面を打面として剥離されている。ともに古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料84(第453図、写真図版162)

二次加工のある剥片1点と微細剥離痕のある剥片1点の接合資料である。1・2は表面の末端側に自然面を残している。1は剥離面を打面とし、剥離された剥片に二次加工を施している。2の微細剥離痕のある剥片も同一方向の加熱によって剥離されている。1は二次加工のある剥片1類である。2は微細剥離痕のある剥片1類である。1は古代の遺構検出面、2は弥生E区からの出土である。石材は流紋岩である。

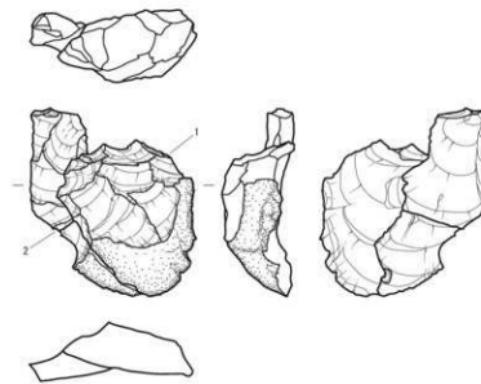
#### 接合資料85(第454図、写真図版162)

節理を多く介在しているため、同時割れを起こしている剥片の接合資料である。表面に自然面を残している。自然面と剥離面からなる面を打面として剥離されている。Ka-281～283は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

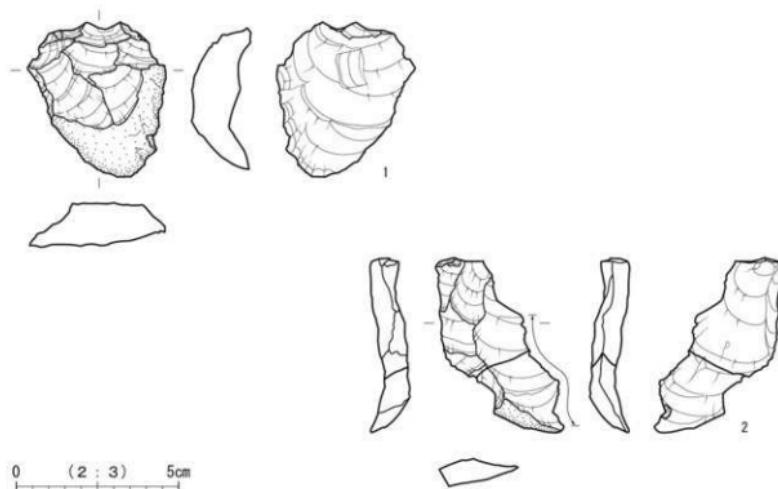


第452図 接合資料(77)

図版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長S×幅×厚S(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-277	-	SII15D-堆积土	-	打制石器	石核	-	5.5×7.0×2.7	79.96	泥板岩	接合資料83,剥片素材,打削面,砾角,自然面剥片	162
2	Ka-276	-	SII9-堆积土	-	打制石器	剥片	-	4.4×3.9×1.6	21.38	泥板岩	接合資料83,平面打削,剥離角119°	162

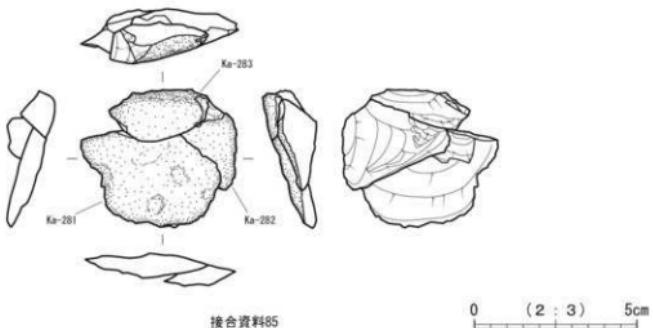


接合資料84



国版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種質	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-260	-	遺構検出面	-	打制石器 あらわし片	一次加工の あらわし片	I	4.8×4.2×1.5	28.26	流紋岩	接合資料84、打面部加工、表面加工、自然面あり	162
2	Ka-278	B区	打制	-	打制石器 圓錐形剥離 あらわし片	打制石器 圓錐形剥離 あらわし片	I	3.8×2.7×0.9	7.48	流紋岩	接合資料84、切子打面、剥離角130°、 打底部:微細剥離面あり、自然面あり	162

第453図 接合資料(78)



接合資料85

図版 番号	登録 番号	出土 調査区	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
Ka-281	-	SH126堆積土	-	-	打製石器	剥片	-	3.0×3.7×0.9	8.62	流紋岩	複合資料85, 表面欠損, 自然面あり	162
Ka-282	-	SH103堆積土	-	-	打製石器	剥片	-	2.8×3.2×1.1	5.79	流紋岩	複合資料85, 表面欠損, 自然面あり	162
Ka-283	-	SH115A堆積土	-	-	打製石器	剥片	-	1.3×3.2×1.1	4.61	流紋岩	複合資料85, 打削面, 滅離角10°, 自然面あり	162

第454図 接合資料(79)

#### 接合資料86(第455図、写真図版162)

石核1点と剥片1点の接合資料である。1は表面に自然面を残しており、剥離面を打面とし、剥離されている。折面で接合している。2の石核は打面転移を頻繁に繰り返した結果、残された剥離面に覆われている。1は古代の遺構検出面、2は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料87(第456図、写真図版162)

折面で接合する剥片の接合資料である。Ka-287・288は表面の末端部に自然面を残している。表面の左側縁側からの二次加工によって折れたものと考えられる。Ka-287は古代の遺構内堆積土からの出土である。Ka-288は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料88・89・91(第456図、写真図版162)

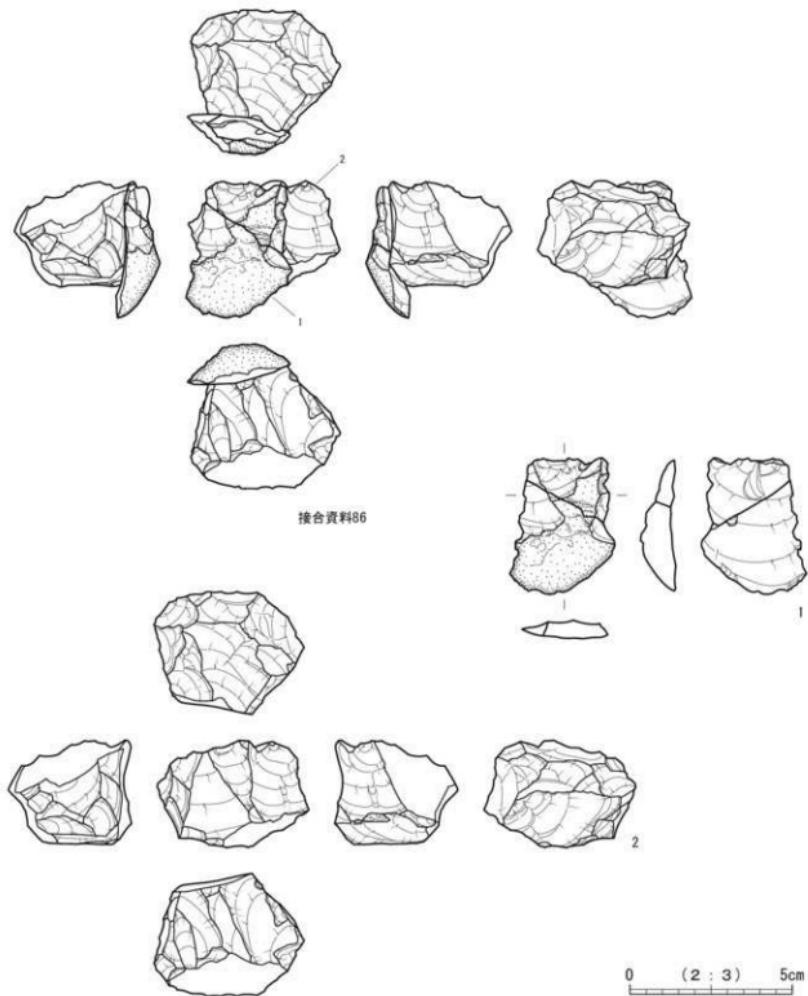
接合資料88(Ka-289・290)、接合資料89(Ka-291・292)、接合資料91(Ka-295・296)は同時割れを起こしている剥片の接合資料である。Ka-289・290は自然面を打面とし、剥離している剥片である。Ka-291・292は剥片の末端部であり、打面側を失っている。Ka-295・296は剥離面と自然面から成る面を打面とし、剥離している剥片である。Ka-289・291・295・296は古代の遺構検出面、Ka-290・292は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料92(第457図、写真図版162)

石核1点と微細剥離痕のある剥片1点の接合資料である。1は剥離面を打面とし、剥離している剥片であり、表面の末端部に自然面を残している。2の石核の一部には自然面が残されている。1の剥片が剥離された後も剥片剥離が進行し残核となったものである。1は微細剥離痕のある剥片Ⅰ類である。1は古代の遺構内堆積土、2は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

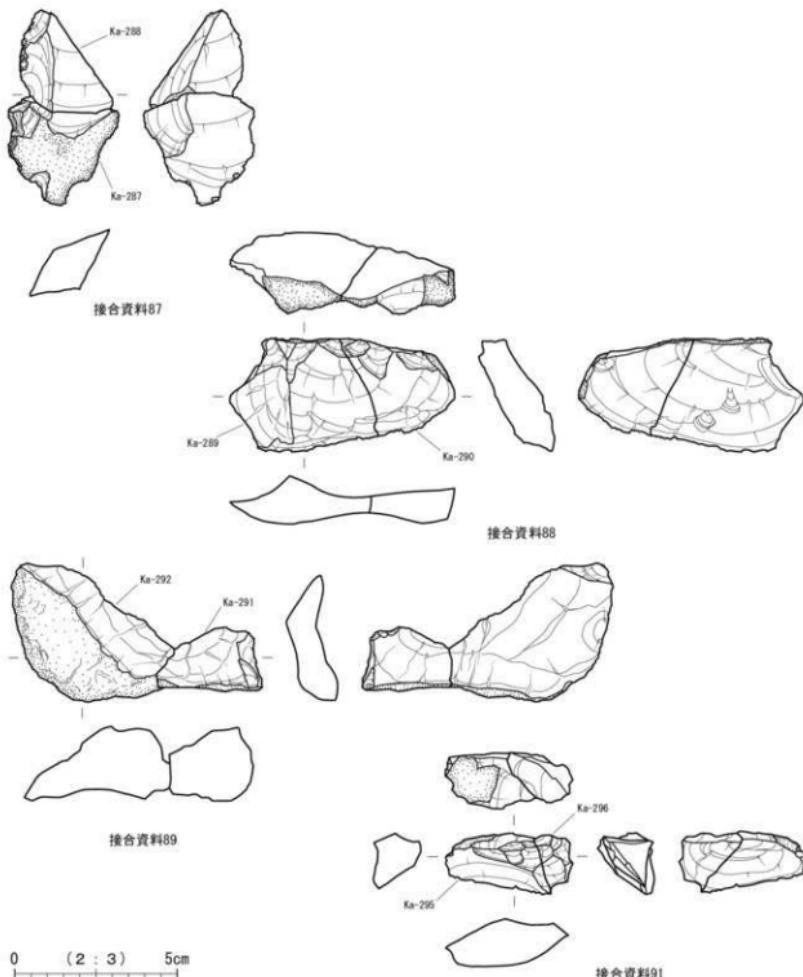
#### 接合資料93(第458図、写真図版162)

折面で接合する剥片の接合資料である。表面の末端側に自然面を残している。微細剥離痕のある剥片Ⅱ類である。Ka-299は古代の遺構内堆積土、Ka-300は弥生B区からの出土である。石材は流紋岩である。



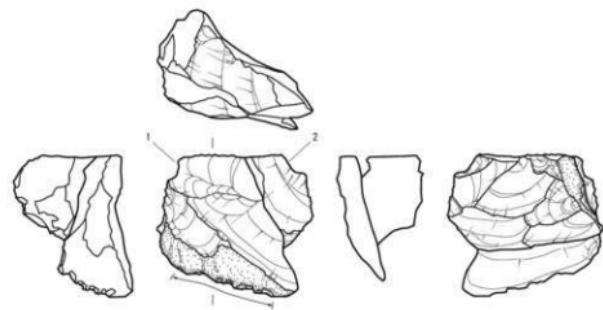
図版 番号	登録 番号	地名 調査区	出土遺跡・層位	取土 番号	種類	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石種	備考	写真 回数
1	Ka-284	-	遺構A出面	-	打製石器	断片	-	4.2×3.1×1.0	8.18	流紋岩	接合資料86、複数打痕、剥離角130°、自然面あり	162
2	Ka-286	-	SII15-A堆積土	-	打製石器	石核	-	2.8×3.9×3.0	53.12	流紋岩	接合資料86、複数材、打削跡あり	162

第455図 接合資料(80)

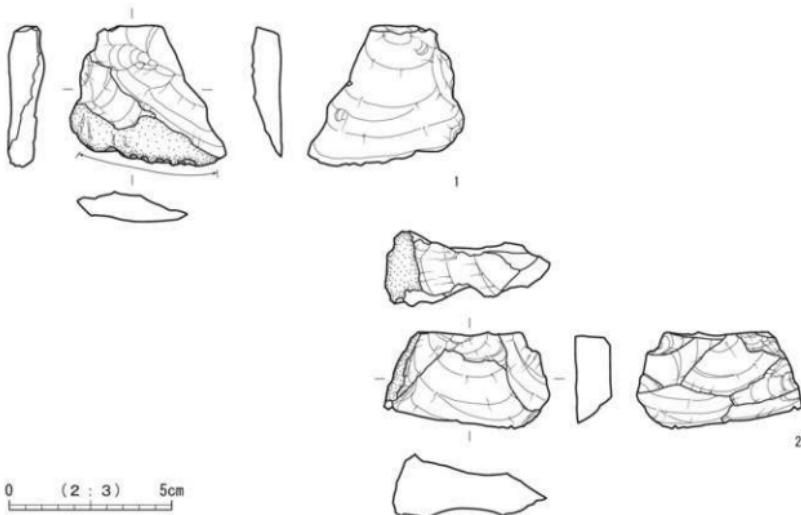


第456図 接合資料(81)

圖版 番号	登錄 番号	出土先 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	参考	写真 回数
Ka-287	-	SI12-堆積土	打製石器	調片	-	-	3.3×3.8×1.6	13.74	流紋岩	接合資料87, 打面部欠損, 自然面あり	162	
Ka-288	-	道標後山面	打製石器	調片	-	-	3.5×1.5×1.5	8.97	流紋岩	接合資料87, 打面部欠損	162	
Ka-289	-	道標後山面	打製石器	調片	-	-	3.5×4.7×1.5	23.37	流紋岩	接合資料88, 自然面打面, 斜面角116°, 自然面あり	162	
Ka-290	-	SI92-2	打製石器	調片	-	-	3.4×2.7×1.1	11.32	流紋岩	接合資料88, 打面部欠損, 自然面あり	162	
Ka-291	-	道標後山面	打製石器	調片	-	-	1.9×3.2×2.7	16.41	流紋岩	接合資料89, 打面部欠損, 自然面あり	162	
Ka-292	-	SI15-堆積土	打製石器	調片	-	-	4.5×4.6×2.5	36.35	流紋岩	接合資料89, 打面部欠損, 自然面あり	162	
Ka-293	-	道標後山面	打製石器	調片	-	-	1.8×3.3×1.6	7.31	流紋岩	接合資料91, 平面打面, 自然面あり	162	
Ka-294	-	道標後山面	打製石器	調片	-	-	1.8×2.2×1.0	2.13	流紋岩	接合資料91, 平面打面	162	

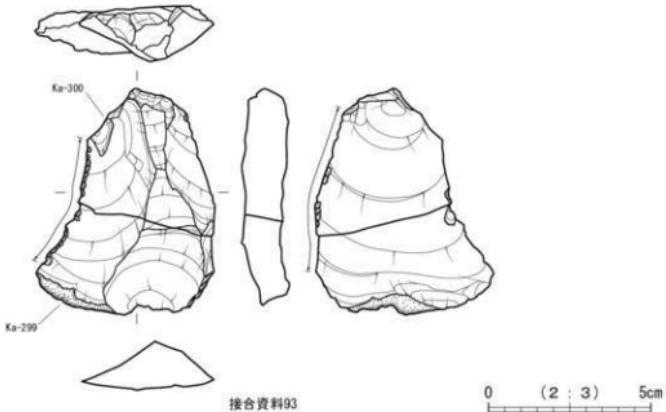


接合資料92



図版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺跡・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-296	-	SH05-堆积土	-	打制石器	磨削剥離のあらわ片	I	4.2×4.3×1.0	13.24	流紋岩	接合資料82, 平然打削, 斜面角130°. 1端辺一面細弱部あり, 自然面あり	162
2	Ka-297	-	遺構後出面	-	打制石器	石核	-	2.9×5.0×2.1	26.82	流紋岩	接合資料82, 削片素材, 打削剥離あり, (自然面あり)	162

第457図 接合資料(82)



接合資料93

図版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺構・部位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備　考	写真 図版
Ka-299	-	SH10P用積土	-	打製石器	剥片	-	-	3.1×5.4×1.4	30.78	流紋岩	接合資料93, 打面部欠損, 自然面あり	162
Ka-300	B1K	弥生	S53	打製石器	剥片	-	-	4.1×4.2×1.6	21.69	流紋岩	接合資料93, 平野打面, 剥離角131°, 自然面あり	162

第458図 接合資料(83)

接合資料94(第459・460図、写真図版162)

石核1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片2点の接合資料である。1は表面の左側縁部に自然面を残しており、剥離面を打面として剥離された剥片である。2・3の剥片は1の剥離によって形成された面を打面として剥離されている。4の石核には多くの方向からの剥離面が観察され、打面転移が頻繁に行われたものと考えられる。3は微細剥離痕のある剥片1類である。1は古代の遺構内堆積土、2は古代の遺構検出面、3・4は弥生B区からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料95(第461・462図、写真図版163)

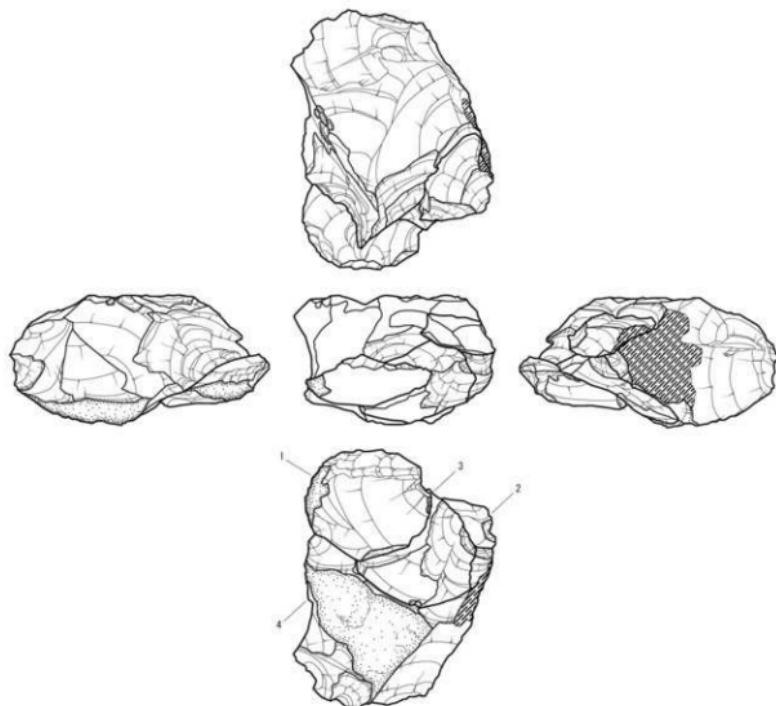
石核1点、剥片2点の接合資料である。2の剥片の打面と、3の石核の一部に自然面が残されている。1は剥離面を打面とし、剥離された剥片である。2は自然面を打面としており、節理面で剥離している剥片である。3は分割要素と推定される残核である。1は弥生B区、2・3は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料96(第463図、写真図版163)

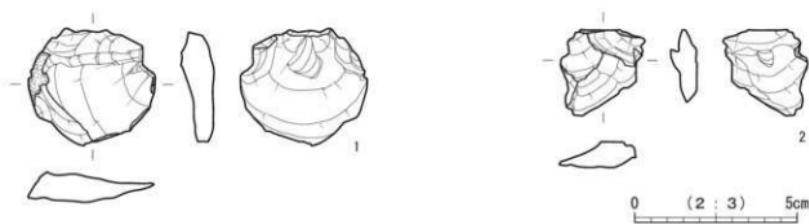
節理による同時割れを起こしたと考えられる剥片の接合資料である。剥離面と自然面から成る面を打面として剥離された剥片である。Ka-308・309は表面に自然面を残している。Ka-308は古代の遺構内堆積土、Ka-309は弥生B区SK42・43からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料97(第463図、写真図版163)

剥片2点の接合資料である。1は剥離面を打面とし、剥離された剥片である。2の剥片も1と同一の剥離面を打面とし、同一方向の加熱によって剥離されている。ともに古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

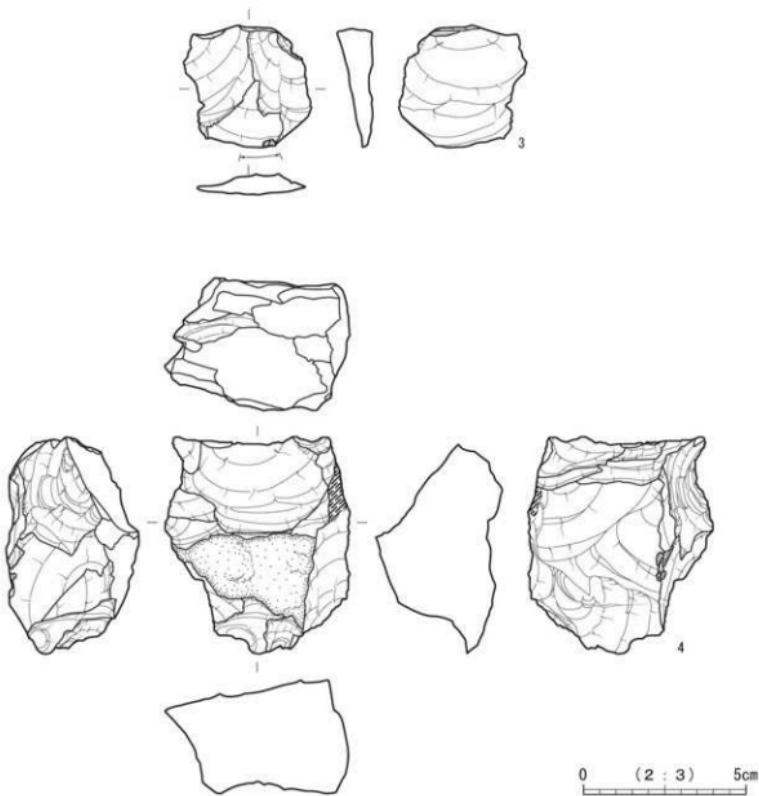


接合資料94



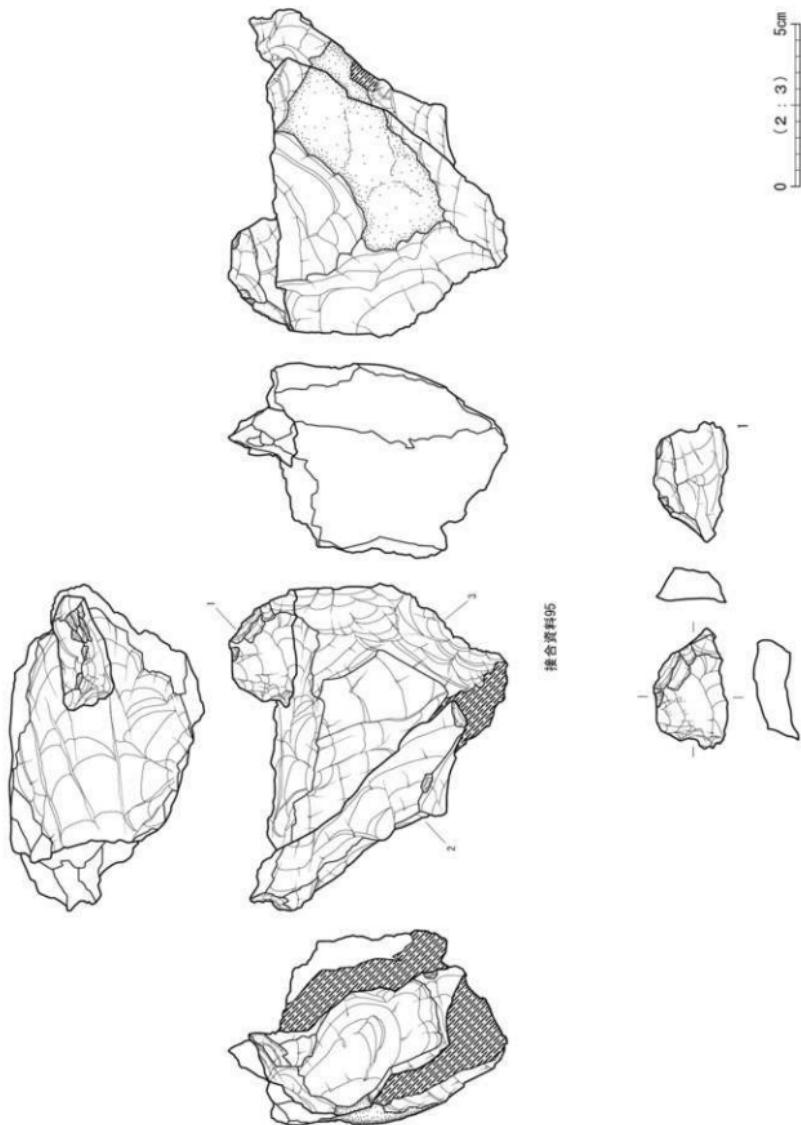
国版 番号	登録 番号	弥生 調査区	出土遺跡・切付	出土 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備　考	写真 図版
1	Ka-302	-	Pitt625-堆積土	-	打制石器	刮削片	-	3.5×3.9×1.1	12.48	流紋岩	接合資料94、平面打面、剥離角115°、自然面あり	162
2	Ka-301	-	道標塚泊面	-	打制石器	刮削片	-	2.6×2.4×0.8	4.15	流紋岩	接合資料94、打面部欠損	162

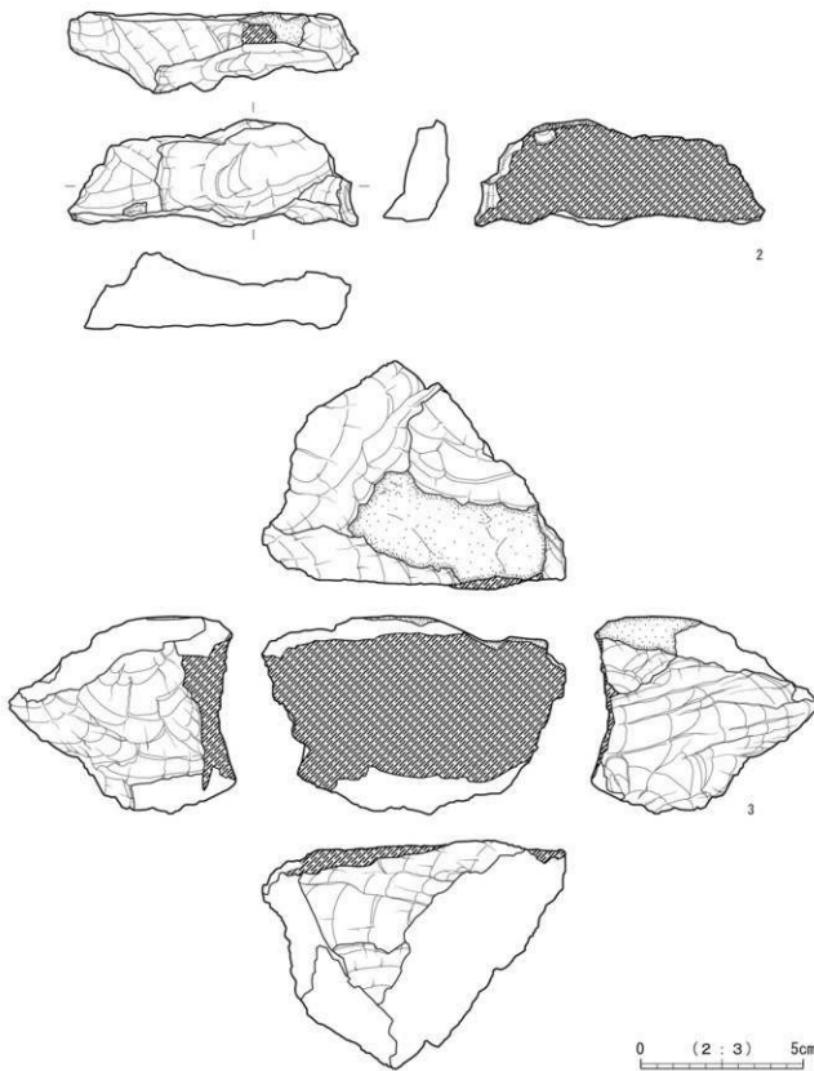
第459図 接合資料(84)



図版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
3	Ka-304	BIF	瓦屑	-	打製石器	微細網面直 ある石片	I	3.7×3.7×1.1	10.29	流紋岩	接合資料94.切っ打削.網面角101°. 1端辺に微細網面あり	162
4	Ka-303	BIF	瓦屑	-	打製石器	石核	-	6.5×5.6×4.0	141.88	流紋岩	接合資料94.禮差材.打削形跡あり.自然面あり	162

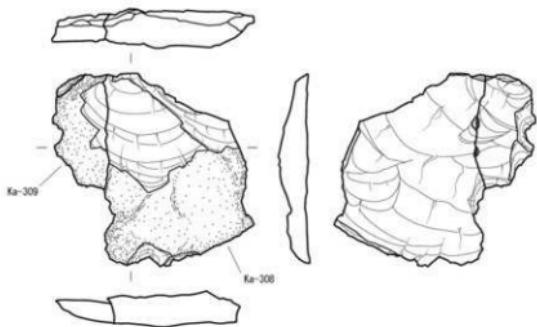
第460図 接合資料(85)



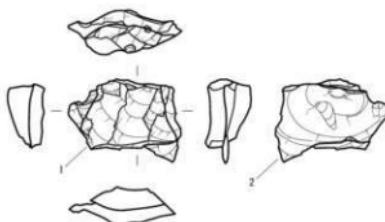


第462図 接合資料(87)

図版 番号	登録 番号	誕生 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
2	Ka-306	-	遺構焼出面	-	打製石器	滴片	-	3.2×8.8×2.4	58.30	泥凝岩	総合資料95,自然面打面,剥離角102°,自然面あり	163
3	Ka-305	-	遺構焼出面	-	打製石器	石核	-	5.9×9.0×6.5	287.96	泥凝岩	総合資料95,釋志村,打面軸移あり,自然面あり	163



接合資料96

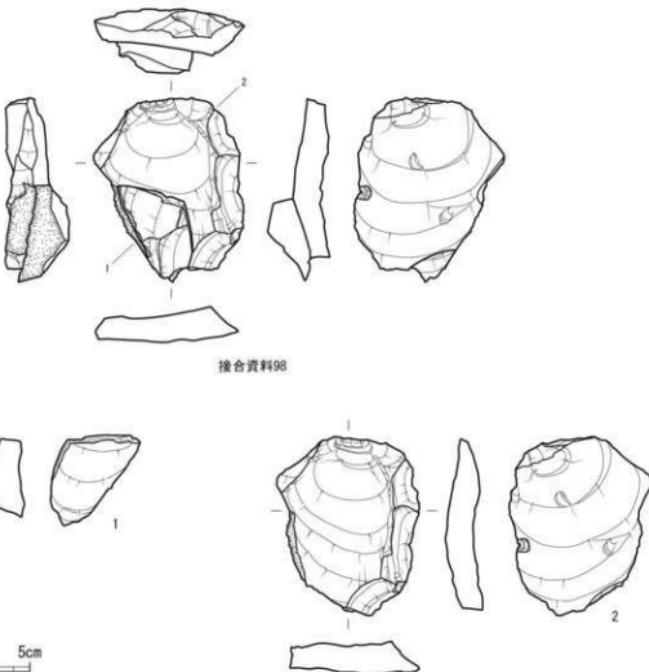


接合資料97



回収 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺物・焼灰	取上 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
Ka-309	SH99-地積土	-	打製石器	剥片	-	-	6.0×4.6×2.1	31.13	流紋岩	接合資料96,自然面丸	163	
Ka-309	H14	SK42-地積土	-	打製石器	剥片	-	3.5×1.7×0.8	5.64	流紋岩	接合資料96,自然面斜面,剥離角97°,自然面丸	163	
1	Ka-311	-	SH99-地積土	-	打製石器	剥片	2.1×2.8×0.9	4.80	流紋岩	接合資料97,平頭打面,剥離角119°	163	
2	Ka-310	-	SD42-地積土	-	打製石器	剥片	2.2×3.3×0.8	3.67	流紋岩	接合資料97,平頭打面,剥離角106°	163	

第463図 接合資料(88)



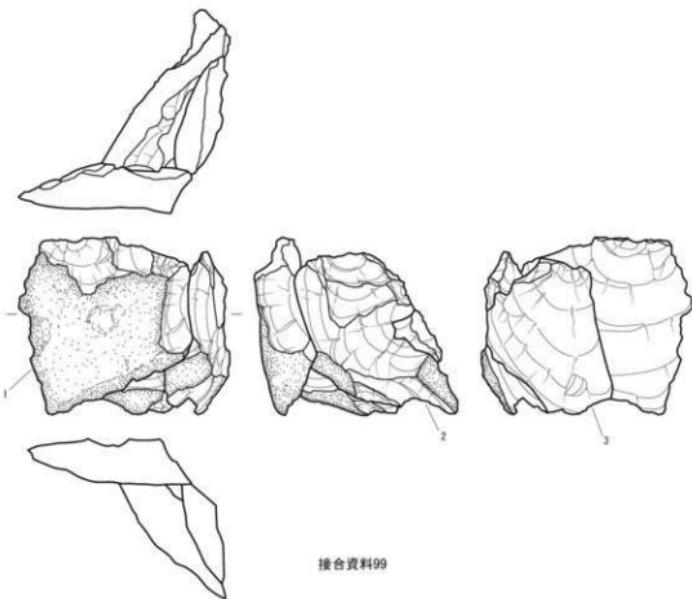
第464図 接合資料(89)

#### 接合資料98(第464図、写真図版163)

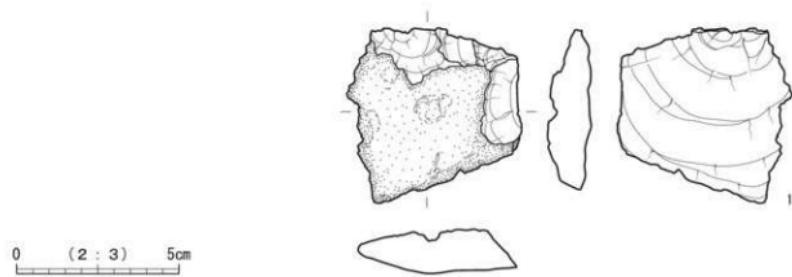
剥片2点の接合資料である。ともに表面の左側縁側に自然面を残している。1は打面側を欠損しているが、2の剥片剥離の前に剥離されており、同一方向からの加撃によるものであることから、剥離面打面と推定される。1・2ともに古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料99(第465・466図、写真図版163)

剥片3点の接合資料である。1は表面に自然面を残している。2は表面の両側縁側に自然面を残しており、3は表面の末端側に自然面を残している。1は剥離面を打面とし、剥離された剥片である。2と3の剥片は作業面を90°回転し、同一方向からの加撃によって剥離している。1は弥生C区、2は古代の遺構内堆積土、3は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

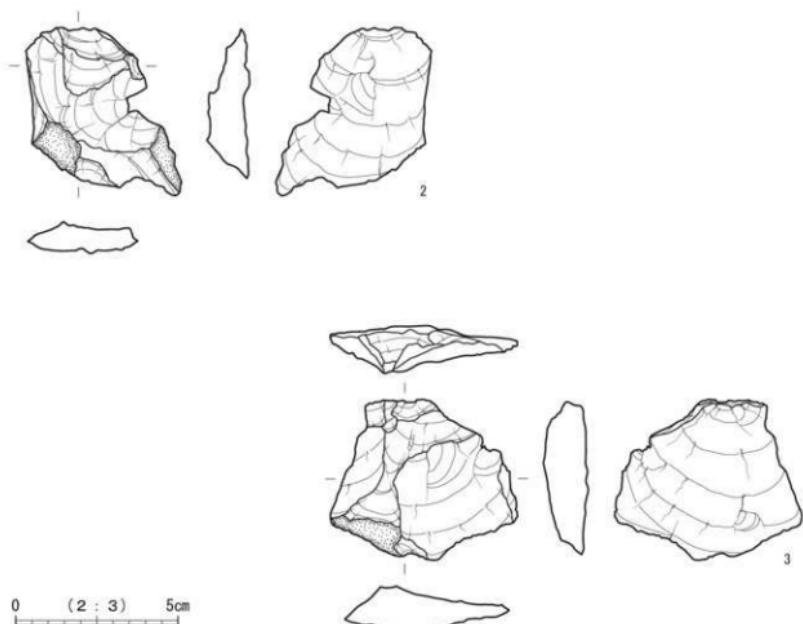


接合資料99



國版 番号	登録 番号	地生 調査区	出土遺跡・層位	取上 番号	種別	器種	分組	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-316	CIX	吉原	-	打撲石器	調査	-	5.3×5.2×1.6	39.61	流紋岩	接合資料99, 繋状打撲, 斜面角125°, 自然面あり	163

第465図 接合資料(90)



第466図 接合資料(91)

接合資料100(第467図、写真図版163)

折面で接合した石核の接合資料である。剥片を素材とする石核と考えられ、a面とb面で剥片剥離が行われている。石材は流紋岩である。

接合資料101(第467図、写真図版164)

剥片と、剥片を素材とする石核の接合資料である。1は剥離面を打面とし、剥離された剥片であり、ウートラバッセが生じている。2は1の剥片が剥離したことによって形成されたわずかに凹んだ部位に、微細剥離痕が認められることから、この部位を刃部として使用されたものと考えられる。1は微細剥離痕のある剥片1類である。ともに弥生C区からの出土である。石材は珪質頁岩である。

接合資料102(第468図、写真図版164)

節理面の影響から同時割れを起こした石核の接合資料である。Ka-311は古代の遺構内堆積土、Ka-322は弥生B区からの出土である。石材は珪質頁岩である。

#### 接合資料103(第468図、写真図版164)

微細剥離痕のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。1は剥離面から成る面を打面とし、剥離された剥片である。2の剥片は90°打面転移が行われ、剥離されている。1は微細剥離痕のある剥片I類である。1は古代の遺構検出面、2は弥生C区からの出土である。石材は珪質頁岩である。

#### 接合資料104(第469図、写真図版164)

二次加工のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。1・2は表面に自然面を大きく残している。1は自然面を打面とし、剥離された剥片である。2の剥片も同一方向からの加撃によって剥離されているが、調整打面である。2は二次加工のある剥片I類である。ともに弥生C区から出土している。石材は珪質頁岩である。

#### 接合資料105(第469図、写真図版164)

折面で接合した二次加工のある剥片の接合資料である。表面の右側縁側に二次加工を施しており、二次加工のある剥片II類である。Ka-327は古代の遺構検出面、Ka-328は弥生C区から出土している。石材は珪質頁岩である。

#### 接合資料106(第470図、写真図版164)

剥片2点の接合資料である。ともに表面に自然面を大きく残している。1・2とも剥離面を打面とし、剥離された剥片である。2の剥片は90°打面転移が行われ、剥離している。ともに弥生B区から出土している。石材は珪質頁岩である。

#### 接合資料107(第471図、写真図版164)

二次加工のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。ともに表面に自然面を大きく残している。1は点状打面であり、2は同一方向からの加撃によって連続的に剥離されている。2は二次加工のある剥片II類である。1は古代の遺構内堆積土、2は弥生B区からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料108(第472・473図、写真図版164)

石核1点と剥片2点の接合資料である。分割縫の分剖面を打面として剥片剥離作業が行われている。1は表面に自然面を大きく残し、2は表面の末端側に自然面をわずかに残す剥片である。1・2は古代の遺構内堆積土、3の石核は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料109(第474図、写真図版165)

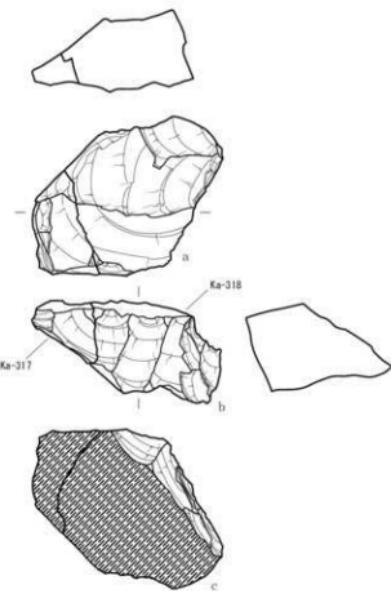
二次加工のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。2は、折面で接合しており、裏面の左側縁側に二次加工を施す際に折れたものと考えられる。1は剥離面から成る面を打面とし、剥離された剥片である。2の剥片も同一方向からの加撃によって剥離している。2は二次加工のある剥片III類である。1は弥生D区、2は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料110(第474図、写真図版165)

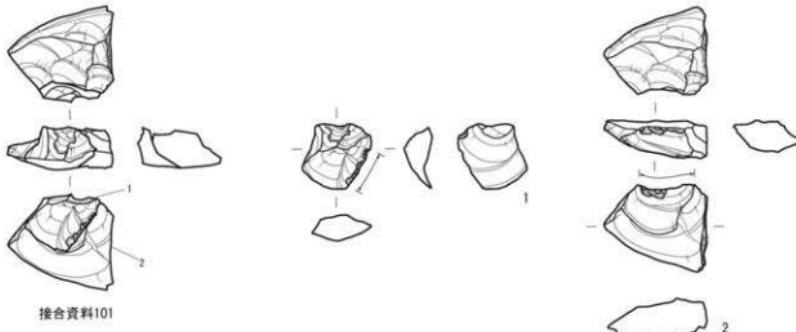
同時割れを起こしている剥片の接合資料である。Ka-339は古代の遺構検出面、Ka-340は弥生E区からの出土である。石材は珪質頁岩である。

#### 接合資料111(第475図、写真図版165)

石核1点と剥片1点の接合資料である。1は表面の末端側に自然面を残す剥片であり、剥離面を打面として、剥離されている。2は剥片を素材とする石核であり、表面の左側縁側に自然面を残しており、1縁辺には微細剥離痕が観察される。ともに古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。



接合資料100

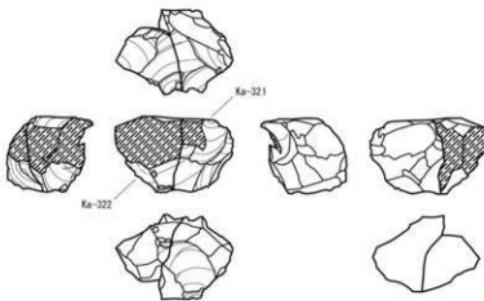


接合資料101

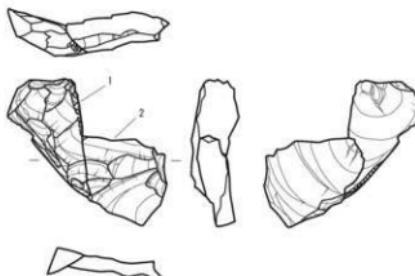
0 (2 : 3) 5cm

図版 番号	登録 番号	出土 場所	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備 考	写真 図版
	Ka-317	BIE	石器	P16	打製石器	調片	-	1.8×1.6×3.1	7.18	流紋岩	接合資料100, 打面加工欠損。	163
	Ka-318	BIE	石器	S21	打製石器	石核	-	2.6×5.4×3.9	53.23	流紋岩	接合資料100, 流片, 石核, 打面面削様あり	163
1	Ka-319	CJK	石器	P13	打製石器	微細剥離痕 のあ心調片	1	1.9×1.9×0.8	2.45	珪質頁岩	接合資料101, 平頂打面, 調片角162°、 打面切欠き, 剥離痕あり	164
2	Ka-320	CJK	石器	S29	打製石器	石核	-	2.7×3.1×1.1	8.02	珪質頁岩	接合資料101, 打面加工。 1縫合:微細剥離痕あり, 自然面あり	164

第467図 接合資料(92)



接合資料102

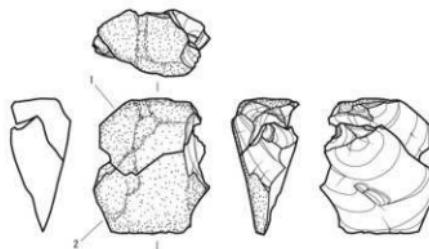


接合資料103

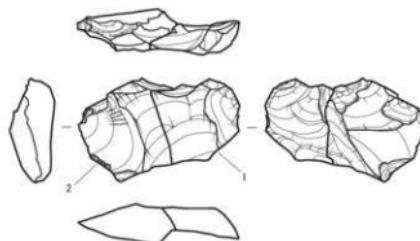
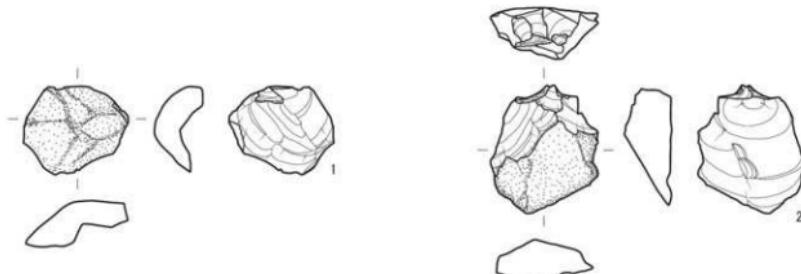


回数 番号	登録 番号	地生 調査区	出土遺跡・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石種	備考	写真 図版
	Ka-321	-	SII-9 基土	-	打製石器	石核	-	2.3×1.7×2.5	9.51	珪質頁岩	接合資料102, 材料不明, 打面転移あり, 自然面あり	164
	Ka-322	B区	瓦層	-	打製石器	薄片	-	2.3×1.9×2.2	6.64	珪質頁岩	接合資料102, 打面部欠損, 自然面あり	164
1	Ka-323	-	遺構後田面	-	打製石器	薄片	I	3.3×2.5×1.0	5.99	珪質頁岩	接合資料103, 錐状打面, 游離角103°, 1縁辺に微細溝離れあり, 自然面あり	164
2	Ka-324	C区	N層	-	打製石器	薄片	-	3.3×2.3×0.8	6.00	珪質頁岩	接合資料103, 錐状打面, 游離角104°	164

第468図 接合資料(93)



接合資料104

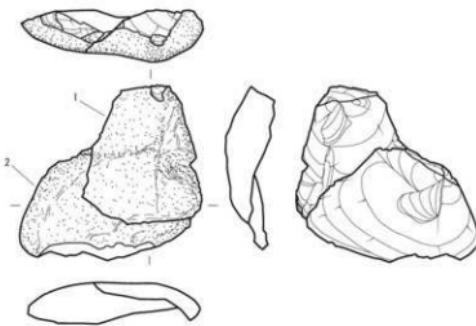


接合資料105

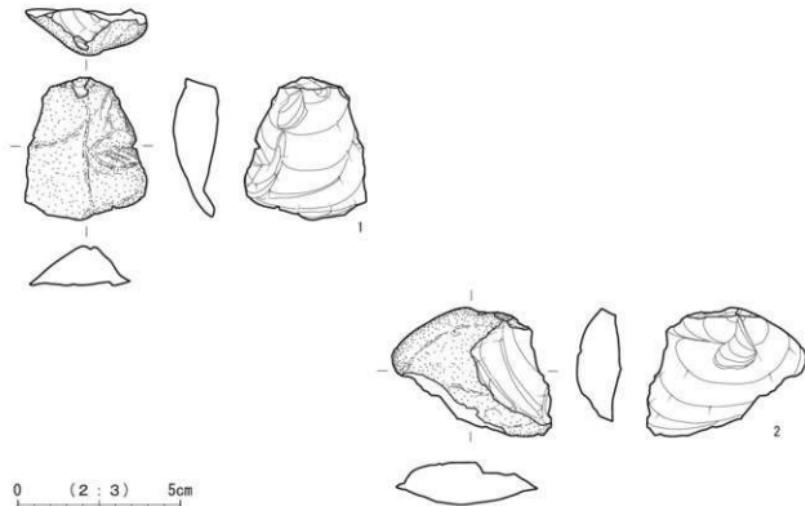
0 (2 : 3) 5cm

國號 番号	登錄 番号	地名 調査区	出土遺物-層位	取上 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-325	CJK	方削	-	打製石器	薄片	-	2.7×3.6×1.3	8.51	珪質頁岩	接合資料104, 打面基欠損, 自然面あり	164
2	Ka-326	CJK	方削	S198	打製石器	ある薄片	I	3.6×3.2×1.5	36.02	珪質頁岩	接合資料104, 打面基加工, 表面加工, 自然面あり	164
	Ka-327	-	連續後山面	-	打製石器	薄片	-	3.2×3.1×1.3	10.46	珪質頁岩	接合資料105, 打面基欠損, 自然面あり	164
	Ka-328	HJK	方削	S90	打製石器	ある薄片	I	2.4×2.8×1.0	6.44	珪質頁岩	接合資料105, 打面基欠損, 表面加工, 自然面あり	164

第469図 接合資料(94)

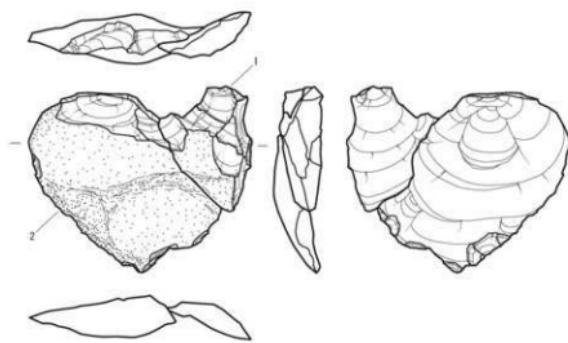


接合資料106

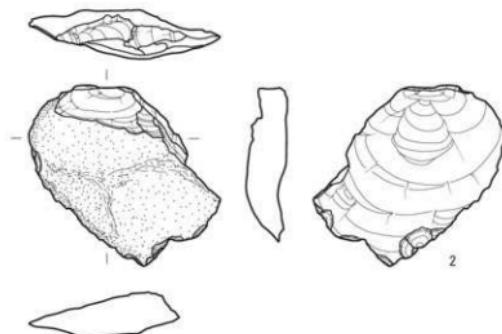
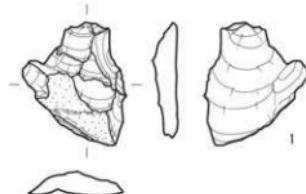


回復 重号	登錄 番号	地性 調査区	出土遺物-類別	取土 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-329	Cf4	石器	S73	打制石器	刮削器	-	4.3×3.7×1.4	17.96	珪質頁岩	接合資料106, 平坦打削, 斜面角31°, 自然面30°	164
2	Ka-320	Cf4	石器	S194	打制石器	刮削器	-	3.6×4.4×1.3	22.03	珪質頁岩	接合資料106, 切子打削, 斜面角11°, 自然面30°	164

第470図 接合資料(95)



接合資料107

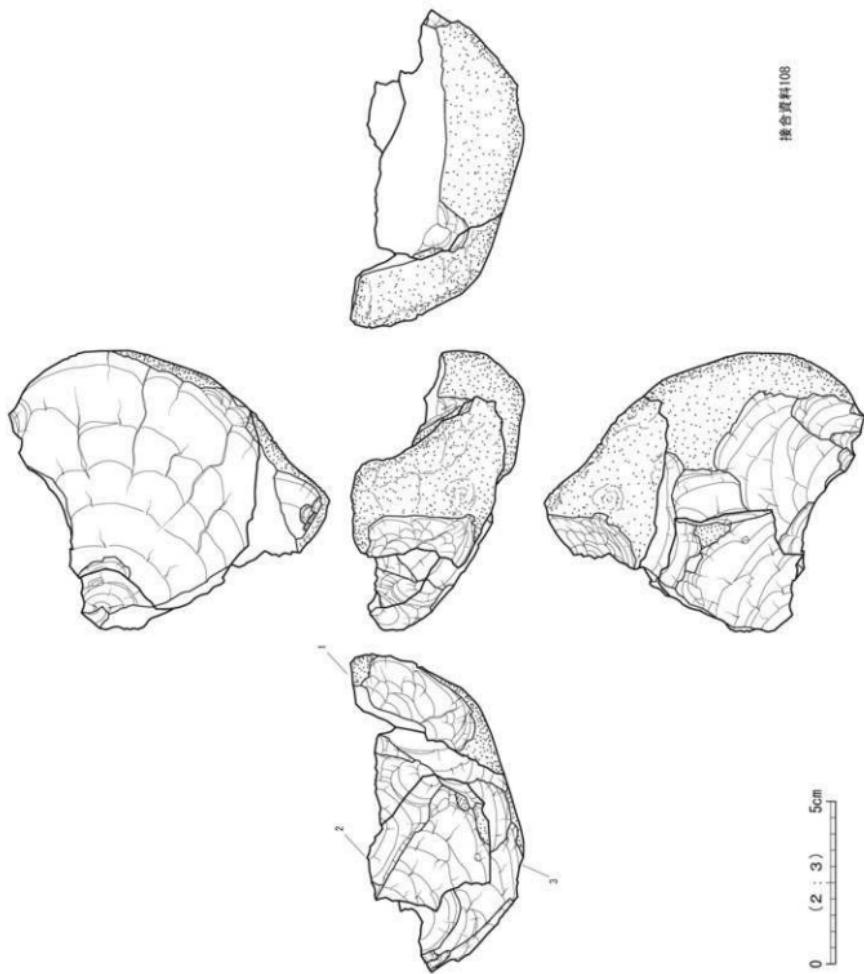


0 (2 : 3) 5cm

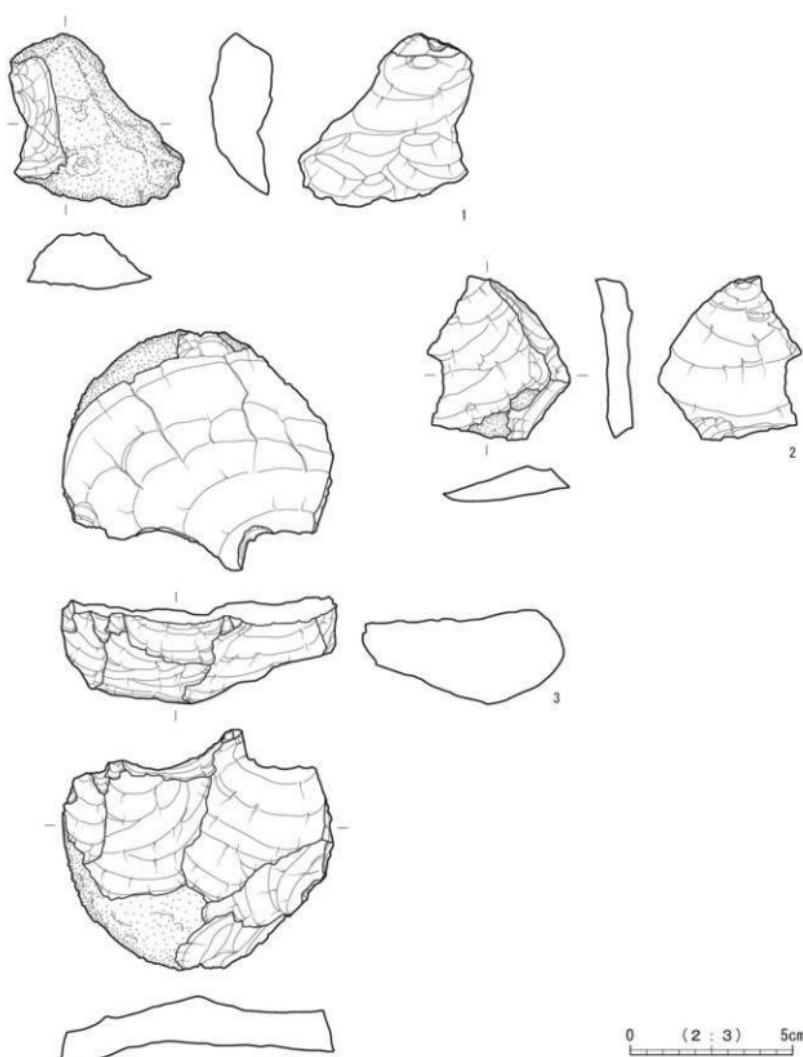
図版 番号	登録 番号	地名 調査区	出土遺構・層段	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石種	備考	写真 回数
1	Ka-321	—	SD42-堆積土	打製石器	調片	—	III	3.6×3.1×0.9	31.29	泥凝岩	接合資料107、点状打面、調節角115°、自然面あり	164
2	Ka-332	BfK	瓦屑	SS7	打製石器	二次加工の ある調片	II	3.2×5.1×1.4	6.55	泥凝岩	接合資料107、平面打面、調節角135°、 表面加工、自然面あり	164

第471図 接合資料(96)

接合資料106



第472図 接合資料(97)

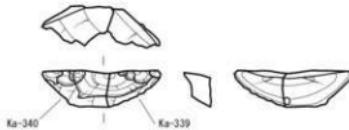
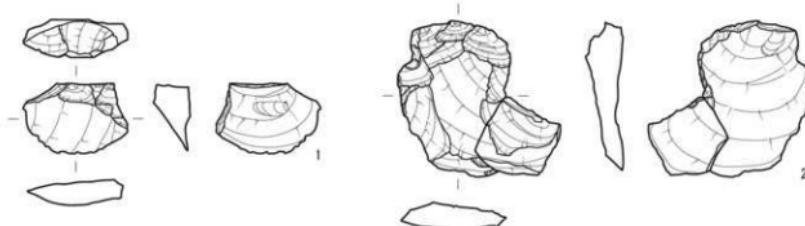


图版 番号	登録 番号	地生 区	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-334	-	SH13堆積土	-	打製石器	酒片	-	5.0×5.1×1.9	39.87	流紋岩	複合資料108、平頭打面、適應角129°、自然面あり	164
2	Ka-335	-	SH12堆積土	-	打製石器	酒片	-	4.8×3.8×1.5	21.31	流紋岩	複合資料108、平頭打面、適應角129°、自然面あり	164
3	Ka-333	-	遺構検出面	-	打製石器	石核	-	2.8×8.4×7.2	155.71	流紋岩	複合資料108、酒片素材、打面を移す、自然面あり	164

第473図 接合資料(98)



接合資料109

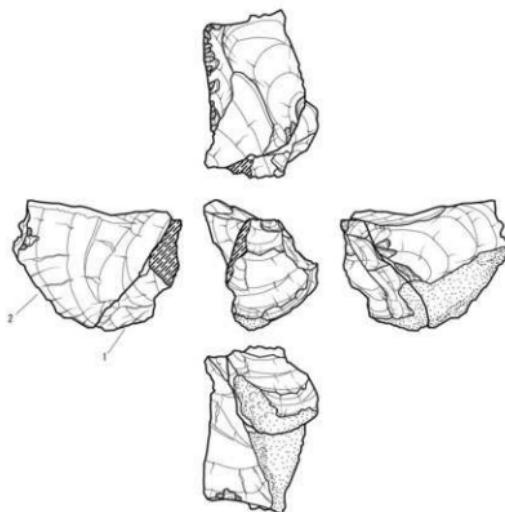


接合資料110

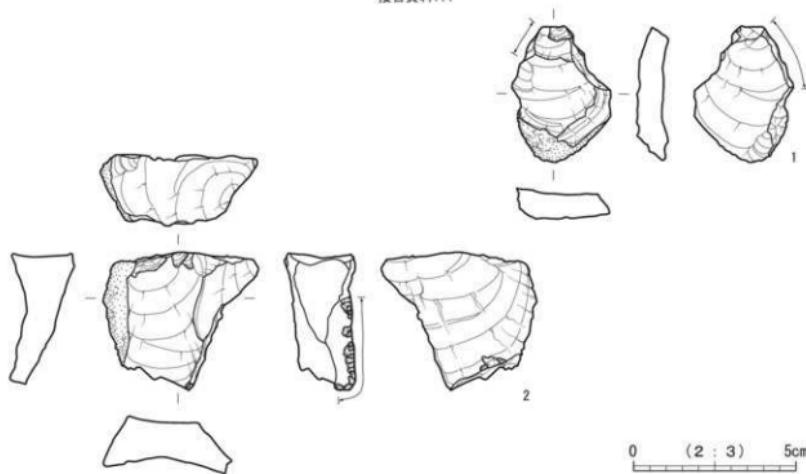
0 (2 : 3) 5cm

回収 番号	母材 番号	発生 調査区	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
1	Ka-338	DfK	石器	-	打制石器	两片	-	2.1×3.1×1.1	5.99	流纹岩	接合資料109, 平坦打面, 斜面角100°	165
2	Ka-336	-	SfK2-角砾土	-	打制石器	砾石加工の 芯石片	Ⅲ	4.6×4.7×1.3	17.02	流纹岩	接合資料109, 破片打面, 斜面角111°, 直面+斜面加工, 自然面(赤)	165
	Ka-339	-	遺構検出面	-	打制石器	砾石	-	0.9×1.6×1.0	1.08	珪質頁岩	接合資料110, 平坦打面, 斜面角113°, 自然面(赤)	165
	Ka-340	EfK	石器	-	打制石器	砾石	-	1.0×2.0×1.1	1.71	珪質頁岩	接合資料110, 平坦打面, 斜面角113°, 自然面(赤)	165

第474図 接合資料(99)



接合資料111



図版 番号	登録 番号	出土 場所	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
1	Ka-342	-	遺構検出面	-	打製石器	調片	-	4.1×3.0×1.3	12.61	泥灰岩	接合資料111、平面打扁、調片角111°、自然面あり	165
2	Ka-341	-	遺構検出面	-	打製石器	石核	-	4.2×4.6×2.2	29.92	泥灰岩	接合資料111、調片素材、打扁形調片、 1縫辺-微細剥離張あり、自然面あり	165

第475図 接合資料(100)

接合資料112(第476・477図、写真図版165)

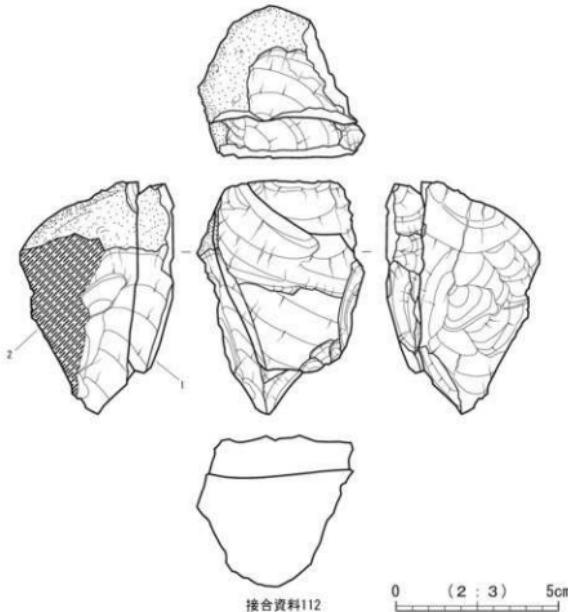
石核1点と二次加工のある剥片1点の接合資料である。1は剥離面を打面として剥離されている、二次加工のある剥片I類である。2は分割礫素材の石核である。ともに弥生B区から出土している。石材は流紋岩である。

接合資料113(第478図、写真図版165)

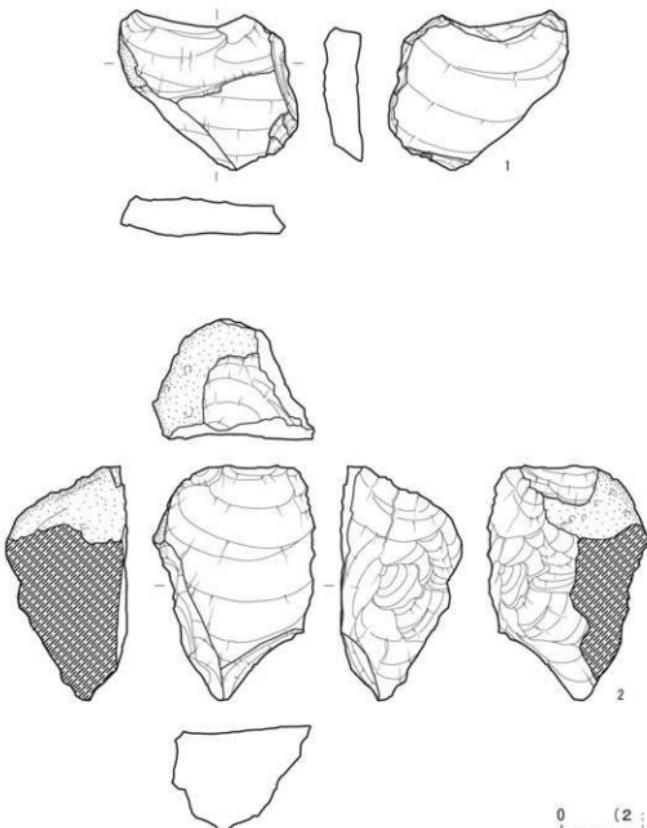
二次加工のある剥片1点と微細剥離痕のある剥片1点の接合資料である。1は表面の右側縁に自然面をわずかに残している。1は同時に割れを起こして別個体になった後、それぞれに二次加工が施されている。2の裏面末端に微細剥離痕が観察される。1は二次加工のある剥片III類であり、2は微細剥離痕のある剥片I類である。1は弥生B区からの出土である。2は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料114(第479～481図、写真図版165)

二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片4点の接合資料である。1・2・4は表面に大きく自然面を残し、5は表面の末端側に、6は表面の左側縁側に自然面を残している。1は剥離面を打面として、剥離された剥片である。2の剥片剥離では90°の打面転移が行われ、剥離面から成る面を打面として、剥離している。3の剥片では更に90°の打面転移が行われ、剥離面と自然面から成る面を打面として、剥離している。4・5の剥片はもう一度90°の打面転移が行われ、剥離面を打面として、剥離している。6の剥片は90°の打面転移が行われ、剥離面と自然面から成る面を打面として、剥離している。1は二次加工のある剥片III類であり、3は微細剥離痕のある剥片I類である。1・3・6は古代の遺構内堆積土、2は弥生E区、4・5は弥生B区からの出土である。石材は流紋岩である。

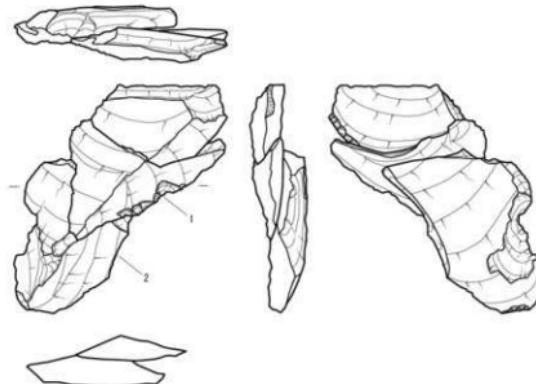


第476図 接合資料(101)

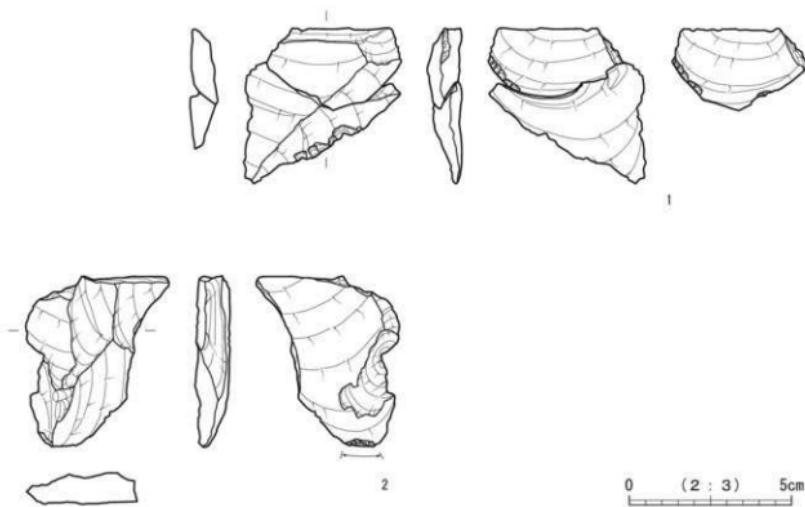


国版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺物・冠位	取上 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備　考	写真 図版
1	Ka-344	BIK	灰層	S47	打製石器	二次加工の ある破片	I	4.6×5.1×3.3	34.79	流紋岩	複合資料112.打面部欠損、表面加工、自然面あり	165
2	Ka-343	BIK	Ⅲ層	S1	打製石器	石核	-	7.2×4.8×3.6	104.80	流紋岩	複合資料112.禮蓋材、打面板形あり、自然面あり	165

第477図 接合資料(102)

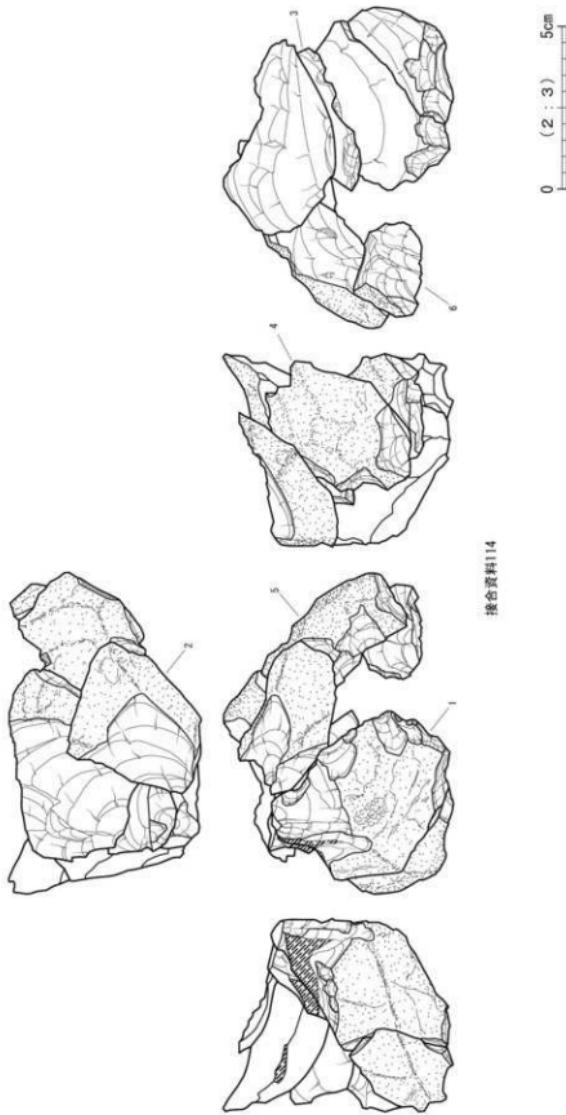


接合資料113

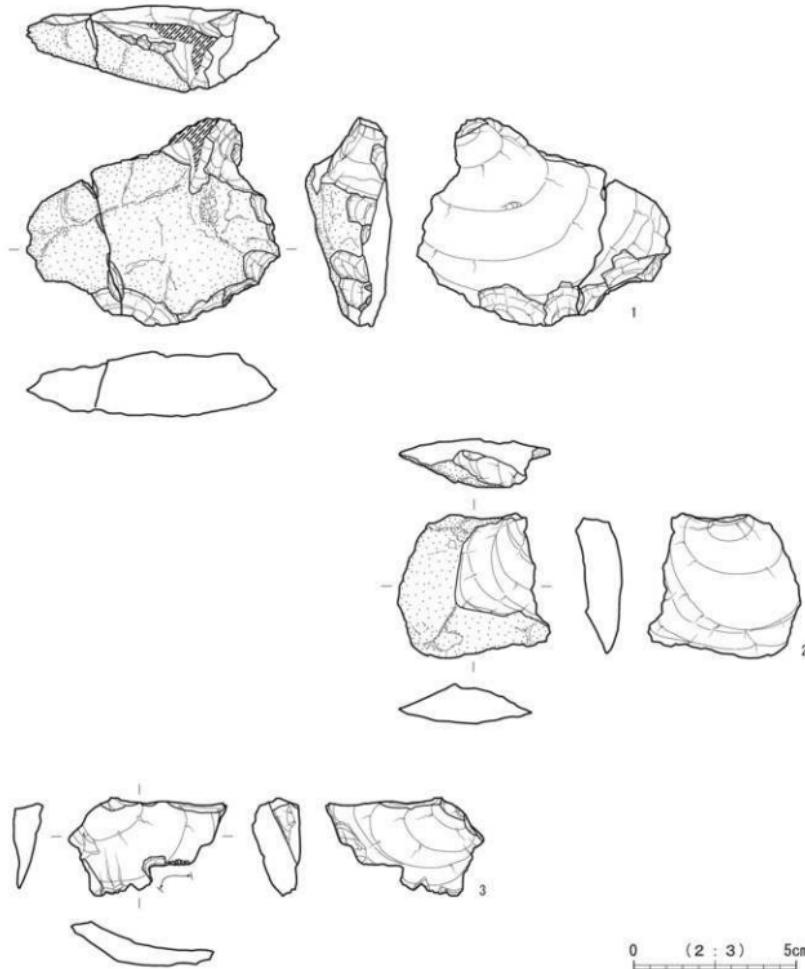


図版 番号	登録 番号	地名 調査区	出土遺物・制伝	取上 番号	種別	器種	分類	大きさ幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備 考	写真 図版
1	Ka-345	日区	打制石器 ある剥片	S30	打制石器	二次加工の ある剥片	Ⅲ	5.1×3.7×1.0	7.0	流紋岩	接合資料113. 打面部欠損. 表面加工+裏面加工. 自然面あり	165
2	Ka-346	-	連續突出面	-	打制石器	曲面面離板 のある剥片	I	4.1×4.8×1.0	21.05	流紋岩	接合資料113. 打面部欠損. 1枚邊に微細離板あり	165

第478図 接合資料(103)

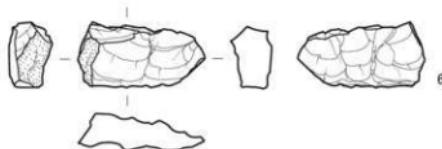
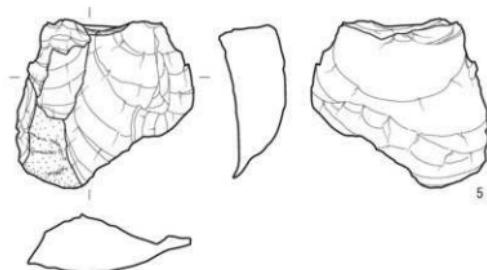
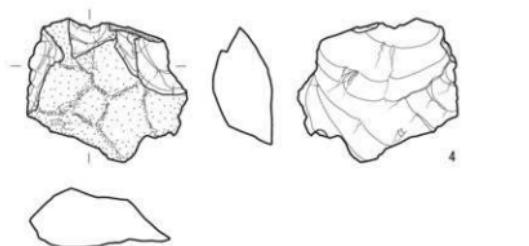


第479図 接合資料(104)



第480図 接合資料(105)

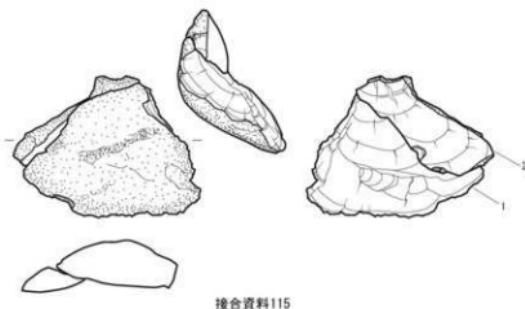
団号 番号	登録 番号	地生 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
1	Ka-348	-	SH99-9積土	-	打制石器	二次加工の あら片	Ⅲ	6.0×7.8×2.5	101.50	流紋岩	複合資料114, 手削打削, 斧葉角118°, 表面・裏面加工, 自然面あり	165
2	Ka-353	E区	吉留	-	打制石器	剥片	-	4.4×3.4×1.3	24.25	流紋岩	複合資料114, 手削打削, 斧葉角115°, 自然面あり	165
3	Ka-349	-	SH99-9積土	-	打制石器	微細剥離片 のあら片	I	2.9×4.3×1.4	10.67	流紋岩	複合資料114, 手削打削, 斧葉角118°, 自然面なし, 微細剥離片あり	165



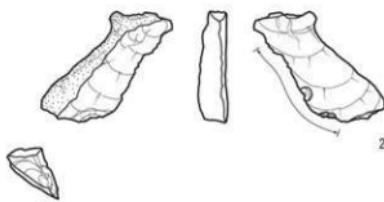
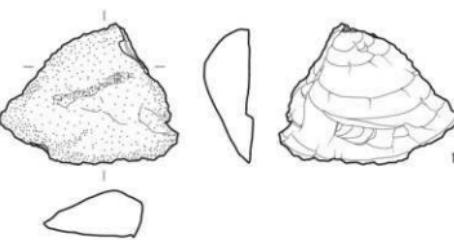
0 (2 : 3) 5cm

図版 番号	登録 番号	出土 調査区	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	参考	写真 回数
4	Ka-350	BIE	表層	-	打製石器	調片	-	4.3×4.8×1.9	45.55	流紋岩	複合資料114.打削部欠損、自然面あり	165
5	Ka-351	BIE	表層	-	打製石器	調片	-	5.1×5.3×1.9	33.66	流紋岩	複合資料114.平面打面、剥離角132°、自然面なし	165
6	Ka-352	-	SH12>培植土	-	打製石器	調片	-	1.9×3.9×1.2	9.87	流紋岩	複合資料114.打削部欠損、自然面あり	165

第481図 接合資料(106)



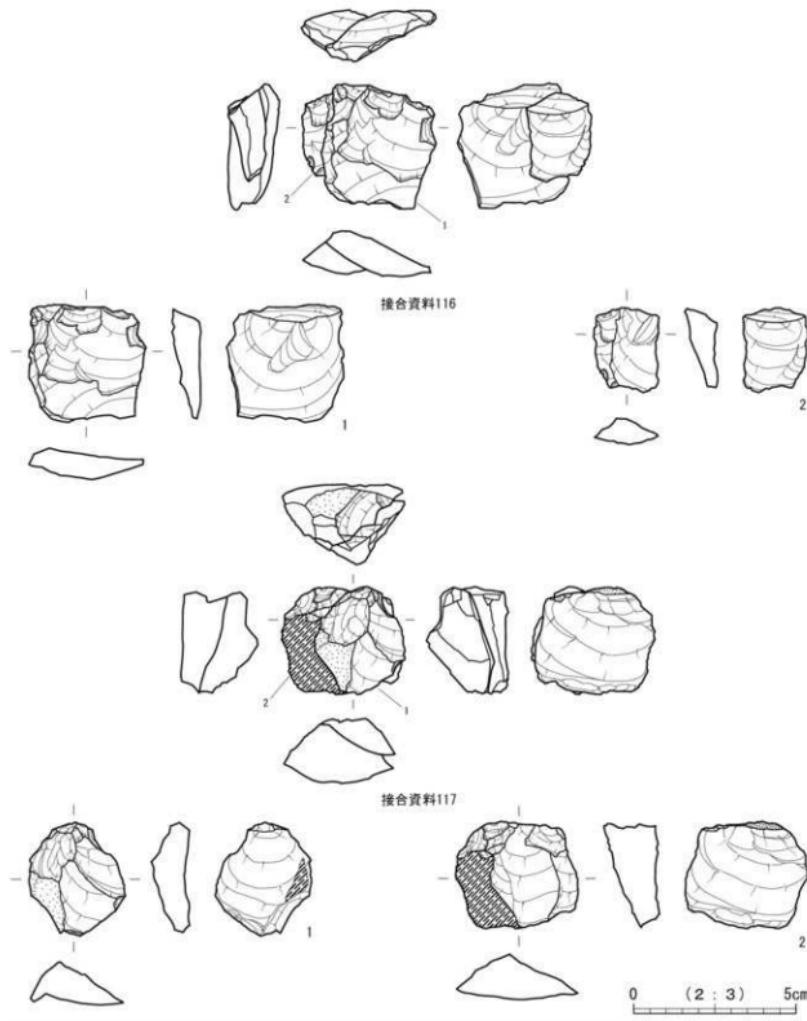
接合資料115



0 (2 : 3) 5cm

図版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺構・場所	出土 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石種	備考	写真 番号
7	Ka-354	-	SK73-堆積土	-	打製石器	刮片	-	4.2×5.2×1.5	28.86	流紋岩	接合資料115, 鐘打面, 滑面角113°, 自然面あり	166
8	Ka-355	-	道橋後出面	-	打製石器	微弱剥離痕 のある刮片	1	3.0×2.4×1.0	6.84	流紋岩	接合資料115, 鐘打面, 滑面角108°, 辯端に微弱剥離痕のあり, 自然面あり	166

第482図 接合資料(107)



圖版 番号	登錄 番号	地質 性質	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
1	Ka-356	-	SH99-堆積土	-	打製石器	滴片	-	3.6×3.6×1.1	12.17	流紋岩	接合資料116, 平坦打面, 断面角128°	166
2	Ka-357	-	SH13-堆積土	-	打製石器	滴片	-	2.5×2.0×0.9	4.05	流紋岩	接合資料116, 平坦打面, 断面角122°	166
1	Ka-358	-	SH13-堆積土	-	打製石器	滴片	-	3.4×2.9×1.4	9.06	流紋岩	接合資料117, 平坦打面, 断面角130°, 自然面(?)	166
2	Ka-359	CK	B層	S72	打製石器	滴片	-	3.2×3.7×1.9	18.93	流紋岩	接合資料117, 薄打面, 断面角118°, 自然面(?)	166

第483図 接合資料(108)

接合資料115(第482図、写真図版166)

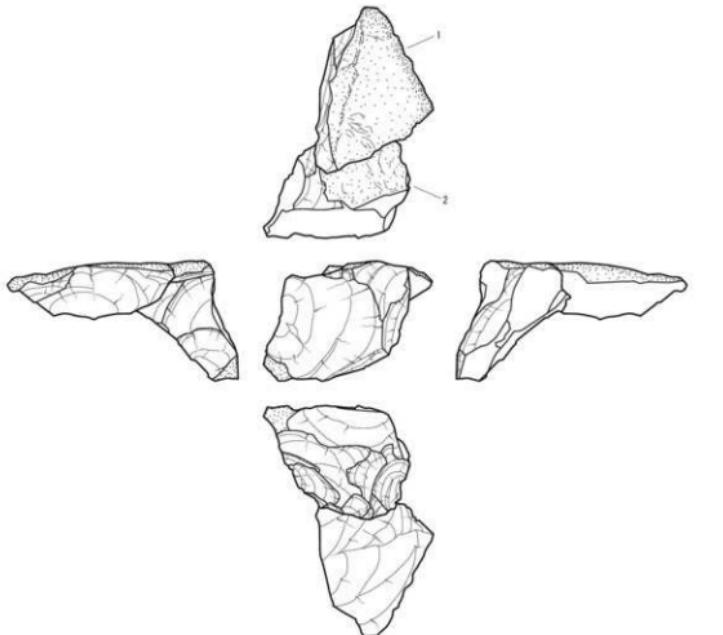
微細剥離痕のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。1は表面が自然面であり、2の表面左側縁側にも自然面が認められる。1・2ともに自然面を打面として剥離された剥片である。1・2ともに同一方向からの加撃によって剥離している。2は微細剥離痕のある剥片1類である。1は古代の遺構内堆積土、2は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料116(第483図、写真図版166)

剥片2点の接合資料である。1は剥離面を打面として、剥離された剥片である。2の剥片も同一の剥離面を打面とし同一方向からの加撃によって剥離している。ともに古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

接合資料117(第483図、写真図版166)

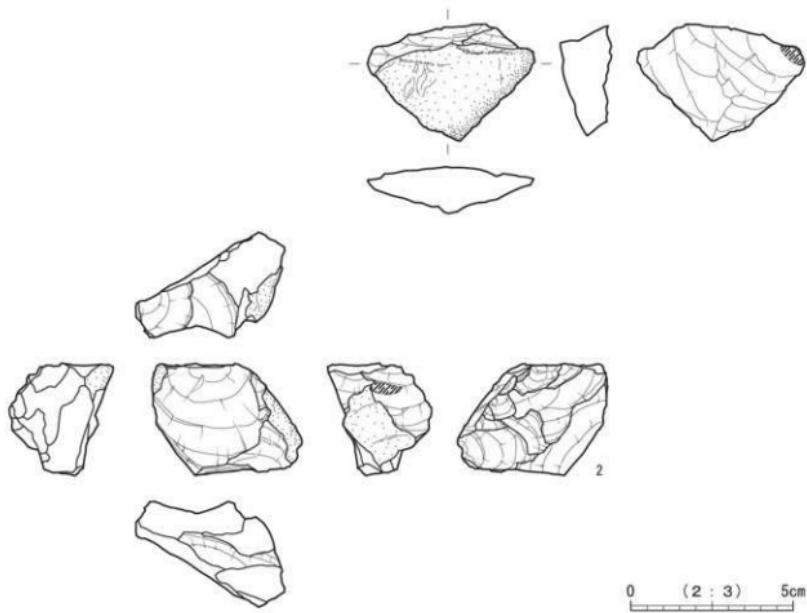
剥片2点の接合資料である。1は表面の左側縁側に自然面を残し、2は節理面を左側縁側に残している。1は剥離面を打面とし、先行する剥離によって形成された稜線が伸びる方向に打撃を加えて剥離された剥片である。2の剥片は剥離面と自然面からなる面を打面とし、1と同一方向からの加撃によって連続的に剥離している。1は古代の遺構内堆積土、2は弥生C区からの出土である。石材は流紋岩である。



接合資料118

0 (2 : 3) 5cm

第484図 接合資料(109)



第485図 接合資料(110)

#### 接合資料118(第484・485図、写真図版166)

石核1点と剥片1点の接合資料である。1は表面に広く自然面を残している。2は剥片素材の石核であり、部分的に自然面が残されている。剥片剥離が進行しており、頻繁に打面転移が行われたことが観察される。1は古代の遺構検出面、2は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料119(第486図、写真図版166)

石核1点と剥片1点の接合資料である。1の剥片は表面の左側縁に自然面を残している。自然面打面である。2は作業面以外はすべて自然面であり、原礫の一端がわずかに残る石核である。1は古代の遺構内堆積土、2は弥生A区からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料120(第486図、写真図版166)

同時割れを起こしている剥片の接合資料である。剥離面を打面とし表面に自然面を大きく残している。Ka-364は古代の遺構検出面、Ka-365は弥生B区からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料121(第487図、写真図版166)

石核1点と剥片2点の接合資料である。1の表面の大半は自然面であり、裏面の右側縁側に節理面が認められる。剥離面を打面とし、剥離された剥片である。2の剥片は90°の打面転移が行われ、剥離面を打面とし、剥離している。3は節理面の介在によって剥離している剥片を素材とした石核である。1・3は弥生C区、2は弥生C区SX2性格不明遺構堆積土からの出土である。石材は珪質頁岩である。

#### 接合資料122(第488図、写真図版166)

節理面の影響により、同時割れを起こしている剥片の接合資料である。表面に自然面を広く残している。Ka-369-370はともに弥生C区からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料123(第488図、写真図版166)

不定形石器1点と剥片1点の接合資料である。1は表面左側縁側に自然面をわずかに残し、2の表面の末端側には自然面が大きく残されている。2の末端には連続する二次加工が施されている。1は弥生B区、2は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料124(第489図、写真図版166)

節理面に影響され、同時割れを起こしている剥片の接合資料である。2面の剥離面から成る打面に打撃を加えて剥離されている。Ka-373は弥生B区、Ka-374は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料125(第489図、写真図版167)

微細剥離痕のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。2の表面には自然面が広く残されている。1は剥離面と自然面から成る面を打面とし、剥離された剥片である。2の剥片は点状打面であり、1と同一方向からの加撃によって剥離している。1は微細剥離痕のある剥片I類である。1は弥生C区、2は古代の遺構内堆積土からの出土である。石材は珪質頁岩である。

#### 接合資料126(第490図、写真図版167)

石核と石核の接合資料である。本来、同一の石核であり、剥片剥離作業の最終段階の加撃によって2分されたものと考えられ、その後それぞれで剥片剥離作業が行われている。ともに古代の遺構検出面からの出土である。石材は珪質頁岩である。

#### 接合資料127(第491図、写真図版167)

潜在割れの影響により、同時割れを起こしている剥片の接合資料である。表面に自然面を残している。ともに弥生C区からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料128(第491図、写真図版167)

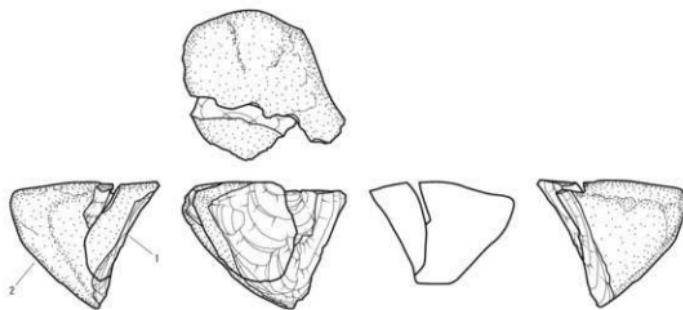
表面右側縁側からの二次加工と節理面の影響により折れている剥片の接合資料である。表面に自然面を残している。二次加工のある剥片II類である。古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料129(第491図、写真図版167)

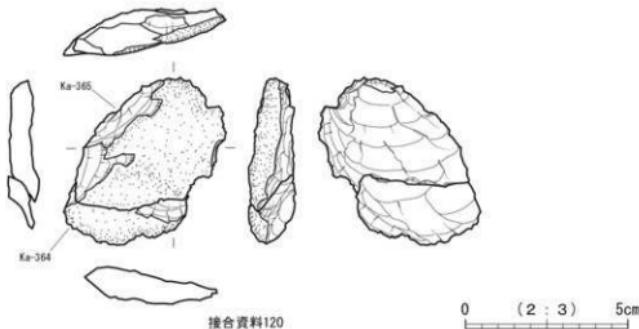
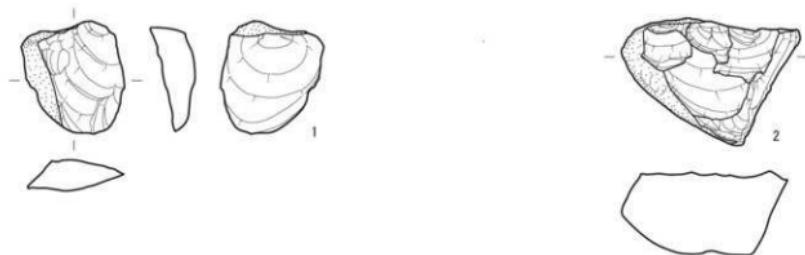
連続して剥離された剥片2点の接合資料である。1は表面の大部分に自然面を残し、2は表面の左側縁側に自然面を残している。1・2とも剥離面を打面とし、剥離された剥片である。1は弥生E区、2は古代の遺構検出面からの出土である。石材は流紋岩である。

#### 接合資料130(第492図、写真図版167)

二次加工のある剥片2点の接合資料である。1の表面の右側縁側には自然面が残されている。1は二次加工のある剥片であり、複数の縁辺に二次加工が施され、裏面の左側縁側に微細剥離痕が認められる。2は90°の打面転移が行われ、自然面を打面として剥離された剥片である。1・2ともに二次加工のある剥片III類である。1は古代の遺構検出面、2は弥生B区からの出土である。石材は瑪瑙である。



接合資料119

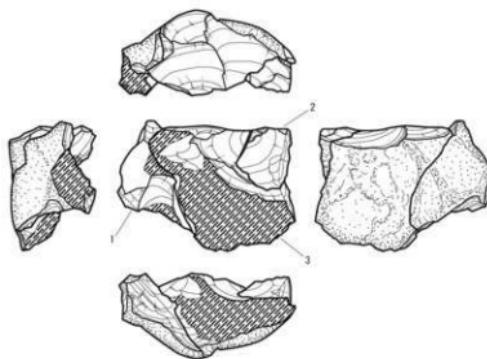


接合資料120

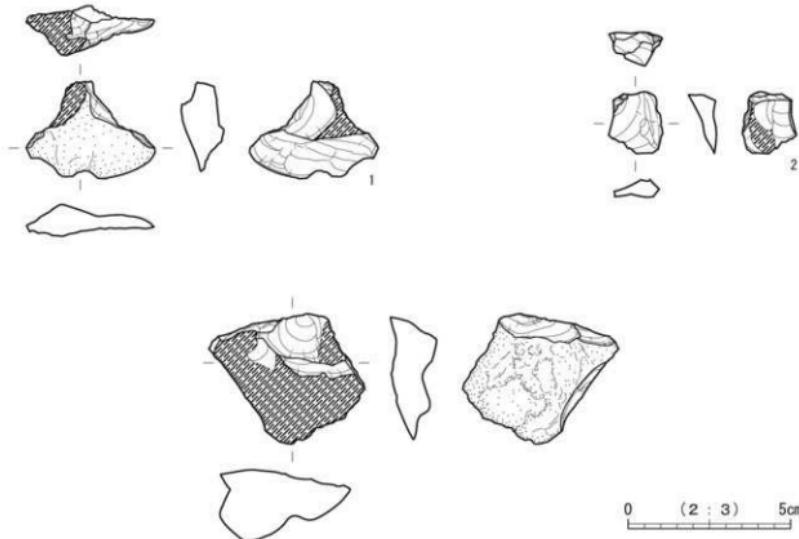
0 (2 : 3) 5cm

図版 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備 考	写真 回数
1	Ka-362	-	SIIb-堆積土	-	打製石器	調片	-	3.5×3.0×1.1	10.26	流紋岩	接合資料119,自然面打面,剥離角125°,自然面あり	166
2	Ka-363	AIK	Ⅲ層	-	打製石器	石核	-	3.6×5.2×3.0	49.18	流紋岩	接合資料119,禮蓋材,打面不整,自然面あり	166
	Ka-364	-	遺構底表面	-	打製石器	調片	-	1.9×4.0×1.0	5.40	流紋岩	接合資料120,打面基欠損,自然面あり	166
	Ka-365	BHK	Ⅲ層	SII	打製石器	調片	-	3.7×4.9×1.1	36.93	流紋岩	接合資料120,平面打面,自然面あり	166

第486図 接合資料(111)

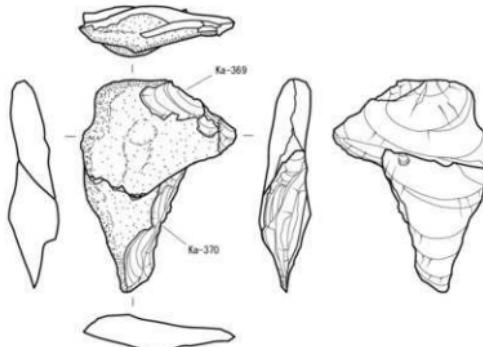


接合資料121

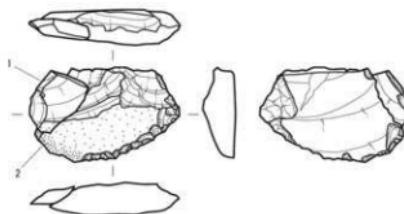


回取 番号	登録 番号	地生 調査区	出土場・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備　考	写真 図版
1	Ka-367	C区	瓦屑	S138	打製石器	剥片	-	2.8×3.9×1.4	8.76	珪質頁岩	接合資料121, 打面部欠損, 自然面あり	166
2	Ka-368	C区	SN2-堆積土	S9	打製石器	剥片	-	1.9×1.6×0.9	2.06	珪質頁岩	接合資料121, 平坦打面, 凹處角113°, 自然面あり	166
3	Ka-366	C区	瓦屑	-	打製石器	石核	-	4.2×3.5×2.6	30.59	珪質頁岩	接合資料121, 滑り素材, 打面粗粒あり, 自然面あり	166

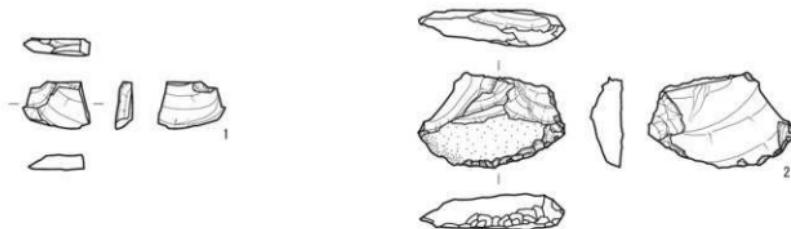
第487図 接合資料(112)



接合資料122



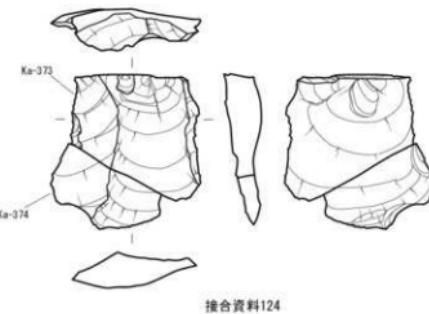
接合資料123



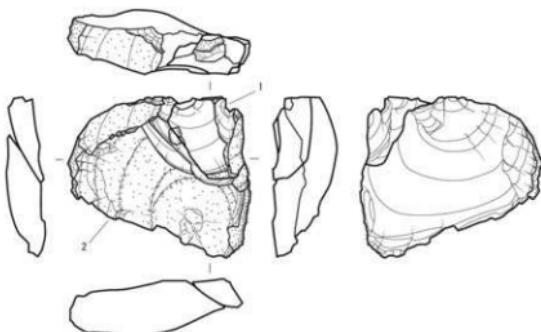
0 (2 : 3) 5cm

図版 番号	登録 番号	発生 層	出土遺物・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 図版
	Ka-369	CIE	Ⅳ層	S14	打製石器	滴片	-	3.7×4.8×1.1	16.23	珪質頁岩	接合資料122,自然面打削,剥離角116°,自然面あり	166
	Ka-370	CIE	Ⅳ層	S177	打製石器	滴片	-	4.0×3.2×1.6	14.57	珪質頁岩	接合資料122,打削部欠損,自然面あり	166
1	Ka-372	BIE	Ⅲ層	-	打製石器	滴片	-	1.4×1.9×0.5	1.59	泥灰岩	接合資料123,打削部欠損,自然面あり	166
2	Ka-371	-	SH27-堆積土	-	打製石器	不定形石器	-	2.9×4.5×1.1	12.03	泥灰岩	接合資料123,打削部欠損,表面+裏面加工,自然面あり	166

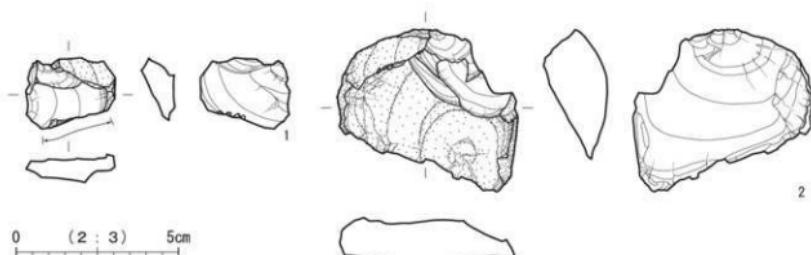
第488図 接合資料(113)



接合資料124

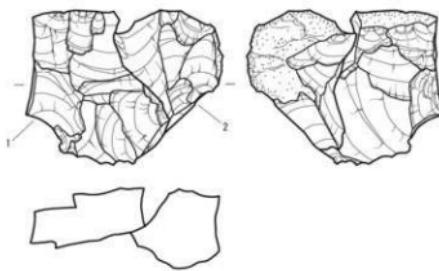


接合資料125

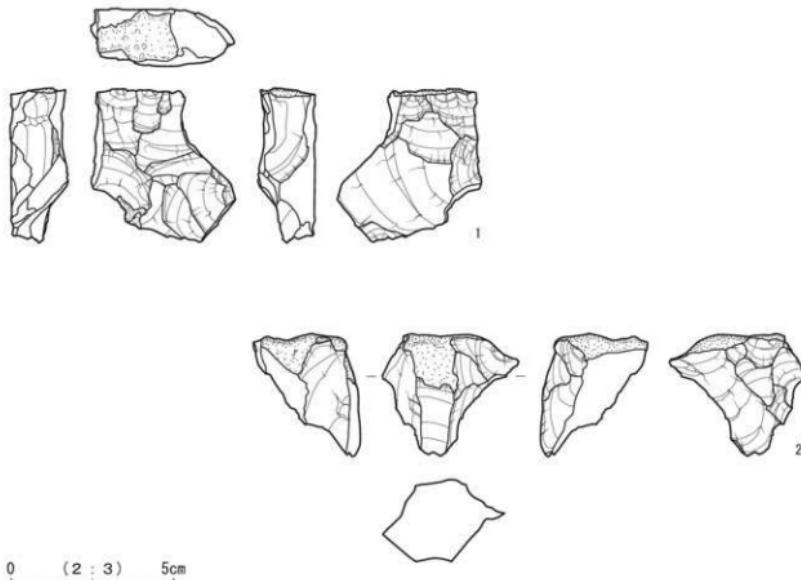


回数 番号	登録 番号	地生 調査区	出土遺物・剖位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
Ka-373	B区	灰層	-	打製石器	刮削	-	-	3.8×3.8×1.2	14.31	流紋岩	接合資料124, 打削打面, 斜面角103°	166
Ka-374	-	連續灰層	-	打製石器	刮削	-	-	1.9×3.4×0.9	5.05	流紋岩	接合資料124, 打削打面	166
1	Ka-376	C区	灰層	-	打製石器	刮削	I	2.0×2.7×1.1	3.95	珪質頁岩	接合資料125, 打削打面, 斜面角103°	167
2	Ka-376	-	SII13堆積土	-	打製石器	刮削	-	4.3×5.5×2.0	32.17	珪質頁岩	接合資料125, 打削打面, 斜面角124°, 自然面角0°	167

第489図 接合資料(114)

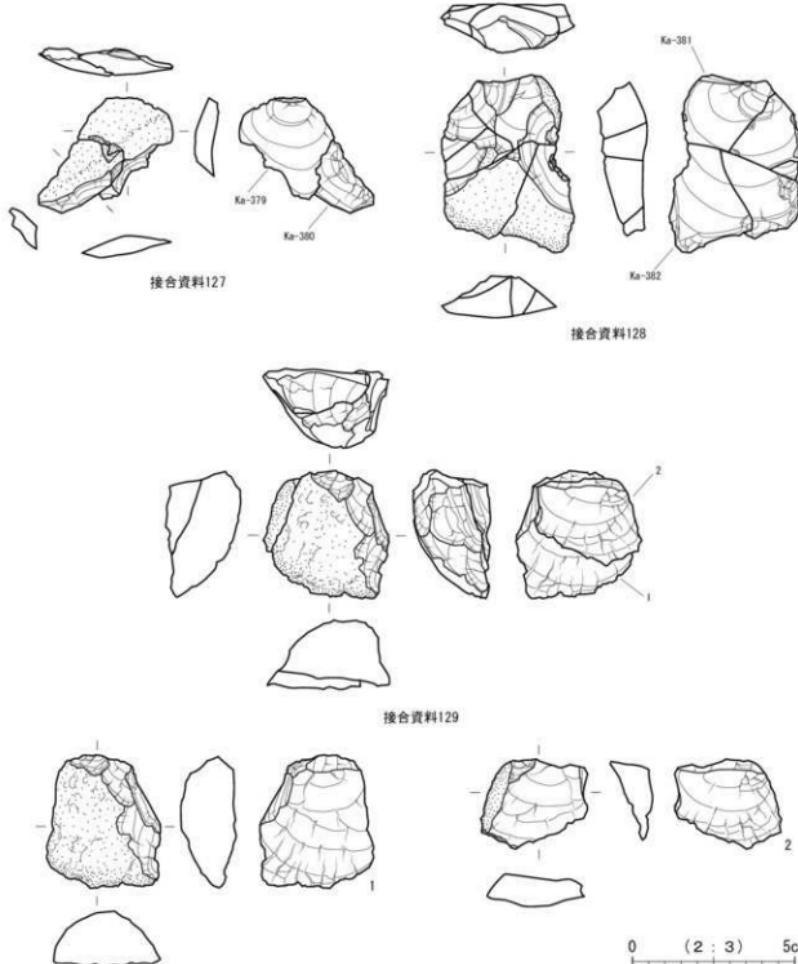


接合資料126



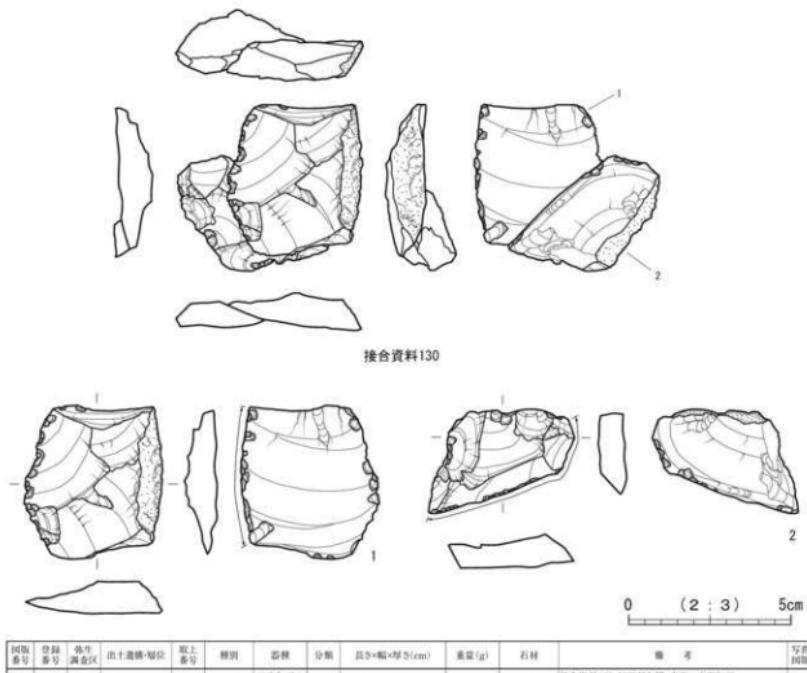
第490図 接合資料(115)

国級 番号	登録 番号	発生 調査区	出土遺構・層位	取上 番号	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備　考	写真 図版
1	Ka-377	-	遺構後出面	-	打製石器	石核	-	4.5×4.3×1.7	34.25	珪質頁岩	接合資料126、薄片素材、打削軸移歩み、自然剥込み	167
2	Ka-378	-	遺構後出面	-	打製石器	石核	-	3.7×4.0×2.8	30.77	珪質頁岩	接合資料126、薄片素材、打削軸移歩み、自然剥込み	167



國版 參號	登錄 番号	地名 調查區	出土 地點-層位	取土 番號	種別	器種	分類	長×寬×厚±(cm)	重量(g)	石材	備 考	寫真 圖版
Ka-379	-	C区	石屋	S58	打擊石器	刮削	-	3.1×2.9×0.7	3.68	流紋岩	接合資料127, 平面打面, 游離角110°, 自然面赤	167
Ka-380	-	C区	石屋	S62	打擊石器	刮削	-	1.7×3.1×0.5	2.27	流紋岩	接合資料127, 打面那欠組, 自然面赤	167
Ka-381	-	遺構後出面	-	打擊石器 ある剥片	二次加工の ある剥片	1	2.8×3.9×1.4	12.65	流紋岩	接合資料128, 手彫打面, 游離角120°, 表面加工, 自然面赤	167	
Ka-382	-	遺構後出面	-	打擊石器 ある剥片	二次加工の ある剥片	1	3.3×3.9×1.3	12.17	流紋岩	接合資料128, 打面那欠組, 自然面赤	167	
1	Ka-383	E区	石屋	-	打擊石器	刮削	-	4.1×3.4×1.8	25.42	流紋岩	接合資料129, 平面打面, 游離角131°, 自然面赤	167
2	Ka-384	-	遺構後出面	-	打擊石器	刮削	-	2.7×3.2×1.2	7.99	流紋岩	接合資料129, 平面打面, 游離角114°, 自然面赤	167

第491図 接合資料(116)



第492図 接合資料(117)

#### 接合資料からみた剥片剥離作業と使用石材

3B区の接合資料の特徴としては、石核の素材に分割縫と厚手の剥片が用いられていること、打面形態は自然面打面と平坦打面（單剥離面打面）が主体となっていること、打面調整、頭部調整はみられないこと、頻繁な打面転移が行われていることなどが上げられる。これらのことから、剥片剥離作業の進行による石核の形状変化に応じて打面と作業面に適する面を決定し、剥片剥離を行っていることが読みとれる。その結果として、規格性のある剥片は剥離されないが、それでも充分に目的は達せられていたものと推定され、剥離された剥片の形状等にそれほどこだわらない剥片剥離作業が行われていたものと考えられる。

接合資料に用いられている石材は、掲載した124点中、108点が流紋岩である。接合資料全体の84%を占め、3B区での主要石材ということができる。本遺跡から約2.5Km南方の名取川沿いでは現在でも流紋岩を採取でき、3B区から出土した石器の石材についても、遺跡周辺から搬入されたものと推定される。また、自然面が残る資料が多いことと、接合資料8・10・11・22・43・74・112・114・119のように原礫の大きさを推定できる接合資料から、搬入された石材はそれほど大きなものではなかったことが考えられる。

#### 4. 3 A区下層調査(第493～499図)

第1章に記載したように、平成15年度には3B区の南側に隣接する3A区の縄文時代遺物包含層を対象とした調査を実施した。3A区の北側と中央部に21～25×15m程の調査区を設定し、それぞれ北区、南区とした(第493・494図)。

##### (1) 基本層序(第495～498図)

下層調査区の層序は、大別16層、細別43層に分層した。概ね水平堆積の様相を呈していることから、自然堆積と思われる。なお、2B区において実施された下層調査についても同様の堆積状況が確認されている(第324集)。なお、南壁面上土層に存在しない土層は、北壁面上土層にA・B層、①～⑧層と個別に土層名を付した。以下、各層の概要を記載する。

VII層：14層に細分される。VIIa層は層厚80cmを測るオリーブ褐色砂層で、層中に含まれる酸化鉄・マンガンの量により、VIIa'層とに細々分される。VIIb層は下面に酸化鉄が集積する暗オリーブ褐色砂層で、地点により層厚に二倍程の差が認められる。VIIc層は黄褐色シルト主体で酸化鉄集積土を互層状に含む。暗黄褐色粗砂と粘土が互層状となるVIIc'層とに細々分される。VId層は酸化鉄と炭化物を帶状に含む灰黄色粘土質シルトである。また、北区ではVIIb層とVIIc層の間から、どちらにも含まれない土層が確認された。この層についてはVII層に包括されるものと考えられるが、便宜的に①～⑧層とした。

VIII層：3層に細分される。VIIIa層およびVIIIc層は同質層で、鉄分と炭化物を少量含む層厚10cm程の明オリーブ灰褐色粘土質シルト。VIIIb層は鉄分と炭化物を微量に含む青灰色砂質シルトである。

IX層：3層に細分される。IXa層は鉄分・炭化物・植物繊維を僅かに含む黒色粘土質シルト、IXb層は暗褐色粘土質シルト、IXc層は緑黒色粘土質シルトである。2B区の下層調査においては大洞A'式に比定される土器が出土している。

X層：多量の鉄分と炭化物を含む粘土質シルト層で、色調により暗褐色のXa層、灰色のXb層、Xc層に比べて僅かに暗い灰色のXc層に細分される。

XI層：青灰色粘土質シルトで、鉄分と炭化物の量によりXIa～XIcに細分される。

XII層：鉄分・炭化物・繊維質の量により、黒褐色粘土質シルトのXIIa層、オリーブ黒色粘土質シルトのXIIb・XIIc層に細分される。

XIII～XVI層：南区のみで確認された。青灰色・緑灰色粘土なし青灰色粘土質シルトで、グライト化が認められる。

XVII・XVIII層：暗青灰色粘土質シルトで、鉄分・炭化物・植物繊維の量により細分される。

XIX～XXI層：南区ではXIX層が2層に細分される。このほか、北区ではXX層とXXI層の間からどちらにも含まれない層を確認しており、便宜的にA層・B層とした。

XXII層：暗オリーブ砂である。グライト化が著しく、湧水が認められるようになる。

##### (2) 3A区下層調査出土遺物(第499図)

両下層調査区内からは、少量ではあるが、縄文時代に帰属する遺物が出土している。以下、下層調査区内から出土した遺物について、層位別に記述する。

###### a. XII層出土遺物(第499図)

壺1点、深鉢4点、台付鉢1点、注口土器1点を掲載した(第499図1～7)。いずれも縄文時代後期後半の所産と思われる。1は精製の壺で、口縁部上端および口唇部にL R縄文が横位回転施文された後、地文直下に横位の沈線

が施文される。2～5は深鉢の破片資料で、2は壺の可能性もある。3は層状的に施文された刺突列の上下が沈線により区画される。4はR L 縄文が縦位回転施文される。5は弧状の沈線内にL 縄文が充填される。6は台付鉢で、体部上半には文様内にL R 縄文が充填され、下半および内面はミガキ調整される。7は注口土器の体部下端から底部にかけての破片資料で、外面底部が窪む器形を呈する。内面は剥離が著しい。

b. XII層出土遺物(第499図)

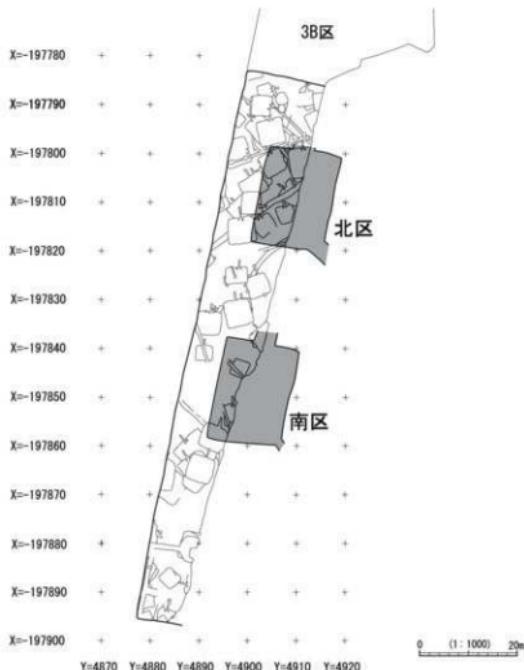
深鉢の口縁部破片1点を掲載した(第499図-8)。口唇部が先細る器形を呈し、外面には無節L 縄文が縦位回転施文される。時期は判然としないが、2B区の下層調査XII層同一層位から縄文時代後期後葉の所産と考えられる遺物が出土している(第324集)。

c. XVI層出土遺物(第499図)

第499図-9は、南区で出土した磨石である。I類B種であり、楕円礫を素材とし、片面中央の平坦面に磨痕が広く認められる。石材は安山岩である。

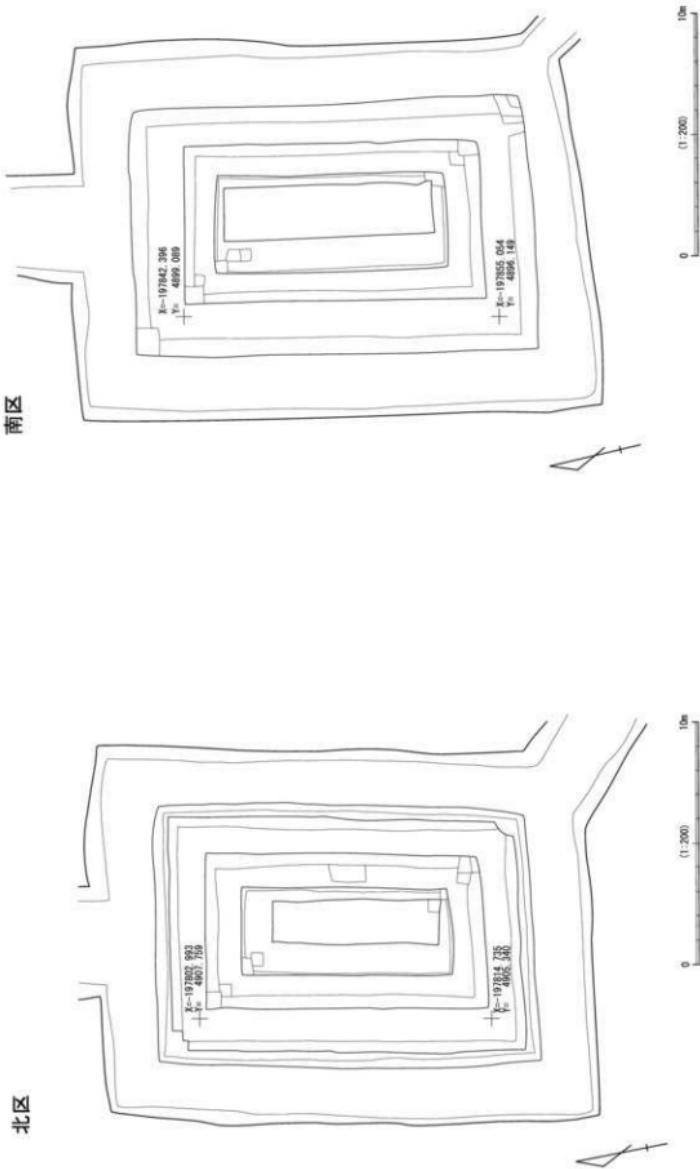
d. 出土層位不明遺物(第499図)

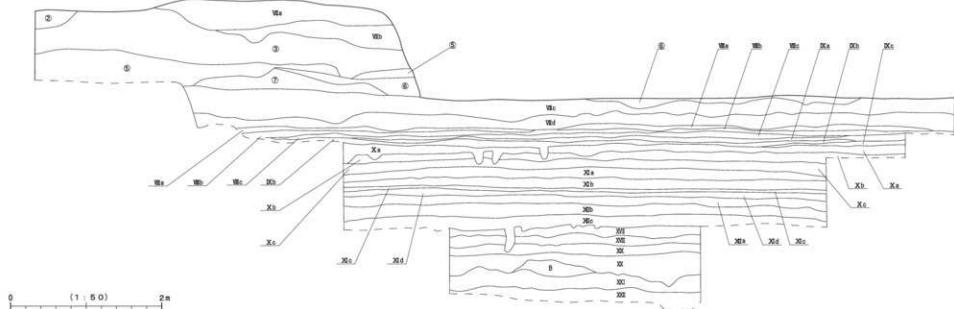
第499図-10は、北区で出土した磨石である。I類A種であり、円礫を素材とし、片面中央の平坦面に磨痕が認められる。石材は安山岩である。



第493図 3A区下層調査区位置図

第494図 3A区下層調査区平面図

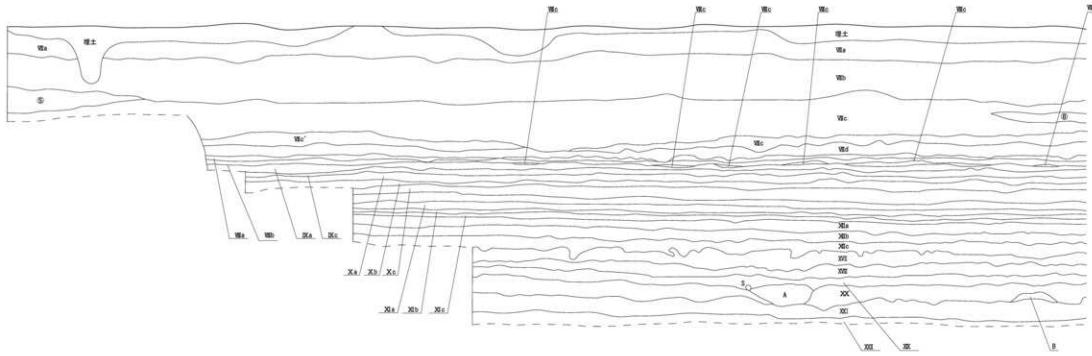




3区下層調査区 土層			
位別	土 色	土 性	備考
Wd 2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質 砂質の軟分よりは炭化物を含む	発達したマグラン層
Wd 2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質 砂質の軟分よりは炭化物を含む	シングル層
Mc 2.5Y5/1	青灰褐色	砂質 シルト	中粒の砂さ2~3cm程の砂質青灰褐色土を互層状に含む
Wd 2.5Y3/2	暗青灰色	砂質 シルト	風化、半風化土の軟分に含む
Wd 2.5Y1/2	灰青色	粘土 シルト	風化、炭化物を軟分に含む
Wd 5GY7/1	明オリーブ灰褐色	粘土 シルト	少量の風化および炭化物を含む。粘性や強 しまりあり
Wd 10BG5/1	青灰褐色	砂質 シルト	風化の軟分および炭化物を含む しまりあり
Xc N2/1	青褐色	粘土質 シルト	風化の軟分、炭化物、多量の植物繊維を含む
Xh N3/	暗灰褐色	粘土質 シルト	少量の風化、炭化物、風化物繊維を含む
Xc 10GY2/1	林黒色	粘土質 シルト	風化層の軟分、微量の炭化物、少量の植物繊維を含む。粘性・しまり共に強
Xs N3/	暗灰褐色	粘土質 シルト	多量の風化、炭化物を軟分に含む しまりあり
Xh N5/	灰褐色	粘土質 シルト	多量の軟分、炭化物を軟分に含む しまりあり
Xc N4/	灰褐色	粘土質 シルト	多量の風化、炭化物を軟分に含む しまりあり
Xh 10BG5/1	青灰褐色	粘土質 シルト	少量の風化、微量の炭化物を軟分に含む しまりあり
Mh 10BG5/1	青灰褐色	粘土質 シルト	少量の風化、微量の炭化物を軟分に含む しまりあり
Xc 10BG5/1	青灰褐色	粘土質 シルト	少量の風化、炭化物を軟分に含む しまりあり
Md 10BG5/1	青灰褐色	粘土質 シルト	少量の風化、炭化物を軟分に含む しまりあり
Xs 5Y2/	暗灰褐色	粘土質 シルト	中粒の風化、少量の炭化物、微量の植物繊維をブロック状に含む しまりあり
Mh 5Y3/2	オリーブ黑色	粘土質 シルト	多量の風化、植物繊維、少量の炭化物を軟分に含む しまりあり
Xh 2.5GY3/1	オリーブ黑色	粘土 シルト	少量の風化、炭化物、植物繊維を含む しまりあり
Xh 10BG4/1	暗灰褐色	粘土質 シルト	多量の風化、炭化物、少量の植物繊維を含む。粘性・しまり共に強
Xh 2.5GY4/1	暗オリーブ灰褐色	粘土 シルト	少量の風化、多量の炭化物、植物繊維を含む
Xh 5GY2/1	オリーブ黑色	粘土 シルト	少量の風化、炭化物軟、多量の植物繊維を含む
Xh 5GY2/1	オリーブ黑色	粘土 シルト	少量の風化、炭化物軟、植物繊維を含む
III 2.5GY4/1	暗オリーブ灰褐色	粘土 シルト	少量の風化、炭化物軟、植物繊維を含む しまりあり
III 10BG4/1	暗灰褐色	粘土 シルト	少量の風化、炭化物、少量の植物繊維を含む。粘性・しまり共に強
III 2.5GY4/1	暗オリーブ灰褐色	粘土 シルト	少量の風化、多量の炭化物、植物繊維を含む
A 5GY2/1	オリーブ黑色	粘土 シルト	XII層の黄木炭か
B 2.5GY3/1	暗オリーブ灰褐色	粘土 シルト	少量の風化、炭化物、植物繊維、微量の明緑鉄灰色を含む しまりあり
① 2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質 シルト	マグラン、風化物を含む しまりあり
② 2.5Y3/2	暗灰褐色	砂質 シルト	黒褐色土上にマグラン、風化物を含む
③ 2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質 シルト	木の根を受ける風化層
④ 2.5Y3/2	暗灰褐色	砂質 シルト	含有しない3層 風化物、炭化物を含む
⑤ 2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質 シルト	径5~20mmの小粒と風化物を含む
⑥ 2.5Y3/1	暗灰褐色	粘土 シルト	風化、マグゼを含む しまりあり
⑦ 2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質 シルト	風化物、マグゼ、糊7層(径2~20mmの小粒含む)
⑧ 2.5Y3/2	暗灰褐色	砂質 シルト	風化物、マグゼ、糊7層(径2~20mmの小粒含む)

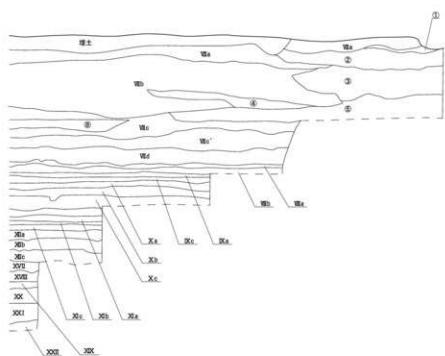
第495図 3A区下層調査区北区北壁土層図

SP  
10.00m

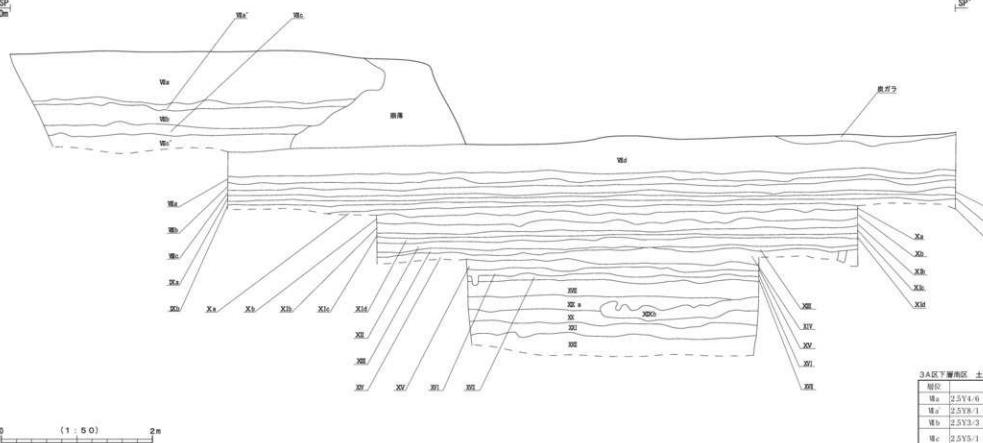


0 (1 : 50) 20

SP  
10.00m

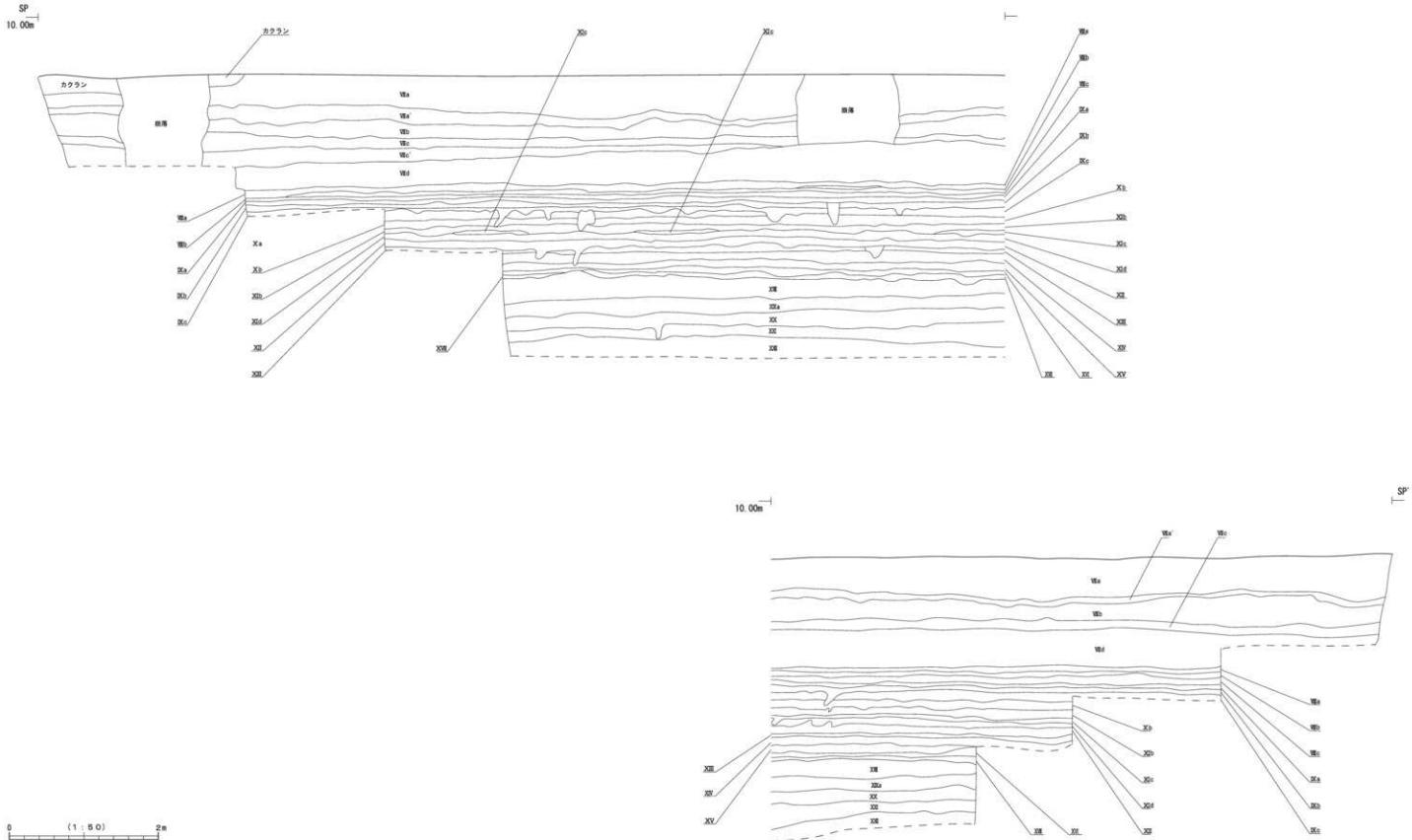


第496図 3A区下層調査区北区西壁土層図

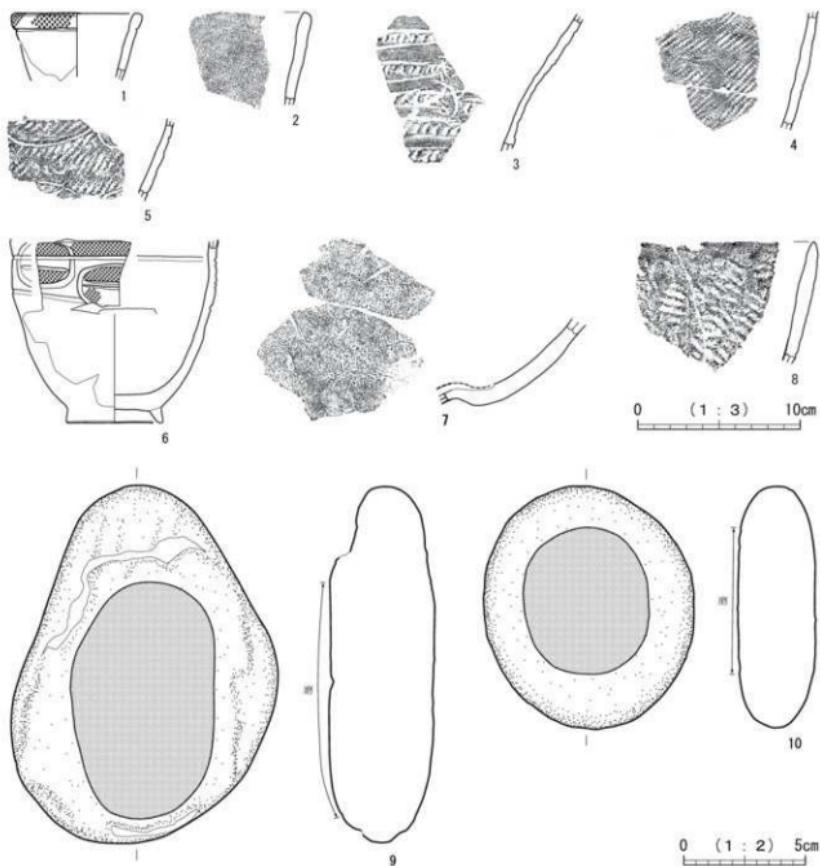
SD  
10.00mSP  
10.00m

層名	土色	土性	備考
Ma	2.5Y4/0 4号ツバ根色	砂 酸化鉄鉱、マンガン斑	
Ma	2.5Y8/1 W白色	砂 多量の酸化鉄、マンガンを斑状に含む。粒子やや粗い。	
Mb	2.5Y3/3 姫4号ツバ根色	砂質 Mn斑に比べ酸化鉄・マンガン濃度	
Md	2.5Y5/1 黄灰色	砂質 小粒の鉄斑2~3cm程度の貧素鉄土を主基岩に含む	
Vd	2.5Y5/2 雨灰灰色	粗粒 細かい鉄・粘土の互層。酸化鉄、鉄化合物を含む。	
Vd	2.5Y5/2 水灰色	粗粒 酸化鉄、鉄化合物を含む	
Ma	5GY7/1 明ホリーブ灰褐色	粘土質 少量の鉄斑および酸化物を含む。粘性やや強。(しまりあり)	
Mb	10BG5/1 有灰色	砂質 微量の鉄斑および酸化物を含む。しまりあり	
Md	5GY7/1 明ホリーブ灰褐色	粘土質 Mn斑に弱化	
Ka	2/1 黒色	粘土質 微細な鉄分、灰化物、少量の植物組織含む	
It's	N/3 姫灰色	粘土質 少量の鉄分、微量の灰化物、白色粘土、植物組織含む	
It'e	10GY2/1 緑黑色	粘土質 無機鉄の鉄分、微量の灰化物、少量の植物組織を含む。粘性しまり性に強	
Xa	N/3 姫灰色	粘土質 少量の鉄分、微量の灰化物を含む	
Xb	N/5 黑色	粘土質 多量の鉄分、少量の灰化物を含む	
Xb	10BG5/1 青灰色	粘土質 多量の鉄分、微量の灰化物を含む	
Xe	10KG5/1 青灰色	粘土質 少量の鉄分、灰化物を粒状に含む。粘性やや弱。(しまりあり)	
Xf	5Y2/1 黒色	粘土質 少量の鉄分、少量の灰化物、粘性やや弱。(しまりあり)	
II	10BG6/1 青灰色	粘土質 少量の鉄分、灰化物を含む	
W	10G6/1 緑黑色	粘土 多量の鉄分、少量の灰化物、径1~2mmの色柱子を含む。粘性しまり性に強	
W	5H6/1 青灰色	粘土 多量の鉄分、微量の灰化物を含む	
W	10KG5/1 青灰色	粘土 多量の鉄分、微量の灰化物を含む	
2.5GY5/1 オリーブ灰褐色	粘土 少量の鉄分、灰化物を含む	(しまりあり)	
III	10BG4/1 姫灰色	粘土質 少量の鉄分、灰化物を含む	
It'a	2.5GY4/1 姫4号ツバ根色	粘土 多量の鉄分、灰化物を含む	
It'd	10KG7/1 明ホリーブ灰褐色	粘土質 Mn斑に弱化物を含む	
It'g	5GY2/1 オリーブ灰褐色	粘土 少量の鉄分、灰化物を含む。多量の植物組織を含む	
W	5GY7/1 オリーブ灰褐色	粘土質 少量の鉄分、灰化物を含む。Mn斑(100~200mm)。明灰褐色(10G7/1)。少量の植物組織を含む	
XX	2.5GY4/1 姫4号ツバ根色	粘 クソツ 淡水み	

第497図 3A区下層調査区南区北壁土層図



第498図 3A区下層調査区南区西壁土層図



第499図 3 A区下層調査区出土遺物

団版 番号	登録 番号	地生 調査区	層位	種別	器種	部位	外周調整・文様	内面調整・文様	備考	写真 回数
1	A-008	南区	XIIa層	陶文土器	壺	口縁	L1: L號文様位回転→沈縦 →指: L字印	L字印	昭0.1376.15	167
2	A-002	北区	XIIa層	陶文土器	深鉢	口縁	沈縦	L字印	昭0.1376.16	167
3	A-005	南区	XIIa層	陶文土器	深鉢	体	脚旁: 沈縦→L字印(裏)	L字印	内面供化物付、取0.1376.6	167
4	A-002	南区	XIIa層	陶文土器	深鉢	体	DC: 織文様位回転	L字印	昭0.1376.13	167
5	A-004	北区	XIIa層	陶文土器	深鉢	体	沈縦→L號文→沈縦	L字印		167
6	A-006	北区	XIIa層	陶文土器	台付鉢	体上半	体上半: LR織文様位回転→沈縦→L字印 →高台	L字印		167
7	A-007	北区	XIIa層	陶文土器	口日	底	L字印	内面酒器調者	昭0.1376.17	167
8	A-001	南区	XIIa層	陶文土器	深鉢	口縁	L號文様位回転	L字印	昭0.1376.31	167

団版 番号	登録 番号	出土地点	層位	取上 番号	器種	分類	長×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
9	Ke-178	3A下層南	X層層	磨石器	磨石	IB	14.6×10.9×4.5	992.46	安山岩 完形品、指凹槽、磨1面(凸)		167
10	Ke-179	3A下層北	不明	磨石器	磨石	IA	9.9×8.6×3.0	339.67	安山岩 完形品、円錐、磨1面(平)		167

## 第6章 自然科学分析

### 1. 仙台市長町副都心地区画整理事業関係遺跡発掘調査に伴う自然科学分析 (火山灰分析)

株式会社古環境研究所

#### (1) はじめに

宮城県中部の仙台市域とその周辺には、蔵王、愛鳥、肘折、十和田など東北地方の火山のほか、浅間、御岳、始良、阿蘇、洞爺など遠方の火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、テフラ層が認められた長町駅東遺跡においても、発掘調査担当者により柱状に採取された土層試料から分析者により観察・採取されたテフラ試料を対象に、テフラ粒子の屈折率測定と、EPMAによる火山ガラスの主成分化学組成分析を行って、指標テフラとの同定を行うことになった。測定分析の対象となった試料は、10トレンチの9層（試料10-9層、層厚0.7cm）、11トレンチの5層（試料11-5層、層厚2cm）、35トレンチの10層（試料35-10層、層厚2cm）の3試料である。

#### (2) 屈折率測定

##### ①測定試料と測定方法

3試料を対象に、日本列島とその周辺のテフラ・カタログ（町田・新井、1992）の作成に利用された温度一定型屈折率測定法（新井、1972、1993）により、テフラ粒子の屈折率測定を行った。

##### ②測定結果

屈折率測定の結果を表1に示す。10-9層には、軽石型の火山ガラス（最大径0.3mm）が多く含まれている。色調は、白色や無色透明である。火山ガラスの屈折率（n）は、1.501-1.508（modal range: 1.502-1.507）である。重鉱物としては、斜方輝石、単斜輝石、角閃石、黒雲母がごく少量含まれている。斜方輝石の屈折率（y）は、1.706-1.708である。

11-5層には、軽石型の火山ガラス（最大径0.3mm）が多く含まれている。色調は、白色や無色透明である。火山ガラスの屈折率（n）は、1.502-1.507である。重鉱物としては、斜方輝石、単斜輝石、角閃石ごく少量含まれている。斜方輝石の屈折率（y）は、1.707±である。

35-10層には、軽石型の火山ガラス（最大径0.4mm）が多く含まれている。色調は、白色や無色透明である。火山ガラスの屈折率（n）は、1.502-1.507である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石がごく少量含まれている。斜方輝石の屈折率（y）は、1.706-1.708である。

#### (3) 火山ガラスの主成分化学組成分析

##### ①分析試料と分析方法

3試料を対象として、指標テフラとの同定精度を向上させるために、試料に含まれる火山ガラスについて、波長分散型エレクトロニクループX線マイクロアナライザ（以下、WDS型EPMAとする）により主成分化学組成分析を行った。分析に使用した分析機器は、山形大学理学部の日本電子JXA-8600MWDS型EPMAである。加速電圧15kV、照射電流0.01μA、ビーム径5μmの条件で行った。補正法はOxide ZAF法を用いた。

## ②分析結果

火山ガラスの主成分化学組成分析結果を表2に示す。さらにこの表には、915年に十和田火山から噴出したと推定されている十和田a火山灰（To-a, 大池, 1972, 町田ほか, 1981, 町田・新井, 1992）と、約5,500年前<sup>\*1</sup>に十和田火山から噴出した十和田中撫テフラ（To-Cu, 大池ほか, 1966, 早川, 1983a, 福田, 1986, 町田・新井, 1992）に含まれる火山ガラスの主成分化学組成分析結果も合わせて示した。

10-9層には、主成分化学組成上、3タイプの火山ガラスが含まれているように思われる。また、11-5層にも2タイプの火山ガラスが含まれているようである。35-10層には、さほど主成分化学組成に違いが認められず、非常に純度が高い試料のように思われる。

## (4) 考察

火山ガラスの形態や色調さらに斜方輝石の屈折率などをみると、検出されたテフラ粒子の多くが十和田系のテフラに由来する可能性が考えられる。しかしながら、火山ガラスの屈折率は、約1.2～1.3万年前<sup>\*1</sup>に十和田火山から噴出した十和田八戸テフラ（To-HP, 早川, 1983b, Hayakawa, 1985）によく似ているものの、テフラ・カタログ（町田・新井, 1992）に記載されている完新世の十和田系テフラのそれと完全には一致しない。

そこで、火山ガラスの主成分化学組成が火山ガラスの主成分化学組成を見ると、10-9層および11-5層に含まれるTiO<sub>2</sub>がもっとも多く含まれてタイプの火山ガラス、さらに35-10層に多く含まれている火山ガラスについては、TiO<sub>2</sub>、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、FeO、CaO、Na<sub>2</sub>O、K<sub>2</sub>Oなどの含有量の点において、To-aに含まれる火山ガラスと主成分化学組成がよく似ていることがわかる。これらのことを総合すると、3試料に含まれる火山ガラスの多くについては、To-aに由来する可能性が高いと考えられよう。3試料の中では、やはり35-10層の純度が高いように思われる。以上のことから、長町東遺跡において認められた火山灰層が、一次堆積のテフラ層であれば、To-aである可能性が高い。

なお、To-aに含まれる火山ガラスのテフラ・カタログに記載されている屈折率と、今回得られたそれとの違いについては、岩手県南部や宮城県域などで検出されるTo-aに共通した傾向である。これについては、テフラ・カタログに記載された標準試料の採取地點が給源火山に近いために、火山ガラスが分厚く、またTo-aの噴出年代が新しくために十分水和が進んでいないこと、遠隔地ではその逆で水和が進んで屈折率に違いが生じていることに起因すると考えられる（新井房夫群馬大学名誉教授談話）。またTo-aのユニット間で、屈折率が異なるとの説もある（町田ほか, 1981）。

したがって、より高精度の同定のためには、今回のように、火山ガラスや斜方輝石などの高精度の屈折率測定に合わせて、信頼度の高いEPMA（X線プローブマイクロアナライザー）による火山ガラスの主成分化学組成分析が行われると良い。

## (5) まとめ

仙台市長町駅東遺跡において、採取されたテフラ試料を対象として、屈折率測定とEPMAによる火山ガラスの主成分化学組成分析を行った。その結果、本遺跡で認められたテフラ層については、十和田a火山灰（To-a, 915年）の可能性が高いことが明らかになった。

山形大学教育学部の八木浩司助教授には、火山ガラスの主成分化学組成に関する未公表のデータを提供いただいた。ここに記して御礼申し上げます。

(\*1) 放射性炭素(14C)年代

## 引用・参考文献

- 新井房夫(1972)斜方輝石・角閃石によるテフラの同定—テフロクロノロジーの基礎的研究。第四紀研究、11, p.254-269。
- 新井房夫(1993)温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2—研究対象別分析法」, p.138-149。
- 福田友之(1986)考古学からみた「中撫軽石」の降下年代。弘前大学考古学研究、3, p.4-15。
- 早川由紀夫(1983a)十和田火山中揮テフラ層の分布、粒度組成、年代。火山、第2集、28, p.263-273。
- 早川由紀夫(1983b)火山灰石として降下堆積した十和田火山八戸火山灰。火山、28, p.25-40。
- Hayakawa, Y. (1985) Pyroclastic geology of Towada volcano. Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo. 60, p.507-592.
- 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広(1981)日本海を渡ってきたテフラ。科学、51, p.562-569。
- 大池昭二(1972)十和田火山東麓における完新世テフラの編年。第四紀研究、11, p.232-233。

表1 組成率測定結果

トレシチ試料	火山ガラス				重結晶	
	量	色調	形態	組成率(%)	組合せ	組成率
10.9層	+++	whit	pm	1.501-1.508 (1.502-1.507)	opx,cpx,hsbt	opxt/(1.706-1.708)
11.5層	+++	whit	pm	1.502-1.507	opx,cpx,hk	opxt/(1.707±)
35.10層	+++	whit	pm	1.502-1.507	opx,cpx,pd	opxt/(1.706-1.708)

+++之に多い、++多い、++中程度、+少ない、認められない、wh白色、cl無色透明、pm軽石質。  
opx斜方輝石、cpx單斜輝石、hsb黑雲母、重結晶の場合は、量が少ないことを示す。組成率の測定は、温度一定型組成率測定法(新井J492.1993)による組成率の0はmodul rangeを示す。

表2 火山ガラスの主成分化学組成分析結果

トレシチ試料	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	Total	n
10.9層	78.55	0.10	12.06	1.21	0.13	0.06	0.78	3.62	3.49	0.00	100.00	5
	0.56	0.02	0.19	0.29	0.07	0.05	0.26	0.56	0.36	0.00		
	79.36	0.16	11.90	1.28	0.06	0.15	1.04	3.22	2.80	0.04	100.01	3
	77.73	0.27	12.49	1.81	0.05	0.33	2.00	3.78	1.32	0.01	99.99	4
11.5層	77.51	0.27	12.57	1.71	0.12	0.42	2.05	3.80	1.41	0.04	100.00	10
	0.23	0.04	0.10	0.35	0.05	0.04	0.07	0.16	0.09	0.04		
	78.93	0.11	12.08	0.92	0.00	0.06	0.55	4.00	3.35	0.00	100.00	1
35.10層	77.58	0.34	12.59	1.78	0.11	0.42	2.03	3.71	1.39	0.05	100.00	10
	0.60	0.05	0.09	0.10	0.08	0.03	0.08	0.58	0.08	0.04		
To-a'1	77.87	0.27	12.81	1.75	0.10	0.42	2.00	3.29	1.34	0.06	100.01	-
To-Cu'2	75.08	0.44	13.28	2.46	0.08	0.63	2.63	4.04	1.29	0.09	100.02	-

山形大学理学部のWDS型EPMAによるn分析ポイント数、上段が平均値、下段は標準偏差。\*ハニカム山形  
大学教育学部助教授の本公表資料。

## 2.長町駅東遺跡出土鉄器の科学組成に基づく分類

東北大大学院国際文化研究科 関 博光

### (1) はじめに

長町駅東遺跡は、平成13年以降、継続的に実施されている発掘調査によって、6世紀後半から8世紀後半に比定される堅穴住居跡が300軒以上見つかった集落跡である。その東側には、7世紀中葉から営まれた官衙（あるいは城櫓）と見なされている郡山遺跡が隣接する。長町駅東遺跡の集落は、郡山遺跡の官衙施設の造営に先行して営まれ、その後は官衙と消長を同じくすることが明らかにされている。立地、存続時期を考慮すると、郡山遺跡官衙施設の造営や官衙の維持などに関係する人たちの集落であった可能性が高い。

集落の維持には、生業を営むための鎌・鋤・鎌などの農耕具、刈取り具が不可欠である。また、新しい住居や官衙施設の建設、土地の開墾には、工具や大工道具、建築資材の入手が欠かせない。当該時期、これらの道具は、ほとんどが鉄を素材としており、製品鉄器あるいは、それらを製作するための原料鉄を安定的に入手することは、集落や官衙の運営において重要な課題であったことは間違いない。当該時期の鉄器獲得の実態を明らかにするために、長町駅東遺跡から出土した鉄器の金属考古学的調査を実施し、科学組成に基づく鉄器の分類を行った。その結果、複数の供給地から鉄器を獲得しており、時代の推移とともに供給地が変化した可能性の高いことが明らかになった。以下に得られた成果について述べる。

### (2) 長町駅東遺跡の概要

長町駅東遺跡は仙台市太白区長町に立地する。これまでの調査によって、6世紀後半から8世紀後半に比定される堅穴住居跡が300軒以上検出されている。土器の形式編年ならびに遺構の切り合い関係から、住居跡群には5時期（1期：6世紀後半～7世紀前半、2期：7世紀前半～7世紀中葉、3期：7世紀後半代、4期：7世紀末～8世紀前半、5期：8世紀後半）の変遷が報告されている。また、区画溝、材木列の一部が見つかっており、集落が区画されていた可能性のあることが報告されている。

前述のとおり、長町駅東遺跡は、7世紀中葉～8世紀前半に営まれた郡山遺跡官衙の西側に位置している。郡山遺跡Ⅰ期官衙期と並行するのが長町駅東遺跡Ⅲ期、Ⅱ期官衙と並行するのがⅣ期にあたる。このことから、郡山遺跡官衙よりも先行して営まれた集落であり、その後官衙造営に関係する人たちの居住地として発展し、造営後も官衙の維持などに関係する人たちの集落であった可能性が高い。長町駅東遺跡にあった集落が、隣接する官衙と深く関係を持ちながら本格的に発展し、その後終焉する時期は、堅穴住居跡数が増減する状況から、7世紀前半から8世紀前半と考えられている。

### (3) 調査資料の概要

調査資料9点の資料名、出土状況、推定年代を表1にまとめ。No.4は、X線透過観察の結果、2本の棒状鉄器（註1）が錯着したものと判断できたので、両者（それぞれNo.4①棒状、No.4②棒状と呼ぶ）から分析用試料を抽出することとした。郡山遺跡Ⅰ期官衙以前（7世紀前半）に比定される鉄器が1点（No.1刀子）、Ⅱ期官衙期（7世紀末葉～8世紀前半）のものが2点（No.2-3刀子）、Ⅲ期官衙以後（8世紀中葉）のものが3点（No.4①・②棒状、No.5鎌）である。また、No.6鎌、No.7釘、No.8刀子は、出土遺構の年代は出土土器の形式編年によって推定されているものの、堆積土から出土した鉄器であるため、厳密に鉄器廃棄時期を特定することが困難とされた（註2）。以下では、参考資料として扱うこととする。

#### (4) 分析方法

##### ①分析用試料片の摘出

X線透過写真に基づき、他に比べて鏽化が進んでおらず、残存状況が良好と判断される部分を選んだ。外観形状を損ねることのないよう細心の注意を払いながら、ダイヤモンドカッターを装着したハンドドリル（以下ハンドドリル）で、V字状の切り込みを入れ、0.1-0.2 gの試料片を摘出した。得られた試料片をさらに二分し、大きい方を組織観察に、小さい方を化学成分分析に供した。試料摘出後、その部位はエボキシ樹脂による充填、岩絵の具による古色を施し修復した。

##### ②試料の調整と分析方法

組織観察用試料片はエボキシ樹脂で包埋し、エメリーペーパー、ダイヤモンドペーストを使って研磨した。得られた検鏡面を金属顕微鏡で観察した。地金の製造方法を推定する上で重要と判断された非金属介在物（鋼を製造する過程で分離・除去することができずに残った異物）については、エレクトロン・プローブ・マイクロアナライザ（EPMA）によりその組成を調べた。表1のうち、No.3刀子、No.5鎌を除く、7資料から摘出した試料は、そのほとんどがメタルで構成されていたので、ナイタール（硝酸2.5 mlとエタノール97.5 mlの混合溶液）によるエッチングを施し、炭素量を推定した。

化学成分分析用試料片については、試料片表面に付着する土砂、鏽をハンドドリルで除去した後、エチアルコールならびにアセトンで超音波洗浄し十分に乾かした。試料片をテフロン分解容器に直接秤量し、塩酸、硝酸、フッ化水素酸を加え、マイクロウェーブ分解装置で分解した。さらにホウ酸を加え蒸留水を加え定溶とした。溶液中に含有される全鉄（T.Fe）、銅（Cu）、ニッケル（Ni）、コバルト（Co）、マンガン（Mn）、りん（P）、チタン（Ti）、けい素（Si）、カルシウム（Ca）、アルミニウム（Al）、マグネシウム（Mg）、バナジウム（V）、ヒ素（As）、モリブデン（Mo）、クロム（Cr）、硫黄（S）の16成分を高周波誘導結合プラズマ発光分光分析法（ICP-AES法）で分析した。

#### (5) 分析結果

##### ①化学組成

9試料の化学成分分析結果を表2に示す。No.1・2刀子、No.6鎌、およびNo.7釘のT.Feは97 mass%以上で、ほぼメタルからなる試料が、No.4①-4②棒状、No.8刀子のT.Feは92-96 mass%以上で、メタルを主体とし、わずかに鏽が混在する試料が分析されている。これら7試料からは、0.012 mass%以上のCu、0.006 mass%以上のNi、および0.031 mass%以上のCoが、また、No.2刀子には、他の資料に比べ高レベルの、0.17 mass%のP、0.05 mass%のAsが検出されている。ほぼメタルもしくはメタルを主体とし、わずかに鏽が混在した試料であり、埋藏環境下からの富化の可能性はまずない。上記7資料に銅あるいは銅合金をはじめとする鉄以外の金属を素材とする資料の付着が認められないことをふまえるとCu、Ni、およびCoの3成分、およびNo.2刀子のP、Asは、それぞれの鉄器を製作する際に使用された地金に含有されていたと見なすことができる。

No.3刀子、No.5鎌のT.Feは47-59 mass%である。鏽試料のため、埋藏環境下からの富化の可能性について吟味する必要がある（佐々木、伊藤1987）。資料内部に加え表層部からも試料を摘出し、化学成分分析を実施した。表層部のT.Feは30-37 mass%で、内部から摘出した試料に比べ低レベルである。また、Siは13-18 mass%、Alは3-4.6 mass%で、表層部は内部に比べ鏽化が進んでいて、土砂の混入量も多い。No.3刀子の表層部から摘出した試料のCu、Ni、およびCoは、内部から摘出した試料中のCu、Ni、およびCo含有量より低く、埋藏環境からの富化の可能性は乏しいといえる。分析された3成分のほとんどは元の地金に含まれていたと判断できる。一方、No.5鎌の表層部と内部のCuはいずれも0.007 mass%で同レベルであった。後述するとおり、組織観察の結果、局所的にCu粒の残存が確認されており、相当量の銅が元の地金に含まれていたことは確実である。

## ②組織観察結果

No.1刀子から摘出した試料はそのほとんどがメタルによって構成されている。マクロエッティング組織は、ほとんど腐食されず、金属光沢を呈する領域と、黒く腐食された領域とからなる（第500図）。バーライト[フェライト（ $a$  Fe）とセメンタイト（ $Fe_3C$ ）との共析組織]の占める面積割合から、前者は0.2-0.3 mass% Cの鋼、後者は0.5-0.6 mass% Cの鋼と推定された（佐藤編1968）。ほぼ同様の組織は、No.8刀子にも認められ、0.1 mass% C程度と0.7 mass% C以上の鋼が配されていた（第500-502図）。No.1・8刀子の製作時に、炭素量の異なる鋼を合わせた可能性が考えられる。

No.4②棒状、No.6鎌にも、それぞれ0.1 mass% C程度と0.2-0.3 mass%、0.1 mass% C程度と0.3-0.4 mass%の炭素量の異なる領域が観察された。異なる炭素量の鋼を合わせて製作された可能性があるが、広領域の組織観察を行った上で判断したい。No.2刀子、No.4①棒状、No.7釘は、試料片のほとんどが腐食されなかった。いずれの試料も0.1 mass% C程度の鋼と見なすことができる。

No.1刀子には、灰色を呈する微細粒子（IO）と黒色を呈するガラス化領域（GI）によって構成される非金属介在物が分布する（第500図）。EPMAによる分析によって、IOは $Fe-O$ 系化合物、GIは $Fe-Mg-K-Al-Si-O$ 系のガラス質けい酸塩であることがわかった。No.2刀子からも、 $Fe-O$ 系化合物（IO）と $Fe-P-Ca-Al-Si-O$ 系化合物（XF）、それらを取り囲む微細な粒子が混在するマトリックス（Ma）からなる非金属介在物が観察された（第500図）。XF、MaにはPが含有されていた。既述のとおりNo.2刀子からは0.17 mass%のPが検出されている。分析されたPのほとんどは、非金属介在物に起因すると見なされる。

No.4①・②棒状、No.6鎌、No.7釘およびNo.8刀子からは、 $Fe-O$ 系化合物（IO）、やや暗灰色を呈する $Fe-Ti-Al-Mg-O$ 系化合物（XT；以下鉄チタン酸化物という）、暗灰色の $Fe-Mg-Si-O$ 系化合物（XF）とそれらを取り囲む $Fe-Mg-Al-Si-O$ 系のマトリックス（Ma）から構成される非金属介在物が観察された（第501図・表3）。なお、No.4①・②棒状、No.7釘およびNo.8刀子の非金属介在物XFとMaにはPが含まれていた（第501・502図）。表2に示すとおり、上記4資料から0.03-0.25 mass%のPが分析されたが、そのほとんどは非金属介在物に起因するものと判断できる。

図4cに示すように、No.5鎌のマクロ組織には、局所的に微細な金属粒（Cu粒）が観察された。EPMAによる分析によって、それらは銅粒であることが分かった。No.3刀子、No.5鎌から摘出した試料には、鍛造前の地金の炭素量を推定できる組織を、No.3刀子には非金属介在物を見いだすことができなかった（第503・504図）。

## （6）考察

### ①鉄器の製作に使用された地金の分類

摘出した試料の組織観察によって、調査した7資料の製作には亜共析鋼（炭素量0.8 mass%未満の鋼）が使用されていることが明らかとなった。No.1刀子およびNo.8刀子には炭素量の異なる鋼が配されていた可能性がある。この点については、当該資料から広領域の調査用試料を摘出した後、組織観察を行い確かめる必要がある。No.3鎌、No.5鎌については炭素量の異なる鋼の使用を指摘できる組織を見いだすことはできなかった。

表3から明らかなように、7資料から摘出された試料には非金属介在物が観察された。No.1・2刀子を除く5資料に鉄チタン酸化物の残存が認められた。原料から鋼を製造する過程において、チタン化合物を含む物質が使用された、または生産設備を構築する素材にチタン化合物を含む物質が使用されたことを示している。一方、7世紀前半のNo.1刀子、7世紀末葉～8世紀初頭のNo.2刀子には鉄チタン酸化物の残存が見られない。鉄チタン酸化物の有無という点で非金属介在物組成に差異がある。8世紀中葉のNo.4①・②棒状、No.5鎌に鉄チタン酸化物が確認されたことをふまえると、8世紀初頭から8世紀中葉にかけて、時代が推移とともに鋼製造方法が変化した可能性が考えられる。この点については同時代に比定される官衙や城柵、および一般集落から見いだされた鐵関連生産

遺構、および出土遺物の金属考古学的調査結果の蓄積を図る中で明らかにしたい。

No.5錠から摘出した試料には微細な銅粒が局所的に残存していた。その成因については銅製造に使用された原料における銅鉱物の混在、銅製造過程での銅鉱物または銅合金資源の添加、あるいは当該物質の偶発的混入が考えられる。この点については類例の検出を図りつつ、鉄関連生産遺構の調査結果と対比しながら解明を進めたい。

## ②微量元素の含有量比に基づく鉄器の分類

表2に示した元素の内、銅(Cu)、ニッケル(Ni)、およびコバルト(Co)の三成分は鉄よりも錯くい金属であるため、鉄中に取り込まれた後は、そのほとんどは鉄中にとどまると推定される。従って、合金添加が行われていなかったとすると、その組成比は銅製造法の如何に関わらず、製鉄原料の組成比に近似すると推定される。この方法については、いくつかの鉄器の金属考古学的調査に用いられ、これまでのところ、鉄器の形態学的研究結果とほぼ整合する結果が導き出されている(赤沼2004)(赤沼、関2001)。

表2に示す各試料の化学成分分析結果から、それぞれ  $(\text{mass}\% \text{Co}) / (\text{mass}\% \text{Ni})$  と  $(\text{mass}\% \text{Cu}) / (\text{mass}\% \text{Ni})$ 、 $(\text{mass}\% \text{Ni}) / (\text{mass}\% \text{Co})$  と  $(\text{mass}\% \text{Cu}) / (\text{mass}\% \text{Co})$  を求め、それらの値をプロットしたものが第504図である。なお、分析精度を考慮して、図には Ni, Co が 0.01 mass%以上含有されるもののみをプロットした。また、図では7世紀前半に比定される鉄器を四角形、7世紀後半を丸形、7世紀末葉～8世紀初頭を三角形で、8世紀中葉を逆三角形で示し、非金属介在物中に鉄チタン酸化物が残存するものを白色、鉄チタン酸化物の残存が認められないものを黒色、非金属介在物が見いだされなかつたものを灰色で表した。

第504図aによると、7世紀前半のNo.1刀子が図の中央、7世紀末葉～8世紀前半のNo.2・3刀子は図の上方、8世紀中葉のNo.4①・②棒状は図の中央下にプロットされた。近い領域にプロットされた鉄器はほぼ同じ組成の銅から製作されていると見なすことができ、No.4①・②棒状はほぼ同じ組成の銅から製作されている可能性が高い。他の3点はそれぞれ離れた位置にあり、特に、No.2刀子からは他の鉄器よりも高レベルにある 0.161 mass% の Cu, 0.05 mass% の As が検出されており、異なる組成比の銅がそれらの鉄器の製作に使用されている。第504図においても、No.4①・②棒状は近い位置に、他の鉄器は離れた位置に分布している。また、(6)①で述べたとおり、No.1・2刀子とNo.4①・②棒状には、鉄チタン酸化物の有無という点で、非金属介在物組成に差異が見られた。8世紀前半以前と8世紀中葉以降とで、長町駅東遺跡にあった集落に鉄器を供給する地域が変化した可能性が考えられる。今後、ほぼ同時期の集落跡から出土した鉄器の調査例を増やしていく中で、当該時期の鉄器供給の様相が明らかになってくるものと思われる。

なお、No.6-8は、既述の通り鉄器の廃絶年代が特定できない資料であるが、No.4①・②棒状と近い位置にプロットされた。3資料が8世紀中葉に廃絶された可能性、または7世紀後半からこの組成比の銅が長町駅東遺跡から見つかった集落に供給されていた可能性、のいずれかが考えられる。この点については、当該時期に比定される鉄器の調査例が蓄積されるのを待って判断したい。

## (7) まとめ

仙台市長町駅東遺跡から出土した鉄器9点の金属考古学的調査を行った結果、時代の推移とともに鉄器供給地域が変化していた可能性の高いことがわかった。今後、長町駅東遺跡周辺に立地する、ほぼ同時期の官衙や城柵および集落において同様の調査を行うことによって、律令国家成立期の陸奥国集落における鉄器供給の実態が見えてくるものと思われる。

## 謝 辞

本調査を実施するにあたり、貴重な資料を提供していただいた仙台市教育委員会、ならびに調査資料の考古学的

情報についてご教示賜った仙台市教育委員会工藤信一郎氏にお礼申し上げる。また、自然科学的調査に関して、岩手県立博物館、赤沼英男氏にご協力、ご指導賜った。記してお礼申し上げる。

註1：No.4①・②棒状とも、闇(両闇)と思われる部位が認められる(レントゲン左側)。長頭鎌と考えることもできるが、鎌の部位でいう、鎌身部と頭部が湾曲しており、鎌身部の形状も不明瞭である。何らかの工具の可能性も考えられる。類例の蓄積を図り、器種を検討したい。

註2：発掘調査を担当された工藤信一郎氏からご教示いただいた。

#### 引用・参考文献

- 赤沼英男(2004)「出土遺物の組成からみたオホーツク文化における鉄器使用の変遷」「アイヌ文化の成立」pp.203-230、  
北海道出版企画センター
- 赤沼英男、関博充(2001)「金属考古学的調査結果からみた丹後平古墳群出土刀劍の分類」「八戸市博物館研究紀要」  
第16号、pp.14-23
- 佐々木稔、伊藤薫(1987)「川合遺跡出土の鉄斧・鉄鎌ならびに鋸先の金属学的調査」「静岡県埋蔵文化財調査研究所  
研究紀要」Ⅱ、静岡県埋蔵文化財調査研究所、pp.63-80
- 佐藤知雄編(1968)「鉄鋼の顯微鏡写真と解説」丸善株式会社
- 仙台市教育委員会(2005)仙台市文化財調査報告書第283集『郡山遺跡発掘調査報告書-総括編-』
- 仙台市教育委員会(2007)仙台市文化財調査報告書第315集『長町駅東遺跡第4次調査』
- 仙台市教育委員会(2008)仙台市文化財調査報告書第324集『長町駅東遺跡第1・2次調査』

第1章 算法设计与分析

No.	音科名	通称名	部位	鉴别特征	登场年份
1	FF	S15	手腕	7指屈伸手— 8指屈伸手	N.G3
2	FF	S246	腕尺	7指屈伸手— 8指屈伸手	N.G60
3	FF	S247A	腕桡	7指屈伸手— 8指屈伸手	N.G62
4 (1)	伸尺	S253A	十指2	8指屈伸手	N.G9
4 (2)	伸尺	S14	手腕	7指屈伸手— 8指屈伸手	N.G18
5	伸	S146	腕尺	7指屈伸手— 8指屈伸手	N.G66
6	伸	S222	腕上	7指屈伸手— 8指屈伸手	N.G28
7	封	S233	手腕	8指屈伸手	N.G30
8	封	S301	手腕	8指屈伸手	N.G30

附录2 分析模型

2

卷 2 分析結果

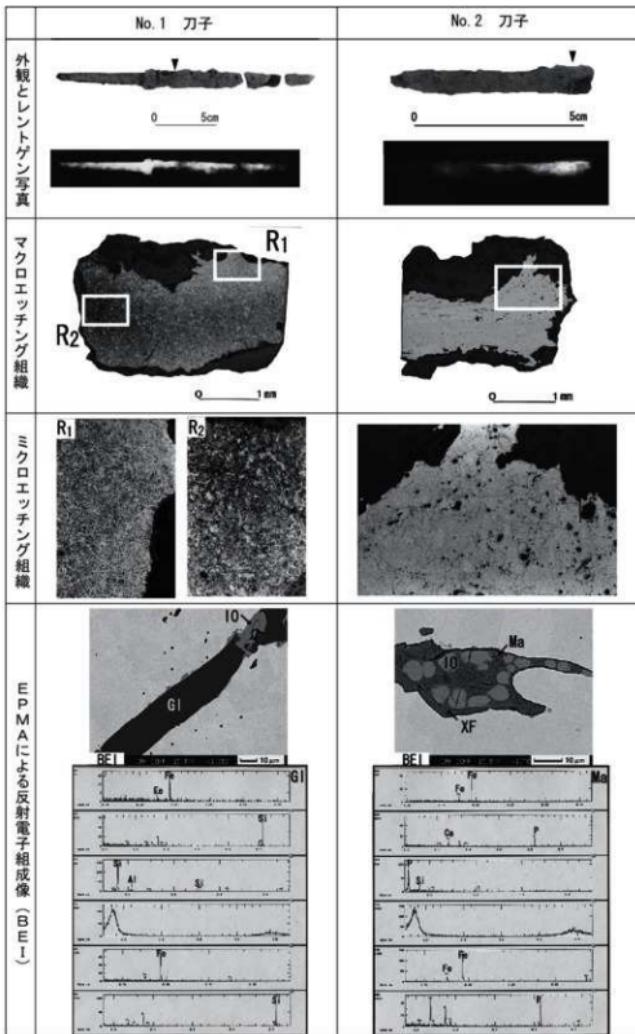
No.	Se	材料名	七元素組成(atomic%)										Cr	S	$\Sigma Cr/Ni$		$Cu/Ni$		$Ni/Cu$		n.m.i.		
			Ti	Fe	Cu	Ni	Co	Mn	P	Tl	Si	Ca			0.001	<0.01	0.001	0.001	0.001	0.001			
1	PE	PE	98.24	0.032	0.016	0.031	<0.001	<0.01	0.001	0.015	0.003	<0.001	<0.01	0.001	0.001	0.001	1.94	2.00	0.52	1.03	$p_{Ni}(5.0 \pm 0.0)$		
2	PE	PE	98.17	0.161	0.016	0.061	0.001	0.17	0.008	0.021	0.018	0.004	0.001	0.005	0.001	0.001	0.002	8.94	0.30	3.39	2.64	$p_{Ni}(4.0 \pm 0.0)$	
3	PE	PE	98.09	0.039	0.013	0.001	0.002	0.29	0.009	0.009	0.055	0.007	0.020	0.001	0.002	0.001	0.001	0.007	1.25	2.75	0.90	2.20	no
4	PE	PE	98.00	0.009	0.003	0.001	0.002	0.29	0.131	0.040	0.030	0.009	0.001	0.003	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	no	
5	PE	PE	97.75	0.009	0.014	0.004	0.004	0.25	0.140	0.033	0.036	0.024	0.001	0.002	0.004	<0.01	0.14	1.26	0.32	0.43	0.07	$p_{Ni}(XTPM)$	
6	PE	PE	97.80	0.012	0.015	0.005	0.002	0.20	0.086	0.011	0.045	0.001	0.001	0.002	0.008	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	$p_{Ni}(XTPM)$	
7	PE	PE	97.86	0.007	0.007	0.005	0.002	0.181	0.012	0.001	0.020	0.001	0.001	0.002	0.011	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	$p_{Ni}(2.0 \pm 0.3)$	
8	PE	PE	98.30	0.007	0.001	0.001	0.001	0.43	0.066	0.232	1.30	0.020	0.001	0.002	0.011	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	$p_{Ni}(4.0 \pm 0.1)$	
9	PE	PE	98.25	0.027	0.049	0.129	0.004	0.06	0.086	0.015	0.055	0.014	0.001	0.001	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	$p_{Ni}(XTPM)$	
10	PE	PE	97.60	0.043	0.043	0.117	<0.001	0.007	0.011	<0.001	0.001	0.001	0.001	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	$p_{Ni}(XTPM)$	
11	PE	PE	98.16	0.023	0.025	0.006	0.001	0.03	0.23	0.011	0.040	0.013	0.001	0.012	0.001	<0.01	0.001	<0.01	2.72	1.00	0.27	0.32	$p_{Ni}(XTPM)$

No.は表11に対応。S<sub>1</sub>はサブアルゴン酸由来、資料名は筆者。化学成分分析はKCP-AES法による。  
No.12: プロモ酸のPはノーライト、表中の電子はミクロ組織から推定される吸量。noは見いただされず。

卷之三

3. GOMA: “土壤重金属污染的中国治理经验”

分子量 (kDa)	测定浓度 (mg/ml)	PDA-CH <sub>n</sub> 共聚物的吸光度			PDA-CH <sub>n</sub> 共聚物的吸收率(%)			Total SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup>
		TG (%)	V <sub>1</sub> (%)	MgO (%)	A <sub>1</sub> (%)			
500	XT	12.7	73.1	21.0	6.73	2.43	0.06	97.13
500	CH <sub>2</sub>	12.7	73.1	21.0	6.73	2.43	0.06	97.13

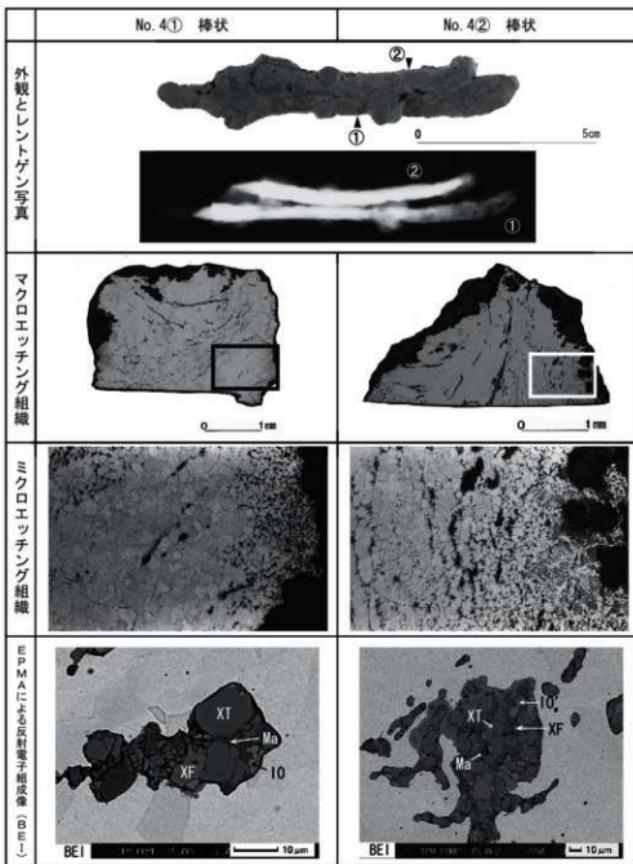


第500図 No. 1・2刀子の外観と組織観察結果

外観の矢印は試料抽出位置。マクロ、ミクロ組織はナイタールによるエッティング組織。

ミクロエッティング組織はマクロエッティング組織の枠内部。

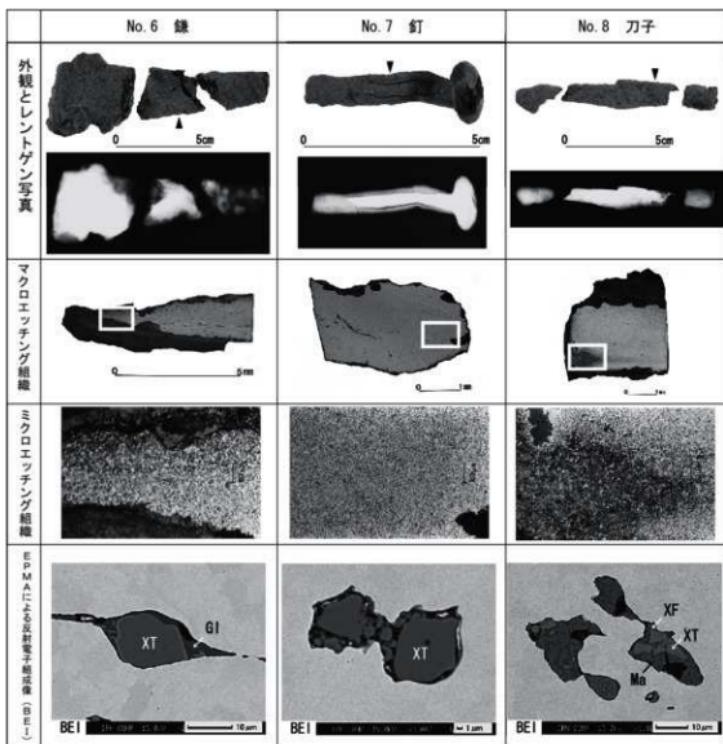
IO : Fe-O系化合物、XF : Fe-P-Al-Mg-Si-O系化合物、GI : ガラス質けい酸塩、Ma : マトリックス



第501図 No.4①・②棒状の外観と組織観察結果

外観の矢印は試料抽出位置。マクロ、ミクロ組織はナイタルによるエッティング組織。  
ミクロエッティング組織はマクロエッティング組織の枠内部。

IO : Fe-O系化合物。IO' : わずかにTiを含むFe-O系化合物。XT : 鉄チタン酸化物  
XF : Fe-P-Al-Mg-Si-O系化合物。Ma : マトリックス

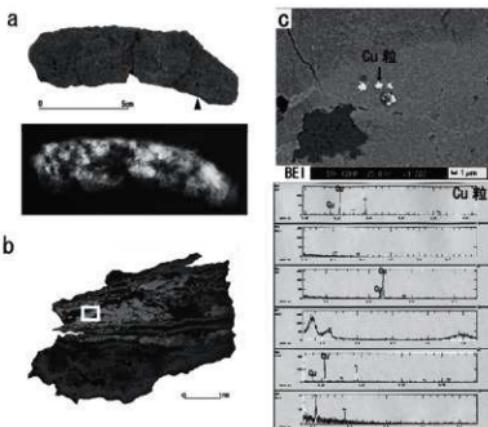


第502図 No.6錠、No.7釘、No.8刀子の外観と組織観察結果

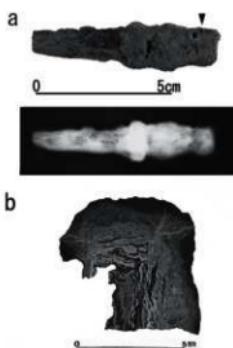
外観の矢印は試料取出位置。マクロ、ミクロ組織はナイタールによるエッティング組織。

ミクロエッティング組織はマクロエッティング組織の枠内部。

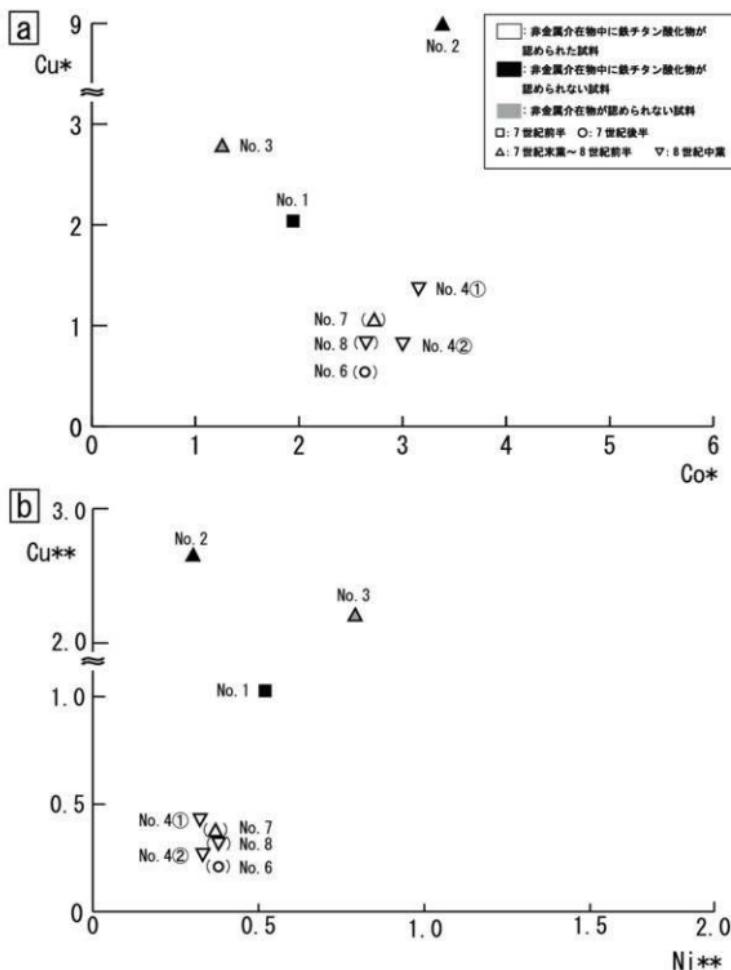
XT：鉄チタン酸化物、XF：Fe-P-Al-Mg-Si-O系化合物、GI：ガラス質けい酸塩、Ma：マトリックス



第503図 No.5鎌の外観と組織観察結果  
a：外観とレントゲン写真。矢印は試料片摘出位置。 b：マクロ組織。  
c：EPMAによる反射電子組成像(BEI)と定性チャート。



第504図 No.3刀子の外観と組織観察結果  
a：外観とレントゲン写真。矢印は試料片摘出位置。 b：マクロ組織。



第505図 試料に含有される Cu、Ni、Co 三成分比の関係

Cu\* : (mass% Cu)/(mass% Co), Co\* : (mass% Ni)/(mass% Co)

Cu\*\* : (mass% Cu) /(mass% Ni), Ni\*\* : (mass% Co)/(mass% Ni)

## 第7章　まとめ

仙台市あすと長町土地区画整理事業に伴う発掘調査は平成10年から開始し、これまでに西台畠遺跡（平成10～13年・17年・19年）、郡山遺跡（平成13年・16～18年）、長町駅東遺跡（平成13～20年度）の調査が行われている。

西台畠遺跡の調査では、総数140軒程の堅穴住居跡のなかで、堅穴住居の配置や構築に一定の規格をもったブロックがあることが確認されているほか、方四町II期官衙外溝の西辺などが発見されている。

郡山遺跡の調査では、平成13年の調査で、I期官衙に関連すると考えられるL字型に延びる溝跡が発見されている。この溝跡は、I期官衙西辺の推定ラインから西50mに位置し、南北方向に延びる部分では平行している。I期官衙に関連する施設か、官衙周辺の土地割りに伴う施設と考えられる。

平成16年の調査では、外溝の北西コーナー部が発見され、その後の国庫補助事業による調査成果から、II期官衙と藤原京との関連、藤原宮との類似性が指摘されてきた。最近の調査成果では、外溝は一辺533～534.7m(1500大尺)で官衙の周囲を巡っていることが明らかになってきた。このことから外溝が一辺1500大尺で設計された可能性が示唆され、藤原京の条坊制の一坊分と同じ規模であることから、II期官衙の年代や性格を考える上で重要な遺構となってきている。

長町駅東遺跡の調査では、総数300軒以上の堅穴住居跡が発見されており、集落の区画施設と考えられる遺構が集落の北側（区画溝跡、材木列1列、一本柱列4列）と南側（材木列1列）で確認されている。

調査を開始して10年が経過し、郡山遺跡の官衙の構造に関わるような溝跡の発見だけでなく、官衙の西側に大規模な集落が形成されたことが明らかになってきた。この集落の成立と衰退については官衙との関係の中で考えていく必要があるが、今回の報告では集落の構造や遺構について整理し、まとめとしたい。

今回の報告にあたり、出土遺物についての詳細な分析は行うことができなかった。長町駅東遺跡や西台畠遺跡については毎年発掘調査が実施されており、膨大な量の資料が蓄積されてきている。今後刊行される調査報告書の中で、これらの課題について検討することにしたい。

### 1. 調査成果の基礎整理

#### (1) 遺構の確認

これまでに行われてきた2B・3A・4区と同様に、3B区においても表土から遺構検出面までの擾乱が顕著であり、検出された遺構の大部分は上部が失われている状況にあった。また、激しく重複する遺構群は遺構の検出作業および上面観察を難航させ、各遺構が掘り込まれた層位を明確にできないままに調査を行わざるを得なかった。よって、ここでは調査区壁面の土層断面を基として、遺構全体の傾向を検討する。

土層断面を観察する限り、最も上位から掘り込まれているのは、古代～中世に帰属すると考えられる一部のピットと小溝状遺構SM203・204・207である。SM207を切るSD42については、少なくともII層上面からの掘り込みである。

堅穴住居跡や区画施設に代表される古代の遺構については、その大部分がIII層中から掘り込まれるものと思われ、重複関係上、新しい時期の遺構はIII層上面から、古い時期の遺構はIII層下面ないしIV層上面から掘り込まれたものも認められる。

#### (2) 堅穴住居跡の整理

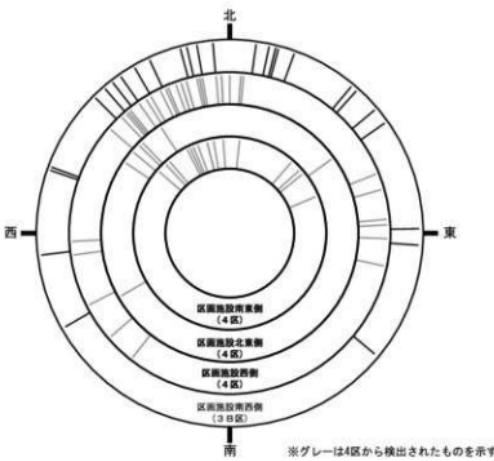
3B区から検出した堅穴住居跡を検討するにあたり、各堅穴住居跡の諸属性を抽出し、一覧表を作成した。属性については、3B区と同様に区画施設SD66周辺から多数の堅穴住居跡が検出された4次調査報告書（第315集）を

## 長町駅東側跡地3区・駅付近跡一覧表

住居 番号	調査 地区	#°×#'	方位	長軸×短軸(m)	平面形	カマド位置	煙道部			その他の施設			時間 区分	備考
							直面	途中	先端	植樹行	開仕切溝	灰溜坑		
S69	3A	57°-60°	N7° E	3.70×-	圓丸方形	北辺	-	-	-	-	-	-	6	3B区は煙道部のみ検出
	3B	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S71A	3A	61°-62°	N13° E	4.37×(0.27)	圓丸方形	北端中央	-	-	-	-	-	-	4	-
	3B	1-2-5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S71B	3B	2-5	N15° E	(3.02)×(1.65)	圓丸方形	東端	-	-	-	-	-	-	4	3B区のみ残存
S73	3A	61°-62°	N16° W	(4.30)×(3.32)	圓丸方形	-	-	-	-	○	-	-	3	-
	3B	1-2-5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S75	3A	60°	N18° W	4.10×1.95	圓丸方形	-	-	-	-	-	-	-	4	-
	3B	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S78	3B	3-6	N19° W	(3.97)×(3.35)	圓丸方形	北端中央	上	-	-	-	-	-	4	-
S79	3B	2-5	N25° W	3.67×(3.48)	圓丸方形	北端中央	水平	-	-	-	-	-	1	-
S80	3B	14-19	N12° E	4.85×(0.00)	圓丸方形	北端中央	上	○	-	-	○	-	5	-
S81	3B	6-10	N40°	2.00×1.70	圓丸長方形	北端中央	-	-	-	-	-	-	6	壁穴通風
S82	3B	16-21	N89° E	0.321×3.85	圓丸方形	東端中央	上	-	-	-	○	○	5	-
S83	3B	8-12	N8° E	3.21×(2.00)	圓丸方形	北端中央	水平	○	-	-	-	-	5	-
S84	3B	15-20	N20° E	4.97×4.50	圓丸方形	-	-	-	-	-	-	-	5	-
S85A	3B	8-12	N5° W	(3.67)×(0.80)	圓丸方形	-	-	-	-	-	-	-	5	-
S85B	3B	8-12	N6° E	(3.30)×(1.10)	圓丸方形	-	-	-	-	-	-	-	5	-
S86	3B	1	-	(0.60)×(0.10)	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-
S87	3B	7-8	N20° W	(3.11)×(2.07)	圓丸方形	-	-	-	-	-	-	-	6	-
S88	3B	20-21- 25-26	N30° E	4.20×4.30	圓丸方形	北辺中央	F	-	-	-	-	-	2	-
S89	3B	30-35	N30° E	2.97×2.75	圓丸方形	東端中央	水平	○	-	-	-	-	4	SK74は一進の可能性大 外側に壁穴出でカマド
S90A	3B	25-30	N97° W	5.25×4.97	圓丸方形	西端中央	水平	-	-	-	-	-	5	-
S90B	3B	25-30	N13° E	(1.50)×(4.00)	長方形	北端中央	F	-	-	-	-	-	4	-
S91	3B	9-14	N11° W	(2.03)×(1.13)	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-
S92A	3B	7-11	N25° W	5.10×4.28	圓丸方形	北辺中央	-	-	-	○	-	-	5	-
S92B	3B	7-11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-
S93	3B	10-11- 15-16	N55° E	(1.80)×4.50	圓丸方形	北辺中央	上	○	-	-	-	-	4	-
S94	3B	3	N5° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-
S95A	3B	17	N30° W	(0.45)×(3.35)	圓丸方形	-	-	-	-	-	-	-	2	-
S95B	3B	17	N30° W	(0.43)×(3.28)	圓丸方形	北端中央	-	-	-	-	-	-	2	煙道部を欠く
S96	3B	29-34	N5° E	6.46×(1.10)	圓丸長方形	北端	水平	-	-	-	-	-	4	-
S97A	3B	16-17- 21-22	N35° W	3.00×2.00	圓丸長方形	北端西	F	-	-	-	-	-	5	-
S97B	3B	21-22	N44° W	(4.00)×(1.00)	圓丸長方形	-	-	-	-	-	-	-	4	-
S98	3B	4	N29° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-
S99	3B	11-16-17	N70° W	(6.50)×(3.25)	圓丸長方形	-	-	-	○	-	-	-	6	-
S100	3B	31-36	N15° E	5.63×5.32	圓丸方形	北端中央	F	○	-	-	-	-	6	SH128建替後
S101	3B	19-24	N104° E	(4.88)×(0.80)	圓丸方形	東端中央	水平	○	-	-	-	-	4	-
S102	3B	7	N15° W	(1.03)×(2.96)	圓丸方形	-	-	-	-	-	-	-	5	-
S103A	3B	16-17- 21-22	N55° E	5.15×4.85	圓丸方形	南端中央	水平	-	-	-	-	-	4	-
S103B	3B	16-17- 21-22	N45° W	(6.65)×(4.20)	圓丸方形	北端中央	上	○	-	-	-	-	4	-
S104	3B	31-32-33	N20° E	3.50×3.50	圓丸方形	北端中央	水平	○	-	-	-	-	6	-
S105	3B	31-36	N3° E	(0.80)×(0.25)	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-
S106	3B	15-20	N89° E	5.70×5.25	圓丸方形	東端中央	F	○	-	-	-	-	4	-
S107	3B	6-12	N25° W	(4.63)×(3.72)	圓丸方形	-	-	-	-	-	-	-	4	-
S108	3B	29-30- 34-35	N30° W	4.55×4.30	圓丸方形	北端中央	上	-	-	-	-	-	3	-
S109	3B	15-2	N36° W	4.93×4.82	圓丸方形	北端中央	-	-	-	-	-	-	2	-
S110	3B	5-9	N24° W	(1.50)×(1.20)	圓丸方形	-	-	-	-	-	-	-	5	-
S111	3B	24-29	N20° E	(2.90)×(1.25)	圓丸方形	-	-	-	-	-	-	-	4	-
S112	3B	29	N130° E	(2.48)×(2.03)	圓丸方形	東端中央	F	-	-	-	-	-	3	-
S113	3B	7-11	N25° W	(1.49)×(2.85)	圓丸方形	-	-	○	-	-	-	-	4	-
S114	3B	4-7	N3° W	(5.07)×(1.97)	圓丸方形	-	-	-	-	-	-	-	4	-
S115A	3B	10-11- 15-16	N35° W	(6.40)×(6.30)	圓丸方形	北端中央	上	○	-	-	-	-	3	-
S115B	3B	10-15	N45° W	5.30×4.84	圓丸長方形	-	-	-	-	-	-	-	3	-
S116	3B	11	N2° E	-	-	-	-	○	-	-	-	-	4	煙道部のみ残存
S117	3B	10-11	N30° W	3.27×2.64	圓丸長方形	北端中央	-	-	-	-	-	-	4	-
S118	3B	25-30	N15° W	(4.23)×3.64	圓丸長方形	北端中央	上	-	-	-	-	-	4	-
S119	3B	28-43	N62° W	4.53×3.50	圓丸長方形	東端南	-	-	○	○	-	-	5	煙道部は調査区分
S120	3B	4-6	N41° W	6.92×(6.79)	圓丸長方形	北端中央	-	-	-	-	-	-	3	-
	3B	41-45-46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S121	3B	19-20- 24-25	N8° E	(5.53)×(4.50)	圓丸方形	北端中央	-	-	-	-	-	-	3	-
S122	3B	31	N71° W	(2.73)×(2.63)	圓丸方形	東端中央	-	-	-	-	-	-	2	-
S123	3B	43	N130° W	(0.43)×(0.30)	圓丸方形	西端南	設有	○	○	-	-	-	2	-
S124	3A	2-7	N42° E	3.07×2.25	圓丸長方形	北端中央	-	-	-	-	-	-	3	北側1/3は4x6
	3B	46-47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S125	3B	30	N50° W	(1.00)×(0.88)	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
S126	3B	11	N15° W	(2.70)×(1.60)	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-
S127	3B	11-12	N50° W	(0.43)×(1.35)	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-
S128	3B	31-36	N15° E	3.23×3.60	圓丸方形	-	-	-	-	-	-	-	4	S100建替前
S129A	3B	41-45- 46-54	N40° W	5.24×5.13	圓丸方形	北端中央	上	○	-	-	-	-	2	-
S129B	3B	41-45- 46-52	N40° W	(4.24)×4.13	圓丸方形	-	-	-	-	-	-	-	2	-
S130	3B	7	N25° W	3.97×(1.21)	圓丸方形	北端中央	-	-	-	-	-	-	2	-
S131	3B	21-22- 26-28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	平地式住居の可能性有
S132	3B	21-22-26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	平地式住居の可能性有

基にしている。その結果、以下の特徴が認められた。

- ①：重複が激しいため判然としない部分もあるが、竪穴住居跡の規模および平面形状は、3B区1期(次節参照)以下、3B区を省略)を除く各期において、一辺4~5m程の規模を測る隅丸方形を基調とし、これに5.5~6m程の大型に属するものが数軒加わる傾向が認められる。ただし、5・6期には一辺が6mを超えるものは認められない。
- ②：主軸方位は、N-25~45°-W、N-0~20°-W、N-10~20°-Eのいずれかに該当するものが多く、概ねこの3グループに大別される。それぞれの主軸方位において次の傾向が看取された。
- a : N-25~45°-Wに軸を持つものは、各期において多数を占める主軸方位となる。
- b : N-0~20°-Wに軸を持つものは3期から認められ、郡山I期官衙期に相当する4期になると増加する。5期には減少し、6期にはほぼ構築されなくなる。
- c : N-10~20°-Eに軸を持つものは3期から認められ、上記2の軸方位の竪穴住居跡と入れ替わるかのように6期に特徴的な軸方位となる。
- d : 上記a~cの傾向を併せて考えると、3B区における竪穴住居跡の主軸方位は、概ねN-25~45°-W→N-0~20°-W→N-10~20°-Eと変遷し、各期を通じてある程度の規則性が認められるものの、同時に複数の軸方位を持つ竪穴住居跡が混在する状況にある。
- ③：カマドの位置が特定できる37軒中、2/3に相当する25軒が北壁もしくは北辺に構築される。
- ④：カマドは1軒(SI89)のみ壁の外側に構築される。
- ⑤：カマド煙出しがピット状に窓む構造のものは4期以降に認められる。



第506図 竪穴住居跡カマド付設方向(第315集第431図を一部改変)

これらの各傾向のうち、②aについては同じ主軸方位を持つ竪穴住居跡が2B区・3A区・4区からも多数検出されており、本遺跡に構築された竪穴住居跡の中心的な主軸方位と考えられる。特に2B区・3A区においては郡山Ⅰ期官衙期に併行すると考えられる時期に特徴的なことが確認されている（第324集）。これに対し、3B区では6期を除く全期に認められるが、2B区・3A区とは対照的に郡山Ⅰ期官衙以前（1～3期）に属するものに多く認められる。また、②d・③の傾向についても、2B区・3A区で同様の傾向が指摘されている。

④については、SI89のように壁の外側に張り出してカマドが構築される竪穴住居跡は関東地方に多く認められる構造である。本遺跡からはこれまでにSI74（3A区）、SI124（3B区と4区を跨ぎ、カマドは4区に位置する）が既に報告されており、SI89が3例目の報告となる。現段階ではいずれも郡山Ⅰ期官衙期の前後段階に構築されたものと考えられることと、多くの竪穴住居跡に混じり点在することを除いて不明な点が多いものの、いわゆる関東西土器と共に関東地方から東北地方への移住を検討する際の傍証になり得るものとして注目される。

### （3）遺構重複状況

3B区での発掘調査の結果、古代に帰属すると考えられる各遺構の重複関係を示したのが第507図である。竪穴住居跡については建て替えられたものも含むと最大7期にわたる変遷が認められ、出土遺物等との関連から6期に区分される（次節参照）。第508～517図には各期の竪穴住居跡出土土器を、第518～527図には区画施設SD66出土土器を再掲した。以下、各期の遺構配置について概略を記載する。

#### 長町駅東遺跡3B区1期

2B区および3A区（第324集）での1期、4区（第315集）での1期に概ね相当する。調査区南西端に北西方向に主軸を持つ竪穴住居跡1軒（SI179）と、これとはほぼ同じ方向に延びる一本柱列SA4・5が区画施設SD66および材木列SA1に先行して調査区北東側に構築される。

#### 長町駅東遺跡3B区2期（郡山プレⅠ～A期）

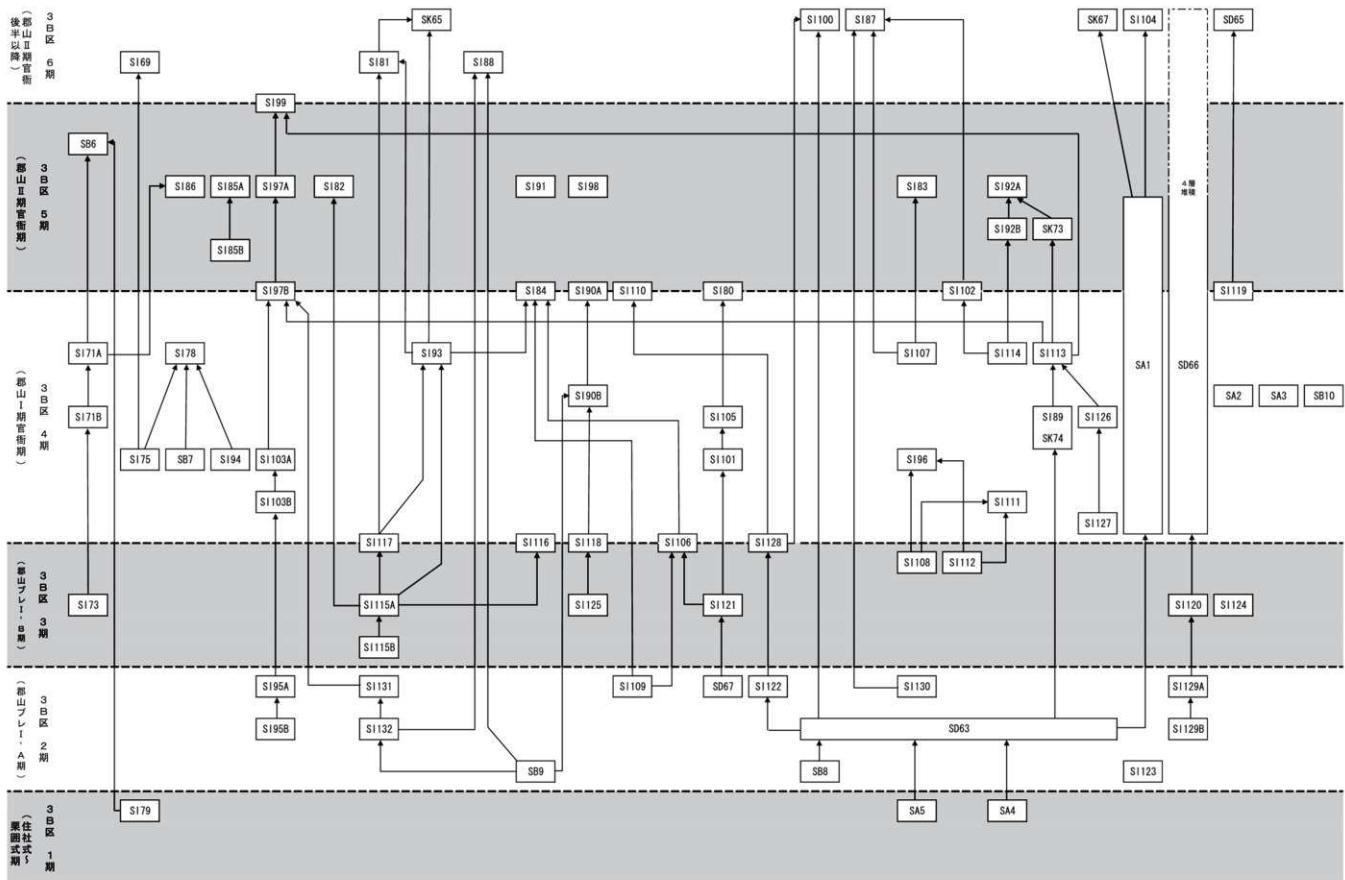
2B区および3A区での2期前段階、4区での2期後半に概ね相当する。この段階から竪穴住居跡は調査区の中央部に構築されはじめ、平地式の可能性を有するもの（SI131・132）が混在する。竪穴住居跡の主軸方位は前段階と同様に北西を指向するものが多数存在する中で、SA4・5を切って構築されるSD63の北側には南西を指向するSI123が1軒位置する。また、この段階には南北もしくは東西方向を主軸とする掘立柱建物跡（SB7・8）も構築される。

#### 長町駅東遺跡3B区3期（郡山プレⅠ～B期）

2B区および3A区での2期中頃、4区での2期後半に概ね相当する。竪穴住居跡は調査区中央部から拡散し、主軸は北西を指向するもの他、ほぼ真北を指向するもの（SI108・121）、北東を指向するもの（SI124）、南東を指向するもの（SI112）があり、ばらつきが認められる。また、一辺約6.5～7mを測る大型の竪穴住居跡（SI115A・120）も構築される。

#### 長町駅東遺跡3B区4期（郡山Ⅰ期官衙期）

2B区および3A区での3期、4区での2期後段階、郡山Ⅰ期官衙期に相当し、この段階で調査区北東部に区画施設と考えられる溝跡SD66および材木列SA1が構築される。区画施設の南西側には多くの竪穴住居跡が構築され、3B区におけるピークとなる。中には壁柱穴を有するもの（SI106）も認められる。また、区画施設の北東側には一本柱列SA2・3、他の竪穴住居跡とは床面施設の様相を異にするSI119が構築される。竪穴住居跡の主軸は前



第507図 長町駅東遺跡 3B区造構重複関係図

段階と同様に一様ではなく、東を指向するもの（SI100・101）も加わるが、真北に近い角度を指向するものが優占するようになる。また、規模は多数の竪穴住居跡が一辺約4～5mを測る中で、約6.5mを測る大型のもの（SI96）や3m前後を測る小型のもの（SI89・128）もあり、一様ではない。調査区南西には、南西・北東に棟を持つ掘立柱建物跡（SB7）が構築される。

#### 長町駅東遺跡3B区5期(郡山Ⅱ期官衙期)

2B区および3A区での4期、4区での3期、郡山Ⅱ期官衙期に相当する。この段階になると区画施設SD66はその機能が低下しはじめ、4層の堆積時には、おびただしい数の遺物が廃棄される。竪穴住居跡は多数構築されるものの、前段階に比べ減少する。中には壁柱穴を有するもの（SI85A・90A）のほか、小型のもの（SI97A）も認められ、主軸方位もまた一様ではない。調査区南西端には、前段階の竪穴住居跡を切るかたちで南西・北東に棟を持つ掘立柱建物跡（SB6）が構築される。

#### 長町駅東遺跡3B区6期

2B区および3A区での5期、4区での4期、郡山Ⅱ期官衙後半以降に相当する。竪穴住居跡の数は減少し、主軸方位は北東側を指向するものが優占するようになる。

### 3B区1期

SI79出土遺物

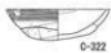


### 3B区2期①

SI95A出土遺物



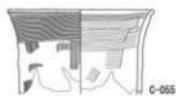
SI122出土遺物



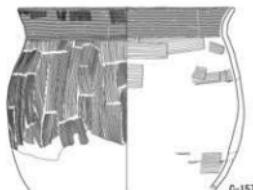
SI123出土遺物

第508図 各期竪穴住居跡出土土器(1)

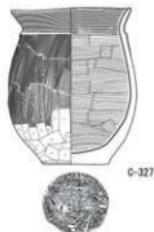
3B区1期  
SI79出土遺物



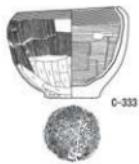
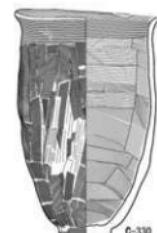
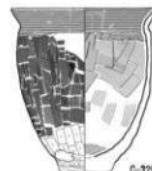
3B区2期①  
SI95A出土遺物



SI122出土遺物

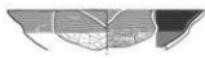


SI123出土遺物



### 3B区2期②

SI129B出土遺物



C-352



C-353



C-351



C-355



C-354

SI130出土遺物



C-360



C-361

### 3B区3期①

SI173出土遺物



C-045

SI108出土遺物



C-232



C-233



C-234

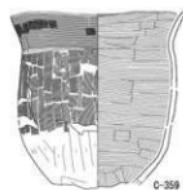
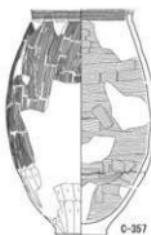
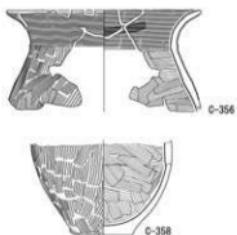


C-235

第509図 各期竪穴住居跡出土土器(2)

3B区2期②

SI129B出土遺物

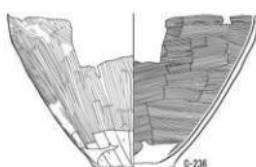
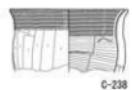
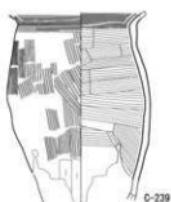
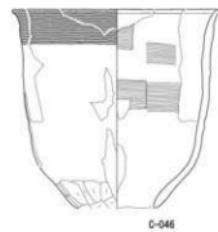


SI130出土遺物



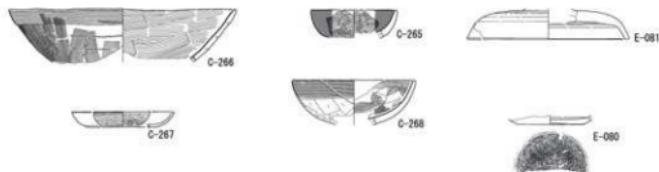
3B区3期①

SI73出土遺物

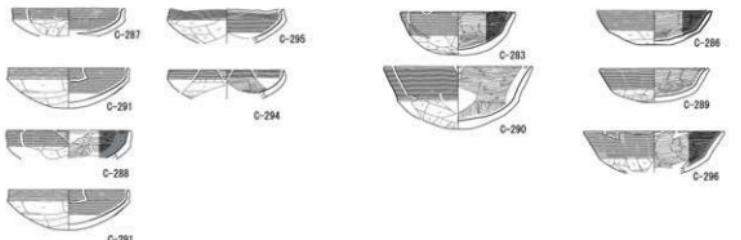


### 3B区3期②

SI115A出土遺物



SI120出土遺物



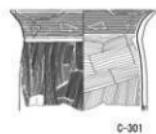
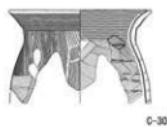
SI121出土遺物



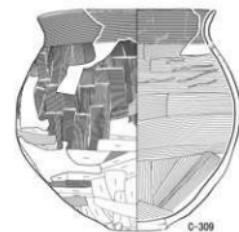
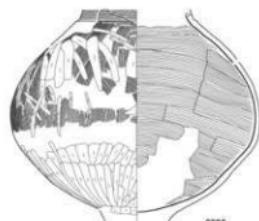
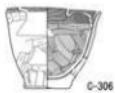
第510図 各期竪穴住居跡出土土器(3)

3日区3期②

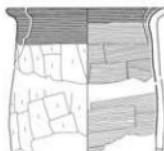
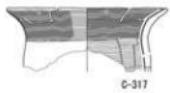
SI115A出土遺物



SI1120出土遺物



SI1121出土遺物



### 3B区3期③

SI124出土遺物



C-334 (3B区)



C-336 (3B区)



C-335 (3B区)



C-337 (3B区)



C-340 (3B区)



C-339 (3B区)



C-338 (3B区)



C-341 (3B区)



C-343 (3B区)



C-344 (3B区)



C-349 (3B区)



C-342 (3B区)

SI125出土遺物

### 3B区4期①

SI71A出土遺物



E-029 (3B区)



E-630 (3B区)

SI175出土遺物



C-048 (3B区)



C-047 (3B区)



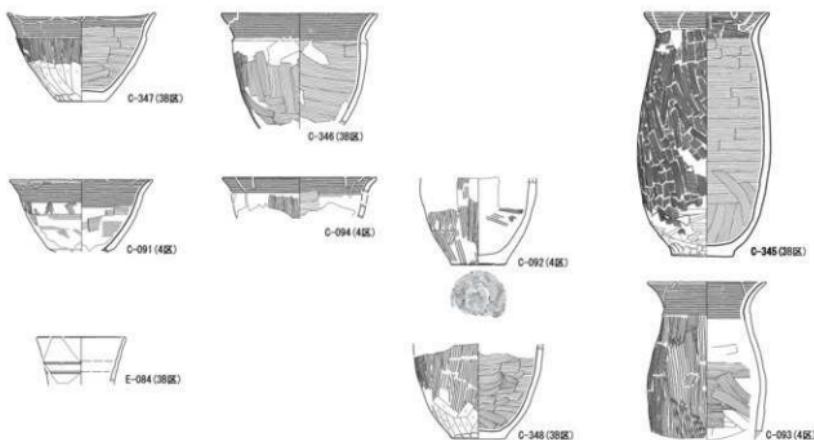
C-316 (3A区)



C-049 (3B区)

第511図 各期竪穴住居跡出土土器(4)

3B区3期③  
SI124出土遺物



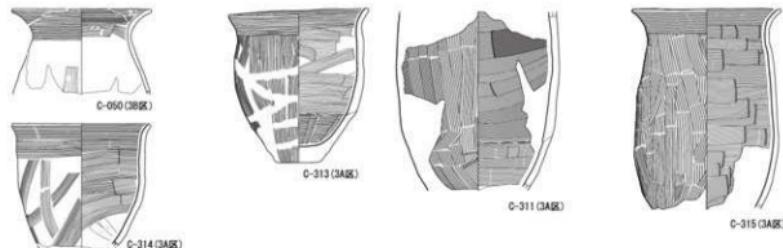
SI125出土遺物



3B区4期①  
SI171A出土遺物



SI175出土遺物



### 3B区4期②

S178出土遺物

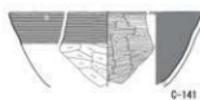
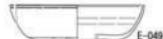
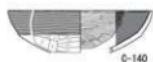


S189出土遺物



S190B出土遺物

S193出土遺物



第512図 各期竪穴住居跡出土土器(5)

3B区4期②  
S178出土遺物



C-052

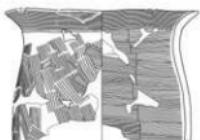


E-033



E-034

S189出土遺物



C-097

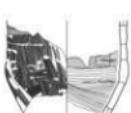


C-098

S190B出土遺物



C-128

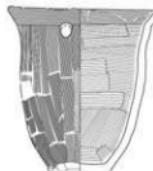


C-129

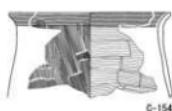
S193出土遺物



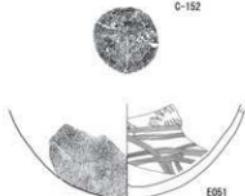
C-150



C-152



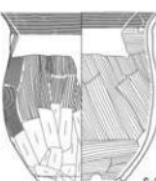
C-154



E051



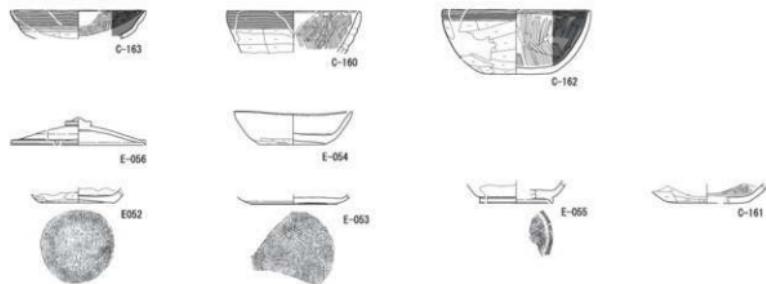
C-151



C-155

### 3B区4期③

S196出土遺物



S1101出土遺物



S1103A出土遺物



S1103B出土遺物

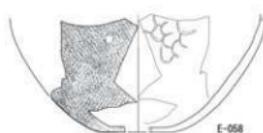
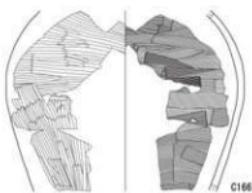
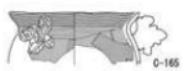


S1107出土遺物

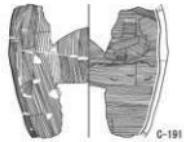
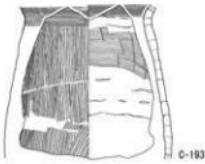


第513図 各期竪穴住居跡出土土器(6)

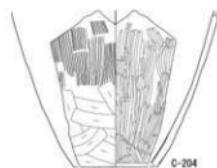
3B区4期③  
SI96出土遺物



SI101出土遺物



SI103A出土遺物



SI103B出土遺物

SI107出土遺物

### 3B区4期④

SII06出土遺物



SII14出土遺物



SII17出土遺物



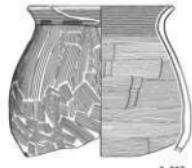
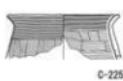
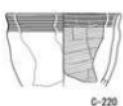
SII18出土遺物



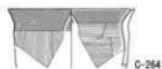
第514図 各期竪穴住居跡出土土器(7)

3B区4期④

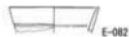
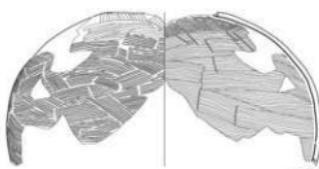
SI106出土遺物



SI114出土遺物



SI117出土遺物



SI118出土遺物

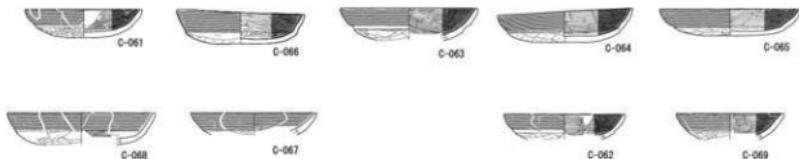


### 3日区5期①

S180出土遺物



S182出土遺物



S183出土遺物



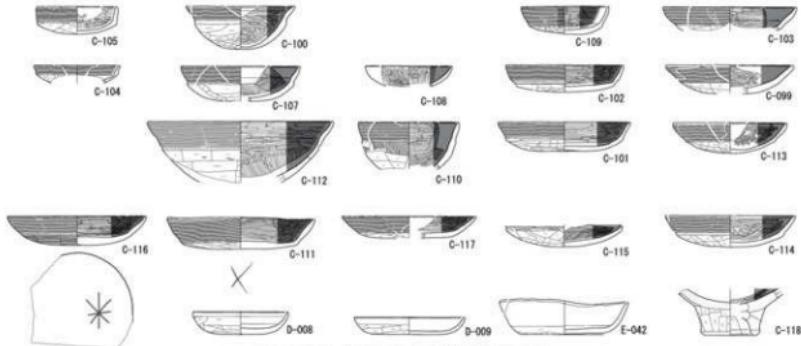
S184出土遺物



S185A出土遺物



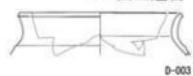
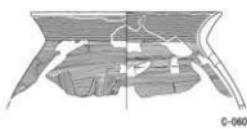
S190A出土遺物



第515図 各期竪穴住居跡出土土器(8)

3B区5期①

S180出土遺物



S182出土遺物



S183出土遺物



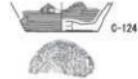
S184出土遺物



S185A出土遺物

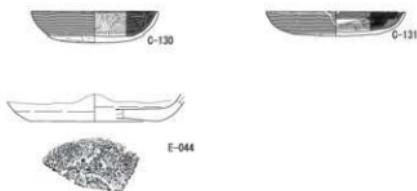


S190A出土遺物

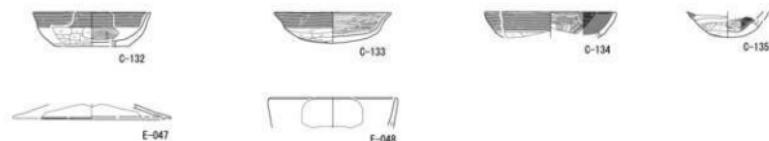


### 3B区5期②

S191出土遺物



S192A出土遺物



S198出土遺物

S1102出土遺物

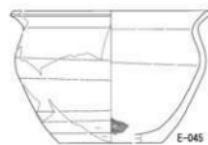


S1119出土遺物



第516図 各期竪穴住居跡出土土器(9)

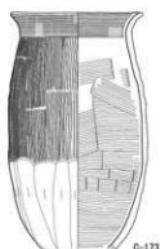
3B区5期②  
SI91出土遺物



SI92A出土遺物



SI98出土遺物



SI102出土遺物



SI119出土遺物

### 3B区6期

SI81出土遺物



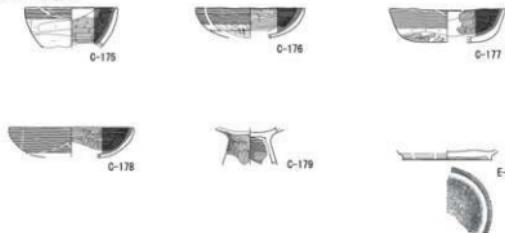
SI87出土遺物



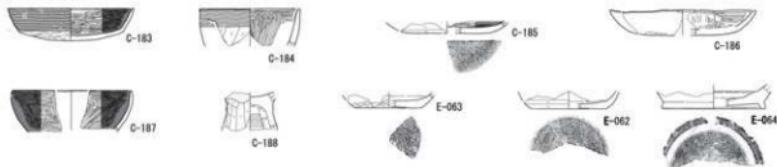
SI88出土遺物



SI99出土遺物



SI100出土遺物

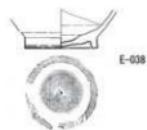


SI104出土遺物

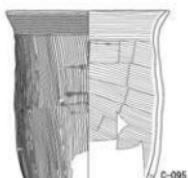


第517図 各期竪穴住居跡出土土器 (10)

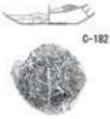
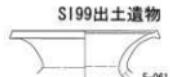
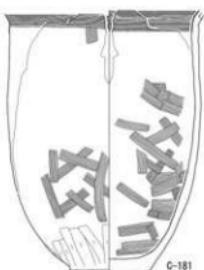
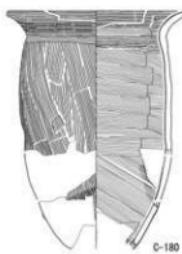
3B区6期  
SI81出土遺物



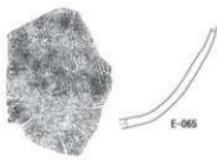
SI87出土遺物



SI88出土遺物



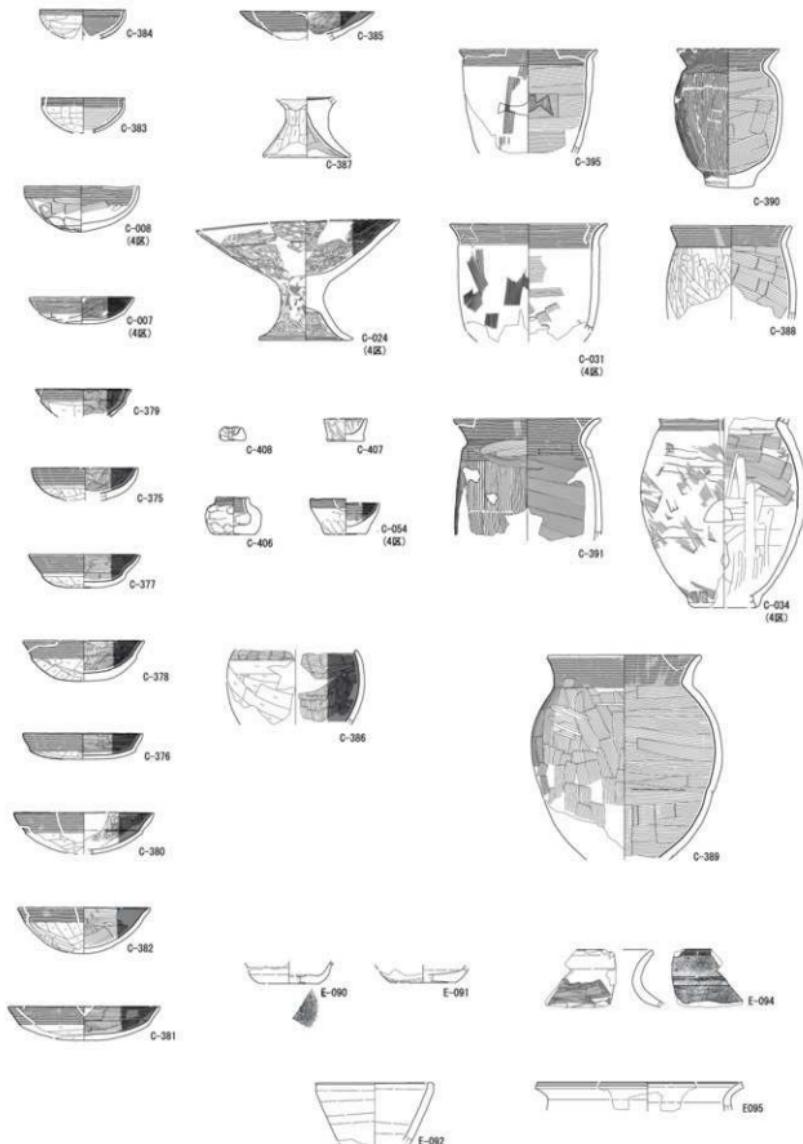
SI99出土遺物



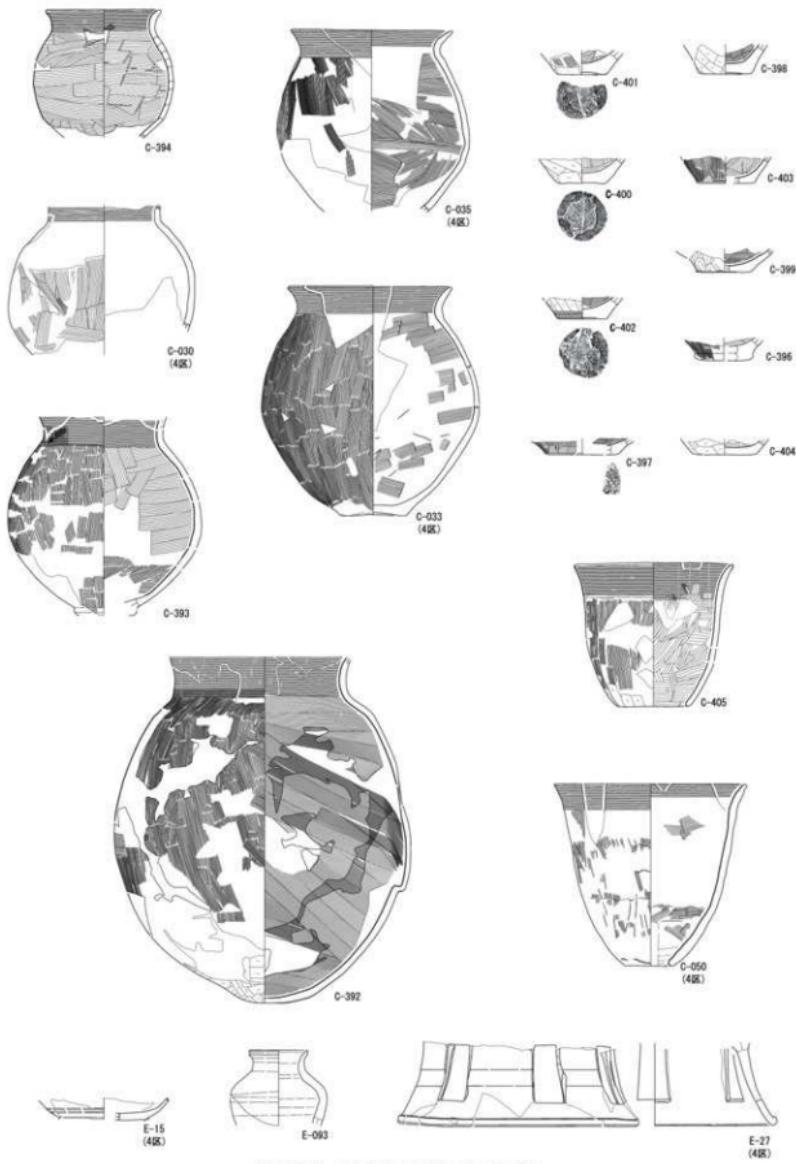
SI100出土遺物



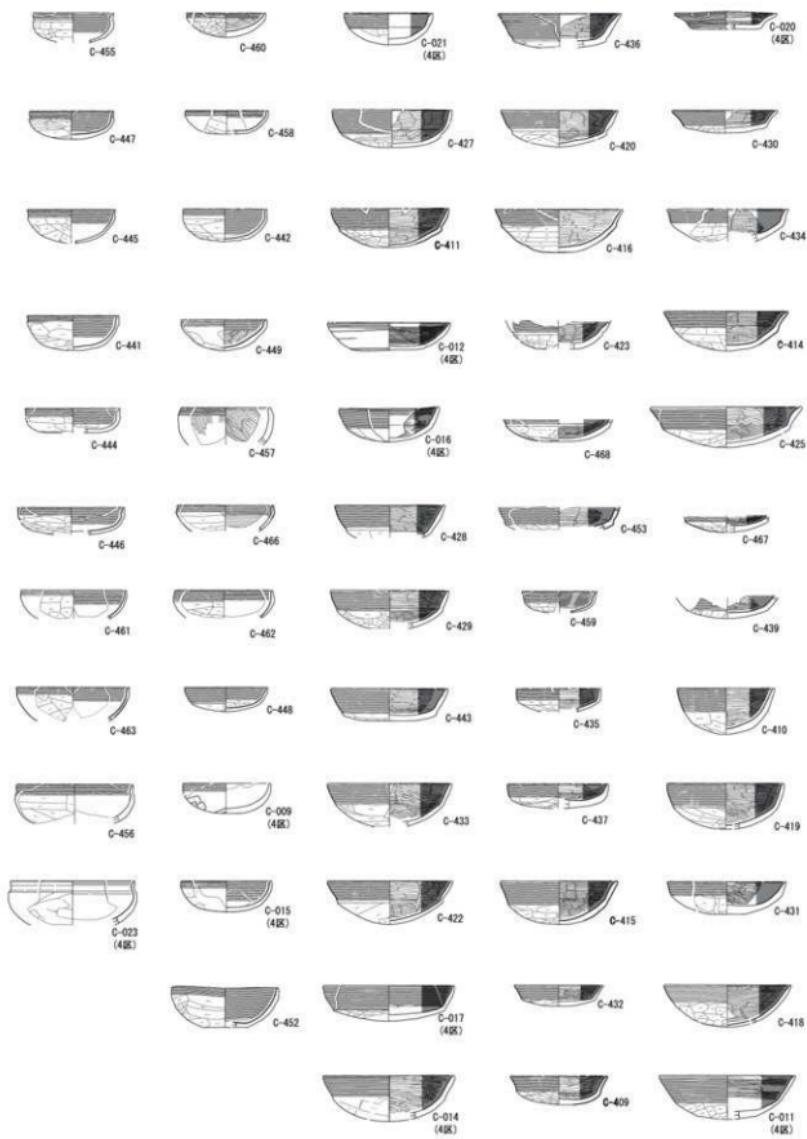
SI104出土遺物



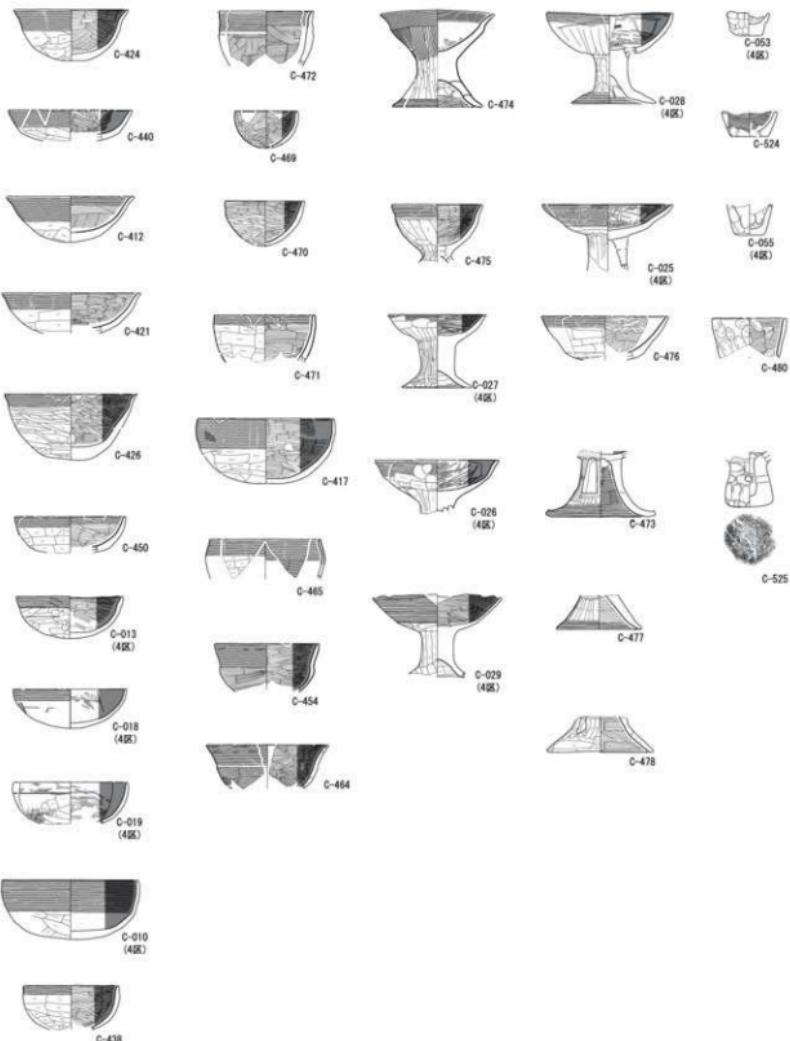
第518図 SD 66出土土器集成(上層①)



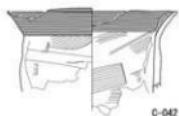
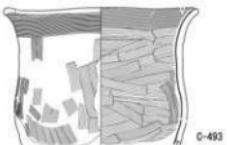
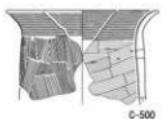
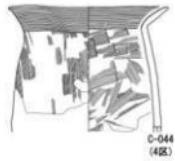
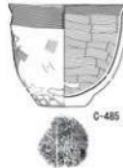
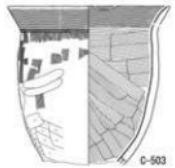
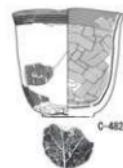
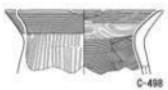
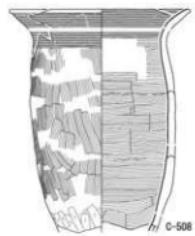
第519図 SD66出土土器集成(上層②)



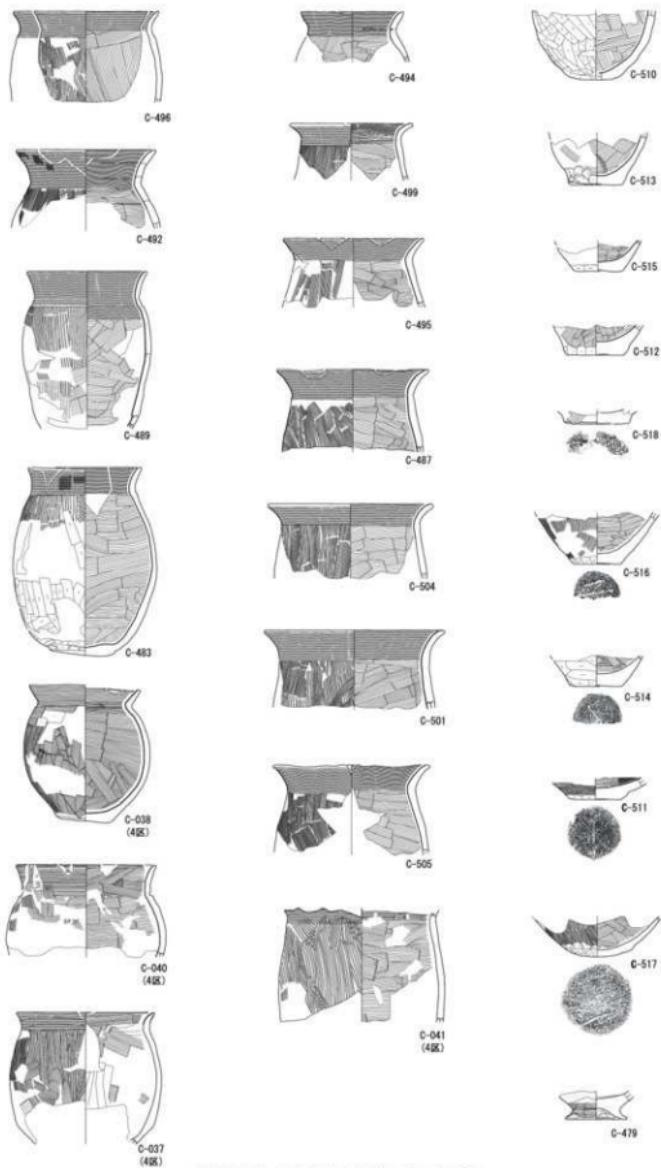
第520図 SD 66出土土器集成(4層①)



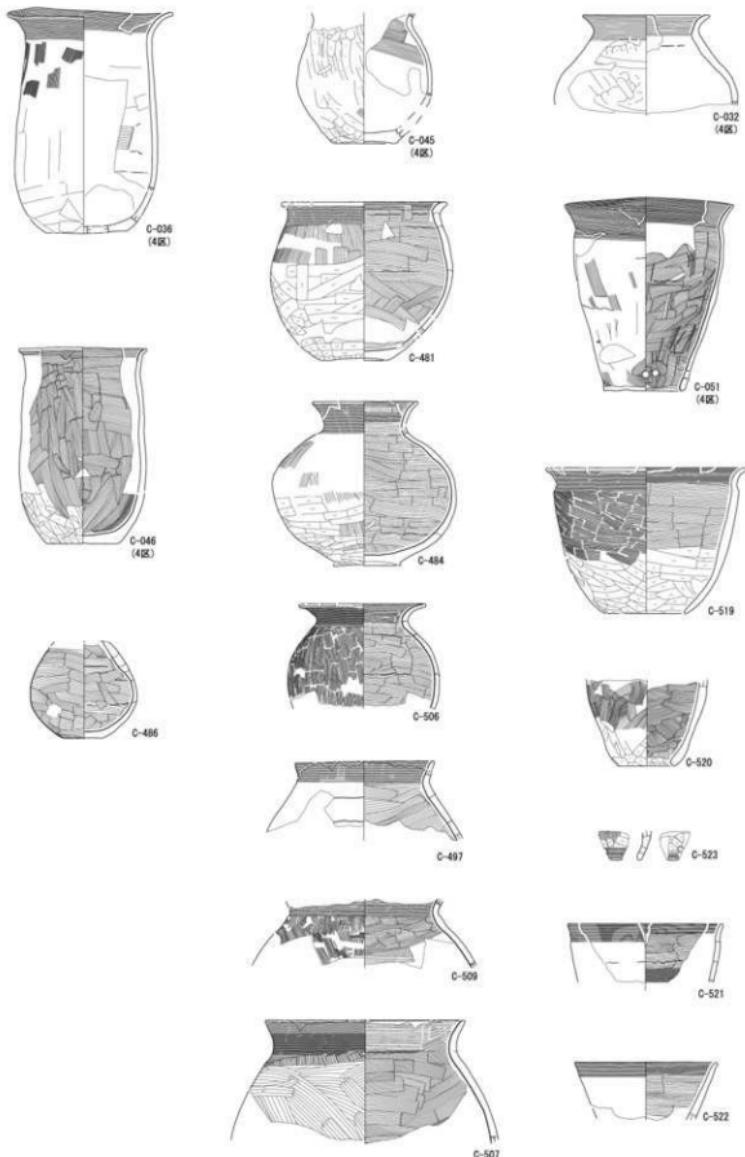
第521図 SD 66 出土土器集成(4層②)



第522図 SD 66出土土器集成(4層③)



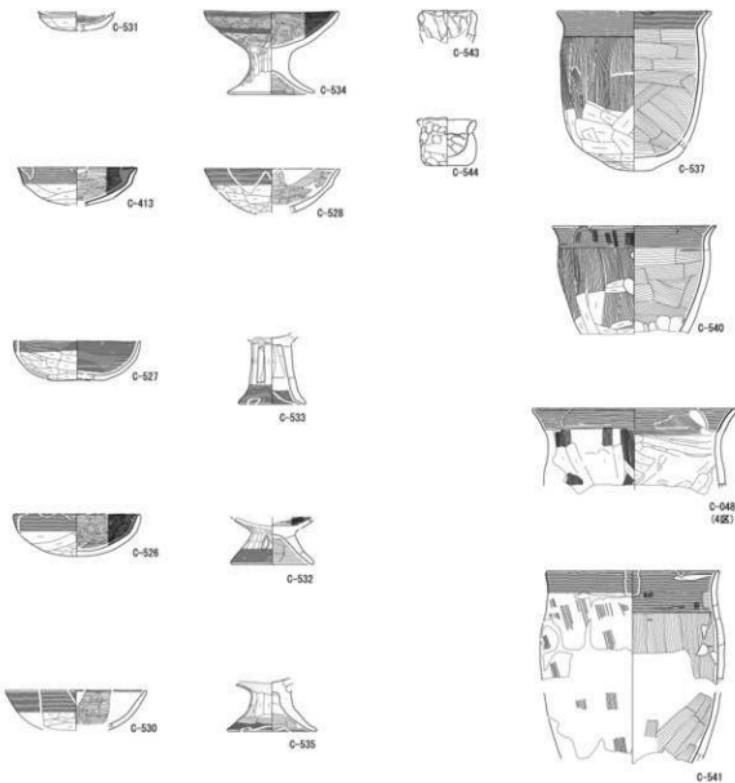
第523図 SD 66 出土土器集成(4層④)



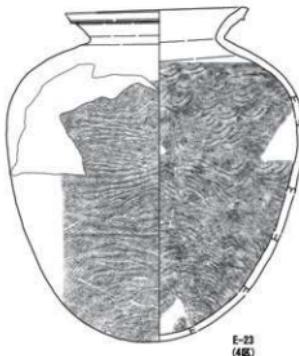
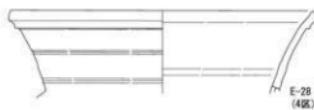
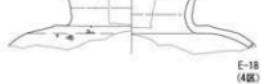
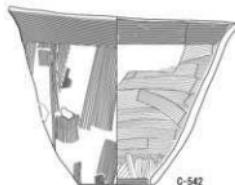
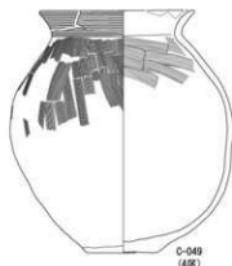
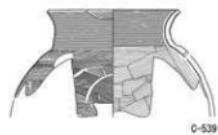
第524図 SD 66出土土器集成(4層⑤)



第525図 SD66出土土器集成(4層⑥)



第526図 SD 66出土土器集成(下層①)



第527図 SD66出土土器集成(下層②)

## 2. 長町駅東遺跡と西台畠遺跡の集落について

郡山遺跡については、昭和54年以来継続的な調査が実施されてきたが、官衙城の周辺、特に西側の状況については調査例が少なく不明な点が多くあった。あと長町土地区画整理事業の施行に伴い、郡山遺跡の西側に位置する西台畠遺跡・長町駅東遺跡の調査が進められたことにより、郡山遺跡官衙の西方の状況が明らかになってきた。

西台畠遺跡及び長町駅東遺跡の集落の変遷について検討するため、これまでの調査資料の中から、住居跡の位置、重複関係、主軸方位などからいくつかの住居跡を抽出し、資料の検討を行い、時期区分を行った。全ての住居跡の資料の検討によるものではないことから、現時点における見解として理解いただきたい（註1）。

### （1） 西台畠遺跡の集落（第528図）

西台畠遺跡内にはこれまでの調査により、総数約140軒の堅穴住居跡が確認されているが、調査地点によって、住居跡の方向や規模・床面のレベル等についてある程度の規格性のあることが見出せる。Ⅱ期官衙外溝西辺の直近であるⅢ区の住居跡は真北方向を基準として造られたものと、真北よりも僅かに東に軸線の振れるものに大別され、重複関係からは東に軸線の振れる住居跡のほうが多い。密集度も高くなり、住居間の重複関係も2～3時期であり、出土遺物の内容からも短期間の中での変遷が考えられる。しかし、外溝から離れた遺跡内西側のⅣ区ではそうした住居跡の規格性が不明瞭となり、真北よりも西に軸線の振れるものが多くなる。密集度も高くなり、住居間の重複関係が最大で6時期の変遷におよぶ箇所があることが確認された（註2）。

住居跡の時期については、遺跡北西部のⅢ区北側にまとまって見られる鬼高系土師器と在地の土師器が共存する堅穴住居跡が集落の始まりと考えられる。その後、Ⅱ期官衙段階に住居跡が増加していることから、この時期が集落の最盛期と考えられる。

### （2） 長町駅東遺跡の集落（第529図）

長町駅東遺跡はこれまでの調査により、総数約300軒以上の堅穴住居跡が確認されている。南北に長く伸びる調査区の中では、堅穴住居跡の密集度が高い区域も認められ、住居間の重複関係が最大で8時期の変遷におよぶ箇所があることが確認された。

また最近の長町駅東遺跡南側40街区の調査では、北西から南東方向にかけて複数の河川により形成された北高差1.5～2mを測る地形の変化があり、これより南西側の低位部分では住居跡が確認されていない。住居跡は高位部分から確認され、住居跡の配置や方向がこの地形に沿っていることと、集落の初期に造られたと考えられる木本列が確認されたことにより、4区の通路状遺構から南に約200m以上離れたこの周辺が集落の南端部となっている可能性がより高くなってきた（註3）。

### （3） 長町駅東遺跡集落の変遷について（第530図）

集落の変遷については、官衙以前の段階を、長町駅東遺跡集落の初現で在地の土師器が主体となる段階、鬼高系土師器と在地の土師器が共存する段階（郡山遺跡ブレI-A期）、その後鬼高系土師器の中に閑東系土師器の要素が加わった段階（郡山遺跡ブレI-B期）の3区分とした。そして、Ⅰ期官衙期、Ⅱ期官衙期、Ⅲ期官衙後半以降の3区分を加え全体を6期とした。

#### ① 在社～粟田式期 在地土師器

長町駅東遺跡に集落が形成されてくるが、西台畠遺跡ではこの時期の住居跡は確認されていない。この時期

の住居跡としては、長町駅東遺跡3B区SI79、4A区SI134・136などがある。これらの住居跡と方向が揃うことから、区画施設のなかで一本柱列SA4・5がこの段階で造られた可能性が考えられる。

② 郡山遺跡ブレI-A期 鬼高系土師器+在地土師器

関東地方における土師器編年で鬼高式の特徴を有する环と在地の环が共伴する段階で、郡山遺跡ブレI-A期にあたる。長町駅東遺跡の集落に続き、郡山遺跡北西部に位置する西台畠遺跡Ⅲ区北半部やその北側の郡山遺跡I区にもこの時期の集落が形成されてくる。在来の集落に関東地方からの移住という要素が加わり集落が発展してくる。この時期の住居跡としては、長町駅東遺跡3B区SI109、4B区SI181・184などがある。

③ 郡山遺跡ブレI-B期 関東系土師器+在地土師器

环の形態が鬼高式の形態を継承しているが、在地の調整技法が見られる段階、郡山遺跡ブレI-B期にあたる。この時期の住居跡としては、長町駅東遺跡3B区SI120・124、4A区SI147、4C区SI234などがある。

④ I期官衙期

この時期の住居跡としては、長町駅東遺跡3B区SI119、4A区SI138・141・135・137、4C区SI221・230などがある。

長町駅東遺跡では、4C区SI221住居跡を人為的に埋め戻し整地後に材木列SA1が造られ、区画溝SD66についてもこの時期に造られたと考えられる。

⑤ II期官衙期

この時期の住居跡としては、長町駅東遺跡4A区SI145、4C区SI232・248・255などがある。西台畠遺跡、長町駅東遺跡ともこの時期の住居跡が主体となる。

⑥ II期官衙後半以降

この時期の住居跡としては、長町駅東遺跡3B区SI81・87・100・104、4A区SI146、4C区SI212・236・253などがある。

#### (4) 長町駅東遺跡の集落について

- ① 在地集落(住社～粟園式期)として長町駅東遺跡に集落が形成され、その後在来の集落に関東地方からの移住という要素が加わり集落が発展してくる。西台畠遺跡ではこの段階の住居跡は確認されていないことから、集落の開始時期については、長町駅東遺跡が先行する形になっている。
- ② II期官衙の段階、区画溝の東側では、住居跡の数が減少し掘立柱建物跡が造られるようになる。住居跡と同様に、通路状造構の想定延長ラインに沿って $2 \times 2$ 間あるいは $2 \times 3$ 間程度の比較的小規模な掘立柱建物跡が造られている。なかには、東西4間×南北2間の東西棟、南北5間×東西2間の南北棟となる掘立柱建物跡などもみられることから、区画溝東側の機能に変化があったことがうかがわれる。
- ③ II期官衙以降の遺構としては、4C区SI253住居跡に8世紀中葉の遺物があるものの、その後の遺構としては小溝状遺構群が広い範囲に分布している。さらに、区画溝を切るような大溝も構築され、集落という居住域から耕作という生産の場に変化していった状況がみられる。
- ④ 長町駅東遺跡や西台畠遺跡の集落については、郡山遺跡II期官衙が終焉をむかえ多賀城にその機能が移る時期に合わせるように住居跡の数が激減し、8世紀後半以降の住居跡は確認されていない。その後この地に確認される遺構は数百年を経た中世段階のものである。

こうしたことから、集落の成立に関しては一般的な集落として発生し、その後の集落の発展から終末までの状況では、官衙との強い結びつきがあったことが考えられる。

### 3. 長町駅東遺跡の区画施設について(第529・530図)

#### (1) 区画施設の概要

3B区・4区の調査から集落の区画施設と考えられる材木列1列、一本柱列4列、大溝跡1条が確認されているが、各施設の方向・規模等については、最も残存状況が良好であった4区における状況について記述する。

#### 【SD 6 6溝跡】

調査区をN-34°～40°-Wの方向に延びている。これまでに確認された総長は180mを越えている(註4)。上幅は約4m、下幅は約1m、深さ約1.7mを測る。断面形は逆台形を呈している。溝の一部を幅4mほど土橋状に掘り残した通路状造構が確認されている。通路状造構の東側に幅15～18mの遺構の空白域が認められることから、この部分が通路あるいは道路として利用されていたことが想定される。この部分での住居跡の配置を見ると、通路状造構の想定延長ラインに沿っている状況があり、住居間の重複関係もあまり認められない。

通路状造構の西側では、想定される通路を塞ぐ位置にSI212住居跡があることから、この住居が構築されたⅡ期官衙後半以降の時期には通路状造構の機能は希薄となり、区画内での通路に連絡する状況にはなっていないことが考えられる。

堆積土の最上層に灰白色火山灰を含むことや、中位の層から官衙並行期の遺物が見られる状況は、Ⅱ期官衙外郭大溝や外溝の状況と類似している。

#### 【SA 1材木列】

SD66溝跡から4.5～7.8mほど西に位置し、溝跡に平行して伸びている。上幅20～40cmの溝状の掘り方と直径10～20cmほどの柱痕跡が確認された。柱を抜き取った痕跡は見られない。材木列は通路状造構の部分では切れしており、開口部の長さは約5.5mとなるが、通路状造構の位置からはやや北側にずれている。

確認された総長は北側が約6m、南側では60mを越えている。南から伸びてくる材木列の先端部は、SI221住居跡を埋め戻し整地した後に造られており、ほかの部分よりも掘り方が深くなっている。

#### 【SA 2一本柱列】

SD66溝跡の東側約5.3～5.5mの位置に掘り方が5基確認された。これらを結んだ方向はN-39°～40°-Wである。掘り方の形状は一様ではないが、大きさはほぼ同じで、長辺50～60cm、短辺が40～50cmである。柱間にはややばらつきが見られる。

#### 【SA 3一本柱列】

SD66溝跡の東側約9.2～9.5mの位置に掘り方が3基確認された。これらを結んだ方向はN-39°～40°-Wである。掘り方の形状は方形を基本とし、大きさは長辺50～60cm、短辺が40～60cmである。柱間にはややばらつきが見られる。

#### 【SA 4一本柱列】

SD66溝跡の西側約2.8～3.0mの位置に掘り方が12基確認された。これらを結んだ方向はN-39°～40°-Wである。掘り方の形状は方形を基本とし、大きさは長辺40～60cm、短辺が40～50cmである。柱間は2.2mを測る。

#### 【SA 5一本柱列】

SD66溝跡の西側約3.2～3.5mの位置に掘り方が11基確認された。これらを結んだ方向はN-38°～39°-Wである。掘り方の形状は方形を基本とし、大きさは長辺40～60cm、短辺が40～50cmである。柱間は2.2mを測るが、多少ばらつきが見られる。

## (2) 区画施設の変遷

確認された材木列1列、一本柱列4列、大溝跡1条については、竪穴住居跡や溝跡との重複関係から区画施設の変遷が想定される。SA1材木列とSA4・5一本柱列には、SD63溝跡を挟んでの重複関係から、SA4・5からSA1という変遷がある。

SA4・5一本柱列については、I期官衙以前の在地集落が形成された段階の住居跡が同方向をとることから、この時期に造られた可能性が考えられる。SA1材木列は、SI221住居跡を人為的に埋め戻し整地したのちに構築されている。SI221住居跡から出土した遺物から、材木列の構築時期については郡山遺跡I期官衙期と考えられ、SD66溝跡についても、材木列の開口部と通路状遺構との関係やSI120（郡山ブレ1-B期）を切っていることからほぼ同時期に構築されたものと考える。これまでの調査においてSD66溝跡を切る遺構は検出されていないが、SA1材木列を切る住居跡としてSI104がある。この住居跡はI期官衙後半以降の住居跡であることから、この時期にはSA1材木列は機能を失っていたと考えられる。

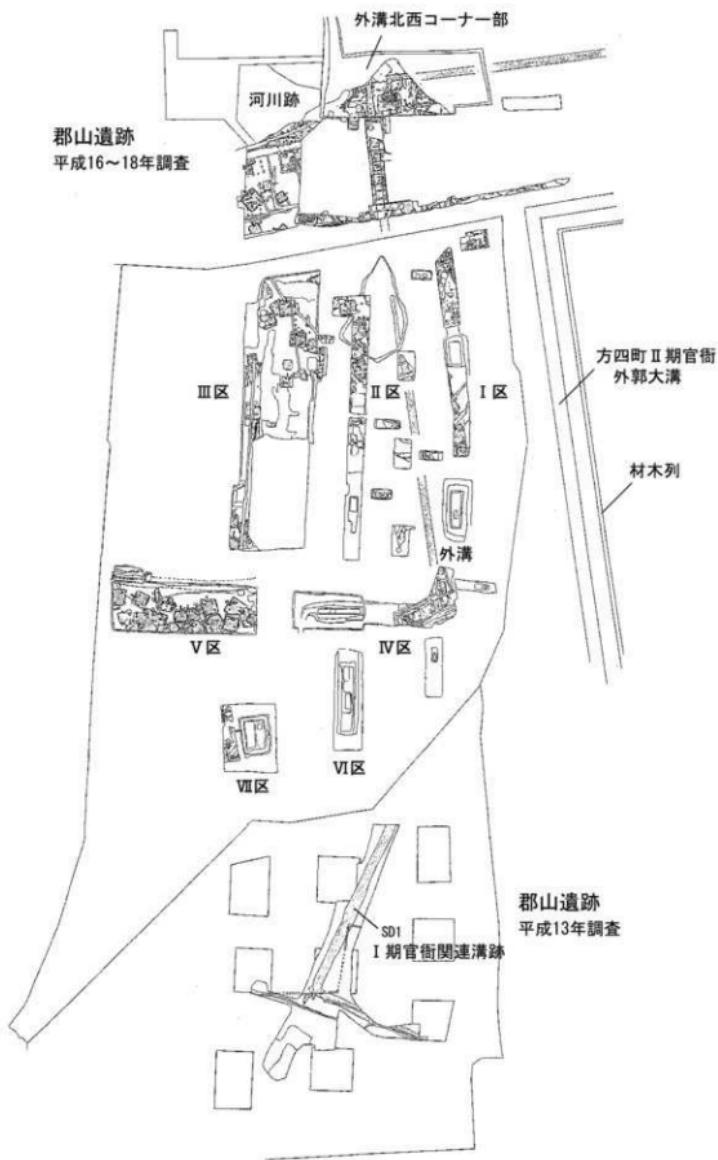
SA2・3一本柱列については、北側4区や東側の平成20年度調査区で確認されなかったことから、集落全体の区画施設とはならないことが考えられる。

註1：平成20年2月に開催された第34回古代城柵官衙遺跡検討会での報告にあたり、西台畠遺跡及び長町駅東遺跡の集落の変遷について検討するため、これまでの調査資料の中から、住居跡の位置、重複関係、主軸方位などからいくつかの住居跡を抽出し、資料の検討を行い、時期区分を作成し報告を行った。今回の報告書ではその内容の一部を改変し掲載している。

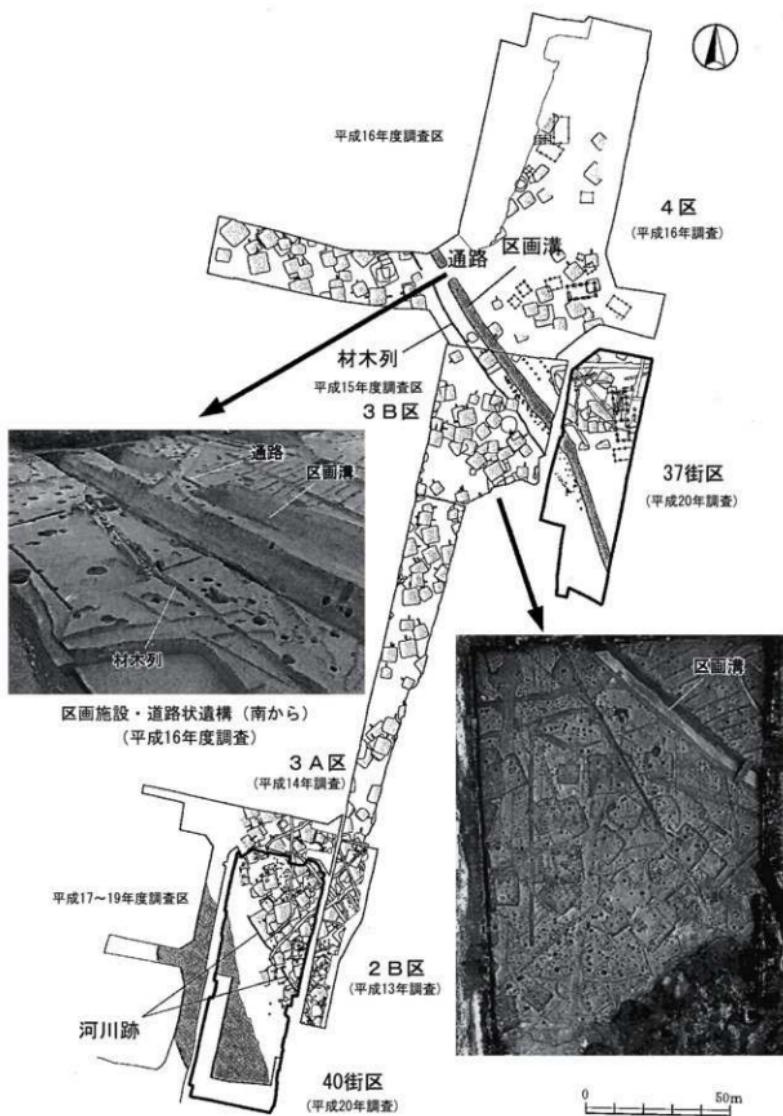
註2：平成19年の17街区調査において、遺構面を切る河川跡とその河川跡の方向に沿うように材木列1列を確認した。全容は未確認であるが、あるいはこれが西台畠遺跡の集落の西側を区画する施設となることも考えられる。

註3：材木列は、平成20年度の調査で確認された。竪穴住居との重複関係などから集落北側の区画施設同様にI期官衙期前に造られたと考えられる。II期官衙期の遺構と考えられる掘立柱建物跡に切られており、造り替えもされていない。

註4：区画溝については、平成19年に実施した遺構確認調査において、通路状遺構から西へ60m以上伸びていることが確認されている。

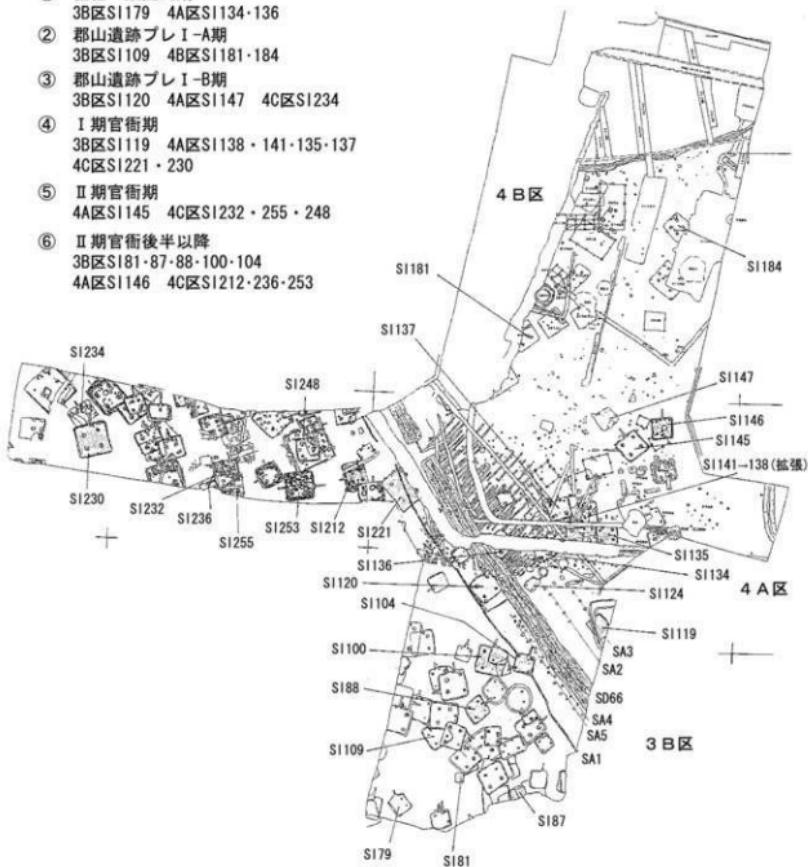


第528図 西台畠遺跡・郡山遺跡遺構配置図



第529図 長町駅東遺跡遺構配置図

- ① 住社～栗園式期  
3B区SI179 4A区SI134・136
- ② 郡山遺跡ブレI-A期  
3B区SI109 4B区SI181・184
- ③ 郡山遺跡ブレI-B期  
3B区SI120 4A区SI147 4C区SI234
- ④ I期官衙期  
3B区SI119 4A区SI138・141・135・137  
4C区SI121・230
- ⑤ II期官衙期  
4A区SI145 4C区SI1232・255・248
- ⑥ II期官衙後半以降  
3B区SI181-87-88-100-104  
4A区SI146 4C区SI1212・236-253



第530図 長町駅東遺跡区画施設検出状況

#### 4. 弥生時代の遺構について(第531図)

今回の調査により、竪穴住居跡1軒の他に住居跡の可能性がある性格不明遺構3基、土器埋設遺構4基を検出した。平成16年に行なった北側に隣接する4区の調査では、水田跡や土器埋設遺構が検出されたが、これらの遺構については、確認層位や分布状況などからいずれも中期樹形圓式期のものであり、同時期に存在した可能性が高いことが考えられる。遺構配置をみると、4区東側の低地部分に水田跡が拡がっており、水田跡から西方へ約30m離れた微高地である4C区から3B区北西部にかけて、後背湿地にそった墓域が形成され、その東側3B区に居住域が拡がっていることが考えられる(第531図)。

今回確認された竪穴住居跡は、樹形圓式期の竪穴住居跡としては宮城県内では初めての発見であり、水田跡(生

産域)、土器埋設遺構・土壙墓(墓域)に併せて竪穴住居跡(居住域)が確認されたことにより、弥生時代中期における仙台平野の集落のあり方が見えてきたといえる。ここでは、竪穴住居跡・土器埋設遺構・水田跡とその関係について若干の検討を行いたい。

### (1) 竪穴住居跡(居住域)

仙台市内での弥生時代の竪穴住居跡としては、これまで後期天王山式期のもの5軒が、長町駅東遺跡北西の八木山丘陵上から南斜面にかけて位置する八木山緑町遺跡・土手内遺跡・原遺跡から発見されている。

土手内遺跡は標高70m前後の丘陵南斜面の富沢低地を望む位置にあり、竪穴住居跡が1軒確認され、後期天王山式から踏瀬大山式期とされている。平面形は長軸3.67m、短軸2.8mの楕円形を呈し、3本の柱穴(4本柱の可能性あり)と中央部に地床炉とみられる焼け面がある。原遺跡は土手内遺跡の南西にあり、丘陵裾部の標高35m前後の平坦面に位置し、竪穴住居跡が3軒確認されている。平面形は楕円形のもの2軒、隅丸長方形のもの1軒がある。楕円形の住居跡の規模は、長軸3.6～3.9m、短軸2.9mを測る。隅丸長方形の住居跡は、長軸4.25m、短軸3.3mを測る。八木山緑町遺跡は標高80m前後の丘陵尾根上にあり、竪穴住居跡が1軒確認されている。平面形は長軸3.98m、短軸3.24mの楕円形を呈し、床面東側に地床炉とみられる焼け面が2箇所ある。柱穴は、径15～30cmの壁柱穴と見られる。住居跡の東側約10m離れたところから土壙墓12基が確認されているが、出土遺物が無いことから住居跡との時期的な関連は不明である。

これまで調査された住居跡の平面形をみると、原遺跡の1軒以外は楕円形を呈しており、規模は長軸3.6～4.25m、短軸2.8～3.3mを測る。炉跡は床面が僅かに窪んで焼土が堆積している地床炉である点などの特徴がある。いずれの住居も床面が平らでなく、周溝がなく壁との境が不明瞭で、あまりしっかりととした造りにはなっていない。

今回確認された竪穴住居跡は時期は異なるが、平面形は楕円形を呈し、長軸6m、短軸4mとやや規模は大きくなるが、地床炉をもつことや、床面の状況などは後期の住居跡と同じ特徴を持っている。弥生時代の竪穴住居跡に関しては、調査例も少ないと見られ、今後の調査による資料の蓄積により検討していくことが必要である。

### (2) 土器埋設遺構(墓域)

これまで長町駅東遺跡において土器埋設遺構が確認されているのは、遺跡内でも北側の3B区及び4C区からで、土器埋設遺構は合わせて6基あり、4C区からは土壙墓2基も検出されている。標高が下がる南側の2B区や3A区では遺物包含層や土坑などはあるものの、土器埋設遺構は2B区から1基しか確認されていない。

土器埋設遺構の配列をみると、4C区では概ね東西方向に並ぶのに対して、3B区では南北方向に並んでいる。限られた範囲内の調査であり、自然地形や東側に作られた水田跡との関係も考慮しなければならないが、この配列の違いに何らかの規則性があることが想定される。

長町駅東遺跡の北東に位置する西台畠遺跡からは、昭和32年の調査で、土壙墓1基と6点の大型壺を用いた土器植とその副葬土器が出土しているが、あとと長町事業に伴う調査でも何基かの土器埋設遺構が確認されている。

長町駅東遺跡から出土した土器は弥生時代中期の拊形開式のもので、西台畠遺跡から出土した土器もほぼ同時期のものである。仙台平野における弥生時代中期中葉の墓制は、土器植墓と土壙墓の組み合わせを基本にしていると考えられており(佐藤1989)、仙台市内ではほかに、南小泉遺跡・中在家南遺跡などに同様の調査例がある。

また4区SK214からは、碧玉製の管玉11点が出土しているが、仙台平野でのこの時期の土壙墓内からの出土例としては、中在家南遺跡36号土壙墓について2例目となる。36号土壙墓は、平面形は隅丸長方形を呈し、残存部の全長233cm、幅67～77cmで、扁平片刃石斧、鑿型石斧とともに管玉13点が出土している。中在家南遺跡から発見されている5基の土壙墓の平面形は、長楕円形または隅丸長方形のものであり、不整形プランを呈し比較的小規模である。

模な長町駅東のものとは規模や形態に違いがみられることから、被葬者が成人あるいは小児といった違いによる可能性も考えられる。

そのほかの出土例としては、長町駅東遺跡の北西丘陵上に位置する八木山緑町遺跡から土壙幕12基が発見され、そのうち2基の土壙幕から碧玉製の管玉がそれぞれ6点ずつ出土している。土壙幕の平面形は、1基が梢円形を呈する以外は隅丸長方形のもので、規模的には全長2m以上となる2基以外は1.3~1.8mの中に収まる。土壙から出土遺物が無いことから、弥生時代のなかでどの時期に位置付けられるかは明らかになっていない。

### (3) 水田跡(生産域)

4区調査時に、弥生時代の遺物包含層と遺構面の調査を行ったところ、検出された遺構面は東側が20~30cm程度低くなっている、この低地全体が水田跡であることが確認された。自然科学分析ではイネのプランツオバルは検出されなかったが、当時の植生としては湿地かそれに近い環境であったと推定されており、検出された遺構の状況や石庖丁や大型板状石器といった出土遺物の存在からも水田耕作が行われた可能性は高いと考えられる。

畦畔状の高まりはIV~VI層にかけて4面検出され、各面を通じてほぼ同位置で検出されているが、下層ほど検出される畦畔が明瞭になる傾向が認められた。細分されたIV層で検出された畦畔状の高まり2面は、層厚も薄く、無遺物層との互層状の堆積であり、水田土壤に見られる層の乱れも観察されなかったことから、V層水田跡の畦畔の上位に観察される擬似畦畔Aと判断された。また、下層のVI層からは、畦畔の下位に残る耕作による攪拌の影響を受けなかった痕跡である擬似畦畔Bが検出された。

Va層・Vb層水田跡から検出された畦畔は、上端幅25~100cmで、耕作面との比高差は約10cmを測る。検出された畦畔は、途切れてしまうものが多く水田区画を推定することはできなかった。耕作域の標高は西から東に向かって僅かに低くなっている、Va層水田跡では、東西距離約35mで標高差約30cmを測る。このほか、水田関連遺構としては、Vb層水田跡から水口1箇所、水利施設と考えられる溝状遺構1条がある。

### (4) 今後の課題

あとと長町事業に伴う調査では、西台畠遺跡の調査でも樹形圓式期の水田跡や土器埋設遺構、遺物包含層などが確認されている。今のところ堅穴住居跡は確認されていないが、他にも土壙や焼上遺構などが発見されていることから、長町駅東遺跡と同様にこれまでの調査区周辺に居住域があることが想定される。

出土遺物の比較では、これまで報告されている西台畠遺跡の資料については、伊藤玄三が指摘しているように、連弧文が無いことや「山の字状文」や「鑄形文」などの「変形渦状文」がみられること、壺型土器頭部上方の隆帯など、樹形圓式期のなかでもやや古い様相をもつことが考えられる(伊藤1993)。

長町駅東遺跡の資料については、細い沈線により横位直線文・連弧文・渦文・連続山形文などが施文され、充填繩文手法が主体であることや、つまみをもたない蓋の形状について、直線または弱く外反する器形が多いことなどから樹形圓式期のなかでもやや新しい要素をもつものと考えられるが、あとと長町事業に伴う西台畠遺跡調査資料と併せて再検討を行い、今後報告していきたい。

仙台市内の同時期の代表的な遺跡である中在家南遺跡と高田B遺跡との比較では、西台畠遺跡については高田B遺跡に近く、長町駅東遺跡についてはやや新しい様相であることから中在家南遺跡に近い時期が想定される。

これまでの調査により、両遺跡の間には、弥生時代から中世に至るまで繰り返し流れ込んだと考えられる旧河道が存在していることが明らかになってきている。地形的に旧河道を挟んで立地している状況や出土遺物の様相から、西台畠遺跡に先行する集落が営まれ、その後やや時期をおいて長町駅東遺跡に集落が営まれたことが考えられる。



第531図 強生時代の堅穴住居跡・土器埋設遺構・土壤基・水田域の位置関係図

## 引用・参考文献

- 荒井 格他 2000 「高田B遺跡」仙台市文化財調査報告書 第242集 仙台市教育委員会
- 石川日出志 2005 「仙台平野における弥生中期土器編年の再検討」  
『関東・東北弥生土器と北海道続縄文土器の広域編年(課題番号14320189)』  
平成14年度~平成16年度科学研究費補助金(基盤研究B(2))研究成果報告書
- 伊藤玄三 1993 「仙台市西台埋蔵時代墳墓の再検討」『法政考古学第20集記念論文集』
- 川又隆央 2005 「相模国出土の筒形土製品について」『論叢古代相模—相模の古代を考える会十周年記念論集—』  
相模の古代を考える会
- 工藤信一郎・前川雅夫他 2008 「長町駅東遺跡1・2次調査」仙台市文化財調査報告書 第324集 仙台市教育委員会
- 工藤信一郎・土岐耕司他 2007 「長町駅東遺跡4次調査」仙台市文化財調査報告書 第315集 仙台市教育委員会
- 工藤信一郎他 2001 「八木山緑町遺跡ほか発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書 第253集 仙台市教育委員会
- 工藤信一郎他 1996 「野川遺跡」仙台市文化財調査報告書 第205集 仙台市教育委員会
- 工藤哲司 2002 「中在家南道路(第3・4次) 押口道路(第3次)発掘調査報告書」  
仙台市文化財調査報告書 第255集 仙台市教育委員会
- 工藤哲司他 1996 「中在家南道路他」仙台市文化財調査報告書 第213集 仙台市教育委員会
- 佐藤 淳・主浜光朗 1997 「相ノ原・大貝中・川添東遺跡」仙台市文化財調査報告書 第217集 仙台市教育委員会
- 佐藤甲二 1989 「67 宮城県南小泉遺跡」「探訪 弥生の遺跡(畿内・東日本編)」
- 佐藤敏幸・大久保弥生 2007 「宮城県の湖西産須恵器」「宮城考古学」第9号 宮城県考古学会
- 佐藤敏幸 2006 「東北地方における7世紀から8世紀前半の土器研究史」「宮城考古学」第8号 宮城県考古学会
- 篠原信彦 2002 「原遺跡第4次調査報告書」仙台市文化財調査報告書 第257集 仙台市教育委員会
- 主浜光朗 1992 「土手内・土手内遺跡・土手内窯跡・土手内横穴B地点発掘調査報告書ー」  
仙台市文化財調査報告書 第165集 仙台市教育委員会
- 仙台市教育委員会 1984 「下ノ内浦遺跡」『仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅲ』仙台市文化財調査報告書 第69集  
仙台市教育委員会
- 仙台市史編さん委員会 1999 「仙台市史」通史編1 原始
- 仙台市史編さん委員会 1995 「仙台市史」特別編2 考古資料
- 東国土器研究会 1996 「東国土器研究 第4号 東国における律令制成立までの土器様相とその歴史的動向」
- 東国土器研究会 1990 「東国土器研究 第3号 特集 黒色土器・展開と終焉」
- 東国土器研究会 1989 「東国土器研究 第2号 特集 黒色土器・出現と背景」
- 長島榮一 2005 「郡山遺跡発掘調査報告書 総括編」仙台市文化財調査報告書 第283集 仙台市教育委員会
- 長島榮一・植葉俊一 1993 「仙台平野の遺跡群Ⅲ-平成4年度発掘調査報告書」  
仙台市文化財調査報告書 第170集 仙台市教育委員会
- 長島榮一・植葉俊一 1992 「仙台平野の遺跡群Ⅳ-平成3年度発掘調査報告書」  
仙台市文化財調査報告書 第162集 仙台市教育委員会
- 福田健司・前川雅夫 2002 「落川・一の宮遺跡Ⅲ 総括編」落川・一の宮遺跡(日野3・2・7号線)調査会
- 宮城県教育委員会 1994 「高田B遺跡-第2次・3次調査-」宮城県文化財調査報告書 第164集
- 山内清男 1979 「日本先史土器の縄文」『先史考古学会』
- 山内清男 1924 「石器時代にも植あり」『人類学雑誌』47-7

## 報 告 書 抄 錄

ふりがな	ながまちえきひがしいせきだいさんじょうさ								
書名	長町駅東遺跡第3次調査								
副書名	仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ								
卷次									
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書								
シリーズ番号	第340集								
編著者名	工藤信一郎 皆川貴史 工藤 司 萬久森彬								
編集機関	仙台市教育委員会								
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号 TEL 022-214-8894								
発行年月	2009年3月31日								
ふりがな	ふりがな	コ一ド		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	
所取遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号						
長町駅東遺跡第3次	宮城県仙台市太白区長町六丁目	4100	01449	38° 13' 18'	140° 53° 09"	2003/4/14 ~ 2004/1/30	2,430	土地区画整理事業に伴う発掘調査	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
長町駅東遺跡第3次	散布地 集落跡 墓域	縄文時代 弥生時代	縄文土器 弥生土器 石器	樹形圓式期の竪穴住居跡 第4次調査と合わせて、居住城・ 生産域(水田跡)・墓域がまとま って検出					
	官衙関連遺跡 集落跡	飛鳥時代 奈良時代	土師器 須恵器 土製品	郡山遺跡官衙造営集落 集落に伴う区画施設 (大溝・材木列) 関東系土師器 須恵器円面鏡					
	生産地他	平安時代 中世	小溝状遺構群 溝跡 土坑 ピット						

---

仙台市文化財調査報告書第340集

## 長町駅東遺跡第3次調査

—仙台市あすと長町土地区画整理事業関係道路発掘調査報告書Ⅲ—

〔第2分冊〕

2009年3月

発行 仙台市教育委員会

宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7-1

文化財課 022(214)8894

印刷 八幡印刷株式会社

福島県いわき市平字田町82-13

---